

一般県道東郷羽合線地方特定道路整備事業に伴う発掘調査報告書

鳥取県東伯郡東郷町

MIYAUCHI

宮内第1遺跡

MIYAUCHI

宮内第4遺跡

MIYAUCHI

宮内第5遺跡

MIYAUCHI

宮内2・63～65号墳

1996

財団法人 鳥取県教育文化財団

正 誤 表

頁 行	誤	正
挿図目次	挿図209 SX05遺構図	挿図209 SX06遺構図
挿図目次	挿図210 SX06遺構図	挿図210 SX05遺構図
P13 36～37行	P1 (60×40-70) cmである。	P1 (60×40-70) cm, P10 (45×45-36) cmである。
P51 挿図52	㊸ " (")	㊸ " (地山粒混)
P58 挿図63	2号墓出土遺物	2号墳丘墓出土遺物
P61 17、19行	28層中で	㊸層中で
P64 挿図69	4号墳丘遺物実測図	4号墳丘墓遺物実測図
P65 4行 P73 41行 P74 10行 P75 40行 P76 33行 P82 26行	P86 6行 P109 4、19行 P110 3行 P112 34行 P113 38行 P114 28行	依存状況
P92 27行	この中には1壺Po95が	この中には、壺Po95が
P105 3行	26層は	㊸層は
P153 38行	SS内SK01・2	SS内SK01・02
P158 13行	36個の	37個の
P160 21行	5層の	4層の
P160 22行	㊸層の	㊸層の
P160 23行	㊸層には	㊸層には
P162 34行	SX05 (挿図209、211)	SX05 (挿図210、211)
P167	挿図209 SX05遺構図	挿図209 SX06遺構図
P168	挿図210 SX06遺構図	挿図210 SX05遺構図
P169 1行	SX06 (挿図210、211)	SX06 (挿図209、211)
P228 13行	る。高環 (Po61)	る。高環 (Po61)
P231 23行	外面赤色塗。	外面赤色塗彩。
付図8		

序

東郷池周辺は、古くから遺跡の宝庫として知られています。この東郷池を取り囲むようにして南東に広がる東郷町には、国史跡の北山古墳をはじめとする古墳群や集落跡などがあります。中でも、伯耆国（鳥取県西部）の一宮であった倭文神社境内から出土した経筒、金銅仏などの遺物は、「伯耆一宮経塚出土品」として、国宝に指定されています。また、羽合町では、国史跡の橋津古墳群や、長瀬高浜遺跡など全国的に知られた遺跡があります。泊村においても、集落跡や古墳のほか、銅鐸などの貴重な遺物が出土しています。

当財団では、このような遺跡地帯を、鳥取県の委託を受け、「一般県道東郷羽合線地方特定道路整備事業に伴う発掘調査」として、本年度4月から、東郷町で調査を行いました。

その結果、山陰最大級の主体部を持つ、弥生時代後期の墳丘墓をはじめとし、同時代の多数の土壇墓、また、この後に築造される前方後円墳などが調査されました。これらは、郷土の歴史を解明していくうえでの、貴重な資料のみならず、墓制の変遷を考えるうえでも重要な意味を持つものと考えます。さらに、墳丘墓から出土しました鉄刀は、全国的に見ても類例の少ないものであり、環日本海における大陸との直接交流が、当時からあったことを物語る資料です。

今回、この調査成果を報告書にまとめ刊行することができました。本報告書が教育学術研究のために広く活用され、今後の調査研究の一助となることを期待するとともに、文化財に対する理解や認識を、より一層深めることができれば幸いです。

最後に、鳥取県土木部道路課、鳥取県倉吉土木事務所ならびに地元の方々をはじめ、調査にご協力いただいたの方々、その他関係各位に対して心から感謝申し上げます。

平成8年3月

財団法人 鳥取県教育文化財団

理事長 田 淵 康 允

例 言

1. 本報告書は、「一般県道東郷羽合線地方特定道路整備事業」に伴い、1995年度に実施された、鳥取県東伯郡東郷町大字宮内字雲川428他に所在する宮内第1遺跡、同字小長谷239他に所在する宮内第4遺跡、同字只津平309他に所在する宮内第5遺跡、宮内2・63～65号墳の埋蔵文化財発掘調査記録である。
2. 本報告書に記載した宮内第1遺跡、宮内第4遺跡、宮内第5遺跡、宮内2号墳は、周知の名称であるが、宮内63～65号墳は新発見のため、宮内古墳群の一連の名称をつけた。
3. 発掘調査は、鳥取県から、財団法人鳥取県教育文化財団が委託を受け、中部埋蔵文化財東郷羽合調査事務所が実施した。
4. 本報告書で使用した方位は、国土座標第V系の北を示し、標高は海拔標高である。
5. 本報告書に掲載の地形図は、国土地理院発行の1/50,000地形図「倉吉」・「宍谷」の一部、調査区位置図は、東郷町発行の1/2,500地形図「東郷都市計画図No.8」・「東郷都市計画図No.9」の一部を用いた。
6. 報告書の作成は、調査員、調査補助員の討議に基づいて執筆し、執筆担当者名を目次に記載した。
遺構図の浄写は、中部埋蔵文化財東郷羽合調査事務所、遺物の実測・浄写は、鳥取県埋蔵文化財センターで行った。
遺構写真は発掘担当調査員が、遺物写真は原田・濱田・遠藤・宮川がそれぞれ撮影した。
本書の編集は原田が行った。
7. 遺構実測は基本的に調査員、調査補助員が行ったが、調査前および調査後の地形測量と遺構空中写真については、ワールド航測コンサルタント株式会社に委託して行った。
8. 宮内第1遺跡1号墳丘墓、3号墳丘墓出土の鉄剣、鉄刀について、広島大学文学部の川越哲志教授に指導、助言をいただいた。
9. 宮内第1遺跡S X37出土の刀子、鉄鎌、宮内2号墳出土の鉄鎌に付着していた布について、関西大学経済学部の角山幸洋教授に指導・鑑定をお願いし、多忙のところ玉稿をいただいた。記して感謝したい。
10. 宮内第1遺跡S X05出土の鉄刀、S X37出土の刀子、宮内2号墳出土の鉄鎌に付着していた木質について、鳥取大学農学部の古川郁夫教授に指導・助言をいただいた。
11. 宮内第1遺跡弥生墳丘墓について、鳥根大学法文学部の渡辺貞幸教授に現地指導をいただいた。
12. 宮内第1遺跡1号墓、3号墓、S X01出土の鉄剣、鉄刀ならびに宮内2号墳出土の鉄刀の成分および付着物の分析、保存処理を財団法人興寺文化財研究所保存科学センターに委託した。
13. 出土遺物、図面、写真等は鳥取県埋蔵文化財センターに保管されており、出土遺物は将来的に東郷町教育委員会に移管する予定である。
14. 現地指導および報告書の作成に当たって、下記の方々に御指導・御協力いただいた。(五十音順、敬称略)
池上 悟 池田光雄 稲田孝司 上野恵司 大谷晃二 川田信行 坂井秀弥 佐藤興治 真田廣幸
竹宮直也子 手嶋義之 中野知照 名越 勉 根鈴智津子 根鈴輝雄 平川 誠 森下哲哉 山本 清

凡例

1. 各調査区に国土座標第V系に載るように10m×10mのグリッドを設定した。各調査区南西隅を基点とし、南北・東西のラインで割り付けを行い、南北ラインをアラビア数字、東西ラインをアルファベットで表し、該当グリッドの北東隅交点を、そのグリッド名とした。なお、各調査区の基点は以下の通りである。

宮内第1遺跡(C区) [X:-57400 Y:-39440]

宮内第1遺跡(D区) [X:-57280 Y:-39400]

宮内第4遺跡(A区) [X:-57560 Y:-39340]

宮内第5遺跡(B区) [X:-57530 Y:-39420]

2. 本報告書における遺構・遺物の記号は次のように表す。

S I : 竪穴住居跡 SK : 土坑 SX : 土壇墓・埋葬施設 SD : 溝状遺構 SS : 段状遺構

P : 柱穴・ピット

Po : 土器・土製品 S : 石製品 F : 鉄製品 J : 玉類 B : 銅鏡

3. 本報告書における実測図は下記の縮尺で掲載した。

遺構図 : 1/10、1/20、1/40、1/60、1/80、1/150、1/200

遺物図 : 1/1、1/2、1/3、1/4、1/5、1/6

4. 土壇墓・土坑・埋葬施設・ピットの規模は(長軸×短軸×深さ)cm(m)で表した。また、竪穴住居跡の規模は、壁溝を除いた床面の規模である。古墳墳丘の規模は、墳端(裾部)までの計測値である。

5. 本報告書の土壇墓の記述において、平面形または土層断面から、棺もしくはそれに類するものが見られた場合には、「埋葬部」という表現を用い、項目を設けて記述した。

6. 遺構挿入図中のセクション・エレベーションの基準線標高は H = の記号で表した。

7. 遺構挿入図中で焼土面は、炭・灰は、赤色顔料は、木質はで表した。

8. 土器実測図のうち、須恵器は断面黒塗りで、それ以外のは断面白抜きで表した。

9. 石製品実測図のうち、研磨面は………、敲打面は———で示した。

10. 発掘調査時における遺構番号と本報告書における遺構番号との対比は挿表1~4の通りである。なお、遺物に記入されてある遺構名は、発掘調査時の遺構名である。また、遺物には遺構名の他に、遺跡名、グリッド名、取り上げ番号、取り上げ年月日を基本的に記入し、遺跡名については宮内第1遺跡の略号として「MU 1」、宮内第4遺跡の略号として「MU 4」、宮内第5遺跡の略号として「MU 5」を用いた。古墳出土の遺物については宮内2号墳を「2M」、宮内63号墳を「63M」、宮内64号墳を「64M」、宮内65号墳を「65M」と記入した。

11. 実測した遺物については、実測者番号(原田1、表1等)をシールに記し、個体ごとに貼り付け、実測原因にもその番号を記した。また、この実測者番号は出土物のそれぞれの一覧表・観察表で備考欄に記した。

報告書	調査時	報告書	調査時	報告書	調査時	報告書	調査時
SK01	SK03	SK03	SK05	SK04	SK06	SK05	SI09-SK07
SK02	SK04						

挿表1 宮内第1遺跡 (C区) 遺構番号対照表

報告書	調査時	報告書	調査時	報告書	調査時	報告書	調査時
SI01	SI10	SX17	SX19	SX47	SX53	SX77	SX87
SI02	SI11	SX18	SX20	SX48	SX54	SX78	SX88
SI03	SI13	SX19	SX21	SX49	SX55	SX79	SX89
SI04	SI14	SX20	SX22	SX50	SX56	SX80	SX90
SI05	SI15	SX21	SX23	SX51	SX57	SX81	SX91
SI06	SI16	SX22	SX25	SX52	SX59	SX82	SX92
SI07	SI17	SX23	SX26	SX53	SX61	SX83	SX93
SI08	SI18	SX24	SX27	SX54	SX64	SX84	SX94
1号墳丘墓	SX58	SX25	SX28	SX55	SX65	SK01	SK08
	SD03	SX26	SX29	SX56	SX66	SK02	SK09
2号墳丘墓	SX60	SX27	SX31	SX57	SX67	SK03	SK11
3号墳丘墓	SX02	SX28	SX32	SX58	SX68	SK04	SK12
4号墳丘墓	SX30	SX29	SX33	SX59	SX69	SK05	SK13
	SD12-13	SX30	SX34	SX60	SX70	SK06	SK14
SX01	SX01	SX31	SX35	SX61	SX71	SK07	SK15
SX02	SX03	SX32	SX36	SX62	SX72	SK08	SK16
SX03	SX04	SX33	SX37	SX63	SX73	SK09	SK17
SX04	SX05	SX34	SX38	SX64	SX74	SK10	SK18
SX05	SX06	SX35	SX39	SX65	SX75	SK11	SK19
SX06	SX07	SX36	SX40	SX66	SX76	SK12	SK20
SX07	SX08	SX37	SX41	SX67	SX77	SK13	SK21
SX08	SX09	SX38	SX42	SX68	SX78	SK14	SK22
SX09	SX10	SX39	SX43	SX69	SX79	SK15	SK23
SX10	SX11	SX40	SX44	SX70	SX80	SK16	SK24
SX11	SX12	SX41	SX45	SX71	SX81	SD01	SD04
SX12	SX13	SX42	SX46	SX72	SX82	SD02	SD07
SX13	SX15	SX43	SX47	SX73	SX83	SD03	SD10
SX14	SX16	SX44	SX49	SX74	SX84	SD04	SD17
SX15	SX17	SX45	SX50	SX75	SX85		
SX16	SX18	SX46	SX52	SX75	SX86		

挿表2 宮内第1遺跡 (D区) 遺構番号対照表

報告書	調査時	報告書	調査時	報告書	調査時	報告書	調査時
SI01	SI01	SI02	SI01	SI03	SI02		

挿表3 宮内第4遺跡 (A区) 遺構番号対照表

報告書	調査時	報告書	調査時	報告書	調査時	報告書	調査時
SK01	SK02	SK08	SK12	SK15	SK20	SK22	SK27
SK02	SK05	SK09	SK13	SK16	SK21	SK23	SK28
SK03	SK06	SK10	SK15	SK17	SK22	SK24	SK29
SK04	SK07	SK11	SK16	SK18	SK23	SK25	SK30
SK05	SK08	SK12	SK17	SK19	SK24	2号墳岡満	SK01
SK06	SK09	SK13	SK18	SK20	SK25		
SK07	SK11	SK14	SK19	SK21	SK26		

挿表4 宮内第5遺跡 (B区) 遺構番号対照表

目次

序	
例言	
凡例	
目次	
第1章 調査の経緯	
第1節 発掘調査に至る経緯	(原田) 1
第2節 発掘調査の経過と方法	(原田) 1
第3節 調査体制	(原田) 4
第2章 位置と環境	
第1節 地理的環境	(濱田) 5
第2節 歴史的環境	(宮川) 5
第3章 宮内第1遺跡(C区)の調査	
第1節 竪穴住居跡	(濱田・遠藤) 9
第2節 土坑	(原田・濱田・遠藤) 24
第3節 溝状遺構	(濱田・遠藤) 30
第4章 宮内第1遺跡(D区)の調査	
第1節 竪穴住居跡	(原田・濱田・遠藤・宮川) 32
第2節 墳丘墓・土壇墓	(原田・濱田・遠藤・宮川) 49
第3節 土坑	(原田・濱田・遠藤・宮川) 130
第4節 溝状遺構	(濱田・遠藤) 141
第5章 宮内第4遺跡(A区)の調査	
第1節 竪穴住居跡	(遠藤) 145
第2節 土坑	(遠藤) 150
第3節 段状遺構	(遠藤) 153
第6章 宮内第5遺跡(B区)の調査	
第1節 竪穴住居跡	(原田・濱田) 158
第2節 土壇墓	(原田) 162
第3節 土坑	(原田・濱田・宮川) 169
第4節 溝状遺構	(濱田・宮川) 186
第5節 段状遺構	(宮川) 190
第6節 ビット群	(濱田・宮川) 190
第7章 宮内2号墳・63号墳・64号墳・65号墳の調査	
第1節 宮内2号墳	(原田・宮川) 197
第2節 宮内63号墳	(原田・濱田) 211
第3節 宮内64号墳	(濱田) 212
第4節 宮内65号墳	(濱田) 220
第5節	(原田) 224
第8章 まとめ	
特論1 鳥取県出土織物調査	角山幸洋 249
特論2 宮内遺跡出土刀剣類の分析	財団法人 元興寺文化財研究所保存科学センター 251
特論3 宮内第1・第5遺跡出土の鉄剣、鉄刀の金属学的調査	大澤正己 263

挿 図 目 次

挿図1	調査区位置図	2	挿図39	S I 02遺構図	39・40
挿図2	宮内遺跡群位置図	5	挿図40	S I 03遺構図	41
挿図3	周辺遺跡地図	7	挿図41	J 2・3 実測図	42
挿図4	Po 1出土状況図	9	挿図42	S I 05遺物実測図	42
挿図5	宮内第1遺跡 (C区)		挿図43	S I 04遺構図	43
	調査前地形測量図	9	挿図44	S I 05遺構図	44
挿図6	S I 01・S K 01遺構図	10	挿図45	S I 06遺物実測図	44
挿図7	S I 01遺物実測図	11	挿図46	S I 06遺構図	45
挿図8	S I 02遺構図	12	挿図47	F 3実測図	46
挿図9	S I 02遺物実測図	12	挿図48	S I 08遺構図	46
挿図10	S I 03遺構図	13	挿図49	S I 07遺構図	47・48
挿図11	S I 03遺物実測図	13	挿図50	1号墳丘墓第1主体部遺物出土状況図	49
挿図12	S I 04遺物実測図 (1)	14	挿図51	1号墳丘墓第1主体部遺構図	50
挿図13	S I 04遺構図及び遺物出土状況図	15・16	挿図52	1号墳丘墓第2主体部遺構図	51
挿図14	S I 04遺物実測図 (2)	17	挿図53	1号墳丘墓第3主体部管玉出土状況図	51
挿図15	S I 05遺構図	18	挿図54	1号墳丘墓第3主体部遺構図	52
挿図16	Po45出土状況図	18	挿図55	1号墳丘墓第4主体部遺構図	53
挿図17	S I 06-1・2遺構図	19	挿図56	1号墳丘墓第5主体部遺構図	53
挿図18	S I 06-3遺構図及びPo37出土状況図	20	挿図57	1号墳丘墓遺物実測図	54
挿図19	S I 06遺物実測図	21	挿図58	1号墳丘墓鉄剣・鉄刀実測図	55
挿図20	S I 07遺構図	22	挿図59	1号墳丘墓第1主体部管玉実測図	56
挿図21	S I 08遺構図	23	挿図60	1号墳丘墓第3主体部管玉実測図	56
挿図22	S I 07遺物実測図	24	挿図61	2号墳丘墓主体部遺構図	57
挿図23	S I 08遺物実測図	24	挿図62	2号墳丘墓北側土器箱遺物出土状況図	57
挿図24	S K 02遺構図	25	挿図63	2号墳丘墓遺物実測図	58
挿図25	S K 02遺物実測図 (1)	26	挿図64	3号墳丘墓主体部遺構図	59・60
挿図26	S K 02遺物実測図 (2)	27	挿図65	4号墳丘墓西側周溝内遺物出土状況図	61
挿図27	S K 02遺物実測図 (3)	28	挿図66	3号墳丘墓遺物実測図	62
挿図28	S K 03遺構図	28	挿図67	4号墳丘墓遺構図	63
挿図29	S K 04遺構図	29	挿図68	4号墳丘墓主体部遺構図	64
挿図30	S K 05遺構図	29	挿図69	4号墳丘墓遺物実測図	64
挿図31	S D 01遺構図	30	挿図70	S X 01遺構図	65
挿図32	S D 02遺構図	31	挿図71	S X 01遺物実測図	65
挿図33	ピット内出土遺物実測図	31	挿図72	S X 02遺構図	66
挿図34	B 1出土状況図	32	挿図73	S X 02遺物出土状況図	67
挿図35	宮内第1遺跡 (D区)		挿図74	S X 02遺物実測図	68
	調査前地形測量図	33・34	挿図75	S X 03遺構図	69
挿図36	S I 01遺構図	35・36	挿図76	S X 04遺構図	69
挿図37	S I 01遺物実測図	37	挿図77	S X 04遺物実測図	70
挿図38	S I 02遺物実測図	38	挿図78	S X 05遺物出土状況図	70

插图79	S X 05 遺構図	71	插图121	S X 37第7 墓塚遺構図	99·100
插图80	S X 06 遺構図	71	插图122	S X 37第10 墓塚遺構図	99·100
插图81	S X 05 遺物実測図	72	插图123	S X 37第11 墓塚遺構図	99·100
插图82	S X 06 遺物実測図	72	插图124	S X 37第 8 · 9 墓塚遺構図	101
插图83	S X 07 · 08 遺構図	73	插图125	S X 37第 6 · 8 · 9 · 11 墓塚遺物実測図	102
插图84	S X 09 遺構図	74	插图126	S X 38 · 68 · 69 遺構図	103
插图85	S X 10~12 遺構図	75	插图127	S X 39 · 42 · 66 · 67 遺構図	104
插图86	S X 13 遺構図	76	插图128	S X 39 遺物実測図	105
插图87	S X 14 遺構図	77	插图129	S X 40 遺構図	105
插图88	S X 15 遺構図	77	插图130	S X 41 遺構図	106
插图89	S X 15 遺物実測図	78	插图131	S X 41 遺物実測図	106
插图90	S X 16 · 20 遺構図	78	插图132	S X 44 遺構図	107
插图91	S X 18 遺物実測図	79	插图133	S X 45 遺構図	108
插图92	S X 17~19 遺構図	80	插图134	S X 46 遺構図	108
插图93	S X 21 遺構図	80	插图135	S X 47 · 49 遺構図	109
插图94	S X 22 遺構図	81	插图136	S X 48 遺構図	109
插图95	S X 23 遺物実測図	81	插图137	S X 50 遺物実測図	110
插图96	S X 24 遺物実測図	82	插图138	S X 52 遺構図	111
插图97	S X 27 遺物実測図	82	插图139	S X 53 遺構図	112
插图98	S X 23~25 遺構図	83	插图140	S X 54 · 55 遺構図	113
插图99	S X 26 遺構図	84	插图141	S X 56 遺構図	113
插图100	S X 27 遺構図	84	插图142	S X 57 遺構図	114
插图101	S X 28 遺物実測図	84	插图143	S X 58 遺構図	114
插图102	S X 28 · 64 · 65 遺構図	85	插图144	S X 59 遺構図	115
插图103	S X 29 遺構図	86	插图145	S X 60 遺構図	115
插图104	S X 30 · 43 遺構図	86	插图146	S X 61 遺構図	116
插图105	S X 31 遺物実測図	87	插图147	S X 62 遺構図	116
插图106	S X 31 遺構図	87	插图148	S X 63 遺構図	117
插图107	S X 32 遺構図	88	插图149	S X 73 遺構図	121
插图108	S X 33 遺構図	88	插图150	S X 74 遺構図	122
插图109	S X 33 遺物実測図	88	插图151	S X 75 遺構図	122
插图110	S X 32 遺物実測図	89	插图152	S X 76 遺構図	123
插图111	S X 34 · 35 遺構図	91	插图153	S X 77 · 78 遺構図	124
插图112	S X 36 遺構図	91	插图154	S X 79 · 80 遺構図	125
插图113	S X 37 遺物実測図	92	插图155	S X 81 · 82 遺構図	127
插图114	S X 37 遺構図	93·94	插图156	S X 83 遺構図	128
插图115	S X 37第1 墓塚遺構図	95·96	插图157	S X 84 遺構図	129
插图116	S X 37第2 墓塚遺構図	95·96	插图158	S K 01 遺構図	130
插图117	S X 37第3 墓塚遺構図	95·96	插图159	S K 01 遺物実測図	130
插图118	S X 37第5 墓塚遺構図	97	插图160	S K 02 遺構図	130
插图119	S X 37第6 墓塚遺構図	98	插图161	S K 03 遺構図	131
插图120	S X 37第4 墓塚遺構図	99·100			

挿図162	S K04遺物実測図	131	挿図201	S I 01遺構図	158
挿図163	S K04遺構図	131	挿図202	S I 01土層断面図	159
挿図164	S K05遺構図	132	挿図203	S I 01遺物実測図	160
挿図165	S K05遺物実測図	132	挿図204	S I 02遺物実測図	160
挿図166	S K06遺物実測図	133	挿図205	S I 02遺構図	161
挿図167	S K06遺構図	133	挿図206	S I 03遺物実測図	162
挿図168	S K07遺構図	134	挿図207	S I 03遺構図	163・164
挿図169	S K07遺物実測図	134	挿図208	S X04埋葬部平面図及び遺構図	165・166
挿図170	S K08遺構図	134	挿図209	S X05遺構図	167
挿図171	S K09遺構図	135	挿図210	S X06遺構図	168
挿図172	S K10遺構図	135	挿図211	S X04~06遺物実測図	168
挿図173	S K11遺物実測図	136	挿図212	S K01遺構図	169
挿図174	S K12遺構図	136	挿図213	S K02遺構図	170
挿図175	S K11遺構図	137	挿図214	S K02遺物実測図	170
挿図176	S K12遺物実測図	138	挿図215	S K03遺構図	171
挿図177	S K13・14遺構図	138	挿図216	S K03遺物実測図	171
挿図178	S K13・14遺物実測図	139	挿図217	S K04遺構図	171
挿図179	S K15遺構図	140	挿図218	S K04遺物実測図	172
挿図180	S K16遺構図	140	挿図219	S K05遺物実測図	172
挿図181	S D01遺構図	141	挿図220	S K05遺構図	173
挿図182	S D02遺構図	141	挿図221	S K06遺構図	173
挿図183	S D03遺構図	142	挿図222	S K06遺物実測図	174
挿図184	S D04遺構図	143	挿図223	S K07遺構図	174
挿図185	S D01・03遺物実測図	143	挿図224	S K08遺構図	175
挿図186	宮内第1遺跡(D区) 遺構外遺物実測図	144	挿図225	S K08遺物実測図	175
挿図187	宮内第4遺跡(A区) 調査前地形測量図	145	挿図226	S K09遺構図	176
挿図188	S I 01遺構図	146	挿図227	S K10遺物実測図	176
挿図189	S I 01遺物実測図	147	挿図228	S K11遺構図	176
挿図190	S I 02遺物実測図	147	挿図229	S K10遺構図	177
挿図191	S I 02遺構図	148	挿図230	S K12遺構図	178
挿図192	S I 01・02遺物実測図	149	挿図231	S K13遺構図	178
挿図193	S I 03遺物実測図	149	挿図232	S K13遺物実測図	178
挿図194	S K01遺物実測図	150	挿図233	S K14遺構図	179
挿図195	S K01遺構図	150	挿図234	S K15遺構図	179
挿図196	S I 03遺構図	151・152	挿図235	S K17遺構図	180
挿図197	S K02遺構図	153	挿図236	S K17遺物実測図	180
挿図198	S S01・02遺物実測図	154	挿図237	S K18遺物実測図	180
挿図199	S S01・02遺構図	155・156	挿図238	S K18遺構図	181
挿図200	宮内第5遺跡(B区) 調査前地形測量図	157	挿図239	S K19遺構図	181
			挿図240	S K19遺物実測図	182
			挿図241	S K20遺構図	182
			挿図242	S K21遺構図	183

挿図243	S K 21遺物実測図	183	挿図265	S X 01掘り方図	207
挿図244	S K 22遺構図	184	挿図266	S X 02遺構図	207
挿図245	S K 23遺構図	184	挿図267	宮内 2号墳盛土除去後平面図	208
挿図246	S K 24遺構図	185	挿図268	宮内 2号墳 1次墳丘上遺物実測図	209
挿図247	S K 25遺構図	185	挿図269	宮内 2号墳周溝内及び 盛土中遺物実測図	209
挿図248	S D 01階段状遺構遺構図	186	挿図270	宮内 2号墳第 3主体部 石棺内玉類実測図	209
挿図249	S D 01遺構図	187・188	挿図271	宮内 2号墳第 3主体部 石棺内遺物実測図	210
挿図250	S D 02遺構図	189	挿図272	S X 03遺構図	211
挿図251	S D 02遺物実測図	189	挿図273	S X 03掘り方図	212
挿図252	S S 01遺構図	191・192	挿図274	宮内63号墳墳丘図及び主体部遺構図	213・214
挿図253	ピット群1遺構図	193	挿図275	宮内64号墳墳丘図及び主体部遺構図	215・216
挿図254	S S 01遺物実測図	194	挿図276	宮内64号墳遺物出土状況図	217
挿図255	ピット内及び遺構外遺物実測図	194	挿図277	宮内64号墳遺物実測図	218
挿図256	ピット群2遺構図	195・196	挿図278	宮内64号墳周溝内遺物実測図	218
挿図257	宮内 2号墳第 2主体部遺構図	197	挿図279	宮内64号墳周溝内遺物実測図	219
挿図258	宮内 2号墳 2次墳丘墳丘図	198	挿図280	宮内65号墳遺物出土ポイント	220
挿図259	宮内 2号墳土層断面図 (1)	199・200	挿図281	宮内65号墳墳丘図及び主体部遺構図	221・222
挿図260	宮内 2号墳土層断面図 (2)	201・202	挿図282	宮内65号墳遺物実測図	223
挿図261	Po69~72出土状況図	203			
挿図262	宮内 2号墳第 3主体部掘り方図	203			
挿図263	S X 01遺構図	204			
挿図264	宮内 2号墳第 3主体部石棺遺構図	205・206			

付 図

- 付図1 宮内第 1遺跡 (C区) 全体遺構図及び調査後地形測量図
 付図2 宮内第 1遺跡 (D区) 全体遺構図及び調査後地形測量図
 付図3 宮内第 4遺跡 (A区) 全体遺構図及び調査後地形測量図
 付図4 宮内第 5遺跡 (B区) 全体遺構図及び調査後地形測量図
 付図5 宮内第 1遺跡 (D区) 1・2号墳丘基平面図
 付図6 宮内第 1遺跡 (D区) 1・2号墳丘基土層断面図
 付図7 宮内第 1遺跡 (D区) 3号墳丘基平面図
 付図8 宮内第 1遺跡 (D区) S X 06・28・30・31・35・38・
 39・41~43・64~69平面図
 付図9 宮内第 1遺跡 (D区) S X 02・41・50・51・70~72平面図

插 表 目 次

插表1	宮内第1遺跡 (C区) 遺構番号对照表	凡例
插表2	宮内第1遺跡 (D区) 遺構番号对照表	凡例
插表3	宮内第1遺跡 (A区) 遺構番号对照表	凡例
插表4	宮内第1遺跡 (B区) 遺構番号对照表	凡例
插表5	宮内第1遺跡 (C区) 土器一覽表 (1)	239
插表6	宮内第1遺跡 (C区) 土器一覽表 (2)	240
插表7	宮内第1遺跡 (D区) 土器一覽表 (1)	240
插表8	宮内第1遺跡 (D区) 土器一覽表 (2)	241
插表9	宮内第1遺跡 (D区) 土器一覽表 (3)	242
插表10	宮内第4遺跡 (A区) 土器一覽表	242
插表11	宮内第5遺跡 (B区) 土器一覽表 (1)	243
插表12	宮内第5遺跡 (B区) 土器一覽表 (2)	244
插表13	宮内第1遺跡 (C区) 石製品一覽表	245
插表14	宮内第1遺跡 (D区) 石製品・玉類觀察表 (1)	245
插表15	宮内第1遺跡 (D区) 石製品・玉類觀察表 (2)	246
插表16	宮内第4遺跡 (A区) 石製品一覽表	246
插表17	宮内第5遺跡 (B区) 石製品・玉類觀察表	246
插表18	宮内第1遺跡 (D区) 鉄製品・銅製品觀察表	247
插表19	宮内第5遺跡 (B区) 鉄製品觀察表	247

図 版 目 次

- 図版1 宮内遺跡群調査前(空撮)
宮内遺跡群調査前(空撮)
- 宮内第1遺跡(C区)
- 図版2 S I 01・S K 01完掘状況(東より)
S I 02完掘状況(北より)
S I 03完掘状況(西より)
S I 04遺物出土状況(北より)
- 図版3 S I 04完掘状況(東より)
S I 06-1・2完掘状況(東より)
S I 06-3完掘状況(東より)
S I 07完掘状況(北より)
- 図版4 S I 08完掘状況(北より)
S K 02遺物出土状況(北より)
S K 02完掘状況(北より)
S K 03完掘状況(北より)
- 図版5 S K 04完掘状況(西より)
S K 05完掘状況(南より)
S D 01完掘状況(南より)
S D 02完掘状況(北より)
- 図版6 S I 01~S I 04出土遺物
- 図版7 S I 04出土遺物
- 図版8 S I 04・06・07出土遺物
- 図版9 S I 08、S K 02出土遺物
- 図版10 S K 02、ピット内出土遺物、石器
- 宮内第1遺跡(D区)
- 図版11 D区調査後(空撮)
1・2号墳丘墓(空撮)
- 図版12 3号墳丘墓(空撮)
S I 01、4号墳丘墓(空撮)
- 図版13 S I 01銅鏡出土状況(南より)
S I 01・06完掘状況(北より)
S I 02完掘状況(北より)
S I 04完掘状況(西より)
- 図版14 S I 05完掘状況(北より)
S I 07完掘状況(北より)
S I 08完掘状況(北より)
1号墳丘墓石列検出状況(北より)
- 図版15 1号墳丘墓第1主体部遺物出土状況(北より)
1号墳丘墓第1主体部遺物出土状況(北より)
- 1号墳丘墓第1主体部完掘状況(東より)
1号墳丘墓第2主体部遺物出土状況及び東西セクション(南より)
- 図版16 1号墳丘墓第2主体部遺物出土状況(東より)
1号墳丘墓第3主体部遺物出土状況(南西より)
1号墳丘墓第3主体部遺物出土状況(南西より)
1号墳丘墓第4主体部完掘状況(東より)
- 図版17 2号墳丘墓北側周溝内土器類(北より)
3号墳丘墓主体部遺物出土状況(西より)
3号墳丘墓主体部遺物出土状況(西より)
3号墳丘墓主体部完掘状況(西より)
- 図版18 4号墳丘墓西側周溝内遺物出土状況(西より)
4号墳丘墓主体部完掘状況(西より)
4号墳丘墓完掘状況(南より)
S X 01遺物出土状況(西より)
- 図版19 S X 01完掘状況(西より)
S X 02検出状況(東より)
S X 02遺物出土状況(東より)
S X 03完掘状況(東より)
- 図版20 S X 04完掘状況(東より)
S X 05遺物出土状況(北より)
S X 05完掘状況(東より)
S X 06完掘状況(南より)
- 図版21 S X 07・08完掘状況(西より)
S X 09完掘状況(北より)
S X 13完掘状況(東より)
S X 14完掘状況(西より)
- 図版22 S X 15完掘状況(西より)
S X 16完掘状況(西より)
S X 17~19完掘状況(東より)
S X 20完掘状況(東より)
- 図版23 S X 22完掘状況(西より)
S X 23~25完掘状況(東より)
S X 27完掘状況(東より)
S X 29完掘状況(西より)

- 図版24 S X32薬筒出土状況 (西より)
S X32・33完掘状況 (東より)
S X34・35完掘状況 (北より)
S X37完掘状況 (北より)
- 図版25 S X37第8・第9墓壇完掘状況 (東より)
S X37第11墓壇壺出土状況 (南西より)
S X39完掘状況 (北より)
S X40、S K09完掘状況 (西より)
- 図版26 S X41遺物出土状況 (西より)
S X44・45完掘状況 (東より)
S X46完掘状況 (東より)
S X47~49完掘状況 (西より)
- 図版27 S X53完掘状況 (南より)
S X56完掘状況 (東より)
S X57完掘状況 (西より)
S X59完掘状況 (南より)
- 図版28 S X60完掘状況 (西より)
S X61、S D04完掘状況 (西より)
S X62完掘状況 (西より)
S X63検出状況 (西より)
- 図版29 S X63完掘状況 (西より)
S X群完掘状況 (北より)
S X群完掘状況 (北より)
S K01完掘状況 (南より)
- 図版30 S K02完掘状況 (西より)
S K03完掘状況 (北より)
S K04完掘状況 (北より)
S K05完掘状況 (南より)
- 図版31 S K13・14完掘状況 (北より)
S K15完掘状況 (西より)
S D02完掘状況 (南より)
S D03完掘状況 (西より)
- 図版32 S I01・02・05・16、1号墳丘墓出土遺物
- 図版33 1・2号墳丘墓出土遺物
- 図版34 2~4号墳丘墓出土遺物
- 図版35 4号墳丘墓、S X02・04・06・15出土遺物
- 図版36 S X15・18・24・27・28・32・33出土遺物
- 図版37 S X37・39・41・50、
S K01・04~07出土遺物
- 図版38 S K11~14、S D01・03及び内遺構外出土遺物
- 図版39 石器、玉製品
- 図版40 玉製品、鉄器

- 図版41 鉄器、銅鏡
- 宮内第4遺跡 (A区)
- 図版42 S I01完掘状況 (東より)
S I02・03完掘状況 (東より)
S I02完掘状況 (東より)
S I03完掘状況 (東より)
- 図版43 S K01完掘状況 (東より)
S K02完掘状況 (東より)
S S01完掘状況 (東より)
調査後 (空撮)
- 図版44 S I01~03出土遺物
- 図版45 S I03、S K01、
S S01・02出土遺物
- 図版46 S S01・02出土遺物及び石器
- 宮内第5遺跡 (B区)
- 図版47 調査前 (空撮)
調査後 (空撮)
- 図版48 S I01完掘状況 (東より)
S I02完掘状況 (東より)
S I03、S X04~06完掘状況 (西より)
S X04木質検出状況 (南東より)
- 図版49 S K01完掘状況 (南西より)
S K02完掘状況 (西より)
S K03完掘状況 (北西より)
S K04完掘状況 (西より)
- 図版50 S K05完掘状況 (西より)
S K06完掘状況 (北より)
S K07完掘状況 (西より)
S K08完掘状況 (東より)
- 図版51 S K09完掘状況 (北より)
S K10・11完掘状況 (北より)
S K12完掘状況 (南より)
S K13完掘状況 (東より)
- 図版52 S K14・15完掘状況 (南より)
S K16完掘状況 (西より)
S K17完掘状況 (北より)
S K18完掘状況 (南より)
- 図版53 S K19完掘状況 (北より)
S K20完掘状況 (西より)
S K21完掘状況 (南東より)
S K22完掘状況 (西より)
- 図版54 S K23完掘状況 (東より)

- SK24完掘状況 (南より)
SK25完掘状況 (東より)
SD01完掘状況 (北より)
- 図版55 SD01北西端完掘状況 (南より)
SD03完掘状況 (西より)
SS01完掘状況 (西より)
ビット群完掘状況 (東より)
- 図版56 宮内2号墳調査前 (空撮)
宮内2号墳調査後 (空撮)
- 図版57 宮内2号墳北側周溝検出状況 (北より)
宮内2号墳2次墳丘遺存状況 (北より)
宮内2号墳2次墳丘遺存状況 (東より)
宮内2号墳1次墳丘上遺物出土状況
(北より)
- 図版58 宮内2号墳第3主体部検出状況 (南より)
宮内2号墳第3主体部検出状況 (東より)
宮内2号墳第3主体部蓋石除去後
(南東より)
宮内2号墳第3主体部 (南東より)
- 図版59 宮内2号墳第3主体部遺物出土状況
(北西より)
宮内2号墳第3主体部遺物出土状況 (南東より)
宮内2号墳第3主体部遺物出土状況
(南東より)
宮内2号墳第3主体部遺物出土状況 (北西より)
宮内2号墳第3主体部遺物出土状況 (北西より)
- 図版60 宮内2号墳第3主体部完掘状況 (南東より)
宮内2号墳第3主体部完掘状況 (南東より)
宮内2号墳第3主体部掘り方完掘状況
(南東より)
- 宮内2号墳裾部埋葬 (SX01) 検出状況
(西より)
- 図版61 宮内2号墳周溝内埋葬 (SX02) 検出状況
(北より)
宮内63号墳検出状況 (東より)
宮内63号墳主体部検出状況 (南東より)
宮内63号墳主体部完掘状況 (西より)
- 図版62 宮内63号墳主体部掘り方完掘状況 (東より)
宮内63号墳遺存状況 (北東より)
宮内63号墳周溝内埋葬 (SX03) 検出状況
(東より)
宮内64号墳周溝内遺物出土状況 (北より)
- 図版63 宮内64号墳主体部完掘状況 (東より)
宮内64号墳遺存状況 (北東より)
宮内65号墳主体部検出状況 (東より)
宮内65号墳遺存状況 (東より)
- 図版64 SI01~03、SX05・06、SK02出土遺物
- 図版65 SK03~6・08出土遺物
- 図版66 SK10・13・17・18・19・21、SD02、
SS01出土遺物
- 図版67 SS01、ビット内、宮内2号墳出土遺物
- 図版68 宮内2号墳、64号墳出土遺物
- 図版69 宮内64号墳出土遺物
- 図版70 宮内64号墳出土遺物
- 図版71 宮内64号墳出土遺物
- 図版72 宮内64号墳、65号墳出土遺物
- 図版73 石器、玉製品、鉄器
- 図版74 鉄器

第1章 調査の経緯

第1節 発掘調査に至る経緯

鳥取県中部の東郷湖周遊整備工事に伴い、東伯郡東郷町宮内地区から羽合町へ至る一般県道東郷羽合線の改良工事が進められている。この周辺には、宮内孤塚古墳をはじめとする宮内古墳群・藤津古墳群や火鼻遺跡・舟隠遺跡、伯耆園式内社の中でも一宮として知られる倭文神社、出土品が国宝に指定されている伯耆一宮経塚などが存在している。また、工事計画地内には宮内2号墳、宮内第1遺跡、宮内第4遺跡、宮内第5遺跡の他、土器などの遺物散布地が確認されている場所である。

よって道路工事に先立ち、東郷町教育委員会¹⁾によって、計画地内の遺跡、遺構の範囲確認のための試掘調査が、平成6年5月から11月にかけて行われた。その結果、弥生時代から古墳時代に至る遺構が数多く確認された。

このことを受けて、鳥取県土木部道路課及び鳥取県倉吉土木事務所は、鳥取県教育委員会文化課と協議し、財団法人鳥取県教育文化財団に記録保存のための事前調査を委託した。これにより、中部埋蔵文化財東郷羽合調査事務所が組織され、本年度4月から宮内第1遺跡3,779.6㎡、宮内第4遺跡314.4㎡、宮内第5遺跡2402.6㎡の発掘調査を開始した。

註 (1) 東郷町教育委員会 『東郷町内遺跡発掘調査報告書(宮内所在遺跡群)』 1995

第2節 発掘調査の経過と方法

今回の調査は、県道改良工事に伴っており、調査対象区は計画路線上の丘陵尾根先端部にそれぞれ位置している。よって便宜上、宮内第4遺跡をA区、宮内第5遺跡をB区、宮内第1遺跡をC・D区とした。

調査に着手する前に、ワールド航測コンサルタント株式会社に委託して調査前の地形測量を行った。そして、各調査区全体を国土座標にのるように10mグリッドに区画し、基準杭を打った。この際、各調査区ごとに、調査区南西隅を基点とし、南北軸をアラビア数字、東西軸をアルファベットで表し、北東隅交点をグリッド名とした。それぞれの調査区の基点はA区〔X: -57560 Y: -39340〕、B区〔X: -57530 Y: -39420〕、C区〔X: -57400 Y: -39440〕、D区〔X: -57280 Y: -39400〕である。

調査は用地買収および排土搬出場所との兼ね合いから、宮内2号墳の立地するB区から、A区、C区、D区と順次行うこととし、4月5日に調査地現況の空撮等を行い、4月10日から、B区の宮内2号墳を除いた部分の表土剥ぎを2台の重機により開始した。廃土は調査区南東側に搬出したが、北側の一部については、ダンプカーにより場外搬出した。4月18日から、2台の重機の内1台をA区表土剥ぎにまわし、A・B区とも4月25日に表土剥ぎを終了した。人力による遺構検出作業は、B区では4月17日、A区では4月21日から始め、A区は6月30日、B区は9月29日に全ての調査を終了した。

C区表土剥ぎは、5月8日から5月10日と5月23日から5月25日の2回に分けて行い、遺構検出作業に着手するまで、遺構が見られる場所をビニールシートで覆い保護することとした。検出作業は6月26日から開始し、9月8日に調査を終了した。

D区は県道と調査地までが急峻で比高差があり、北東側農道は重機走行が不可能であった。よって、調査地南側部分にC区排土を利用して、重機搬入のためのスロープを設け、7月20日に2台の重機を搬入し、7月24日から7月31日まで表土剥ぎを行った。排土は重機搬入場所へ一度搬出し、その後ダンプカーにより場外搬出した。遺構検出作業は8月17日から開始し、11月17日に全調査区の空撮を行った。遺構検出および掘り下げは11月24日に終了し、その後実測作業を12月27日で終え、本年度の調査を終了した。

なお、調査終了後の地形測量は、ワールド航測コンサルタント株式会社に業者委託して、各調査区調査終了後に随時行った。

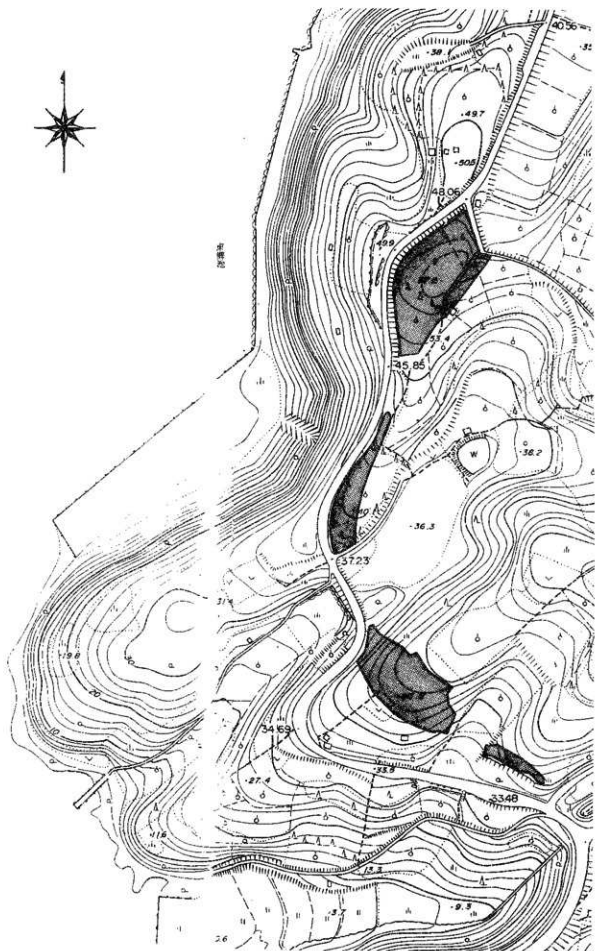


插图1 調查区位置图

調査日誌(抄)

4月5日	調査前空撮	9月1日	S I 01完掘写真
4月10日	B区表土剥ぎ開始	9月8日	C区調査終了
4月18日	A区表土剥ぎ開始	9月12日	D区墓塚群検出写真
4月20日	宮内2号墳表土剥ぎ開始	9月29日	B区調査終了
4月28日	B区S X 01検出	10月11日	D区S I 10銅鏡出土
5月8日	C区表土剥ぎ開始	10月19日	1号墓、2号墓検出
5月18日	宮内64号墳検出写真	10月25日	3号墓主体部鉄刀出土
5月25日	A区S I 01完掘	11月2日	1号墓石列写真
6月8日	東郷町立桜小学校6年生、調査を体験学習	11月3日	現地説明会(約100名参加)
6月19日	宮内63号墳主体部完掘	11月10日	2号墓土器溜検出
6月28日	A区S I 02・03完掘写真	11月15日	1号墓第3主体部管玉出土
6月30日	A区調査終了	11月16日	1号墓第2主体部鉄刀出土
7月18日	宮内65号墳主体部完掘	11月17日	空撮
7月24日	D区表土剥ぎ開始	11月18日	島根大学渡辺貞幸教授現地指導
7月31日	宮内2号墳第3主体部石棺検出	11月24日	1号墓第1主体部鉄剣、管玉出土
8月7日	B区S X 04完掘	11月30日	一般公開(宮内第1遺跡現地および遺物)
8月18日	C区S K 04完掘	12月19日	1号墓第1主体部完掘写真
8月28日	宮内2号墳棺内遺物写真	12月27日	本年度調査終了
8月30日	D区S X 01鉄刀取り上げ		



写真1 現地説明会風景



写真2 調査参加者

第3節 調査体制

調査主体	財団法人鳥取県教育文化財団	
理事長	田淵 康充	(鳥取県教育委員会教育長)
常務理事	上田 徹	(鳥取県教育委員会教育次長)
事務局長	若松 良雄	
財団法人鳥取県教育文化財団	鳥取県埋蔵文化財センター	
所 長	宮谷 正信	(鳥取県教育委員会文化課長)
次 長	八木谷 昇	
庶務係		
係 長	梅山 昭美	(鳥取県埋蔵文化財センター庶務係長)
主任事務職員	岩本 武夫	
事務補助	武永 裕美	
調査指導係		
係 長	田中 弘道	(鳥取県埋蔵文化財センター次長)
文化財主事	久保稷二郎	(鳥取県埋蔵文化財センター文化財主事)
〃	長岡 充展	(〃)
〃	山折 雅美	(〃)

調査担当	財団法人鳥取県教育文化財団	中部埋蔵文化財東郷羽合調査事務所
所 長	入江 輝三	
主任調査員	原田 雅弘	
調査員	瀧田 竜彦	
調査補助員	遠藤 秀光	(東郷町教育委員会)
	宮川 紳	(〃)
整理員	佐々木瑞恵	

調査指導 鳥取県埋蔵文化財センター

調査協力 東郷町 東郷町教育委員会

主な発掘作業従事者 (五十音順)

青地庄蔵、石原清子、井上ゆきみ、宇佐美玉恵、小椋忠義、加嶋福枝、鹿野豊、桑田範子、小原富士子、佐古八重子、陶山勝利、陶山富恵、高野祥子、田中進、田中恒代、田中秀子、鳥飼睦、浜崎俊子、原田満子、前田和郎、森福枝、森富美恵、森下美子、森田正明、柳井厚子、藪金子、藪巧、山口良子、山本礼二、渡辺芳江

主な整理作業従事者 (五十音順)

稲垣美智恵、表明美、南條孝子、山田美幸、山根麻記、米山麻紀

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

宮内遺跡群の位置する東伯都東郷町は鳥取県のほぼ中央に位置している。東は青谷町、南は三朝町・倉吉市、西は羽合町・泊村に隣接する。町内にある東郷湖は三朝東郷湖泉立公園に指定されており、湖底から湧き出る温泉、特産の梨を中心とした観光の町である。また、歴史的には、山陰でも有数の古墳群が点在することで知られている。

本町の南端部一帯は中国山地に続く高地となっており、総面積の約7割を山地が占めている。現在、山間部は開墾され、特産の梨園が広がっている。また、北西部には、周囲12km、面積417haの東郷湖があり、橋津川によって日本海と接続している。東郷町内を流れる東郷川・羽衣石川・舎人川・植見川の主要河川は、いずれも東郷湖に注いでいる。現在、その流域では水田が発達している。本町は恵まれた自然環境を背景に、古くから人々が様々な生活を営んでいたと考えられる。町内に分布する遺跡の多さからそれを伺うことができる。

調査の対象となった宮内遺跡群は、東郷町の北部にある宮内地区に位置している。遺跡は御冠山から連なる丘陵地帯にあり、西側はすぐに東郷湖に面している。調査地の標高は、宮内第1遺跡が標高39.0m～57.0m、第4遺跡が標高39.0m～44.0m、第5遺跡が標高37.0m～51.0mにある。調査前は、いずれも果樹園であった。

東郷湖をのぞむ丘陵上には鳥取県中部を代表する大型古墳が造営されている。調査地のある宮内地区の丘陵や尾根の先端には、宮内孤塚を代表とする宮内古墳群が所在する。今回、調査を行った宮内第1遺跡に関しては、宮内孤塚と一続きの尾根上に位置している。宮内遺跡群が所在する尾根上からは、東郷湖・羽合平野・日本海はもとより大山を一望することができる。



挿図2 宮内遺跡位置図

第2節 歴史的環境

旧石器時代

鳥取県内では、現在までのところ旧石器の遺跡は確認されていない。しかし、東郷池周辺を含む県中部でも、大山山麓ではいくつかの旧石器が見つかった。関金町野津三第1遺跡、倉吉市中尾遺跡ではローム層から石器変遷の第2期にあたるナイフ型石器が見つかった。他にも倉吉市和田の石刃、倉吉市上神・同じく鶴の細石刃核、倉吉市国府の標骨など、第3期にあたる石器がいくつか見つかった。

縄文時代

鳥取県内では草創期の土器の出土例はない。しかし、大山山麓では、縄文時代早期期の石器である有舌尖頭器が、関金町笹ヶ平、大栄町徳穂、東伯町榎下などで見ついている。早期の遺跡も、早期期に引き続いて丘陵上に営まれている。倉吉市取木遺跡では竪穴住居跡、炉跡、押型文土器が見ついている。東郷池周辺においても、南谷19号墳の調査中にスクレイパーが見ついている。縄文時代前期は気候が温暖だったため、海進が進んで海岸線が陸地深く入り込み、東郷池周辺もラグーンを形成していた。遺跡も低湿地周辺で見つかるようになり、前期から晩期の遺跡である北条町品遺跡では、土器の他に動物の骨、丸木舟、貝塚などがみついている。中期の遺跡は数が少なく、北条町船渡遺跡、倉吉市平林遺跡などがみついているだけである。後期になると遺跡の数も増え、倉吉市津田峰遺跡、東伯町森第2遺跡、関金町横峯遺跡などでこの時期の竪穴住居跡が見ついている。これらの住居は方形を呈し、中央には石組の炉を持つなどの特徴がみられる。東郷池周辺でも、東郷町北福で後期の土器が採集されている。晩期の遺跡では、倉吉市松ヶ坪遺跡で配石墓、土器陪墓、土壇などがみついている。東郷池周辺では、羽合町長瀬高浜遺跡で刻目尖帯文を持つ深鉢をはじめとして、晩期の土器が見ついている。また、北条町北尾遺跡、大栄町後ろ谷遺跡でも、晩期の土器が出土している。晩期の遺跡の特徴として、弥生時代前期との連続性が挙げられる。

弥生時代

鳥取県内には早くから弥生文化が流入し、米子市目久美遺跡ですでに前期の水田跡が確認されている。中部では前期の水田跡は発見されていないが、東郷池周辺では天神川河口の北条砂丘上に長瀬高浜遺跡が現れ、4棟の玉造り工房跡と2棟の住居跡、他に土壇墓が見ついている。この遺跡で発見された玉造り工房跡は当時の技術水準を測るうえで貴重である。中期になると弥生文化の比重は丘陵上に移り始める。羽合町長瀬高浜遺跡で土壇墓が見ついている他は、東郷池周辺では中期の遺構は見つけない。後期においても同様の傾向が見られ、遺跡は丘陵上に集中する。東郷池周辺では、羽合町南谷穴山遺跡、倉吉市福庭遺跡で終末期の竪穴住居跡が見ついている。またこの時期になると、倉吉市大谷・後口谷墳丘墓群、下福田阿弥大寺墳丘墓群、藤和墳丘墓などに代表される墳丘墓が築造され始める。また、関金町泰久寺中峯遺跡、三朝町丸山遺跡、倉吉市下小垣遺跡などでは土壇墓や木棺墓が多数みついている。

古墳時代

東郷池周辺には、馬ノ山古墳群、長瀬高浜古墳群、宮内古墳群など、県内でも有数の規模を持つ古墳群が分布しており、古墳文化を考えるうえで重要な地域である。東郷池周辺の前期古墳としては、復原全長100mの前方後円墳である橋津(馬ノ山)4号墳が挙げられる。橋津4号墳では三角縁神獣鏡を含む多数の副葬品が出土している。また、泊村でも前期の前方後円墳である石脇2号墳が築造されている。長瀬高浜遺跡では160棟以上の竪穴住居、40棟の掘立柱建物を持つ大集落が見ついている。中期においても大型の前方後円墳の築造は引き続き行われる。東郷池の東岸では復原全長95mの宮内孤塚古墳、南岸では全長110mの野花北山1号墳といった県内でも最大規模の前方後円墳が築造されており、古墳時代前期から中期にかけての東郷池周辺が、東伯者の中心地域であったことを窺わせる。また、中期の集落としては南谷穴山遺跡で竪穴住居跡が見ついている。後期になると大型の前方後円墳は見られなくなり、中小規模の古墳が盛んに築造されるようになる。また、従来の竪穴系の埋葬施設に代わって横穴式の石室が出現し、以後主流となっていく。古墳以外の遺跡では埴見中ノ谷古窯跡が挙げられる。6世紀中ごろから後半にかけて周辺地域に須恵器を供給していたものと思われる。終末期に現れるようになる横穴墓は、東郷町川上、別所、方地、宮内などで確認されているが、多くは未調査である。

古代

仏教思想の高まりとともに、白鳳時代始めには伯耆国内でも寺院建立が始まる。倉吉市大御堂廃寺、東郷町野方・弥陀ヶ平廃寺は当時の建立である。白鳳時代の中ごろには東伯町前尾廃寺、倉吉市大原廃寺が建立されている。伯耆一の宮として繁栄した倭文神社も白鳳時代の創建とされている。奈良時代の前半には倉吉市石塚廃寺が建立される。後半になると倉吉市国府に伯耆国衙が置かれ、伯耆国分寺、国分尼寺もその周辺に建立されている。関金町藤井谷廃寺も当時の建立である。また、東郷町久見でも7世紀後半ごろと8世紀後半ごろの瓦が見つ



古墳 古墳群 遺跡 寺院跡 城跡 宮跡
 ● ○ ㊦ ㊧ ㊨

挿図3 周辺遺跡地図

- | | | | | |
|---------------|----------|-----------|-----------|------------|
| 1 宮内遺跡群 | 2 宮内孤塚古墳 | 3 伯耆一宮蘇屋 | 4 藤津古墳群 | 5 松崎城跡 |
| 6 野方・弥々平廃寺 | 7 野方古墳群 | 8 中興寺古墳群 | 9 久見古瓦出土地 | 10 久見古墳群 |
| 11 川上古墳群 | 12 高辻古墳群 | 13 小巖谷古墳群 | 14 別所古墳群 | 15 引地古墳群 |
| 16 野花北山1号墳 | 17 羽衣石城跡 | 18 長和田古墳群 | 19 埴見古墳群 | 20 埴見中ノ谷古窯 |
| 21 佐美古墳群 | 22 伊木古墳群 | 23 山根古墳群 | 24 片平4号墳 | 25 門田遺跡 |
| 26 福庭古墳 | 27 向山古墳群 | 28 田内城 | 29 長瀬高浜遺跡 | 30 横津古場 |
| 31 横津(馬ノ山)4号墳 | 32 南谷古墳群 | 33 南谷大山遺跡 | 34 宇谷古墳群 | |

かっている。近隣で2基の礎石が見つかっていることから、寺院跡か郡衙跡があったものと思われる。平安時代末期になると末法思想が広まり、さかんに経塚がつくられるようになる。倭文神社境内に隣接したなだらかな丘陵上からは、伯耆一宮経塚が見つかっている。石室内から出土した金銅製経筒、金銅製観音菩薩立像、銅製千手観音菩薩立像、銅版線刻弥勒立像はいずれも国宝に指定されている。これらは平安末期の末法思想を反映しており、特に金銅製経筒に刻まれた15行236字の銘文は、当時の信仰の形態を知る上で貴重な資料である。

中世

南北朝時代には山名時氏が伯耆国守護に就き、倉吉市田内に田内城を築城して伯耆国統治の基盤とした。その後、山名氏の居城は倉吉市東町にある打吹城に移り、1524年に尼子氏によって落城するまで存続した。室町時代には1366年、南条貞宗によって羽衣石城が築城され、一時尼子氏、毛利氏の軍門に下りながらも、南条氏が関ヶ原の戦いで敗れるまで存続した。山頂には本丸、二の丸、三の丸、尾根上には9段の郭が設けられている。周辺には高野宮城、松崎城などの出城も築かれた。中世から近世にかけての発掘調査はまだ少ない。発掘された遺跡としては倉吉市今倉遺跡の住居跡、東郷町門田遺跡の中世貝塚などが挙げられる。

近世近代

江戸時代末期には外国船が頻繁に出没はじめる。鳥取藩でも沿岸防備のため、稜堡式城郭を参考に海岸線に数基の台場を築造した。県中部では大栄町由良宿の台場跡をはじめ、赤碓町、羽合町にも台場が築かれた。

参考文献

- 羽合町 『羽合町史』前編 1967
- 東郷町 『東郷町史』 1987
- 鳥取県埋蔵文化財センター 『旧石器・縄文時代の鳥取県』 1988
- 鳥取県埋蔵文化財センター 『弥生時代の鳥取県』 1987
- 鳥取県埋蔵文化財センター 『鳥取県の古墳』 1986
- 鳥取県埋蔵文化財センター 『歴史時代の鳥取県』 1989

第3章 宮内第1遺跡（C区）の調査

宮内第1遺跡（C区）では、竪穴住居跡10棟、土坑5基、溝状遺構2条、ピットを検出した。以下に各遺構ごとに調査結果を述べる。

第1節 竪穴住居跡

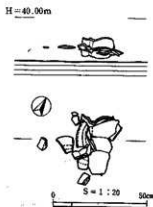
S101（挿図6、7・図版2、6）

位置 B5グリッドにあり、標高40.1mに位置する。SK01と重複している。

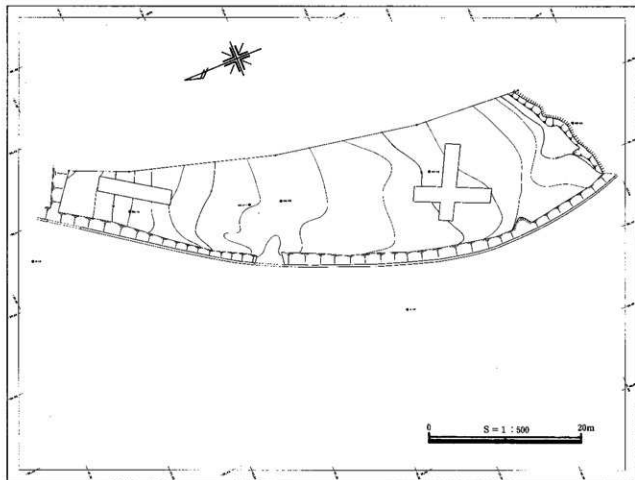
形態 西側は調査区外となるが、平面形は円形を呈していると考えられる。検出できた規模は南北約5.3m、東西1.8m以上を測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大50cmを測る。

側溝は検出した壁際すべてに巡っている。幅15～20cm、深さ5～10cmを測る。

ピットは2個検出できた。柱穴と考えられるものはP1だけで規模は（40×26以上～66）cmを測る。P2は規模（41×38～10）cmを測る。

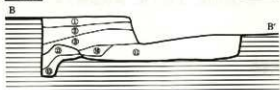


挿図4 Po1出土状況図

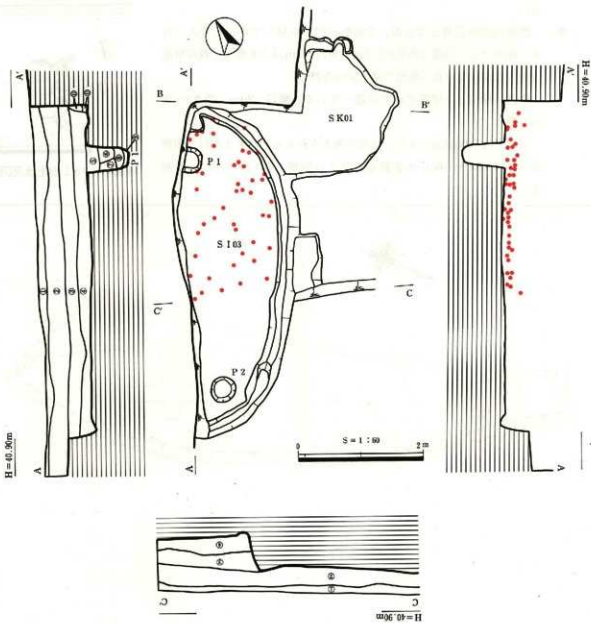


挿図5 宮内第1遺跡（C区）調査前地形測量図

H = 40.90m



- ① 耕作土
- ② 暗灰褐色土 (土層を多量に含む)
- ③ 灰褐色土 (土層を多量に含む)
- ④ 灰褐色粘膏土
- ⑤ 暗黄色土
- ⑥ 黄褐色土
- ⑦ 灰褐色土
- ⑧ 黄褐色粘膏土
- ⑨ 暗黄褐色土
- ⑩ 明黄褐色土
- ⑪ 黄褐色土
- ⑫ 淡赤褐色土

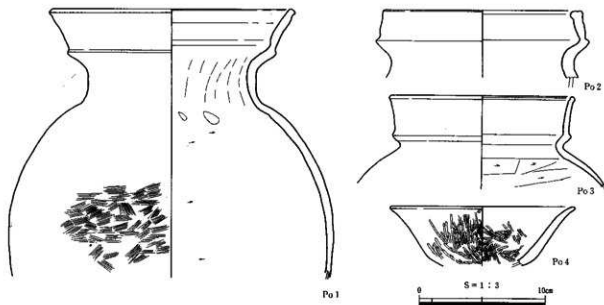


挿図6 S101・SK01遺構図

埋 土 S I 01の埋土は③・④の2層に分層でき自然堆積したものと考えられる。⑭・⑮層については調査区外の別遺構と重複している可能性がある。

遺 物 埋土中から多量の遺物が出土した。ここでは壺Po1、甕Po2・3、高坏Po4を図化した。この中でPo1は床面より出土した。

時 期 出土した土器より古墳時代前期～中期と考えられる。



挿図7 S I 01遺物実測図

S I 02 (挿図8、9・図版2、6、10)

位 置 B4、C4グリッドにあり、標高40.1mに位置する。

形 態 耕作による擾乱が著しく遺存状態は悪いが、平面形は方形を呈する。検出できた規模は南北約3.6m、東西約3.8mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大24cmを測る。

側溝は検出できなかった。

主柱穴はP1・2で規模はP1(40×30-50)cm、P2(30×24-50)cmを測り、主柱穴間距離は、1.3mである。

埋 土 埋土で確認できたものは①・②層である。

遺 物 遺構内擾乱中より出土した遺物のなかで甕Po5・6、高坏Po7・8、斫石S1、浮子S2を図化した。

時 期 出土した土器より古墳時代前期～中期と考えられる。

S I 03 (挿図10、11・図版2・6)

位 置 C3・4グリッドにあり、標高40.1mに位置する。

形 態 東側は調査区外となり、南側は擾乱による削平が著しかったため平面形は不明である。検出できた規模は南北約4m、東西約2mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い西壁で最大20cmを測る。

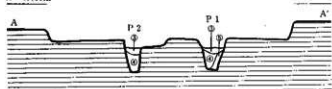
側溝及び主柱穴は検出できなかった。

埋 土 ①層は耕作土であり、埋土は②、③層を確認した。

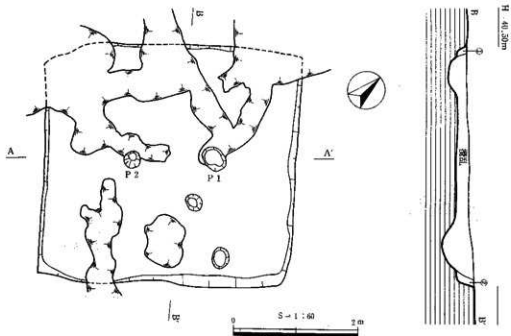
遺 物 埋土中から多量の遺物が出土した。ここでは甕Po9、高坏Po10・11、筒脚部Po12、小型丸底壺Po13を図化した。

時 期 出土した土器より古墳時代前期～中期と考えられる。

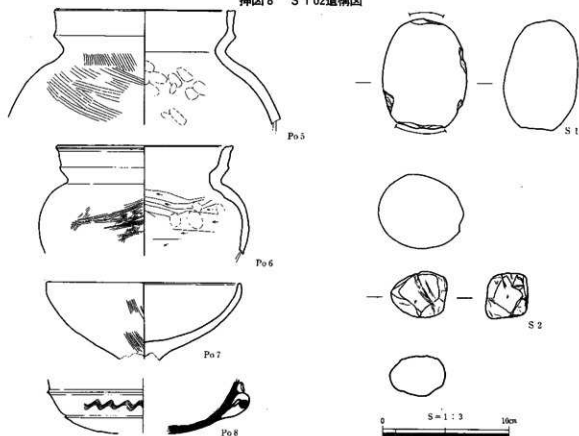
H = 40.50m



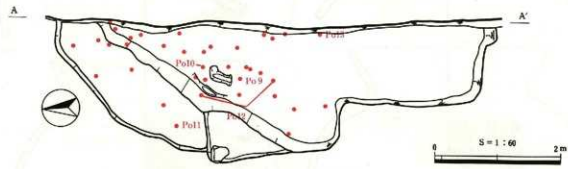
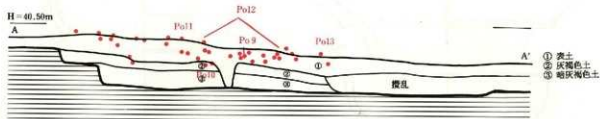
- ① 灰褐色土 (黄褐色粘土-地山ブロック混)
- ② 灰褐色土 (赤褐色粘土少量混)
- ③ 淡灰褐色土 (地山ブロック多量混)
- ④ 灰褐色土 (地山ブロック多量混)
- ⑤ 赤褐色粘土



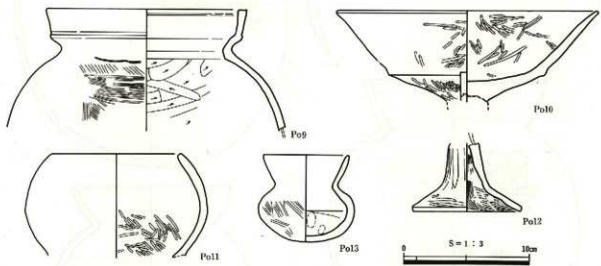
挿図8 S102遺構図



挿図9 S102遺物実測図



挿図10 S103遺構図



挿図11 S103遺物実測図

S104 (挿図12~14・図版2、3、6、7、10)

- 位置** 調査区の南側、A3グリッドにあり、標高39.7mに位置する。
- 形態** 本遺構の東側は調査区の壁にかかるが、平面形は方形を呈すと思われる。検出できた規模は一辺約5.8mで、残存壁高は最も遺存状態の良い場所でも最大0.4mを測る。
13個の柱穴が検出されたが、主柱穴の特定には至らなかった。柱穴の平面規模は30~50cm、深さは20~60cmである。また、P1・10には柱痕が確認でき、それぞれの規模はP1 (60×40~70) cmである。
- 埋土** 3層の水平堆積が認められた。③層上面から②層中で大量の土器が出土していることから、本遺構が③層で埋まったのちに、土器の投棄もしくは集積が行われたと考えたい。
- 遺物** ③層上面から②層中で出土した土器類Po14~36を図化した。また、埋土中より砥石S3、磨石S4が出土した。
- 時期** 出土した遺物から古墳時代前期~中期と考えられる。

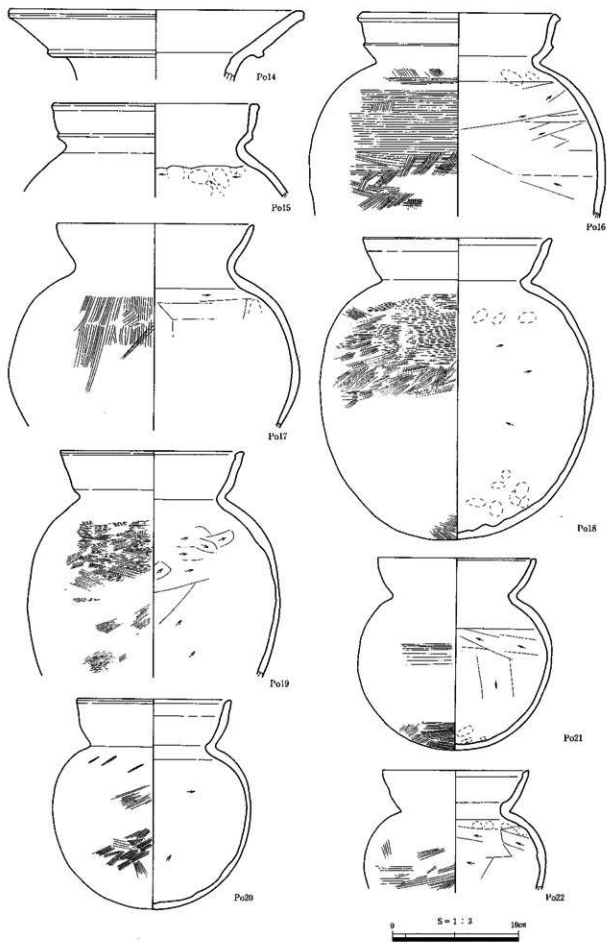
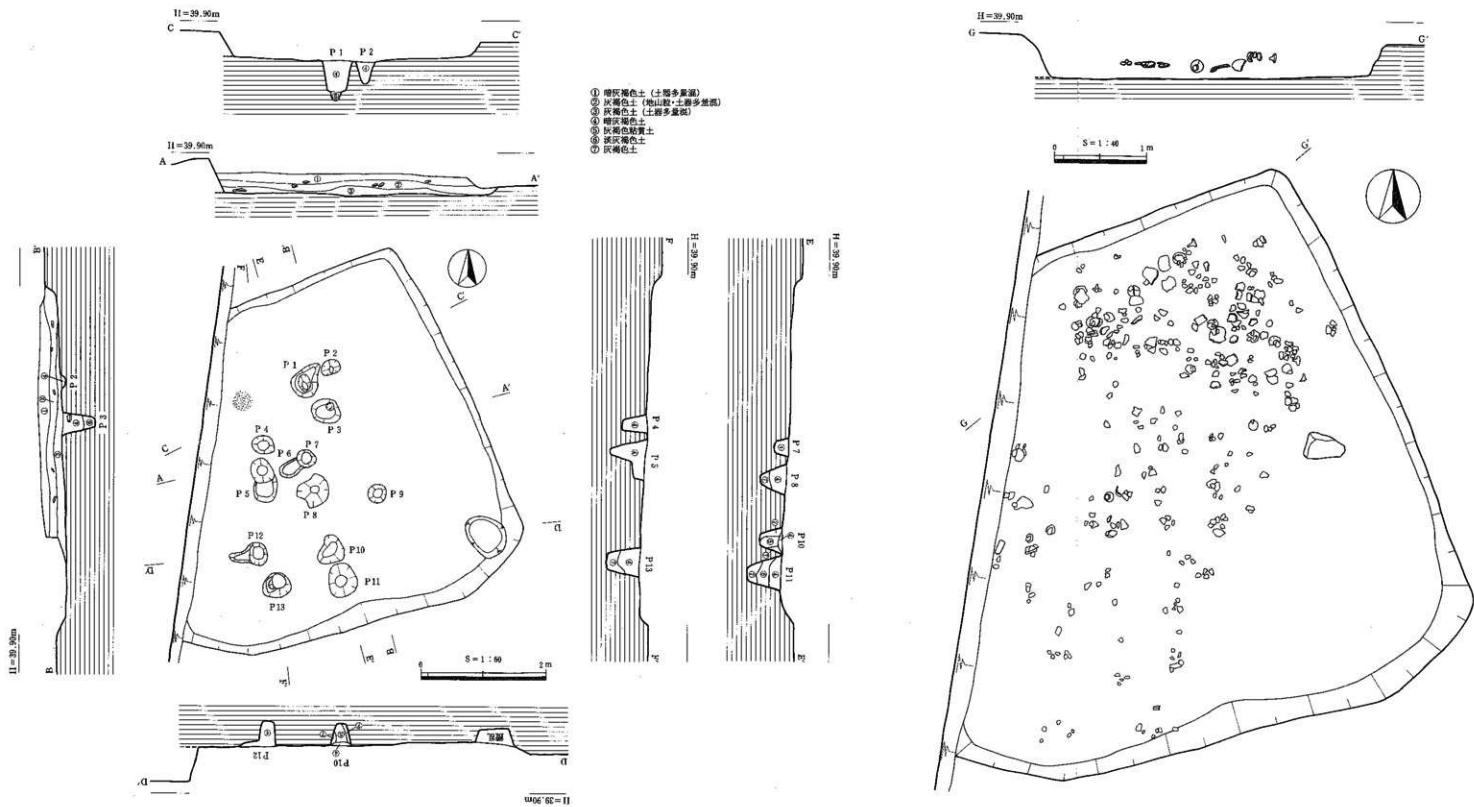
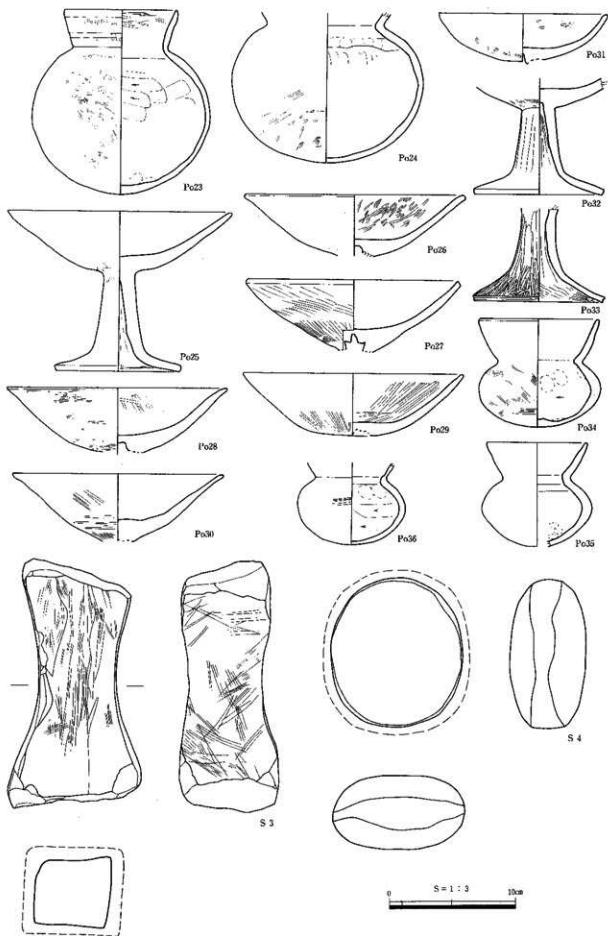


插图12 S104遗物实测图(1)



押図13 S104遺構図及び遺物出土状況図



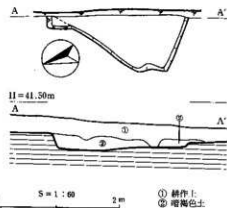
挿図14 S104遺物実測図(2)

S 105 (挿図15)

位置 C 6グリッドにあり、標高41mに位置する。
形態 東側は調査区外となり、上面は耕作により削平されていたが、平面形は方形を呈すると考えられる。検出できた規模は南北2.0m以上、東西0.8m以上を測る。残存壁高は最も遺存状態の良い北壁で最大20cmを測る。

側溝及び主柱穴は検出できなかった。

埋土 ①層は耕作土であり、埋土は②層を確認した。
遺物 土器細片が出土したが、図化できるものはなかった。
時期 周囲の遺構から古墳時代前期～中期と考えられる。



挿図15 S 105遺構図

S 106-1 (挿図16・17、19・図版3、8)

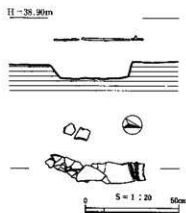
位置 A 1・2、B 1グリッドにあり、標高38.8mに位置する。S 106-2・3と重複している。

形態 南西側は調査区外となり、上面はほとんど削平されていたため遺存状態は悪い。南側はS 106-2・3に切られている。平面形は方形を呈するものと考えられる。検出できた規模は南北5m、東西3.6m以上を測る。残存壁高は最も遺存状態の良い北壁で最大10cmを測る。

側溝は北東壁際側と南側はS 106-2・3と重複しているものの一部検出することができた。検出できた規模は幅10～15cm、深さ15～20cmを測る。

ピットは7個検出できたが、主柱穴の特定はできなかった。比較的しっかりしていたピットはP 1～5で、検出規模は順に(58×25以上-50)cm、(55×55-33)cm、(47×42-15以上)cm、(40×40-35以上)cm、(40×28-68)cmを測る。

埋土 ①層は表土(耕作土)で、遺構埋土は、①～③の3層に分層できた。③層は固くしめられており、貼床の可能性がある。①・②層は自然堆積したものと考えられる。
遺物 出土した舞台部Po44、甔Po45を図化した。
時期 出土した土器より古墳時代前期～中期と考えられる。



挿図16 Po45出土状況図

S 106-2 (挿図17、19・図版3、8)

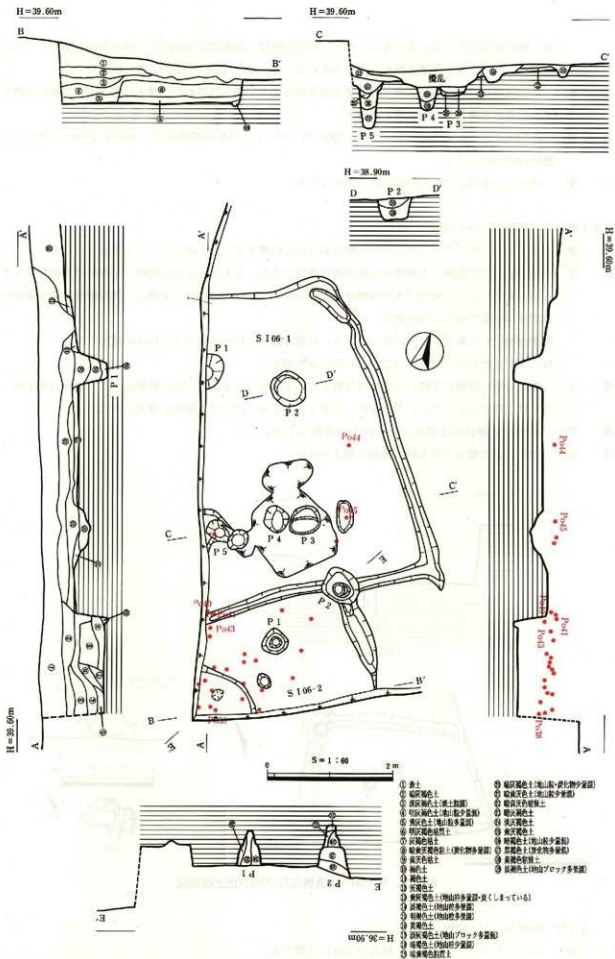
位置 A 1・2、B 1グリッドにあり、標高39.2mに位置する。S 106-1・3と重複している。

形態 西側及び南側は調査区外となり、上面はほとんど削平されている。南側はS 106-1を切り込んでいる。平面形は方形を呈するものと考えられる。検出できた規模は南北1.7m以上、東西2.2m以上を測る。残存壁高は最も遺存状態の良い北壁で最大20cmを測る。

側溝は北西側と北東側で検出できた。検出規模は、幅10～20cm、深さ15～20cmを測る。

特定はできないが主柱穴と考えられるP 1を検出した。検出規模は(43×42-58)cmを測る。住居北側壁隅で用途不明の柱穴P 2を検出した。平面形は円形を呈し、規模は(60×50-85)cmを測る。埋土は5層に分層でき、②層に炭化物が含まれていた。この住居のほとんどが調査区外となるため確認することはできないが、住居の4隅にはP 2に対応する柱穴が存在する可能性も考えられる。

屋内土坑 住居内の調査区南側隅に土坑状の掘り込みを検出した。ほとんど調査区外となるものの平面形は円

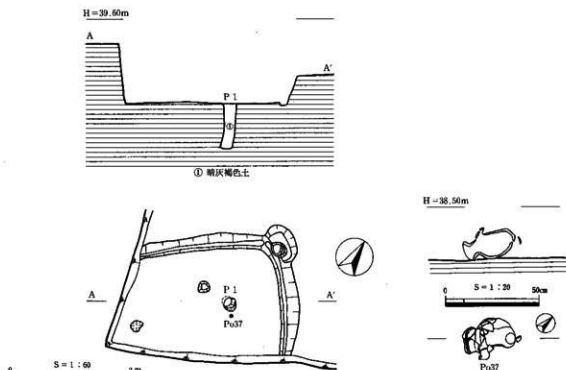


挿図17 S I 06-1・2 遺構図

- 形、断面は逆台形を呈すると考えられる。検出規模は上縁部直径90cm以上、深さ40cmを測る。この土坑はS I 06-3埋土⑧層上面から掘り込まれている。埋土は⑥～⑦層の3層に分層できた。
- 埋土 この住居は、S I 06-1埋土の⑩層上面を切り込んで作られており、埋土は②～④の3層に分層できた。自然堆積したものと考えられる。
- 遺物 住居内より多数の遺物が出土した。壺Po38・40・41、小型丸底壺Po43、屋内土坑内から出土した甕Po46を図化した。
- 時期 出土した土器より弥生時代後期と考えられる。

S I 06-3 (挿図18、19・図版3、8)

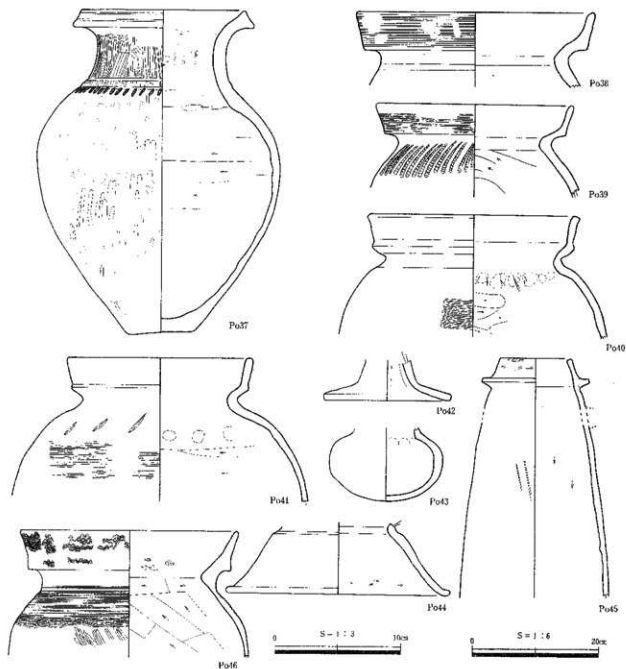
- 位置 A 1・2、B 1グリッドにあり、標高39.2mに位置する。S I 06-1・3と重複している。
- 形態 S I 06-2完掘後、下層埋土を除去後に検出できた。S I 06-2と同規模で平面形は方形を呈するものと考えられる。検出できた規模は南北1.7m以上、東西2.2m以上を測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大45cmを測る。
- 側溝は検出した壁際すべてに巡っている。規模は幅8～15cm、深さ5～10cmを測る。
- 柱穴はP 1だけで、規模は(22×20～70)cmを測る。
- 埋土 埋土は⑧～⑩層の3層に分層でき3層とも粘土で良くしまっていた。形態からこの住居はS I 06-2に建て替えられたことが考えられ、3層ともS I 06-2に伴う貼床と考えられる。
- 遺物 壺Po37、甕Po39を図化した。Po37は床面より出土した。
- 時期 出土した土器より弥生時代後期と考えられる。



挿図18 S I 06-3 遺構図及びPo37出土状況図

S I 07 (挿図20、22・図版3、8)

- 位置 B 2・3グリッドにあり、標高39.6mに位置する。
- 形態 上面は耕作による攪乱が著しく南東側は削平を受け遺存状態は悪い。平面形は方形を呈するものと



挿図19 S106遺物実測図

考えられる。検出できた規模は南北5.3m、東西4.0m以上を測る。残存壁高は最も遺存状態の良い西壁で最大35cmを測る。

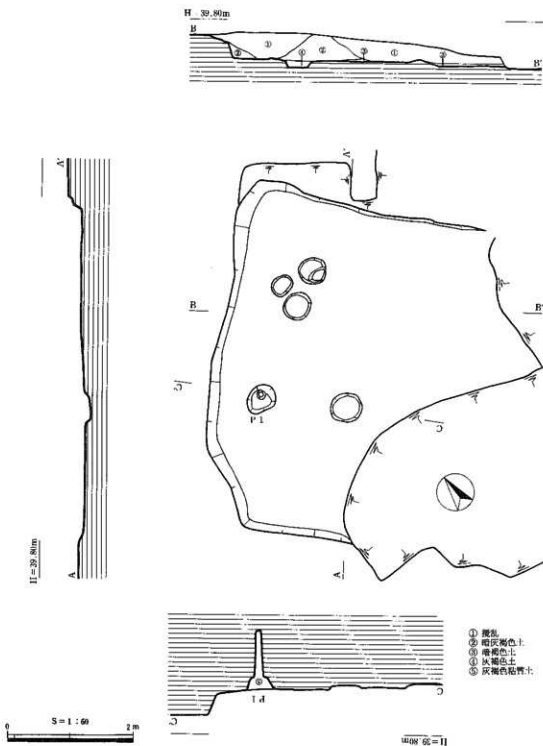
側溝は検出できなかった。

ピットは5個検出できたが柱穴と考えられるものはP1だけで、規模は(50×40-95)cmを測る。

- 埋土 ほとんど擾乱であったものの埋土は②・③層の2層を確認した。
- 遺物 出土した遺物の中から壺Po47、甕Po48、高坏Po49、小型丸底壺Po50、蓋Po51を図化した。
- 時期 出土した土器より古墳時代前期～中期と考えられる。

S108 (挿図21、23・図版4、9)

位置 B1・2、C1・2グリッドにあり、標高38.5mに位置する。



挿図20 S107遺構図

形態 東側及び南側は調査区外となる。西側は削平を受けている。平面形は方形を呈していたと考えられる。検出できた規模は、南北3m以上、東西6m以上を測り、深さは0.6m程度で階段状に掘り込まれていた。

検出できたピットの中で大きいものはP1～3で、規模は、P1(110×60～25)cm、P2(55×46～25)cm、P3(55×43～30)cmを測る。

東側調査区壁から南西に延びる溝を検出した。検出規模は、幅23～60cm、深さ15～20cmを測る。

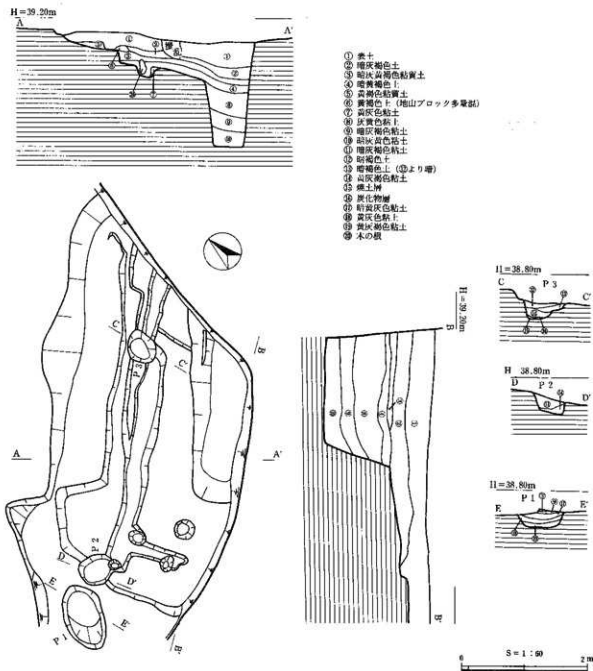
屋内土坑 遺構内南東側で土坑状の掘り込みを検出した。大部分は調査区外となるため平面形を特定することはできなかった。検出できた規模は、上縁部(3.0以上×0.8以上) m、底面(2.1以上×0.5以上) m、深さ1.05mを測る。埋土は⑧~⑩の3層を確認し、いずれも粘土層であった。

この遺構の形態からS I 08は住居ではなく、別の性格を持った遺構の可能性がある。

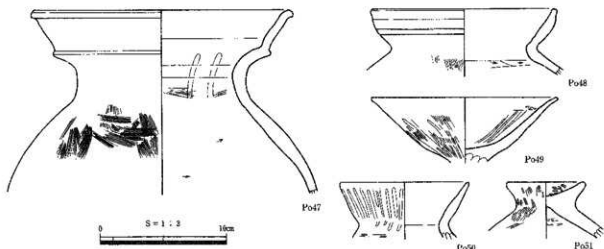
埋土 埋土は基本的に①~④の4層に分層できた。

遺物 埋土中から出土した遺物の中から要Po52~54、屋内土坑埋土中から出土した押型文胴部Po55、底部Po56を図化した。

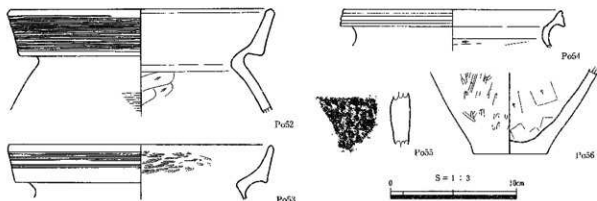
時期 出土した土器及び付近の遺構から弥生時代後期と考えられる。



挿図21 S I 08遺構図



挿図22 S107遺物実測図



挿図23 S108遺物実測図

第2節 土坑

SK01 (挿図6・図版2)

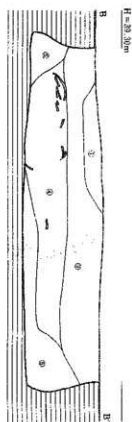
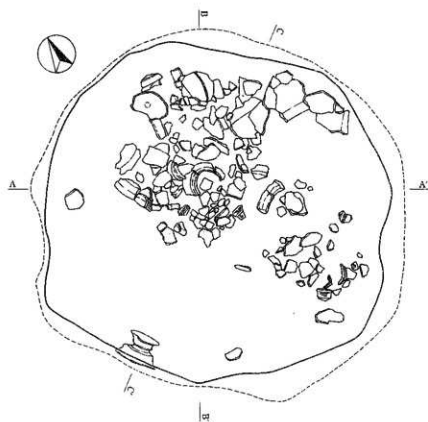
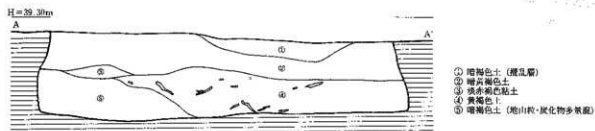
- 位置** B5・C5グリッドにあり、標高40.4mに位置する。S101に切られている。
- 形態** 北西側は調査区外、南西側はS101に切られている。平面形は楕円形であったと考えられる。断面は逆台形を呈すると考えられる。規模は上縁部(2.1×1.4以上)m、底面(1.9×1.3以上)m、深さ0.35mを測る。
- 埋土** SK01の埋土は、㊸・㊹層の2層に分層できた。㊸・㊹層については調査区外の別遺構と重複している可能性がある。
- 性格** 不明である。
- 時期** S101との重複及び周辺の遺構から弥生時代後期から古墳時代前期であると考えられる。

SK02 (挿図24~27・図版4、9、10)

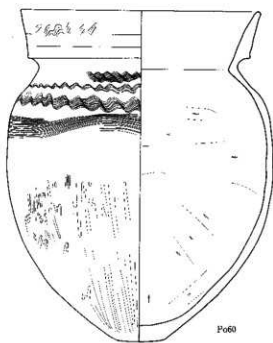
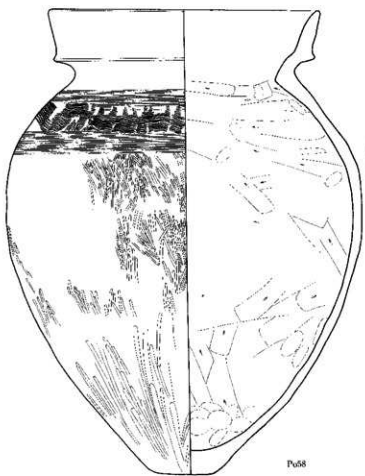
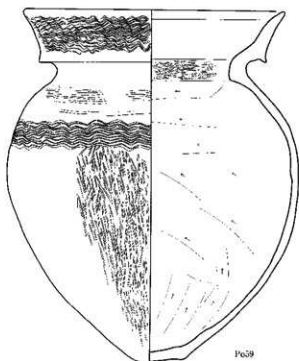
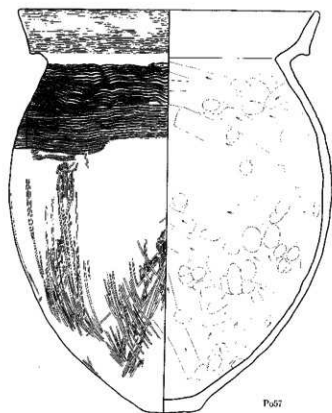
- 位置** B2、C2グリッドにあり、標高39.0mに位置する。
- 形態** 平面形はほぼ円形、断面形は袋状を呈する。検出できた規模は上縁部径約1.9m、底面径約2m、検出面からの深さ約45cmである。
- 埋土** 5層の堆積が認められた。④層は多量の遺物を包含していた。⑤層は堆積後、投棄されたものと思わ

れる。

- 遺物 ④層中から出土した弥生土器、土師器Po57~71を図化した。
 性格 断面形が袋状を呈することから、本来は貯蔵穴であったと考えられる。
 時期 出土した土器から弥生時代後期と考えられる。



挿図24 SK02遺構図

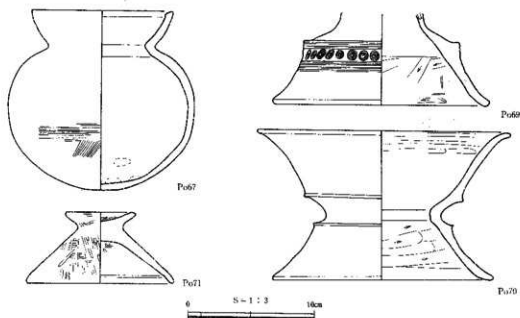


0 5-1:3 10cm

插图25 S K 02遺物実測図(1)



挿図26 S K 02遺物実測図(2)



挿図27 SK 02遺物実測図(3)

SK 03 (挿図28・図版4)

位置 B2グリッドにあり、標高38.9mに位置する。

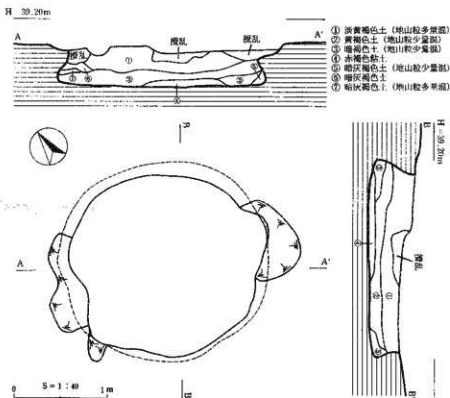
形態 上部は攪乱を受けているが平面形、底面形共にほぼ円形で、断面は袋状を呈する。規模は上縁部(2.0×1.9)m、底面(2.2×2.1)m、深さ0.5mを測る。

埋土 埋土は7層に分層できた。

遺物 埋土中から土器小片が出土したが図化することはできなかった。

性格 断面が袋状であることから貯蔵穴と考えられる。

時期 付近の遺構から弥生時代後期と考えられる。



挿図28 SK 03遺構図

S K 04 (挿図29・図版5)

位置 D 9グリッドにあり、標高44.7m付近に位置する。SD02に切られる。

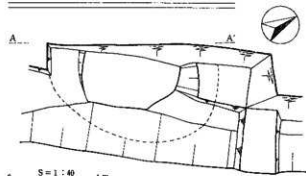
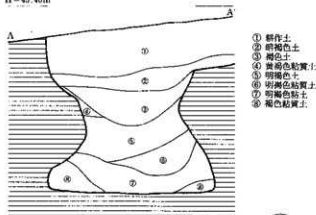
形態 西側は調査区域外となるが、平面形は上縁部、底面とも円形もしくは楕円形を呈するものと思われ、断面形は袋状をなす。検出できた規模はそれぞれ(1.28×0.56)m、(1.75×0.88)mを測り、深さは1.31mである。

埋土 埋土は6層に分層できた。

性格 断面形が袋状を呈することから、貯蔵穴と考えられる。

時期 周辺遺構との関係から、弥生時代後期と思われる。

H=45.40m



挿図29 S K 04遺構図

S K 05 (挿図30・図版5)

位置 E 9グリッドにあり、標高45.2m付近に位置する。SD02に切られる。

形態 西側は調査区域外となるが、平面形は長方形を呈すると思われ、その中に

上縁部、底面とも不定形で、断面形が袋状をなす穴を更に掘り込んでいる。検出できたそれぞれの規模は長方形の落ちが(2.25×2.13-0.56)m、上縁部(1.38×0.66)m、底面(1.46×0.68)mを測り、上縁部から底面までの深さは0.9mである。

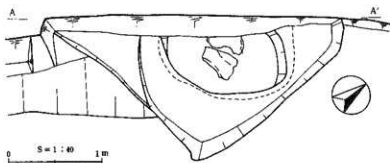
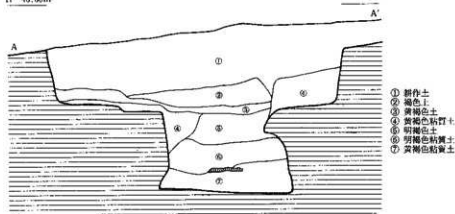
埋土 埋土は6層に分層できた。

遺物 埋土中から弥

生土器細片と、⑦層上面で板石が出土した。

性格 断面形が袋状を呈することから、貯蔵穴と考えられる。

H 46.60m



挿図30 S K 05遺構図

時期 出土した土器から、弥生時代後期と考えられる。

第3節 溝状遺構

SD01 (挿図31・図版5)

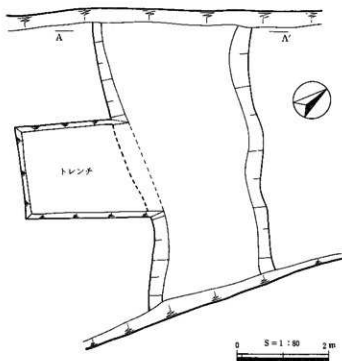
位置 C6・7グリッドにあり、標高38.9mに位置する。

形態 東側及び西側は調査区外となり、上面は耕作による擾乱が著しく遺存状態は非常に悪かった。この溝は東西方向に延びており、検出規模は全長6m以上、幅約3m、深さ0.1~0.25m程度である。

埋土 SD01の埋土は⑤・⑥層の2層を確認した。

遺物 遺構内擾乱中より土器小片が数点出土したが、図化できるものはなかった。

時期 不明である。



挿図31 SD01遺構図

SD02 (挿図32・図版5)

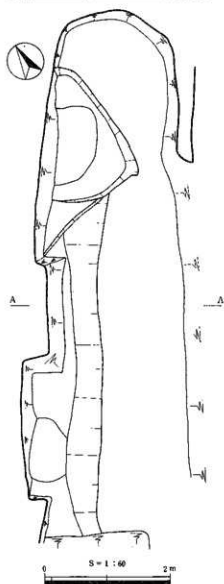
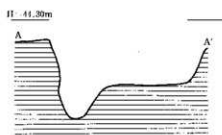
位置 調査区の北端部のD8・9、E9グリッドに位置する。標高44.6~45.3m付近で検出した。本遺構は調査区の西端に位置し、東半分が検出できたとどまる。SK04・05と重複する。

規模 ほぼ南北に延びる溝で、検出規模は(5.5×0.8以上-0.3)mを測る。

埋土 埋土は1層であった。

遺物 弥生土器の小片が出土したが、図化できなかった。

時期 切り合い関係からSK04・05より新しい。出土した土器より弥生時代後期と考えられる。



挿図32 S D02遺構図



挿図33 ビット内出土遺物実測図

第4章 宮内第1遺跡(D区)の調査

宮内第1遺跡(D区)では、竪穴住居跡8棟、墳丘墓4基、土墳墓84基、土坑16基、溝状遺構4条を検出した。以下に各遺構ごとに調査結果を述べる。

第1節 竪穴住居跡

S101(挿図34、36、37・図版12、13、32、40、41)

位置 調査区北側、E9・10グリッドにあり、標高56.0m付近に位置する。4号墳丘墓に隣接し、SX33・46、S106によって切られている。

形態 南側壁に2段に渡ってテラス状の張り出しを持つ隅丸方形の竪穴住居跡で、検出できた部分では1辺6~6.5m(テラス部分は除く)であった。残存壁高は、もっとも遺存状態のよい南壁で最大約1.3mであった。S116と切り合っているため西側は検出できなかったが、最大で幅約0.7m、高さ約0.3mを測る1段目のテラスが北東から南西にかけておよんでいる。また、南側斜面の一部を掘り込んで最大で幅約1.04m、高さ約40cmを測る2段目のテラスがつくられている。

側溝は東側、北側で一部途切れるもののほぼ全周におよぶ。規模は、幅4~30cm、深さ5~20cmを測り、断面形は逆台形状を尾する。北側、東側、西側の壁際に側溝内、あるいは側溝に沿うような形で小ピットを検出した。

当住居は、主柱穴の切り合いから判断して数回の建て替えを行っているが、主柱穴はいずれもP1~P4を使用している。平面形で切り合いが確認できなかったため土層断面で確認したが、それぞれ2個以上のピットが切り合って構成されているため、各時期に関する詳細な調査はできなかった。ここでは最終期の主柱穴の規模を挙げるにとどめたい。それぞれの規模はP1(90×90-95)cm、P2(90×92-68)cm、P3(88×85-55)cm、P4(86×72-90)cmであった。また、各主柱穴間には間柱と思われる柱穴P5~8が検出された。同様の理由で最終期の柱穴のみ記述する。それぞれの規模はP5(50×40以上-37)cm、P6(70×62-59)cm、P7(50×48-46)cm、P8(50×28-37)cmであった。各主柱穴間の距離はP1-2間から順に3.1m、2.7m、3.2m、2.4mであった。

中央ピット 中央ピットはP9で、住居の建て替えに伴い、掘り替えられたと考えられ、平面形は不定形を呈する。最終段階での検出できた規模は(135×11-90)cmであった。

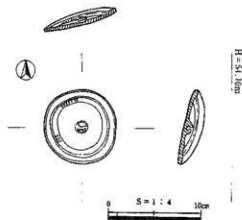
焼土面 中央ピット周辺の5ヶ所で焼土を確認した。

H=54.10m

埋土 15層の埋土を確認した。上層埋土は自然堆積したと思われるが、⑤・⑥層は上面で焼土面が検出されていることから粘床と考えられる。

遺物 壺Po1~3、壺Po4~11、青銅鏡B1、鍔F1を図化した。

時期 出土した遺物から弥生時代後期と思われる。



挿図34 B1出土状況図

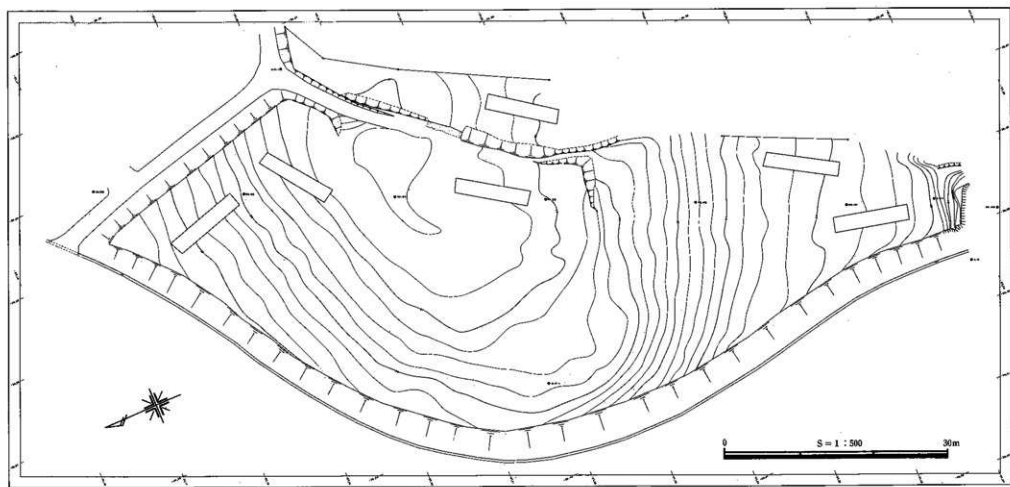
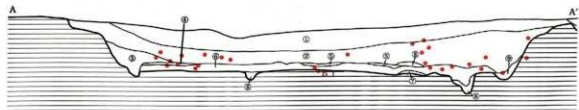
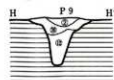


插图35 宫内第1遺跡(D区)調査前地形測量図

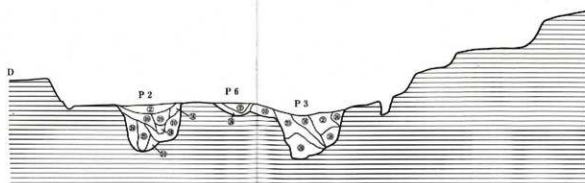
H=55.40m



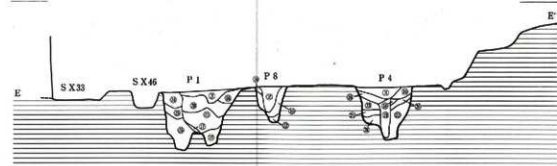
H=54.40m



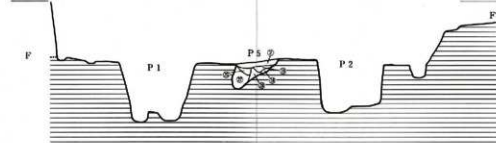
H=56.00m



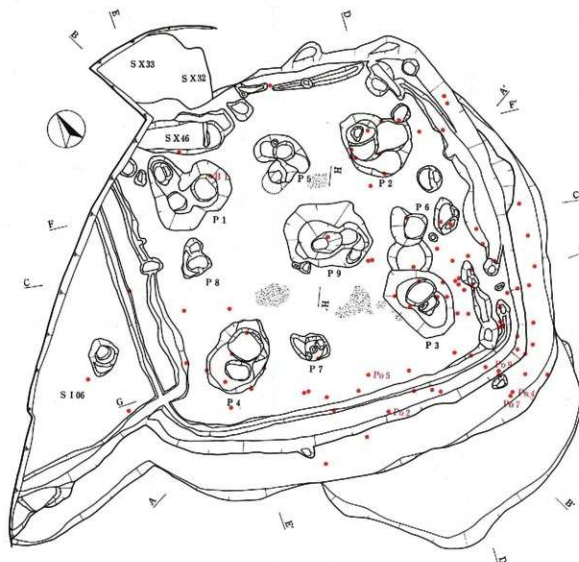
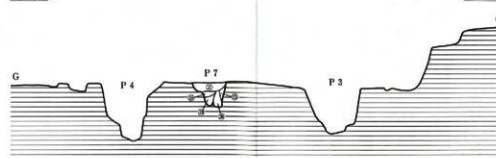
H=55.40m



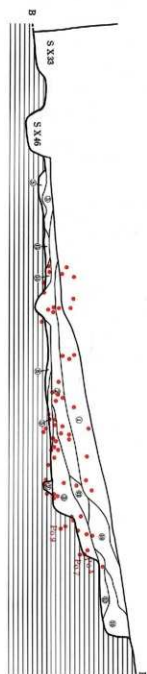
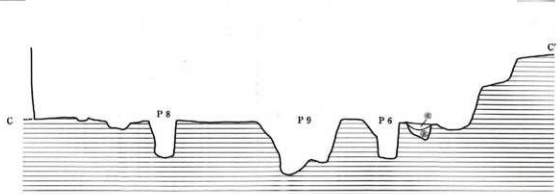
H=56.00m



H=55.40m



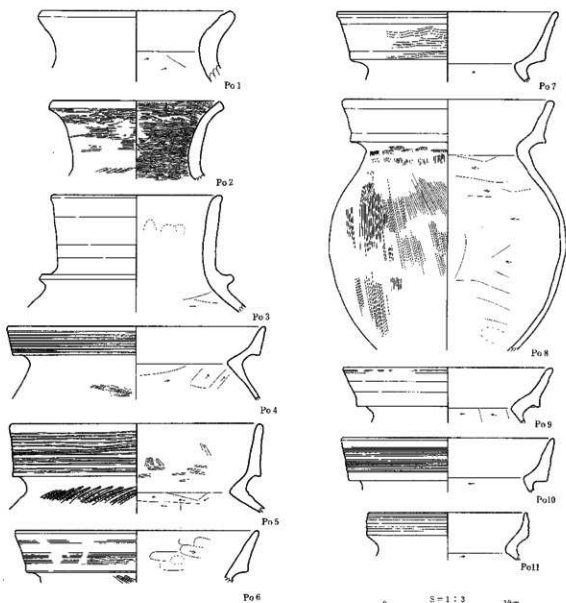
H=56.00m



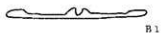
- | | |
|-------------------|---------------------|
| ① 暗褐色土 (地山殻・炭化物散) | ⑩ 暗褐色土 (地山殻・炭化物散) |
| ② 暗褐色土 (地山殻・炭土散) | ⑪ 暗褐色土 (地山プロック・地山殻) |
| ③ 暗褐色土 (地山殻・炭土散) | ⑫ 暗褐色土 (地山プロック・地山殻) |
| ④ 暗褐色土 (地山プロック) | ⑬ 暗褐色土 (地山プロック) |
| ⑤ 暗褐色土 (地山プロック) | ⑭ 暗褐色土 (地山プロック) |
| ⑥ 暗褐色土 (地山プロック) | ⑮ 暗褐色土 (地山プロック) |
| ⑦ 暗褐色土 (地山プロック) | ⑯ 暗褐色土 (地山プロック) |
| ⑧ 暗褐色土 (地山プロック) | ⑰ 暗褐色土 (地山プロック) |
| ⑨ 暗褐色土 (地山プロック) | ⑱ 暗褐色土 (地山プロック) |

挿図36 S101遺構図

S = 1 : 60
0 2m

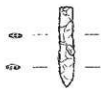


0 S-1:3 10cm



B1

0 S-1:2 5cm



F1

0 S-1:3 10cm

挿図37 S101遺物実測図

S 102 (挿図38、39・図版13、32、39、40)

位置 D5、E5・6グリッドにあり、標高56.2mに位置する。S 102内にはSK06~08があり、SX22と重複している。

形態 上面は、耕作による攪乱が著しく、南東側は削平されほとんど原形をとどめていない。平面形は多角形と考えられるが、特定はできなかった。検出できた規模は、最も遺存状態の良い北西側から一辺5m程度を呈する住居と考えられる。残存壁高は最も遺存状態の良い北西壁で最大55cmを測る。

側溝は北西壁際及び北東壁際で検出された。幅10~28cm、深さ5~15cmを測る。

主柱穴と考えられるものはP1~4で、規模はP1(72×58-100)cm、P2(78×72-80)cm、P3(62×48-93)cm、P4(79×74-78)cmを測る。柱穴間距離は、P1-P2間3.3m、P2-P3間2.8m、P1-P4間2.8mを測る。これら主柱穴に対応する柱穴を南東側では検出することができなかった。その他に柱穴と考えられるピットを22個検出した。その内規模の大きいものはP6~10の5個で規模は、P6(50×30-80)cm、P7(70×68-72)cm、P8(80×62-59)cm、P9(76×54-74)cm、P10(76×75-83)cmを測る。住居中央部に長さ約3m、幅約1m、深さ約10cm程度の溝状の落ち込みが2ヵ所見られた。

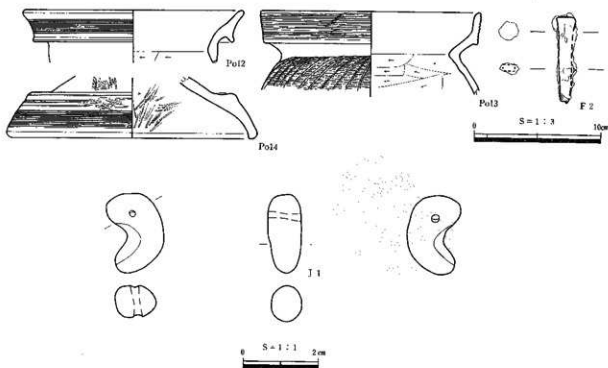
中央ピット 中央ピットは位置的にP5と考えられる。平面形は不定形な円形を呈し、規模は(114×96-73)cmを測る。埋土は、5層に分層できた。①・②層中には少量の炭化物が含まれていた。

焼土面 P11の東側とSK08南東側で楕円形状の焼土面を3ヵ所検出した。規模は径30~54cmを測る。

埋土 ほとんど耕作による攪乱を受けており、埋土として確認できたのは④層だけである。

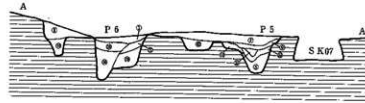
遺物 出土した遺物の中で、壺Po12、甕Po13、脚部Po14、勾玉J1、不明鉄製品F2を同化した。

時期 出土した土器より弥生時代後期と考えられる。

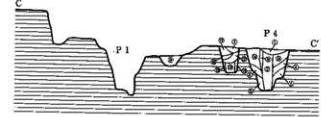


挿図38 S 102遺物実測図

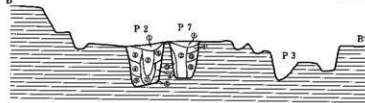
H=56.50m



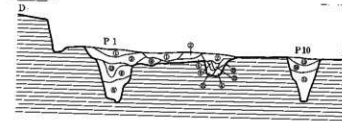
H=56.50m



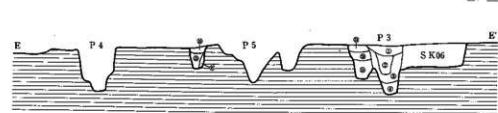
H=56.50m



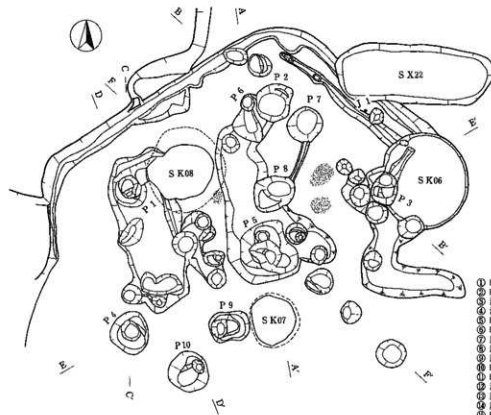
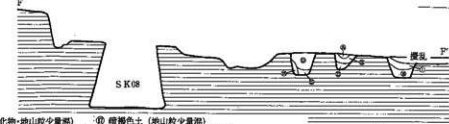
H=56.50m



H=56.50m



H=56.50m

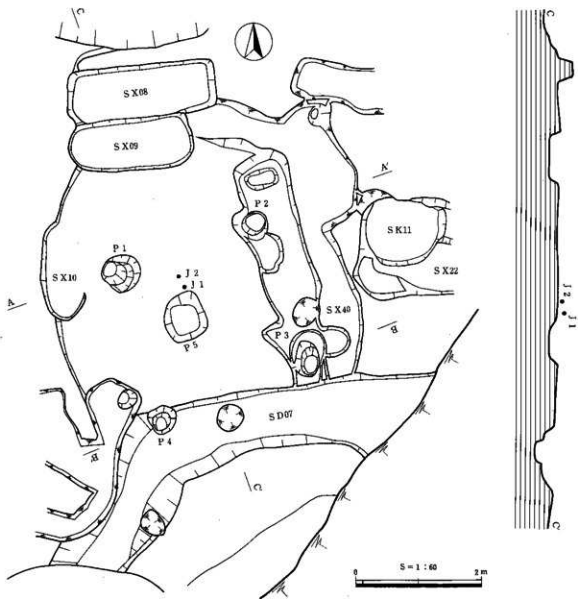
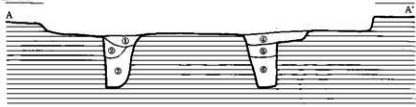


- | | |
|------------------------|----------------------|
| ① 暗灰褐色土 (炭化物・地山粒少量混) | ⑩ 暗褐色土 (地山粒少量混) |
| ② 暗褐色土 (炭化物・地山プロック少量混) | ⑪ 暗褐色土 (地山プロック少量混) |
| ③ 暗灰褐色粘質土 (地山粒少量混) | ⑫ 暗灰褐色土 |
| ④ 暗灰褐色土 (地山粒少量混) | ⑬ 暗灰褐色粘質土 |
| ⑤ 暗灰褐色土 (地山粒少量混) | ⑭ 暗褐色土 (炭化物・地山粒少量混) |
| ⑥ 暗灰褐色土 (地山粒少量混) | ⑮ 暗灰褐色土 (地山プロック少量混) |
| ⑦ 暗褐色土 (地山粒少量混) | ⑯ 暗灰褐色土 (地山粒少量混) |
| ⑧ 暗褐色土 (炭色粘土多量混) | ⑰ 暗褐色土 (地山粒少量混) |
| ⑨ 暗褐色土 (地山プロック少量混) | ⑱ 暗褐色土 (炭化物・地山粒少量混) |
| ⑲ 暗褐色土 | ⑳ 暗褐色土 (炭化物・地山粒少量混) |
| ⑳ 暗灰褐色土 (炭化物・地山粒少量混) | ㉑ 暗灰褐色土 (炭化物・地山粒少量混) |
| ㉒ 暗褐色土 (地山粒少量混) | |
| ㉓ 暗褐色土 (地山粒少量混) | |
| ㉔ 暗褐色土 (地山粒少量混) | |

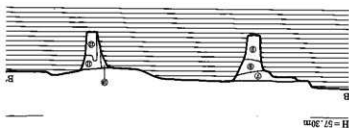
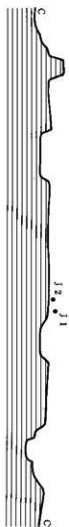
1:500

挿図39 S I 02遺構図

H=57.30m



H=57.30m

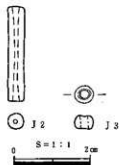


- ① 黄灰褐色土 (地山ブロック壁)
- ② 灰褐色土 (地山ブロック壁)
- ③ 暗灰褐色粘土
- ④ 暗褐色土 (地) (軽微量に泥)
- ⑤ 暗褐色粘土
- ⑥ 暗黄灰色粘土
- ⑦ 暗灰褐色土
- ⑧ 暗黄褐色土
- ⑨ 淡黄灰褐色粘土
- ⑩ 黄褐色土
- ⑪ 暗黄灰褐色土

挿図40 S I 03遺構図

S I 03 (挿図40、41・図版34)

- 位置 D 6、E 6 グリッドにあり、標高57m付近に位置する。SX07-09・36、SD02とそれぞれ切り合う。
- 形態 ほとんど削平されているが、平面形は隅丸方形を呈するものと思われる。検出できた規模は南北軸約4.1m、東西軸約4.6mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い西壁で最大12cmを測る。側溝は検出できなかった。
- 主柱穴はP 1～P 4で、それぞれの規模はP 1 (62×58-80) cm、P 2 (58×45-80) cm、P 3 (71×58-73) cm、P 4 (47×45-60) cmを測り、柱穴間距離はP 1-P 2間から順に2.4m、2.4m、2.5m、2.6mである。
- 中央ピット 中央ピットはP 5で平面形は不整な方形を呈する。規模は(70×65-15) cmを測る。
- 遺物 中央ピットP 5の北側で管玉J 2とガラス小玉J 3が出土した。これらは、土壌墓に伴う遺物の可能性が考えられる。
- 時期 時期決定できる遺物は出土していないが、周辺以降との切り合い関係から、弥生時代後期以前と考えられる。



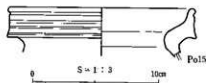
挿図41 J 2・3実測図

S I 04 (挿図43・図版13)

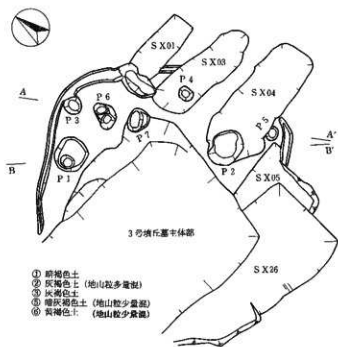
- 位置 調査区のほぼ中央、C 7・D 6・7グリッドにあり、標高56.9mに位置する。大半を3号墳丘墓主体部およびSX01・04・05等に切られており、残存状況は極めて悪い。
- 形態 検出面が既に住居の床面であり、残存する部分は住居の北東隅から北西隅の部分だけであった。形態は一辺約3.8mの隅丸方形を呈すと思われる。
- 主柱穴の数は特定できないが、P 1と、SX05底面で検出したP 2は主柱穴を構成するものと考えられる。規模はP 1 (60×50-50) cm、P 2 (50×50-50) cmで、柱穴間の距離は2.5mである。また、側溝に沿って、直径約20cmのP 3～5が並ぶ。
- 埋土 住居内の埋土は削平により失われていた。
- 遺物 出土していない。
- 時期 3号墓より古いが、当遺構周辺擾乱中や3号墳丘墓主体部埋土中から出土する、どの土器片も弥生時代後期を遡るものはない。よって弥生時代後期の範疇で考えておきたい。

S I 05 (挿図42、44・図版14、32)

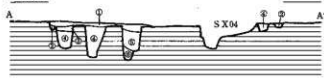
- 位置 調査区北端、F 10・11グリッドにあり、標高54.2m付近に位置する。4号墳丘墓の北側に隣接し、調査区外へと続く。
- 形態 遺構のほとんどが調査区外のため全体形を把握することはできなかったが、ほぼ直角に折れ曲がる溝状の遺構と思われる。検出できた部分で、北東方向へ1.7m以上、南東方向へ2m以上、幅1m以上を測る。断面は逆台形状を呈し、深さ約62cmを測る。
- 埋土 2層の埋土を確認した。
- 遺物 壺Po15が出土した。
- 性格 住居跡として調査を進めていたが、調査区東壁断面に向かって立ち上がりを示すことから住居跡ではないと思われる。形態から判断して、方形周溝墓の周溝端部の可能性もあると思われる。
- 時期 出土した土器および周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。



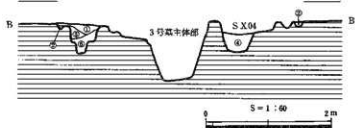
挿図42 S I 05遺物実測図



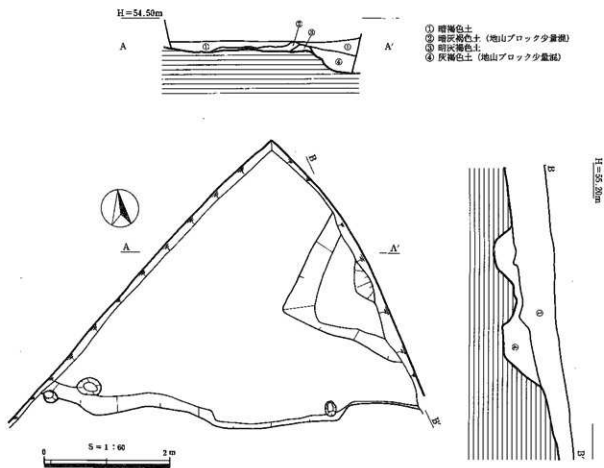
H = 57.20m



H = 57.20m



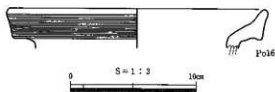
挿図43 S I 04遺構図



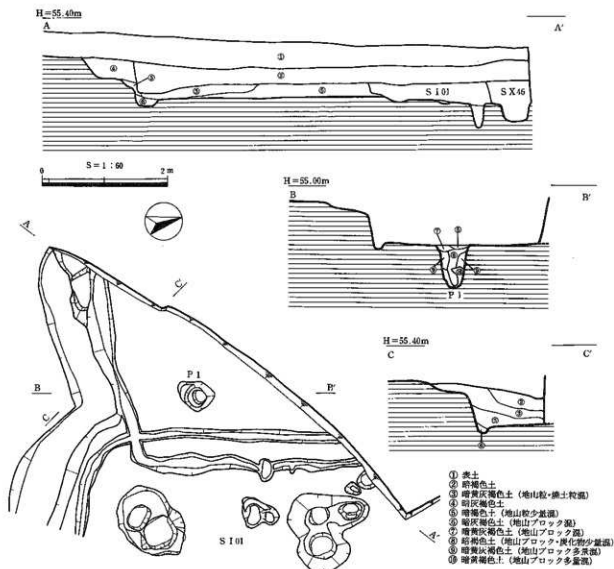
挿図44 S105遺構図

S106 (挿図45、46・図版13、32)

- 位置** 調査区北側、D10、E10グリッドにあり、標高54.8m付近に位置する。S101と切り合っている。遺構の西側は調査区外へと続く。
- 形態** 南壁にテラスを持つ方形の竪穴住居で、規模は検出できた部分で、南北軸3.65m以上、東西軸3.05m以上を測る。残存壁高は、南壁で80cmを測り、テラスは幅32~62cm、高さ5~17cmであった。側溝は断面逆台形状を呈し、幅10~35cm、深さは2~31cmであった。支柱穴はP1のみを検出した。規模は(60×46~70)cmであった。
- 埋土** 5層の埋土を確認した。土層断面の観察ではS101に切られていた。
- 遺物** 埴Pol6を図化した。
- 時期** 出土した土器および周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。



挿図45 S106遺物実測図



挿図46 S106遺構図

S107 (挿図47、49・図版14、40)

位置 D3・4グリッドにあり、標高54m付近に位置する。SX37内にあり、SX37第9、第10墓墳と切り合う。

形態 東側は調査区域外となるが、平面形はほぼ方形を呈するものと考えられ、検出できた規模は南北軸約3.9m、東西軸約2.9mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い西壁で最大35cmを測る。

側溝は幅20~25cm、深さ15~18cmを測る。

主柱穴はP1・2の2個が検出できた。それぞれの規模はP1 (70×68~70) cm、P2 (60×47~72) cmを測り、柱穴間距離は2.6mである。また、このP1-2間で(20×20~15) cmを測るP4を検出した。

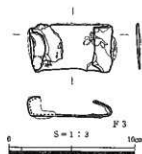
中央ピット 中央ピットはP3で平面形は双円形を呈する。規模は(88×78~50) cmを測る。埋土中に炭と灰が層をなして堆積している。

焼土面 P1の東側で円形に広がる焼土面を検出した。その範囲は(40×40) cmを測る。

埋土 埋土は10層に分層できた。床面直上に灰が堆積している。この灰には炭片が含まれており、中央ピ

ットP3の周囲で検出できた。炭化材などは検出できなかったが、当住居は焼失した可能性も考えられる。

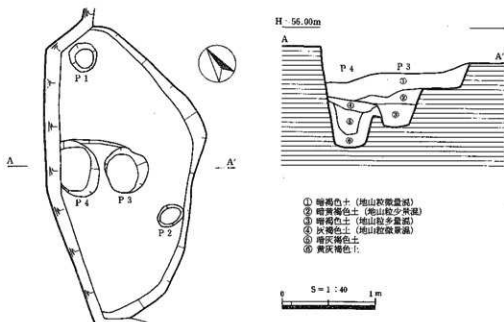
- 遺物 埋土中から弥生土器片の他、鏝先F3が出土した。
 時期 出土した遺物と遺構の切り合い関係から、弥生時代後期以前と考えられる。



挿図47 F3突洞図

S108 (挿図48・図版14)

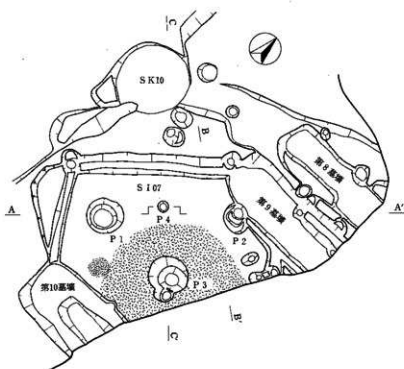
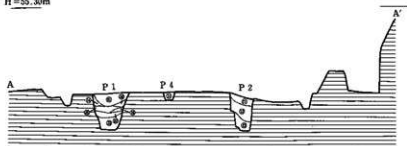
- 位置 B8、C8グリッドにあり、標高55.8mに位置する。
 形態 大半が調査区の壁にかかっており明らかでないが、ほぼ円形を呈すと思われる。規模は径3m以上、検出面からの深さ30cmである。主柱穴は特定できない。P1・2は壁際に配置されていると思われる。また、中央部にあるP4はP3に切られていたが、埋土の堆積から柱穴とも考えられる。
 埋土 2層の水平堆積が認められた。
 遺物 埋土中から弥生土器の小片が出土した。
 時期 出土した土器から弥生時代後期と考えられる。



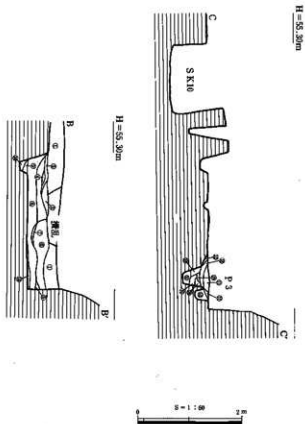
挿図48 S108遺構図

- ① 暗褐色土 (地山粒微量混)
- ② 暗黄褐色土 (地山粒少量混)
- ③ 暗褐色土 (地山粒少量混)
- ④ 灰褐色土 (地山粒微量混)
- ⑤ 暗灰褐色土
- ⑥ 黄灰褐色土

H=55.30m



- ① 灰茶褐色土 (炭片混)
- ② 灰赤褐色土 (礫山被覆)
- ③ 灰赤褐色土
- ④ 灰黄褐色土
- ⑤ 灰茶色土
- ⑥ 暗灰褐色土 (炭片混)
- ⑦ 灰茶色土 (灰褐色土ブロック混)
- ⑧ 灰褐色土 (灰褐色ブロック混)
- ⑨ 黄赤褐色土
- ⑩ 灰白色土
- ⑪ 灰赤褐色土 (中や粘質)
- ⑫ 灰赤褐色土 (中や粘質・礫山ブロック混)
- ⑬ 灰白色土 (中や粘質)
- ⑭ 灰白色土 (中や粘質・礫山ブロック混)
- ⑮ 灰層
- ⑯ 灰白色土 (中や粘質)
- ⑰ 灰赤褐色土 (炭片混)
- ⑱ 灰赤褐色土
- ⑲ 灰層
- ⑳ 灰層



挿図49 S107遺構図

第2節 墳丘墓・土墳墓

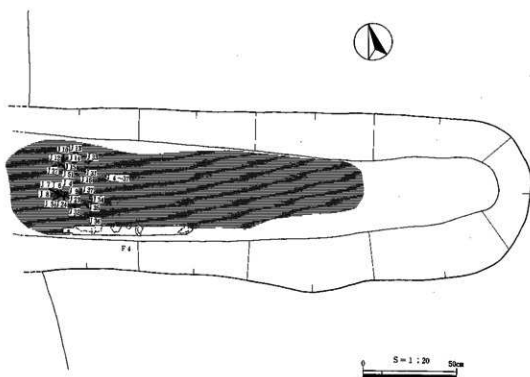
1号墳丘墓 (押図50~60・付図5、6・図版11、14~16、33、40)

位置 調査区南側、B1~3、C1~3グリッドにあり、標高51.5~52.6mの緩斜面上に位置する。2号墳丘墓の周溝と切りあう。

周溝 1号墳丘墓の周溝は、北側、東側、南側で検出されている。北側周溝は西端が調査区外に伸びているため全体形は把握できないが、検出規模で全長8.7m以上、幅は最大で約4.26m、深さは最深部で約1mを測る。断面形は広いU字状を呈する。墳丘側斜面に数個の石が残るが、東側周溝に比して著しく数が少なく、また原位置を保っているとはいえない。東側周溝は2号墳丘墓の西側周溝と切り合っており、平面形で確認することはできなかった。検出規模で全長約17.3m、幅は土層断面より判断して最大で約4m、深さは最深部で約0.5mを測る。墳丘側斜面で多数の石を検出したが、原位置を保っているものは少ないと思われる。確実に原位置を保っているものとしては、北端突出部に沿って突き刺された石列が挙げられる。南側周溝は東端で攪乱を受け、両端が調査区外のため全体形は把握できないが、検出規模で全長5.7m以上、幅は最大で約1.46m、深さは最深部で約0.36mを測る。原位置を保つと思われる石は検出されていない。なお、これらの周溝は各辺で独立していたと考えられ、四隅で陰櫛状に途切れていたものと思われる。

墳丘 墳丘は削平を受けており、盛土は周溝の肩に若干残る程度であった。平面形、周溝の形態、石列の並びから四隅突出型墳丘墓と考えられ、墳丘規模は、突出部を含めない残存部分で南北17m以上、東西9.25m以上を測り、突出部を含めた規模は南北18.4mを測る。高さ北側周溝底から1.1m以上を測る。

第1主体部 表土除去後に検出した。第3・第5主体部と重複していたが、平面形で切り合いを確認できなかったため土層断面で新旧関係を確認した。西端が調査区外のため全体形を把握することはできなかったが、墓壇の平面形は東西に軸を持つ長方形を呈すると考えられる。検出規模は(4.9以上×3.3~1.7)mを測る。

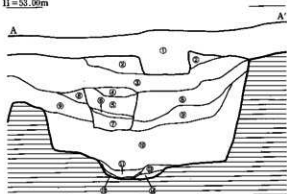


押図50 1号墳丘墓第1主体部遺物出土状況図

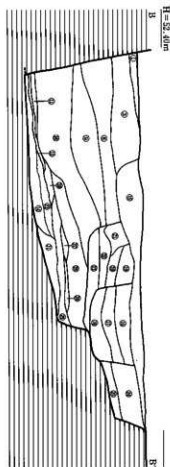
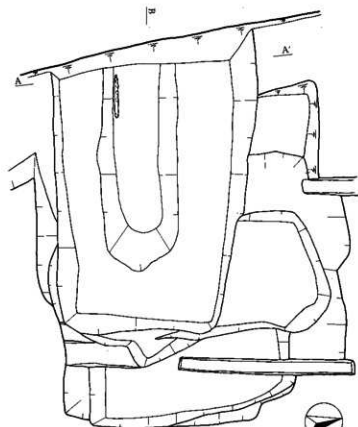
埋葬部 第1主体部では、墓壇底面より埋葬部を検出した。埋葬部の検出規模は(3.3以上×1.3-0.3)mを測る。埋葬部底面には粘土が敷き詰められ、上面で朱を検出した。埋土は31層を確認した。⑫層は木質で棺底と考えられる。この⑫層と棺底の形態から、第1主体部には舟形木棺が埋葬されていたと考えられる。なお、土層断面中、⑬~⑳層は第3主体部の埋土、また、㉔、㉕層は第5主体部の埋土と思われ、㉑~㉒層は第5主体部底面で検出された落ち込みに対応しており、主体部であった可能性もある。

遺物 棺底から鉄剣F4、管玉J4~37が出土した。鉄剣は柄を西にして埋納されており、管玉も埋葬部西側から検出されたことから、頭位は西向きであったと考えられる。

H=53.00m



- | | |
|-----------------------|------------------|
| ① 赤土 | ⑩ 淡黄灰色土 |
| ② 黄褐色土 | ⑪ 灰褐色土 (地山粒少量混) |
| ③ 黄灰色土 | ⑫ 灰茶褐色土 (地山粒少量混) |
| ④ 黄灰褐色土 (地山ブロック・炭化物混) | ⑬ 暗灰茶褐色土 |
| ⑤ 淡黄褐色土 (地山ブロック・粘土粒混) | ⑭ 淡黄灰色土 |
| ⑥ 淡黄褐色土 (地山粒・炭化物混) | ⑮ 黄灰色土 (地山粒少量混) |
| ⑦ 淡黄褐色土 (地山ブロック・粘土粒混) | ⑯ 黄灰色土 |
| ⑧ 灰褐色土 (地山粒少量混) | ⑰ 成灰茶色土 |
| ⑨ 灰灰褐色土 | ⑱ 褐色土 (地山粒少量混) |
| ⑩ 褐色土 (地山粒少量混) | ⑲ 灰茶色土 |
| ⑪ 暗茶褐色土 | ⑳ 灰褐色粘質土 |
| ⑫ 濃暗茶褐色土 (木質) | ㉑ 淡茶灰色土 (㉒ブロック混) |
| ⑬ 黄灰色粘質土 (地山ブロック混) | ㉒ 黄褐色土 (地山粒少量混) |
| ⑭ 灰色粘質土 | ㉓ 暗赤褐色土 |
| ⑮ 赤褐色土 (地山粒少量混) | ㉔ 暗黄茶褐色土 |
| ⑯ 灰茶褐色土 | |

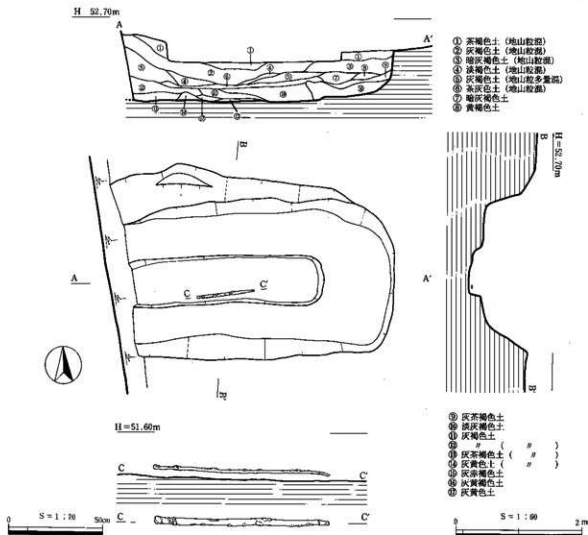


挿図51 1号墳丘墓第1主体部遺構図

第2主体部 第1主体部北側で検出した。西端が調査区外のため全体形を把握することはできなかったが、平面形は東西に軸を持つ長方形を呈すると考えられる。墓壇の検出規模は(4.2×2.9-0.7)mを測る。

埋葬部 墓壇底面で(3.05×0.8-0.2)mを測る埋葬部を検出した。埋葬部には棺底に一部朱が敷かれていた。埋土は17層を確認した。この内⑥層は棺蓋を示すものと考えられ、断面等で明確にはできなかったが第2主体部には、木棺が埋葬されていた可能性がある。

遺物 棺底から鉄刀F5が出土している。



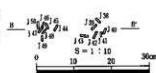
挿図52 1号墳丘墓第2主体部遺構図

第3主体部 表土除去後に検出した。第1主体部を切るかたちで掘り込まれており、平面形は南北に軸を持つ隅丸長方形を呈する。検出できた規模は(4.4×1.9-1.1)mを測る。底面には一部に朱が敷かれていた。

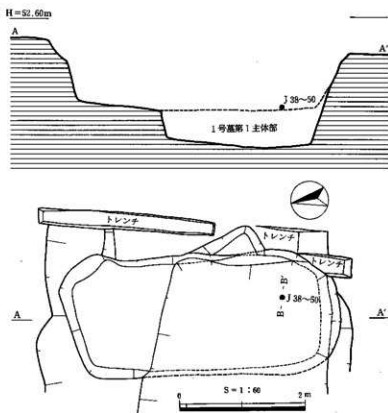
遺物 棺底南側より管玉J38~50が出土している。遺物の出土状況より、頭位は南向きであったと思われる。

第4主体部 第1主体部南側で検出した。西端が調査区外のため全体形を把握することはできなかったが、平面形は東西に軸を持つ隅丸長方形を呈すると考えられる。検出規模は(2.5以上×1.8-0.7)mを測る。棺底で朱を検出した。

第5主体部 第1主体部と重複するかたちで掘り込まれている。掘り込み面で平面形を検出することができず、掘り下げ後に底面形で確認した。平面形は、ほぼ南北に軸を持つ方形を呈すると思われる。検出規模



挿図53 1号墳丘墓第3主体部管玉出土状況図



挿図54 1号墳丘墓第3主体部遺構図

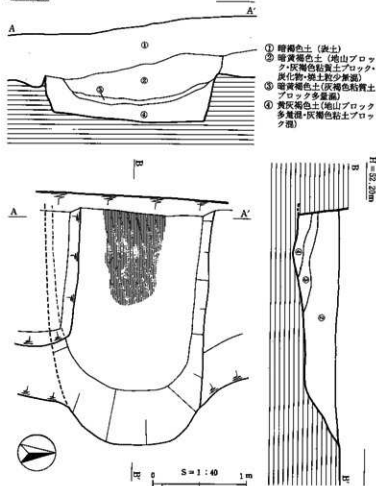
は(3.34×1.2以上-0.7) mを測る。

- 第6主体部** 第1主体部南側で検出した。第4主体部に切られている。西端が調査区外のため全体形を把握することはできなかったが、平面形は長方形を呈すると思われる。検出規模は(4.4×1.5以上-0.8) mを測る。土層は20層を確認した。埋土は人為的な堆積を示す。底面の南東端では平石を検出した。遺物は土器片数点が出土したが、図化できなかった。
- 遺物** 上記の遺物の他、周溝内から出土した壺Po17~21・33、壺Po22~29・34・35、台付壺Po30、脚部Po31、脚台部Po32を図化した。
- 時期** 周溝内から出土した土器、および2号墳丘墓との関係から、弥生時代後期と考えられ、2号墳丘墓より後の築造であろう。

2号墳丘墓 (挿図61~63・付図5、6・図版11、33)

- 位置** 調査区南側、C1~3、D2・3グリッドにあり、標高52.3m付近に位置する。東側は調査区外へ続く。1号墳丘墓の周溝と切り合う。
- 周溝** 2号墳丘墓の周溝は、北側、南側で検出されている。北側周溝は検出規模で全長6.6m以上、幅は最大で約1.4mを測る。断面形はU字状を呈し、深さは最深部で約1.4mであった。西側周溝は1号墳丘墓周溝と切り合っているため平面形は確認できなかったが、全長14.1m以上、幅1.3m以上、深さ約0.35mを測る。断面形は周溝西側肩を1号墳丘墓周溝に切られているため確認できないが、東側の立ち上がりから判断して広い逆台形状を呈するものと思われる。
- 墳丘** 削平を受けており、盛土は残存していなかった。北西端はS X 7 6に切り取られており、南西端は調査区外に伸びているため、墳丘の形状を正確に把握することはできなかった。墳丘規模は残存部分で南北軸11.2m、東西軸5.4mを測り、高さは西側周溝底から0.55mを測る。
- 第1主体部** 表土除去後に検出した。第2主体部と重複していたが、平面形で切り合いを確認できなかったため

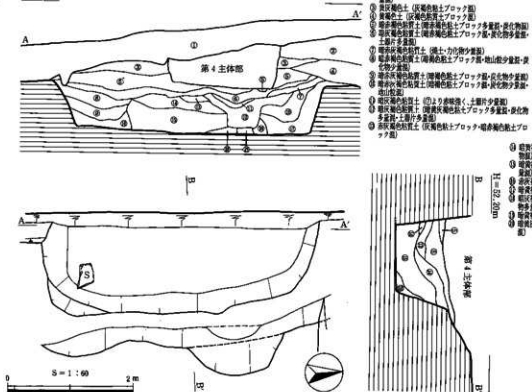
H=52.70m



- ① 暗褐色土 (黄土)
- ② 暗黄褐色土 (地山ブロック・灰褐色粘質土・ブロック・炭化物・粘土粒少量)
- ③ 暗黄褐色土 (灰褐色粘質土・ブロック少量)
- ④ 黄褐色土 (地山ブロック少量)・灰褐色粘質土・ブロック

挿図55 1号墳丘墓第4主体部遺構図

H=52.80m



- ① 暗褐色土 (黄土)
- ② 暗黄褐色土 (地山ブロック・灰褐色粘質土・ブロック・黄土粒少量)
- ③ 黄褐色土 (灰褐色粘質土・ブロック)
- ④ 暗赤褐色粘質土 (暗赤褐色粘質土・ブロック少量)・炭化物
- ⑤ 暗赤褐色粘質土 (暗赤褐色粘質土・ブロック少量)・炭化物少量
- ⑥ 暗赤褐色粘質土 (黄土・粘土粒少量)
- ⑦ 暗赤褐色粘質土 (黄土・粘土粒少量)
- ⑧ 暗赤褐色粘質土 (暗赤褐色粘質土・ブロック少量)・炭化物少量
- ⑨ 暗赤褐色粘質土 (暗赤褐色粘質土・ブロック少量)・炭化物少量
- ⑩ 暗赤褐色粘質土 (⑩より前層)・土層片少量
- ⑪ 暗赤褐色粘質土 (暗赤褐色粘質土・ブロック少量)・炭化物少量
- ⑫ 暗赤褐色粘質土 (暗赤褐色粘質土・ブロック少量)・炭化物少量
- ⑬ 暗赤褐色粘質土 (暗赤褐色粘質土・ブロック少量)・炭化物少量

- ① 暗赤褐色土 (暗赤褐色粘質土少量)・地山粒少量・炭化物
- ② 暗赤褐色土 (暗赤褐色粘質土少量)・地山粒少量・炭化物少量
- ③ 暗赤褐色土 (暗赤褐色粘質土・ブロック少量)・炭化物少量
- ④ 暗赤褐色土 (暗赤褐色粘質土・ブロック少量)・炭化物少量
- ⑤ 暗赤褐色土 (暗赤褐色粘質土・ブロック少量)・炭化物少量
- ⑥ 暗赤褐色土 (暗赤褐色粘質土・ブロック少量)・炭化物少量

挿図56 1号墳丘墓第5主体部遺構図

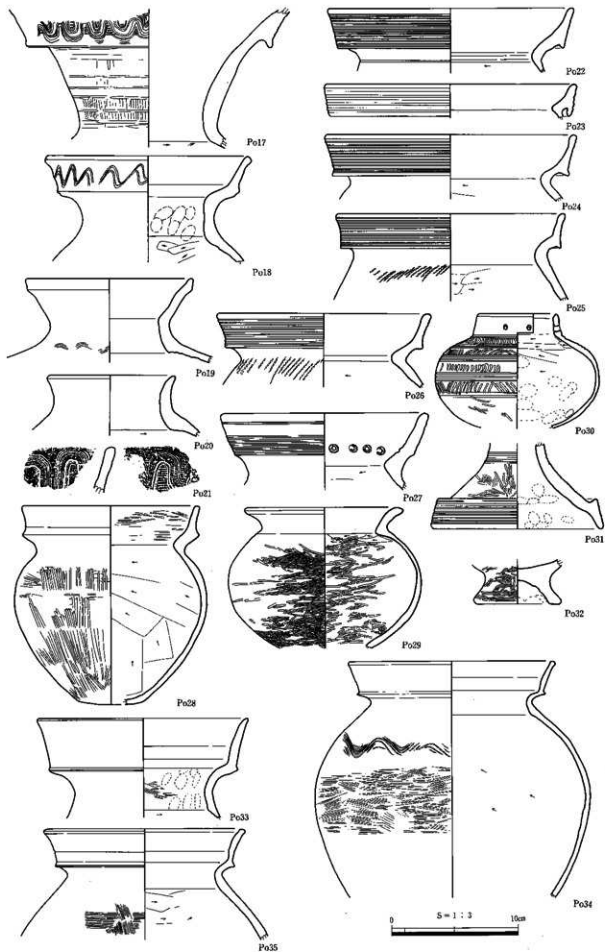
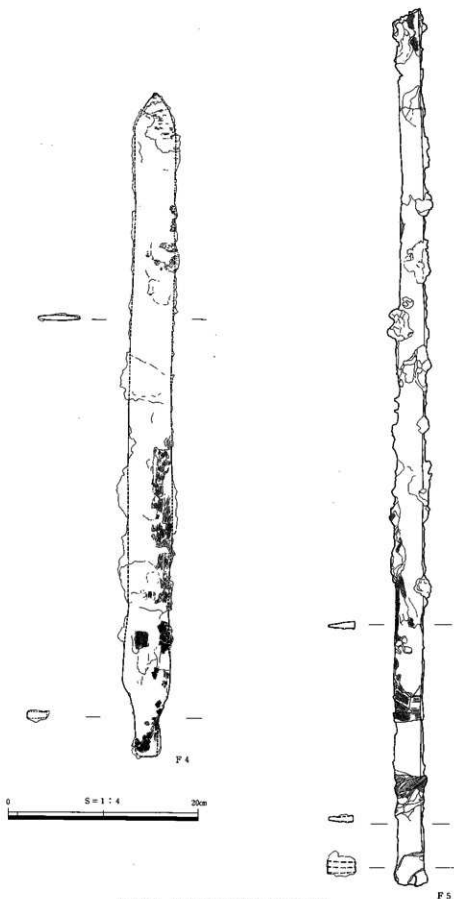
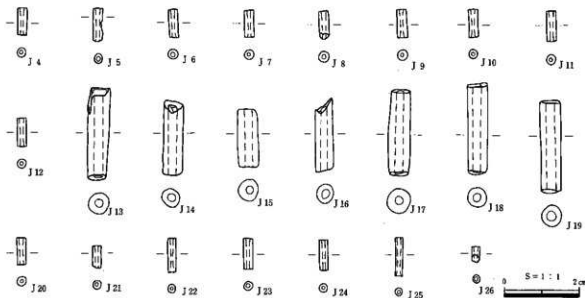


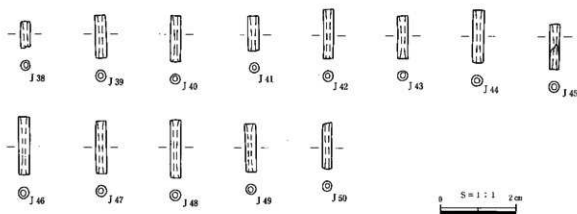
插图57 1号墳丘墓遺物実測図



挿図58 1号墳丘墓鉄剣・鉄刀突測図



挿図59 1号墳丘墓第1主体部管玉実測図



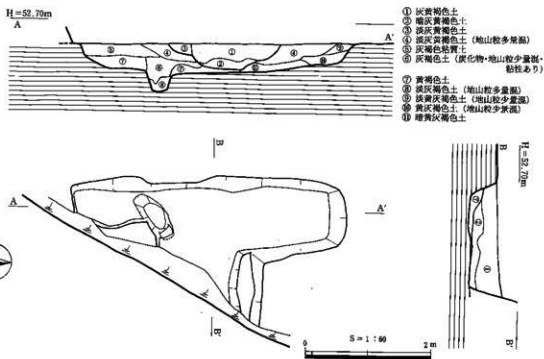
挿図60 1号墳丘墓第3主体部管玉実測図

土層断面で新旧関係を確認した。南北軸にそった長方形を呈し、検出できた部分で(4.3×1.25-0.48)mを測る。中央で第2主体部に切れられ、西側肩の一部を共有している。埋土は11層が確認されたが、このうち①~③層は第2主体の埋土である。南側にテラス状の浅い段を持ち、底面に(0.8×0.35-0.32)mの落ち込みを検出した。

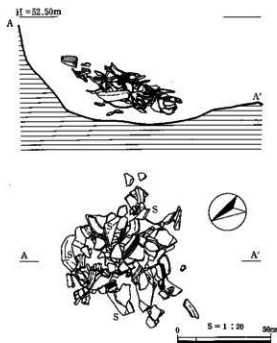
第2主体部 第1主体部と同時に第2主体部を検出した。東端が調査区外に伸び、西端も第1主体部と切り合っていたため、平面形は残存部分から判断するしかないが、およそ東西に軸を持つ長方形を呈するものと思われる。規模は残存部分で(2.4以上×1.8-0.5)mを測る。北側に幅15~30cm、高さ約30cmの段を持ち、土層断面によると西側、及び南側でも同様の段が確認できた。

遺物 北側周溝底面より土器がまとまって出土している。壺Po36~38、甕Po39~42、底部Po43を図化した。

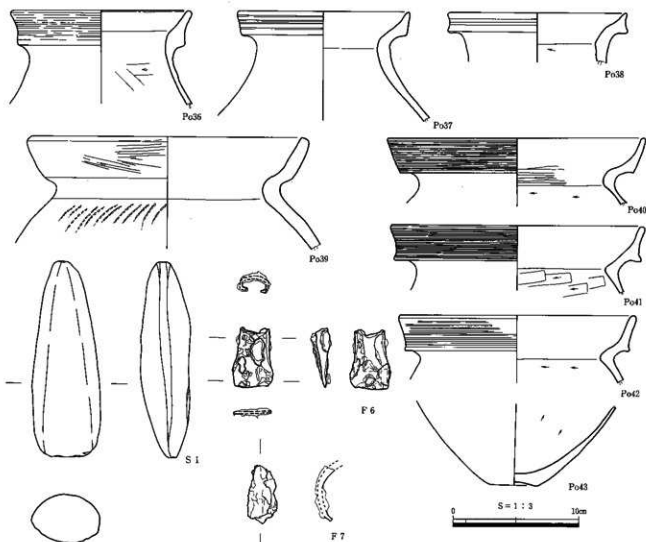
時期 出土した土器、および1号墳丘墓との関係から、弥生時代後期と考えられ、1号墳丘墓より以前の築造であろう。



挿図61 2号墳丘墓主体部遺構図



挿図62 2号墳丘墓北側土器溜遺物出土状況図

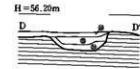
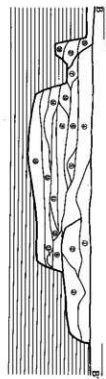
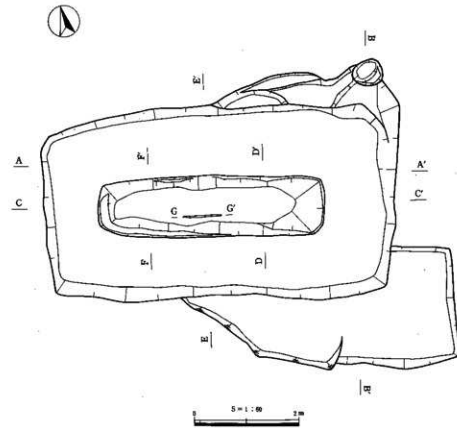
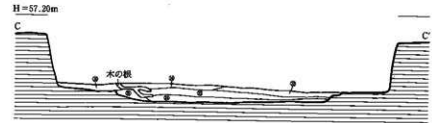


挿図63 2号墓出土遺物

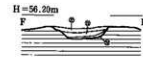
3号墳丘墓 (挿図64、66・付図7・図版12、17、34、41)

位置 調査区のほぼ中央、B6・7、C5～8、D5・6・7グリッドにあり、標高46.5～46.9mに位置する。調査区の中では最も高い位置である。調査前は果樹園であったため、墳丘は全て削平されている。

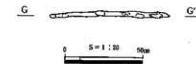
周溝 3号墳丘墓は周溝によって区画される方形周溝墓である。形態は、僅かに東側が湾曲気味であるが長方形を呈す。周溝は各辺で独立しており、四隅で陸橋状に途切れる。規模は北側が長さ10.5m、幅最大3m、深さは最深部で0.8m、西側が長さ直線距離で23m、幅最大1.8m、深さは最深部で0.7m、南側が長さ10.3m、幅最大1m、深さは最深部0.7m、東側が長さ直線距離で15m、幅最大1.4m、深さは最深部で0.9mである。残存状況がそれぞれ異なり、北側周溝が最も良好で、断面形は広いU字状を呈する。西側周溝は果樹園による攪乱を受けているうえに、周溝上を土墳墓が掘り込んでいるため平面形が一定しない。やや内湾し、北から4m付近で一度くびれ、南から5m付近で一度途切れる。西側周溝の断面形状は浅く広いU字状を呈す。南側周溝は他と比較して幅が狭く、底面に東から西へ向かって低く落ちる段がある。断面形はU字状を呈す。東側周溝には周溝上に土墳墓が連続して掘り込まれていたことが掘り下げ中に確認された。北からSX41・70・51・50・71・02・72が連なる。平面形がやや外湾するのは、そのためによる可能性もある。土墳墓を含む東側周溝の埋土除去後



H=57.20m



H=55.80m



- ① 赤褐色土 (地山粒多量混)
- ② 暗赤褐色土 (地山粒少量混)
- ③ 黄褐色土 (地山粒少量混)
- ④ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ⑤ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ⑥ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ⑦ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ⑧ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ⑨ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ⑩ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ⑪ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ⑫ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ⑬ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ⑭ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ⑮ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ⑯ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ⑰ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ⑱ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ⑲ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ⑳ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ㉑ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ㉒ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ㉓ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ㉔ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ㉕ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ㉖ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ㉗ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ㉘ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ㉙ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ㉚ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ㉛ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ㉜ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ㉝ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ㉞ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ㉟ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ㊱ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ㊲ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ㊳ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ㊴ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ㊵ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ㊶ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ㊷ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ㊸ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ㊹ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ㊺ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ㊻ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ㊼ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ㊽ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ㊾ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)
- ㊿ 黄褐色土 (地山アロクク少量混)

挿図64 3号墳丘墓主体部遺構図

の断面形はU字状を呈す。

墳丘 墳丘は丘陵の尾根に沿って東西に長軸をもつ長方形を呈す。規模は東西約17m、南北約23.5m、高さは北側周溝底より約1mを測る。墳丘は残存していないが、標高の最も高い位置にあることから、墳丘は丘陵尾根を利用して築造されていると考えられる。また、墳丘上には住居跡S I 04があり、主体部等の埋葬施設はそれを切っていることから、集落から墓域への変遷が伺われる。なお、3号墳丘墓には貼石や石列等はなかった。

埋葬施設 墳丘上で主体部およびSX01・03・04・05・10・11・12・26・29・31・47・48・49の13基の墓塚を検出した。墳丘中央部に主体部が位置しており、主体部から東側に墓塚が集中する。墳丘上にある墓塚は主体部も含めて全て軸を東西に振る。主体部以外の墓塚については、土壌墓の項で報告しているので参照していただきたい。また、周溝上を掘り込んでいる墓塚は墓塚内出土土器から、3号墳丘墓より新しい時期のものと考えられる。

主体部 墳丘のほぼ中心に位置し、住居跡S I 04上に掘り込まれている。主体部の東半の一部は、SX26・31に切られていた。検出規模は(6.7×3.6-1.2)mである。東西に軸をもつ長方形を呈す。埋土は22層が認められたが、互層を呈していた。

埋葬部 検出面より1.2m下の墓塚底面において埋葬部を検出した。埋葬部の堆積は3層で、ほぼ水平堆積である。土層断面に木質は確認できなかったが、平面形および断面形から割板式の木棺が埋葬されていたと思われる。両端がかかる立上りする28層が木棺の痕跡とも考えられる。埋葬部の検出規模は(4.9×1.2-0.2)mである。

遺物 埋葬部、28層中で鉄刀F 8が出土した。出土位置は、埋葬部南側で、柄は東側を向いていた。また、互層を呈す墓塚埋土中から弥生土器の小片が出土した。図化できたものに壘Po44~Po51、高坏Po52、器台Po53、脚部Po54・55がある。主体部はS I 14を切り込んでおり、墓塚埋土中出土の遺物には本来S I 04に伴っていた遺物も混在していると考えられる。

時期 3号墳丘墓はS I 04廃絶後に築造されたもので、弥生時代後期と考えられる。

4号墳丘墓 (挿図65、67~69・図版12、18、34)

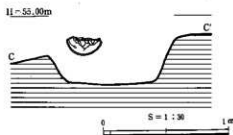
位置 調査区北端、F9・10、E10グリッドにあり、S I 01に隣接する。

周溝 西側と南側で周溝が検出されており、方形周溝墓と考えられる。西側周溝は長さ5.7m、幅1.5m、深さ0.9m、南側周溝は長さ5.5m、幅1m、深さ0.4mを測る。埋土は12層が確認され、西側周溝からは第⑩層中より壘Po63、壘Po64、高坏脚部Po65が出土している。

墳丘 墳丘は削平されており盛土等は存在していない。規模は検出できた部分で東西6m、南北6.5mを測る。

主体部 ほぼ東西軸に沿った方形で、規模は長軸約2.9m、短軸約1.2m、深さ約0.8mであった。両側面には長軸方向に沿って段が付いていた。東側に30cmほどの落ち込みがあり、土層断面に表れた土層の立ち上がりと共に併せて、小口板を差し込んだものと考えられる。埋土中から壘Po62が出土した。

時期 西側周溝から出土した土器から弥生時代終末期と考えられる。



挿図65 4号墳丘墓西側周溝内遺物出土状況図

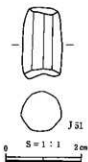
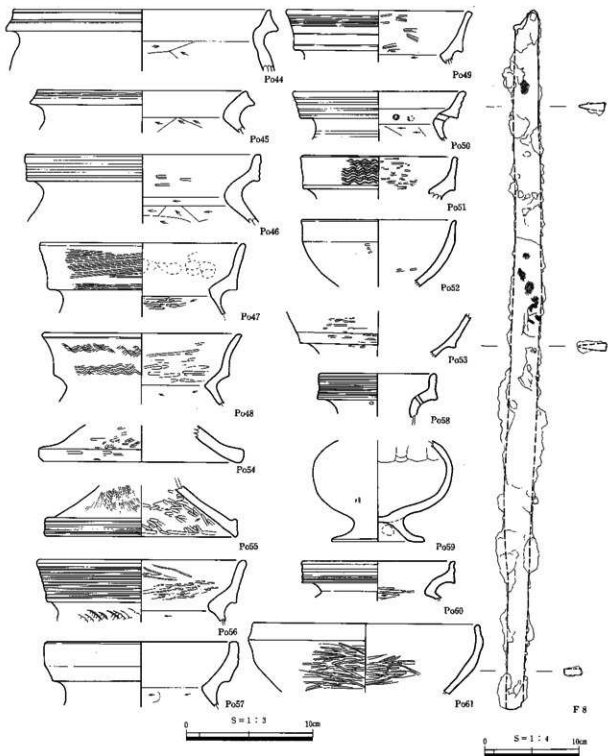
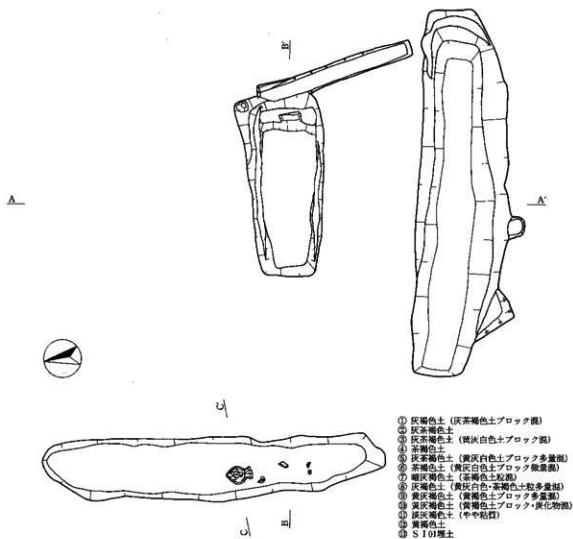
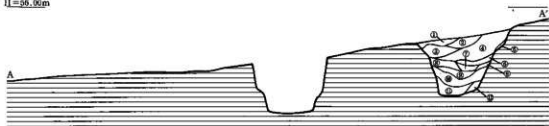


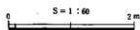
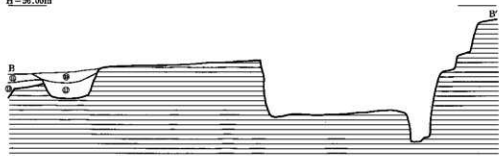
插图66 3号墳丘墓出土遺物



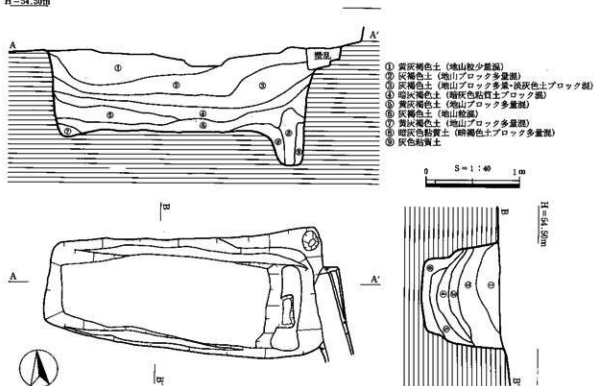
H = 56.00m



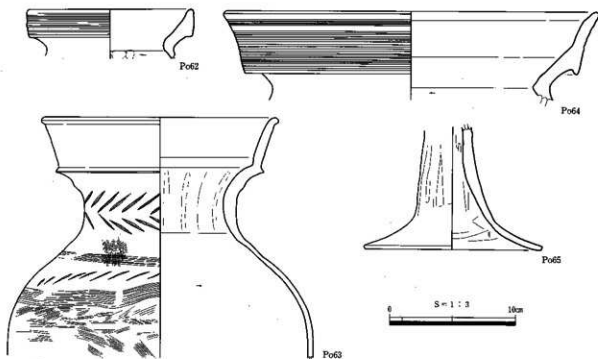
H = 56.00m



挿図67 4号墳丘墓遺構図



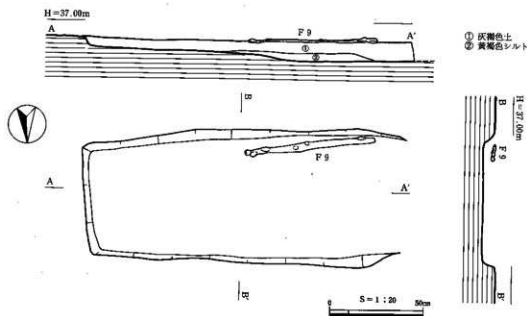
挿図68 4号墳丘墓主体部遺構図



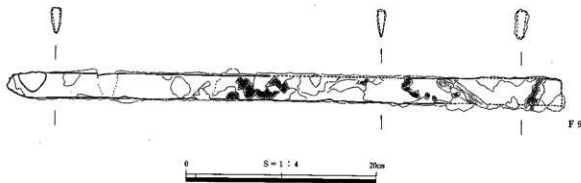
挿図69 4号墳丘遺物実測図

S X 01 (挿図70、71・図版18、19、41)

- 位置 調査区のほぼ中心D7グリッドにあり、標高は56.8mである。3号墳丘墓上に位置する。3号墳丘墓主体部の東側に接するように作られている。
- 形態 果樹園による攪乱のため、上部のほとんどを失っており依存状況は極めて悪い。検出した平面形は東西に軸をもつ長方形を呈し、検出できた規模は(1.70×0.7)mを測る。遺構検出時に鉄刀が出土し、検出面が既に土墳墓の底面である。底面を成す埋土除去後の深さは0.1mである。
- 埋土 2層の埋土が認められた。①層は土墳墓の棺底を形成するものであることが判かる。
- 遺物 ①層上面で鉄刀F9が出土した。
- 時期 3号墓上に位置することや、他の墓との関係から弥生時代後期と思われる。



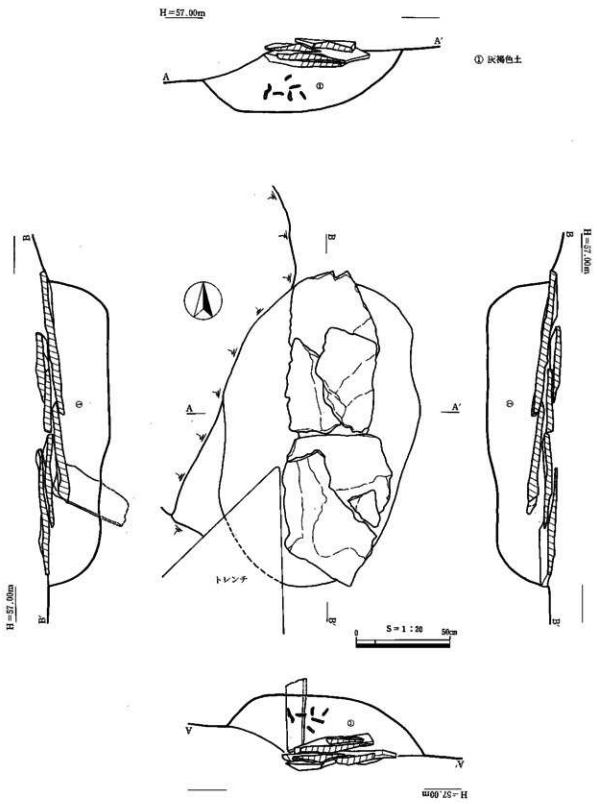
挿図70 S X 01遺構図



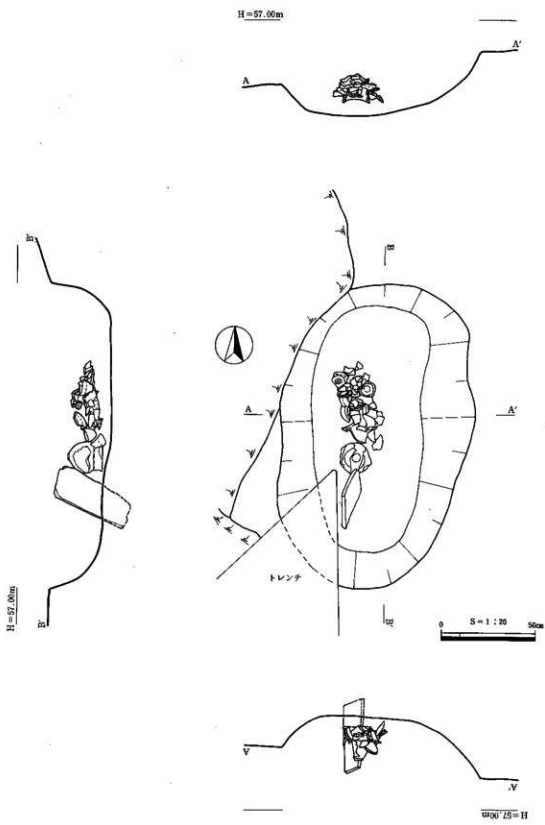
挿図71 S X 01遺物実測図

S X 02 (挿図72~74・付図9・図版19、35)

- 位置 D6グリッドにあり、標高56.7mで3号墳丘墓東側周溝内に位置する。S X 71・72を切り込んでいる。
- 形態 上面は耕作による攪乱を受けているものの遺存状態は良かった。主軸を南北にもつ石蓋土墳墓である。基本的に6枚の板石を重ねて蓋としていた。平面形は隅丸長方形を呈し、検出できた規模は、(1.63×1.06-0.3)mを測る。蓋石を取り除いたら埋葬部南側に主軸に沿うように板石が1枚、底



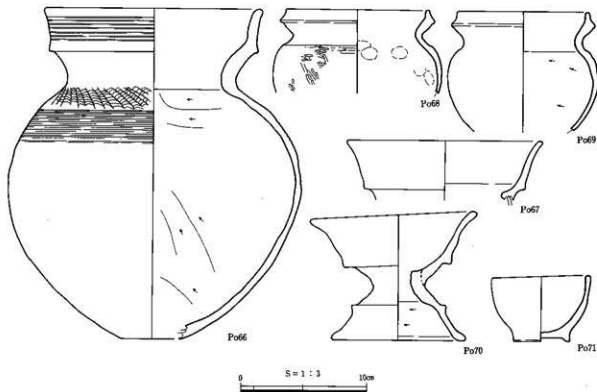
挿図72 SX02遺構図



挿図73 S X 02遺物出土状況図

面より立てられ、この板石の北側に土器が埋納されていた。

- 埋土 埋土は灰褐色土1層である。
 遺物 埋納されていた壺Po66、甕Po67~69、器台Po70、鉢Po71を図化した。
 時期 出土した土器より弥生時代後期と考えられる。



挿図74 S X 02遺物実測図

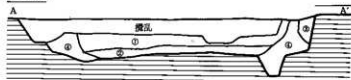
S X 03 (挿図75・図版19)

- 位置 調査区のほぼ中心D 7グリッドにあり、標高は57.0mである。3号墳丘墓上にあり、3号墳丘墓主体部の東側に位置する。
 形態 上面のかなりの部分が果樹園により攪乱されていた。検出した平面形は東西に軸をもつ隅丸長方形を呈し、検出できた規模は(2.90×0.9-0.3)mを測る。底面には小口板を設置したと思われる溝が西側に見られ、片側にのみ小口を設置する形態と思われる。
 埋葬部 遺構の平面および土層断面で埋葬部を確認した。埋葬部の規模は(2.2×0.7-0.3)mを測る。
 埋土 5層の埋土が認められる。下に向かって緩く堆積する②層が埋葬部分を形成すると思われる。また、小口の痕跡は溝により伺われるが、土層断面には木質は認められなかった。
 遺物 遺物は出土していない。
 時期 3号墳丘墓上に位置することや、他の土墳墓との関係から弥生時代後期と思われる。

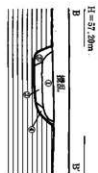
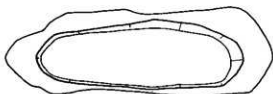
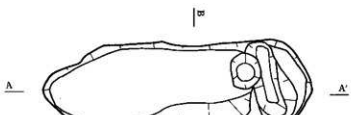
S X 04 (挿図76、77・図版20、35)

- 位置 調査区のほぼ中心D 6グリッドにあり、標高57.0mで検出した。3号墳丘墓上にあり、3号墳丘墓主体部の東側に位置する。
 形態 果樹園による攪乱のため、上面はかなりの部分を失っている。平面形は東西に軸をもつ隅丸長方形を呈す。検出できた規模は(3.5×1.2)mを測る。完掘後の深さは約50cmである。底面の西側には小口板を設置するためと思われる溝が認められる。片側にのみ小口を設置する形態と思われる。しか

H=57.20m



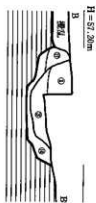
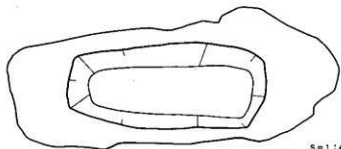
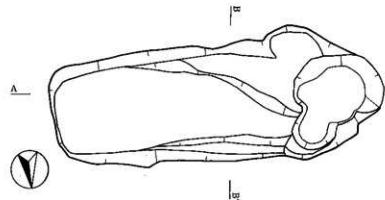
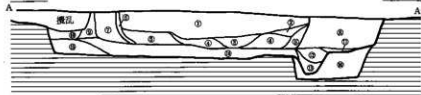
- ① 灰褐色土
- ② 黄灰褐色シルト (地山散置)
- ③ 黄灰色土
- ④ 暗灰褐色土 (地山散置)



0 S=1:40 1m

挿図75 S X 03遺構図

H=57.20m



- ① 暗灰褐色土 (地山ブロック多量混)
- ② 暗黄褐色土 (②より増・地山粒少量混)
- ③ 暗黄褐色土 (③より灰・地山粒少量混)
- ④ 暗黄褐色シルト (地山散置)
- ⑤ 暗黄褐色シルト
- ⑥ 暗灰色シルト
- ⑦ 暗灰褐色シルト (地山粒微量混)
- ⑧ 黄褐色土 (地山粒・ブロック多量混)
- ⑨ 暗黄褐色土
- ⑩ 暗灰褐色粘土
- ⑪ 暗黄褐色土
- ⑫ 暗黄褐色土
- ⑬ 暗灰褐色シルト
- ⑭ 暗灰褐色シルト
- ⑮ 暗黄褐色シルト
- ⑯ 暗灰褐色土 (S I 04柱穴埋土)
- ⑰ 暗黄褐色土

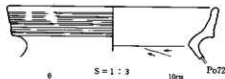
0 S=1:40 1m

挿図76 S X 04遺構図

し、土層断面の東側に縦方向に木質と思われる堆積が認められるため、割台式の木棺墓であった可能性もある。

埋葬部 遺構の平面および土層断面で埋葬部を確認した。埋葬部の規模は(2.1×0.9) mを測る。⑤層上面が底面を成すと思われ、深さは0.35mである。

埋土 17層の埋土が認められた。S I 04上に作られているため、⑩層はS I 14に伴う柱穴の埋土である。⑬・⑭層は小口を設置する溝を埋めたものと考えられるが、木質は検出できなかった。一方、⑦層は縦方向に堆積しており、木質の可能性もある。⑤層上面が棺底と思われる。



挿図77 S X 04遺物実測図

遺物 壺Po72が出土した。

時期 出土した土器、また3号墳丘墓上に位置することや、他の土墳墓との関係から弥生時代後期と思われる。

S X 05 (挿図78、79、81・図版20、40、41)

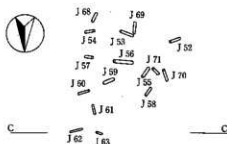
位置 調査区のほぼ中心D 6 グリッドにあり、標高56.8 mで検出した。3号墳丘墓上にあり、3号墳丘墓主体部の東側に位置する。

形態 果樹園による攪乱で上部のほとんどを失っている。東西に軸をもつ長方形を呈し、規模は(2.0×0.8) mである。遺構検出時に鉄刀が出土しており、遺構検出面が既に土墳墓の底面である。底面を成す埋土除去後の深さは約10cmである。

埋土 埋土は1層が残るにすぎない。

遺物 底面から鉄刀F10と管玉J 52~71、遺構検出中に埋土中からJ 72~80が出土した。

時期 3号墳丘墓上に位置することや、他の土墳墓との関係から弥生時代後期と思われる。



挿図78 S X 05遺物出土状況図

S X 06 (挿図80、82・付図8・図版20、35)

位置 調査区のほぼ中心D 7 グリッドにあり、標高57.1mで検出した。3号墳丘墓上、東側周溝の側に位置し、周溝にあるS X 41を切る。

形態 検出した平面形は隅丸長方形を呈す。軸はおよそ南北軸である。規模は(2.1×0.9) mを測る。完掘後の深さは約80cmである。果樹園による攪乱を受けているが、上面に板状の石が僅かに残っており、石蓋土坑である。土層断面に埋葬部及びその北側に小口と思われる堆積が認められた。

埋葬部 平面および土層断面に埋葬部が確認された。埋葬部の規模は(1.1×0.7-0.3) mである。

埋土 7層の埋土が確認された。⑨層はS X 41埋土である。縦方向に堆積する③層は小口の痕跡と思われる。②層上面が底面を成す。

遺物 遺物は、①層埋土中、②層上面で倒立した状態の壺Po73が出土した。また、壺の北側には板状の石が2個立てられていた。

時期 出土した土器より、弥生時代後期と思われる。

H=57.00m

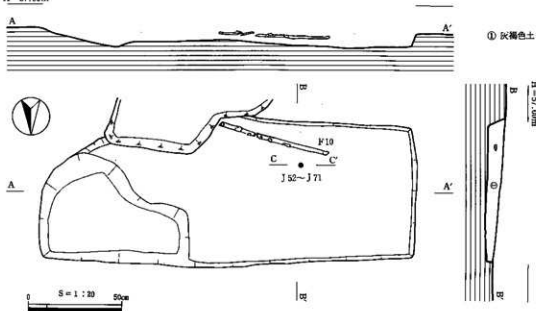
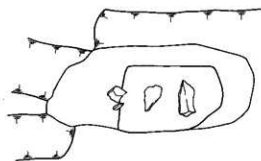
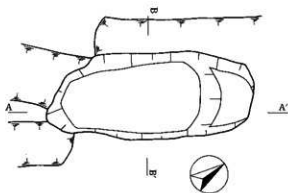
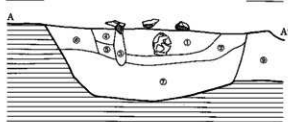


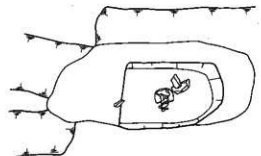
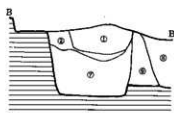
插图79 S X 05结构图



H=57.40m



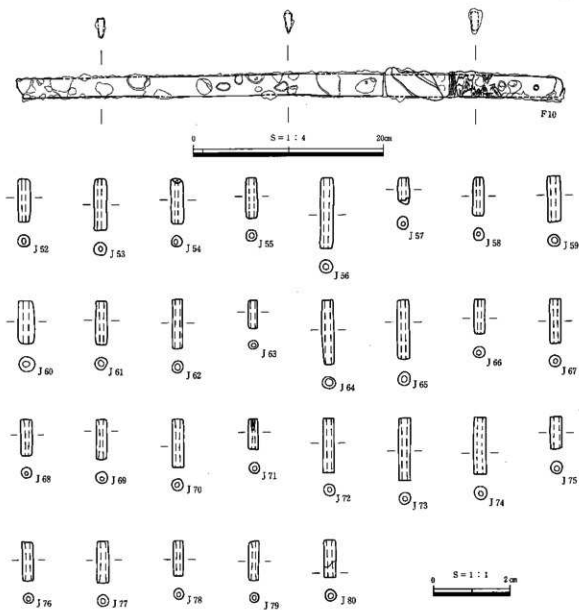
H=57.40m



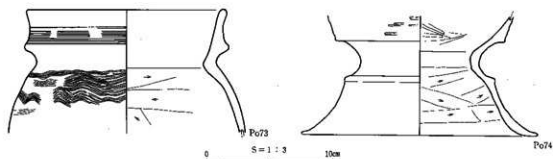
- ① 灰褐色土
- ② 褐色土
- ③ 暗灰褐色土
- ④ 黄灰褐色土
- ⑤ 明黄褐色土
- ⑥ 暗黄褐色土
- ⑦ 黄褐色土
- ⑧ S X 45 壤土
- ⑨ S X 群绿土

S=1:40 1m

插图80 S X 06结构图



挿図81 S X05遺物実測図



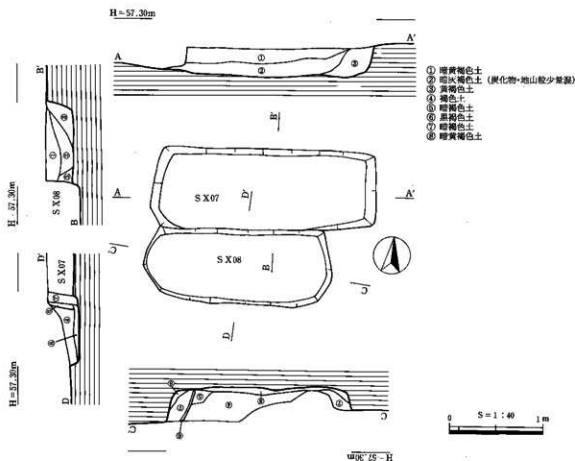
挿図82 S X06遺物実測図

S X 07 (挿図83・図版21)

- 位置 調査区のほぼ中央、D 6、E 6グリッドにあり、標高57.1mに位置する。S X 08に切られている。
 形態 およそ東西に軸をもつ長方形を呈す。検出できた規模は(2.3×0.9以上-0.3)mである。
 埋葬部 ③層が埋葬部を形成すると考えられる。
 埋土 3層の埋土が確認された。
 遺物 出土していない。
 時期 周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。

S X 08 (挿図83・図版21)

- 位置 調査区のほぼ中央、D 6、E 6グリッドにあり、標高57.1mに位置する。S X 07を切る。
 形態 およそ東西に軸をもつ隅丸長方形を呈す。検出できた規模は(2.0×0.8-0.25)mである。
 埋葬部 土層断面で埋葬部が認められた。西側に小口をもち、⑧層上面が底面を成す。
 埋土 5層の埋土が確認された。⑧層は縦に堆積する暗黄褐色土で小口の痕跡かと思われる。
 遺物 出土していない。
 時期 周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。



挿図83 S X 07・08遺構図

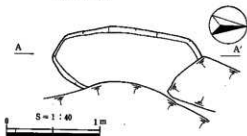
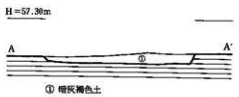
S X 09 (挿図84・図版21)

- 位置 調査区のほぼ中央、C 6グリッドにあり、標高57.0mに位置する。S I 03の西側を切る。
 形態 攪乱により、依存状況は極めて悪い。およそ南北に軸をもつ隅丸長方形を呈す。検出できた規模は(1.6×0.6-0.61)mである。

埋土 埋土は1層が残るにすぎない。
 遺物 出土していない。
 時期 周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。

S X 10 (挿図85)

位置 調査区のほぼ中央、C 6 グリッドにあり、標高56.9mで検出した。3号墳丘主体部の東側に位置する。
 形態 攪乱により依存状況は極めて悪く、原型をほとんど失っている。およそ東西に軸をもつ隅丸長方形を呈すと思われる。検出できた規模は短軸1.45m、検出面からの深さ0.25mを測る。



挿図84 S X 09遺構図

埋葬部 土層断面から埋葬部があったことが伺われる。
 埋土 5層の埋土が確認された。④層が埋葬部の壁を成し、⑤層上面が底面と考えられる。
 遺物 出土していない。
 時期 3号墳丘基上に位置することから弥生時代後期と思われる。

S X 11 (挿図85)

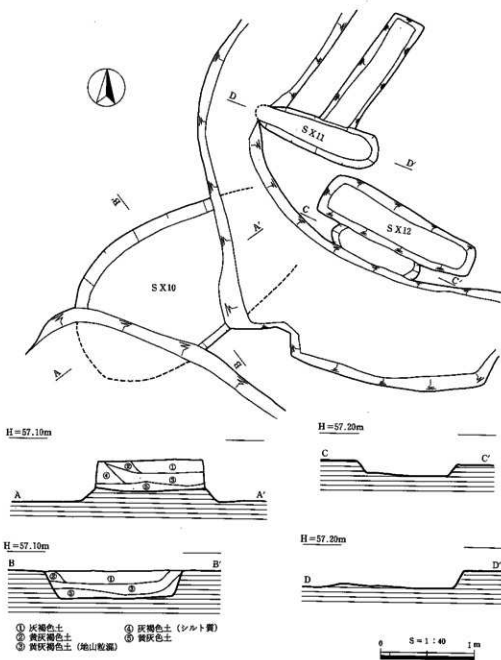
位置 調査区のほぼ中央、C 6 グリッドにあり、標高56.9mで検出した。3号墳丘主体部の東側に位置する。
 形態 攪乱により原型をほとんど失っている。およそ東西に軸をもつ隅丸方形を呈すと思われる。検出できた規模は長軸0.75m、深さ最大0.1mを測る。
 埋土 暗褐色土が1層残るにすぎなかった。
 遺物 出土していない。
 時期 3号墳丘基上に位置することから弥生時代後期と思われる。

S X 12 (挿図85)

位置 調査区のほぼ中央、C 6 グリッドにあり、標高56.9mで検出した。3号墳丘主体部の東側に位置する。
 形態 攪乱により原型をほとんど失っている。およそ東西に軸をもつ隅丸長方形を呈すと思われる。検出できた規模は長軸は最大1.4m、短軸0.25m、深さ最大1.5mを測る。
 埋土 暗褐色土が1層残るにすぎなかった。
 遺物 出土していない。
 時期 3号墳丘基上に位置することから弥生時代後期と思われる。

S X 13 (挿図86・図版21)

位置 D 5 グリッドにあり、標高56.6mで検出した。3号墳丘基南側周溝と東側周溝の溝が途切れる部分に位置する。
 形態 上部は攪乱をかなり受けている。およそ東西に軸をもつ隅丸方形を呈する。東側に低い段をもち、検出できた規模は最大(2.6×1.0-0.4)mを測る。東側の段上床面より板上の石が2個検出された。また、南側に(0.8×0.35)mの小規模な土坑がある。この土坑はS X 13に直接伴うものではなく、



挿図85 S X10~12遺構図

その性格も不明である。

埋 土 4層の埋土が確認された。

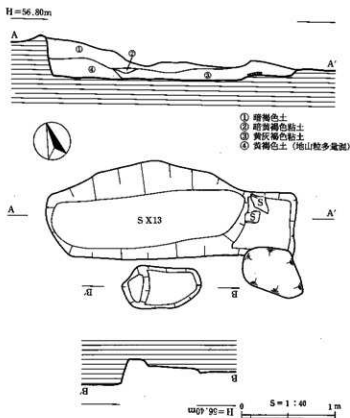
遺 物 ③層中から土器片が数点出土した。

時 期 出土した土器から弥生時代後期と思われる。

S X 14 (挿図87・図版21)

位 置 E 7グリッドにあり、標高57.1mに位置する。

形 態 果樹園による攪乱を受けてはいるが、依存状況は良好であった。およそ東西に軸をもち、隅丸長方形を呈す。東西両側に段をもち、短軸の断面形は逆凸字形である。断面形態と土層断面から木棺墓と考えられる。検出できた規模は(3.3×1.8-0.7) mを測る。



挿図86 S X 13遺構図

埋葬部 平面形、土層断面から推定される木棺の規模は(3.0×0.7-0.4)mを測る。割接式の木棺と思われる。

埋土 11層の埋土が確認された。南北断面では⑦層を掘り込む形で②・④・⑥層が堆積していた。木質は確認できなかったが、割接式の木棺が設置してあったと考えられ、①層上面が棺底を成すと思われる。

遺物 埋土中から土器の小片と⑥層中からかなり腐食した鉄の小塊が出土したが、いずれも図化できなかった。

時期 出土した遺物から弥生時代後期と思われる。

S X 15 (挿図88、89・図版22、36)

位置 D 6グリッドにあり、標高56.5mに位置する。S D 02を切る。

形態 果樹園による攪乱を受けてはいるが、依存状況は良好であった。およそ東西に軸をもち、隅丸長方形を呈す。検出できた規模は(2.6×1-5.5)mを測る。土層断面より西側に小口板をもつ形態と思われる。

埋土 9層の埋土を確認した。底面に小口を設置するための溝はなかったが、⑧層が縦に落ち込んでおり小口に相当すると思われる。

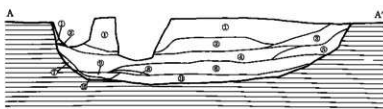
遺物 壺Po75~77、器台Po78、小型壺Po79が出土した。

時期 出土した土器から弥生時代後期と思われる。

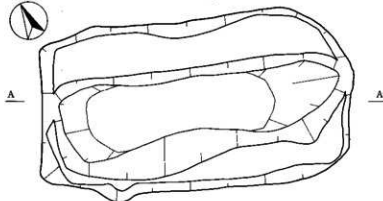
S X 16 (挿図90・図版22)

位置 E 6グリッドにあり、標高57.1mで検出した。S X 2 0の北側に平行して位置する。

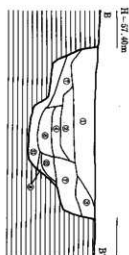
H=57.40m



- ① 黄灰色土
- ② 暗黄灰色シルト
- ③ 赤灰色土
- ④ 暗灰色土
- ⑤ 暗灰色土 (地山ブロッコ層)
- ⑥ 暗灰色土 (地山砂層)
- ⑦ 暗褐色土
- ⑧ 暗灰色粘土
- ⑨ 灰色土
- ⑩ 黄灰色粘土
- ⑪ 暗褐色シルト
- ⑫ 黄褐色土

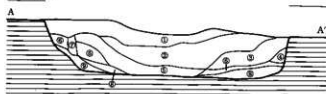


S = 1 : 40 1 m

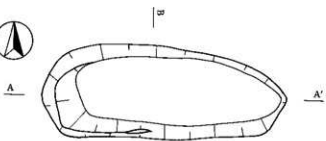


挿図87 S X 14遺構図

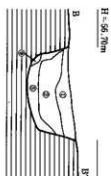
H=56.70m



- ① 暗褐色土
- ② 黄灰色粘土 (灰褐色粘土ブロック多量層)
- ③ 黄褐色土
- ④ 暗灰色粘土
- ⑤ 暗灰色粘土
- ⑥ 黄灰色土
- ⑦ 暗灰色土
- ⑧ 黄灰色シルト (粘土あり)
- ⑨ 灰褐色シルト



S = 1 : 40 1 m



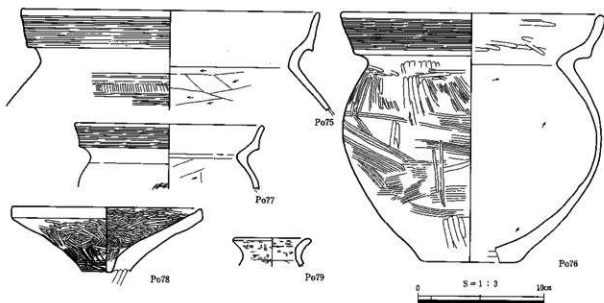
挿図88 S X 15遺構図

形 態 攪乱により上部をほとんど失っており、詳細は不明である。東西に軸をもち、隅丸長方形を呈する。検出できた規模は最大 (1.15×0.4-0.1) mである。

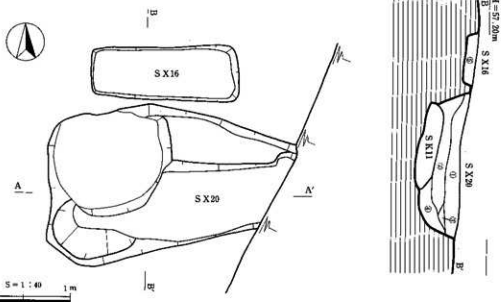
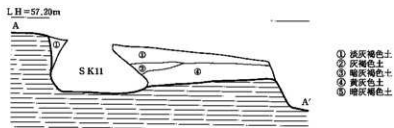
埋 土 埋土は1層残っていたにすぎない。

遺 物 出土していない。

時 期 周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。



挿図89 S X 15遺物実測図



挿図90 S X 16・20遺構図

S X 17 (挿図92・図版22)

位置 E 9 グリッドにあり、標高56m付近に位置する。S X 18・19と切り合う。

形態 基壇掘り方はほぼ長方形を呈するものと考えられ、検出できた規模は(2.43×1.28-0.5) mを測る。

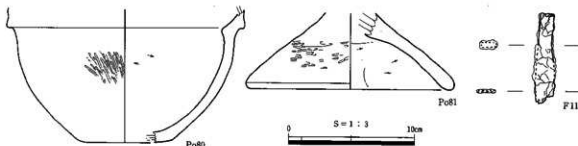
埋葬部 基壇底面で木棺の小口板、側板と思われる痕跡をそれぞれ検出した。小口板の掘り方は幅13cm、深さ8cmを測り、側板の掘り方は幅22~25cm、深さ6~12cmを測る。これらのことからS X 17には組み

合わせ式の木棺が埋葬されていたものと考えられる。

- 埋 土 埋土は11層に分層できた。
遺 物 出土していない。
時 期 遺物は出土していないが、遺構の切り合い関係から弥生時代後期以前と考えられる。

S X 18 (挿図91・図版22、36、41)

- 位 置 E 9グリッドにあり、標高56m付近に位置する。S X 17と切り合う。
形 態 平面形は長方形を呈し、検出できた規模は(3.22×0.91-0.29) mを測る。
埋 土 埋土は3層に分層できた。
遺 物 鉢Po80、蓋Po81、鏡F11が出土した。
時 期 出土した土器より、弥生時代後期と考えられる。



挿図91 S X 18遺物実測図

S X 19 (挿図92・図版22)

- 位 置 E 9グリッドにあり、標高56m付近に位置する。S X 17と切り合う。
形 態 平面形は長方形を呈し、検出できた規模は(1.38×0.94-0.31) mを測る。
埋 土 埋土は5層に分層できた。
遺 物 出土していない。
時 期 遺物は出土していないが、遺構の切り合い関係から弥生時代後期以前と考えられる。

S X 20 (挿図90・図版22)

- 位 置 E 6グリッドにあり、標高57.0mに位置する。北側にはS X 16があり、S K 03に切られている。
形 態 東側を削平されている。平面形は東西に軸をもつ不整形な隅丸長方形である。検出できた規模は(2.6以上×1.6-0.5) mである。S K 03に切られているため原形は不明であるが、北側のみ段を有す。
埋 土 4層の埋土が確認された。水平堆積であったが、段をもつ断面形態から割台式の木棺が設置してあった可能性がある。
遺 物 出土していない。
時 期 周辺の遺構との関係とS K 03との切り合い関係から弥生時代後期と考えられる。

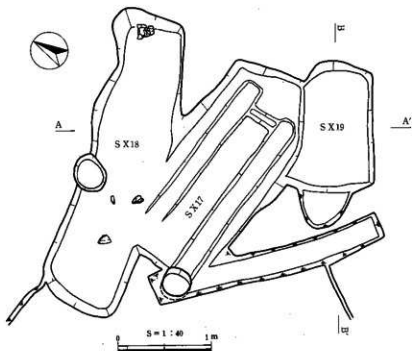
S X 21 (挿図93)

- 位 置 F 8グリッドにあり、標高56.8mに位置する。
形 態 上面は耕作によりほとんど削平され遺存状態は悪い。平面形は隅丸長方形を呈し、主軸はやや北東に振るものの東西にもつ。検出できた規模は、(1.16m×0.8m-0.2) mを測る。
埋 土 埋土は8層に分層できた。

H=56.40m



- ① 灰茶褐色土 (脱片をわずかに含む)
- ② 灰茶褐色土 (地山粒混)
- ③ 灰茶褐色土 (地山ブロック混)
- ④ 淡灰茶褐色土 (地山ブロック混)
- ⑤ 灰茶褐色土 (地山ブロック少量混)
- ⑥ 灰褐色土
- ⑦ 灰褐色土 (地山粒少量混)
- ⑧ 淡灰褐色土 (地山粒少量混)
- ⑨ 暗灰褐色土 (地山粒少量混)
- ⑩ 暗灰褐色土 (地山少量混)
- ⑪ 淡灰色土 (黄灰色土・黄灰色土ブロック混)
- ⑫ 黄白色土
- ⑬ 灰褐色土 (地山ブロック多量混)
- ⑭ 淡灰褐色土 (地山ブロック多量混)
- ⑮ 淡灰褐色土 (やや粘質・地山粒多量混)
- ⑯ 黄茶褐色土
- ⑰ 暗灰褐色土 (黄白色土ブロック・脱片混)
- ⑱ 暗灰褐色土



挿図92 S X 17~19遺構図

遺物 出土しなかった。

時期 周囲の遺構との関係から弥生時代後期と考えられる。

H=57.00m



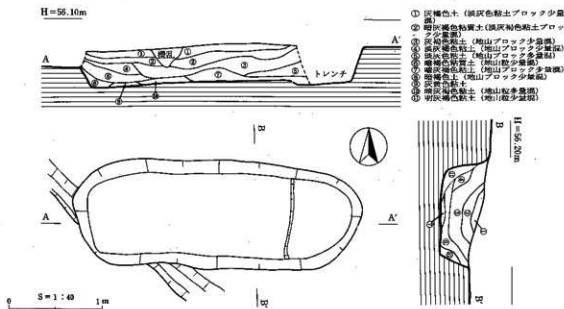
- ① 暗灰褐色土 (地山ブロック多量混)
- ② 暗灰褐色土
- ③ 灰褐色土 (地山ブロック少量混)
- ④ 淡灰褐色土
- ⑤ 暗灰褐色土 (地山ブロック灰色土・ブロック多量混)
- ⑥ 淡灰褐色土
- ⑦ 暗灰褐色土
- ⑧ 淡灰褐色粘土



挿図93 S X 21遺構図

S X 22 (挿図94・図版23)

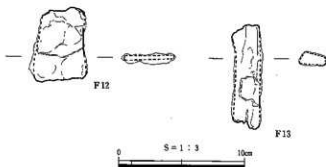
- 位置 E 6 グリッドにあり、標高55.8mに位置する。S I 02と切り合っている。
- 形態 上面は耕作により削平されていた。平面形は隅丸長方形を呈し、主軸を東西にもつ。検出規模は、(3.0×1.16-0.4) mを測る。
- 埋土 埋土は11層に分層できた。
- 遺物 埋土中より土器細片が出土したが図化できなかった。
- 時期 周囲の遺構との関係から弥生時代後期と考えられる。



挿図94 S X 22遺構図

S X 23 (挿図95、98・図版23、41)

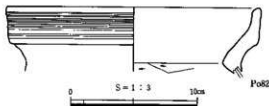
- 位置 D 5 グリッドにあり、標高56.4mに位置し、S X 24・25と重複している。
- 形態 東半分は削平されている。およそ東西に軸をもつ隅丸長方形を呈すと思われる。検出できた規模は(2.0以上×1.4-0.6) mを測る。底面には小口板を設置したと思われる溝がある。この溝は北側で東に向かうが、側板を設置するためのものではない。西側のみ小口板をもつ土坑墓である。
- 埋土 13層の埋土が確認された。⑩層が小口である。①~⑩層は分層可能であったが互層を呈していた。⑩層はS I 02に伴う側溝である。
- 遺物 ⑩層中から鉄製品 F 12・13が出土した。
- 時期 周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。S X 24・25との前後関係はS X 23が一番新しい。



挿図95 S X 23遺物実測図

S X 24 (挿図96、98・図版23、36)

- 位置 D 5 グリッドにあり、標高56.0mに位置する。S X 23・25と重複している。
- 形態 東半分は削平され、北側はS X 23に切られている。およそ東西に軸をもつ隅丸方形を呈すと思われる。検出できた規模は(1.7以上×0.7-0.3) mを測る。
- 埋土 7層の埋土が確認された。①・②層は③層を掘り込んでおり、平面では検出できなかったがS X 24上に掘られたピットの埋土と思われる。また、⑦層はS X 25の埋土である。埋土の堆積状況から木棺が設置してあった可能性もある。
- 遺物 埋土中から壺Po82が出土した。
- 時期 出土した土器から弥生時代後期と考えられる。S X 23より古く、S X 25より新しい。



挿図96 S X 24遺物実測図

S X 25 (挿図98・図版23)

- 位置 D 5 グリッドにあり、標高56.0mで検出した。S X 23・24と重複し、S D 01上に掘り込まれている。
- 形態 西側半分をS X 23・24に切られており、東半分は上部を失っている。検出できた規模は(2.7×0.9-0.3) mを測る。西側底面に小口を設置したと思われる溝がある。片側のみ小口をもつ形態である。
- 埋土 S D 01掘り下げ中、小口溝を検出したことで土墳墓であることが判った。そのため、埋土の堆積状況を把握するに至らなかったが、S X 24の土層断面で確認できた⑦層がS X 25に伴うものである。
- 遺物 出土していない。
- 時期 S X 23・24より古く、S D 01より新しい。弥生時代後期と思われる。

S X 26 (挿図99)

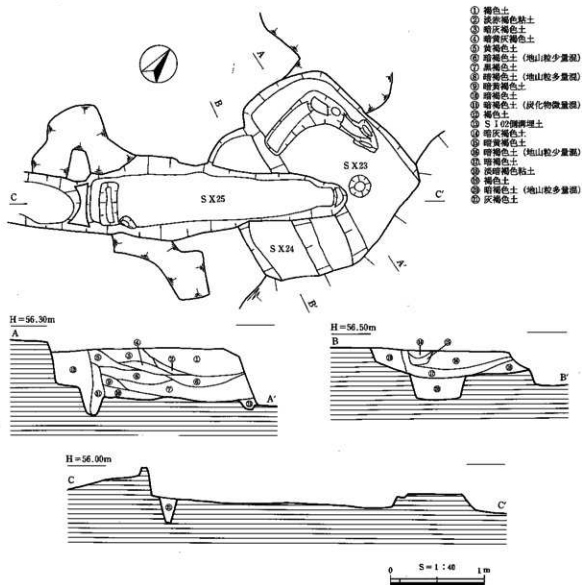
- 位置 C 6、D 6 グリッドにあり、標高57.0mで検出した。3号墳丘墓上に位置し、3号墓主体部の東端を切る。
- 形態 西側は攪乱を受けており、依存状況は悪い。東西に軸をもつ長方形を呈すと思われる。検出できた規模は(2以上×2.2-0.5) mである。
- 埋土 2層の堆積が認められた。堆積状況からは土墳墓と特定しがたいが、平面形および3号墳丘墓上に位置することから土墳墓と考えておきたい。
- 遺物 出土していない。
- 時期 周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。

S X 27 (挿図97、100・図版23、36)

- 位置 D 5 グリッドにあり、標高55.8mに位置する。
- 形態 東側は削平をされている。およそ東西に軸をもつ、隅丸方形を呈する。検出できた規模は(2.8以上×0.9-0.4) mを測る。
- 埋土 3層の水平堆積が認められた。
- 遺物 埋土中から壺Po83が出土した。
- 時期 出土した遺物から弥生時代後期と考えられる。



挿図97 S X 27遺物実測図

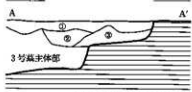


挿図98 S X 23~25遺構図

S X 28 (挿図101、102・付図8・図版36)

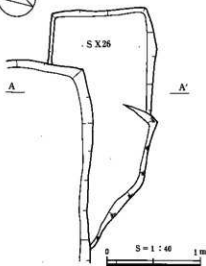
- 位置 D 7、E 7グリッドに位置する。3号墳丘基東側周溝の東側に密集する土壌墓群の中にあり、S X 64・65と重複する。土壌墓群を検出した標高は57.0mである。
- 形態 複数の土壌墓が重複しており、検出面で個々の平面形を捉えるに至らなかった。そのため、土壌墓群における個々の前後関係をふまえて掘り下げることはできなかった。ここでは、土壌墓群の埋土完掘後の形態を記すにとどめる。やや南北に軸を振るがおよそ東西に軸をもつ隅丸方形を呈す。平面の規模は(2.8以上×1.1以上)mである。壁が残存する東側の深さは検出面より0.8~1.0mである。底面の西側には小口を設置したと思われる溝があり、片側のみ小口のある土壌墓と考えられる。
- 埋土 土壌墓群を横断するように残した土層断面から埋土を確認することができた。5層の埋土が堆積する。東側の壁が検出面までたどれることから、検出面より上から掘り込まれていると考えられる。しかし、①層中を縦に分層することはできなかった。
- 遺物 壺Po84・85が出土した。Po85は埋土中で逆位に立った状態で出土したが、損傷が激しく倒壊したため出土状況を図化することができなかった。
- 時期 出土した遺物から弥生時代後期と考えられる。

H=57.30m



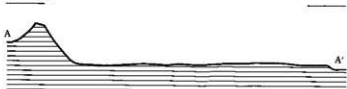
3号墓主体部

- ① 明褐色土 (地山散微炭)
- ② 暗褐色土 (地山散多炭)
- ③ 黄褐色土 (地山散少量)

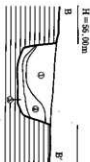
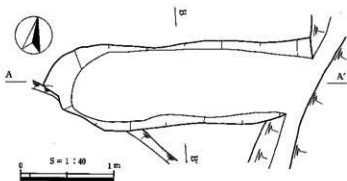


挿図99 S X 26遺構図

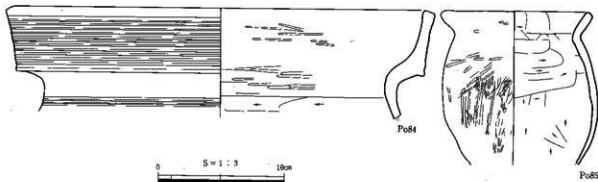
H=56.00m



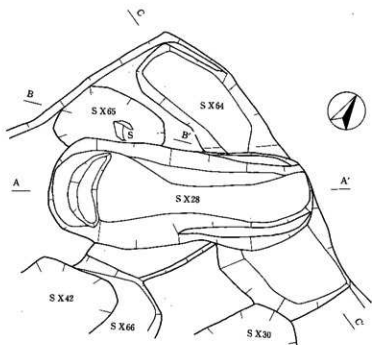
- ① 暗黄灰色土
- ② 暗褐色土
- ③ 暗灰褐色土



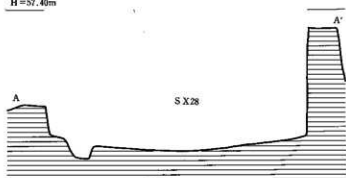
挿図100 S X 27遺構図



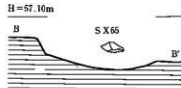
挿図101 S X 28遺物実測図



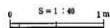
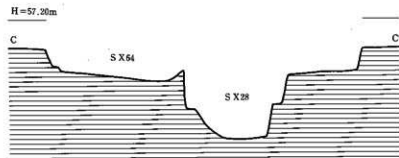
H = 57.40m



H = 57.10m



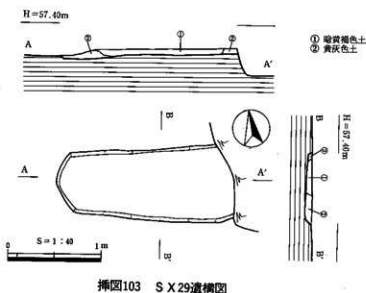
H = 57.20m



挿図102 SX28・64・65透視図

S X 29 (挿図103・図版23)

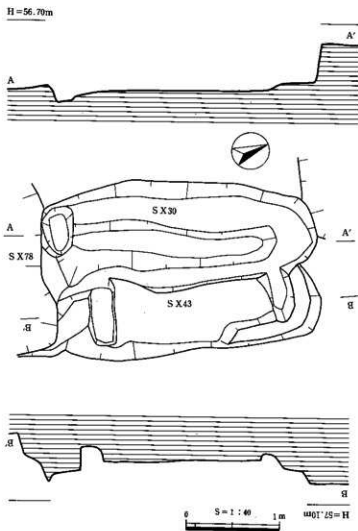
- 位置 D7グリッドにあり、標高57.1mで検出した。3号墳丘墓主体部の北側に位置する。
- 形態 上部は削平され、西側は攪乱を受けており依存状況は極めて悪い。東西に軸をもち隅丸方形を呈する。検出できた規模は(1.9以上×0.8以上-0.05以上)mである。
- 埋土 2層の埋土が認められた。堆積状況から木棺墓の可能性もある。
- 遺物 出土していない。
- 時期 3号墳丘墓上に位置することから弥生時代後期と思われる。



挿図103 S X 29遺構図

S X 30 (挿図104・付図8)

- 位置 D7、E7グリッドに位置する。3号墳丘墓東側周溝の東側に密集する土墳墓群の中にあり、S X 43と接している。土墳墓群を検出した標高は57.0mである。
- 形態 複数の土墳墓が重複しており、検出面で個々の平面形を捉えるに至らなかった。そのため、土墳墓群における個々の前後関係をふまえて掘り下げることはできなかった。ここでは、土墳墓群の埋土完掘後の形態を記すにとどめる。およそ南北に軸をもつ隅丸方形を呈する。規模は上面で(2.9×1.1)mである。断面形は二段に落ちる。深さは0.6m以上である。また、南端に溝状の掘り込みがあり、片側に小口をもつ土墳墓の可能性もあるが、断面形および堆積から木棺墓とも考えられる。

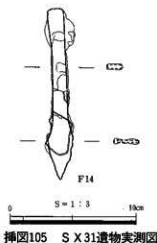
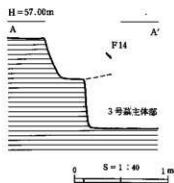


挿図104 S X 30・43遺構図

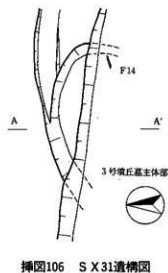
- 埋土 平面形が全く検出できず、周辺の土墳墓と一括で掘り下げたが、土墳墓群を横断するように残した土層断面から埋土を確認することができた。埋土には⑤・⑥・⑦・⑧・⑨層の5層が認められた。
- 遺物 出土していない。
- 時期 土層断面からSX43を切っていることが判る。周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。

SX31 (挿図105、106・図版41)

- 位置 C7グリッドにあり、標高56.8mで検出した。3号墳丘基主体部の北側を切る。
- 形態 3号基主体部掘り下げ中に検出したため、形態を明確に把握することができなかった。東西に軸をもち、平面形は隅丸方形を呈すと思われる。検出できた規模は(1.2以上×0.4以上-0.45)mである。
- 埋土 鉄製品が出土したことで土墳墓と判明したため、堆積状況は把握できなかった。土墳墓の下半には暗褐色土が堆積していた。
- 遺物 施F14が暗褐色土中から出土した。
- 時期 3号墳丘墓上に位置することから弥生時代後期と思われる。



挿図105 SX31遺物実測図



挿図106 SX31遺構図

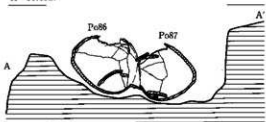
SX32 (挿図107、110・図版24、36)

- 位置 調査区北側、E10グリッドにあり、標高34.1m付近に位置する。S101に隣接する形でつくられている。
- 形態 ほぼ南北軸に沿った甕棺墓で、検出できた規模は(0.95×0.65-0.4)mを測る。掘り方は隅丸方形で、甕の直接当たる部分は甕の形状に合わせて掘り窪められていた。ほぼ完形で出土した南側の甕Po86と口を合わせるため、北側の甕Po87は口縁を欠いていた。
- 埋土 埋土は5層が確認された。
- 時期 甕Po86・87の特徴から古墳時代前期と考えられる。

SX33 (挿図108、109・図版24、36)

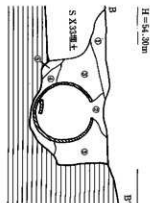
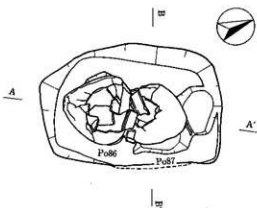
- 位置 調査区北側、E10グリッドにあり、標高34.1m付近に位置する。S101を切る形でつくられ、SX32に切られている。
- 形態 ほぼ東西軸に沿っており、調査区外へ伸びているため検出できた規模は(1.4×1.1-0.3)mであった。掘り方は隅丸方形で、北側に(0.4×0.3-0.7)mのピットを持つ。また南側に3cm程の掘り

H=54.35m



- ① 暗灰褐色土
- ② 暗褐色土
- ③ 暗灰褐色土 (地山粒・炭化物混)
- ④ 暗灰褐色土 (③より硬い)
- ⑤ 暗褐色土

0 S=1:20 50cm

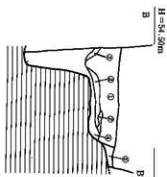
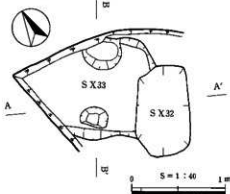


挿図107 S X 32遺構図

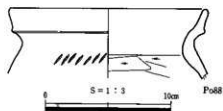
H=54.50m



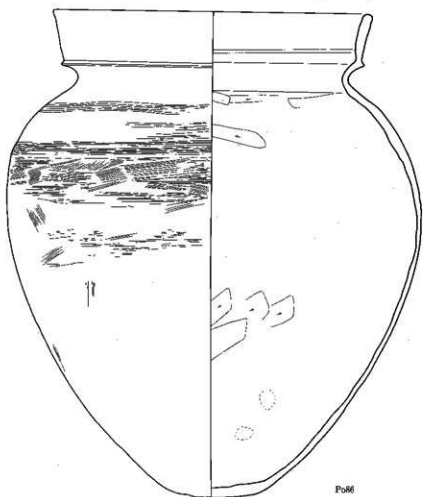
- ① 暗灰褐色土: (地山ブロック・炭化物・炭土粒混)
- ② 黄褐色土
- ③ 暗褐色土
- ④ 黄灰褐色土
- ⑤ S 101埋土



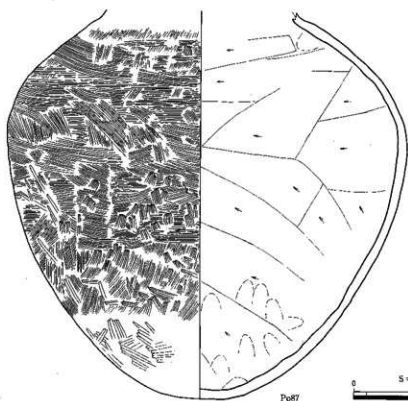
挿図108 S X 33遺構図



挿図109 S X 33遺物実測図



Po86



Po87

0 S=1:3 10cm

插图110 S X 32 遗物实测图

込みが検出された。

- 埋 土 埋土は4層が確認された。
遺 物 甕Po88を腐化した
時 期 出土遺物および遺構の切り合い関係から弥生時代後期と思われる。

S X 34 (挿図111・付図8・図版24)

- 位 置 D 7、E 7グリッドにある。3号墳丘墓東側周溝の東に密集する土壌墓群の北端に位置し、S X 35と並列する。検出した標高は57.2mである。
形 態 平面形はおよそ東西に軸をもつ隅丸長方形を呈す。検出できた規模は(2.55×1.1-0.6) mを測る。底面の西側には小口を設置したと思われる溝がある。また、溝と西壁の間に小ピットが検出された。片側のみ小口をもつ形態の土壌墓と考えられる。
埋 土 5層の埋土が確認された。底面の西側に位置する溝は小口を立てるためのものと思われるが、土層断面に小口と思われる縦方向の堆積は認められなかった。
遺 物 出土していない。
時 期 周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。

S X 35 (挿図111・付図8・図版24)

- 位 置 E 7グリッドにある。3号墳丘墓東側周溝の東に密集する土壌墓群の北端に位置し、S X 34と並列する。検出した標高は57.2mである。
形 態 およそ東西に軸をもつ隅丸長方形を呈す。検出できた規模は(2.7×0.8-0.5) mである。
埋 土 5層の埋土が認められた。④層により埋葬部が形成される。土層断面から木棺の有無は判断できなかった。
遺 物 出土していない。
時 期 周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。

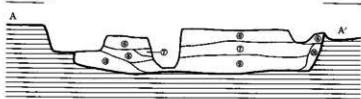
S X 36 (挿図112)

- 位 置 E 6グリッドにあり、標高57m付近に位置する。S I 03、S D 02と切り合う。
形 態 平面形は長方形を呈し、検出できた規模は(2.59×0.88) mを測り、深さは北側で0.4mである。
埋 葬 部 北側で(54×32-15) cmを測る長方形の落ち込みを検出した。小口部分に相当すると思われるが、S I 03掘り下げ後、平面形から土壌墓であると判断できたため、土層などから埋葬部の形態は確認できなかった。
埋 土 確認できた埋土は1層である。②、③層はS I 03柱穴埋土である。
遺 物 出土していない。
時 期 遺物は出土していないが、遺構の切り合い関係などから弥生時代後期以前と思われる。

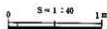
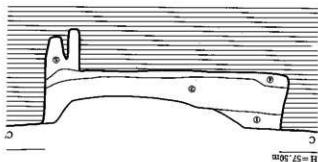
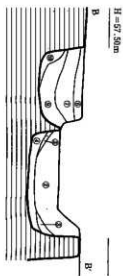
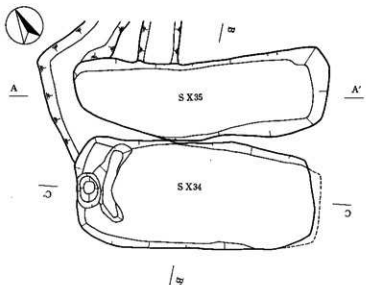
S X 37 (挿図113~125・図版24、25、37、41)

- 位 置 C 3・4、D 3・4グリッドにあり、標高54~55m付近に位置する。底面でS I 07、S K 10を検出した。
形 態 東側が調査区域外となるが、斜面部をカットして平坦面を作っていたものと思われ、そこに墓壇を掘り込んでいる。検出できた規模は長軸・短軸とも約10mを測り、深さは最深部で1mである。
第1墓壇 平面形は不定形を呈し、検出できた規模は(1.79×1.70-0.2) mを測る。埋土は3層に分層された。ほぼ南北軸。

H=57.50m

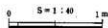


- ① 淡灰褐色土
- ② 明灰褐色土
- ③ 暗褐色粘土
- ④ 黄灰色土
- ⑤ 黄黄灰褐色土
- ⑥ 暗灰褐色土
- ⑦ 淡灰褐色土
- ⑧ 黄褐色土
- ⑨ 灰褐色土
- ⑩ 黄灰色土

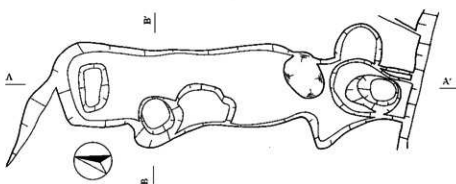
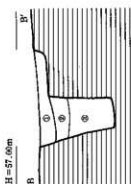
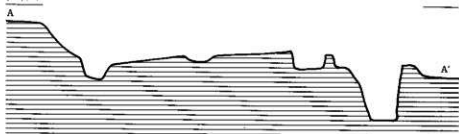


挿図111 S X 34・35遺構図

- ① 暗褐色土 (地山較少量混)
 - ② 暗褐色粘質土
 - ③ 暗黄灰色粘質土
- S I 03ピット埋土

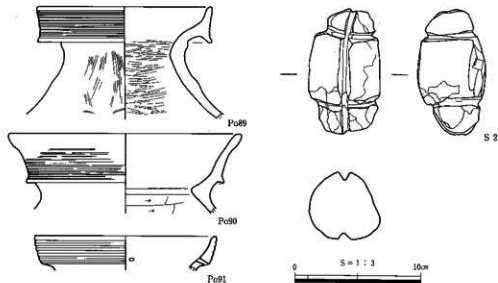


H=57.00m



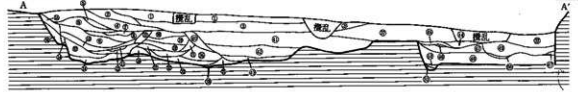
挿図112 S X 36遺構図

- 第2墓墳 平面形は隅丸長方形を呈し、検出できた規模は(2.95×0.77-0.4)mを測る。この底面で(1.75×0.43-0.1)mを測る埋葬部と思われる部分を検出した。この部分には土層断面から割板式の木棺が埋葬されていたと思われる。埋土は8層に分層できた。ほぼ東西軸。
- 第3墓墳 平面形は隅丸長方形を呈し、検出できた規模は(3.26×1.26-0.25)mを測る。埋土は6層に分層できた。ほぼ東西軸。
- 第4墓墳 第3墓墳、第5墓墳と切り合っており一部しか検出できなかった。
- 第5墓墳 第3墓墳、第4墓墳、第6墓墳、SK10とそれぞれ切り合う。検出できた規模は(3.36×2.0-0.39)mを測る。埋土は3層に分層できた。ほぼ南北軸。
- 第6墓墳 第5墓墳、第7墓墳と切り合う。墓墳掘り方は北側で2段に落ちるが、平面形は長方形を呈すると考えられる。検出できた規模は(4.47×2.53-0.6)mを測る。この底面で(2.98×0.76-0.35)mを測る埋葬部と思われる部分を検出した。この部分には土層断面から、船底形の木棺が埋葬されていたと思われる。埋土は12層に分層できた。埋葬部から鉄鎌F15が出土した。ほぼ東西軸。
- 第7墓墳 第6墓墳と切り合う。平面形は長方形を呈すると考えられ、検出できた規模は(2.9×0.94-0.47)mを測る。埋土は2層に分層できた。ほぼ南北軸。
- 第8墓墳 東側は調査区域外となるが、平面形は隅丸長方形を呈する。検出できた規模は(2.18×0.89-0.43)mを測る。平面形および土層断面から、この底面に(1.82×0.64-0.23)mを測る埋葬部があったと思われる。この部分には木棺状のものが埋葬されていた可能性がある。埋土は14層に分層できた。埋葬部から壺Po92が出土した。ほぼ東西軸。
- 第9墓墳 東側は調査区域外となるが、平面形は隅丸長方形を呈する。検出できた規模は(2.49×1.15-0.59)mを測る。平面形および土層断面から、この底面に(2.22×0.74-0.18)mを測る埋葬部があったと思われる。この部分には木棺状のものが埋葬されていた可能性がある。埋土は8層に分層できた。埋葬部から壺Po93、94と刀子F16が出土した。ほぼ東西軸。
- 第10墓墳 東側は調査区域外となるが、平面形は隅丸長方形を呈する。検出できた規模は(1.92×1.28-0.68)mを測る。この底面で(1.03×0.59-0.15)mを測る埋葬部と思われる部分を検出した。埋土は4層に分層できた。ほぼ東西軸。
- 第11墓墳 SX37北隅で検出した。平面形は不整な楕円形を呈し、検出できた規模は(61×57-45)cmを測る。この中には1壺Po95が正立するようにおさめられていた。
- 埋土 埋土は各墓墳、SI07、SK10のものも含め、70層に分層できた。土層断面から時期は確定できないが、SX41埋土を掘り込むピット状の遺構を確認した。



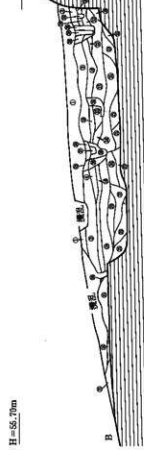
挿図113 SX37遺物実測図

H=54.90m

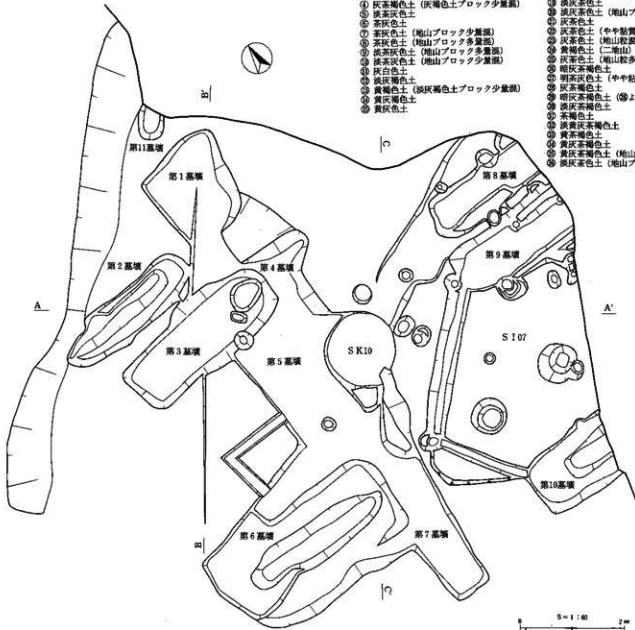


- ① 暗灰褐色土
- ② 灰褐色土 (赤褐色土ブロック多量混)
- ③ 灰褐色土 (赤褐色土ブロック少量混)
- ④ 灰褐色土 (赤褐色土ブロック少量混)
- ⑤ 灰褐色土
- ⑥ 赤褐色土 (地山ブロック少量混)
- ⑦ 赤褐色土 (地山ブロック少量混)
- ⑧ 赤褐色土 (地山ブロック少量混)
- ⑨ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ⑩ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ⑪ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ⑫ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ⑬ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ⑭ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ⑮ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ⑯ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ⑰ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ⑱ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ⑲ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ⑳ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ㉑ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ㉒ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ㉓ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ㉔ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ㉕ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ㉖ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ㉗ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ㉘ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ㉙ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ㉚ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ㉛ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ㉜ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ㉝ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ㉞ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ㉟ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ㊱ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ㊲ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ㊳ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ㊴ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ㊵ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ㊶ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ㊷ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ㊸ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ㊹ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ㊺ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ㊻ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ㊼ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ㊽ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ㊾ 赤褐色土 (赤褐色土)
- ㊿ 赤褐色土 (赤褐色土)

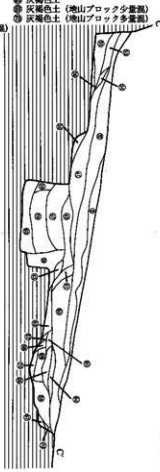
B



H=55.70m

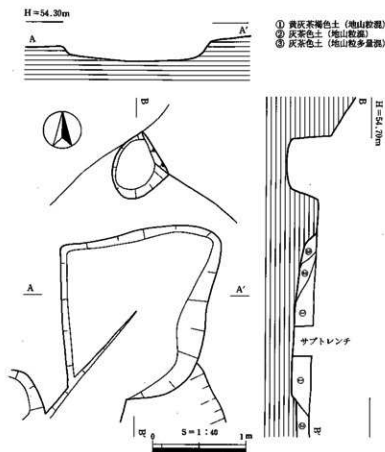


C

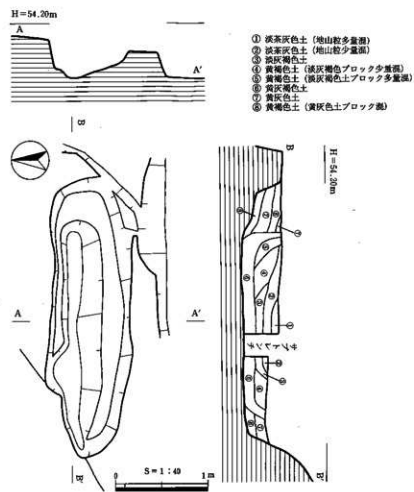


H=55.70m

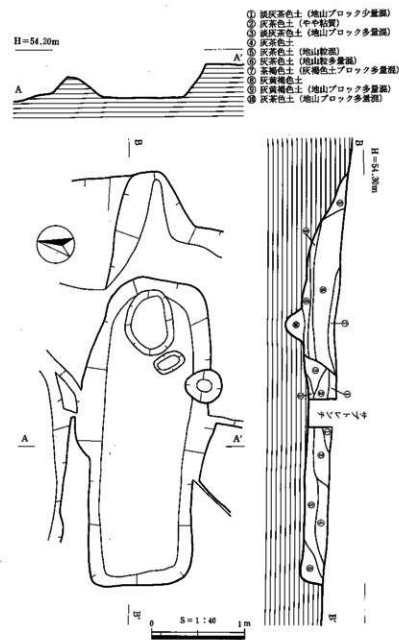
挿図114 S X 37遺構図



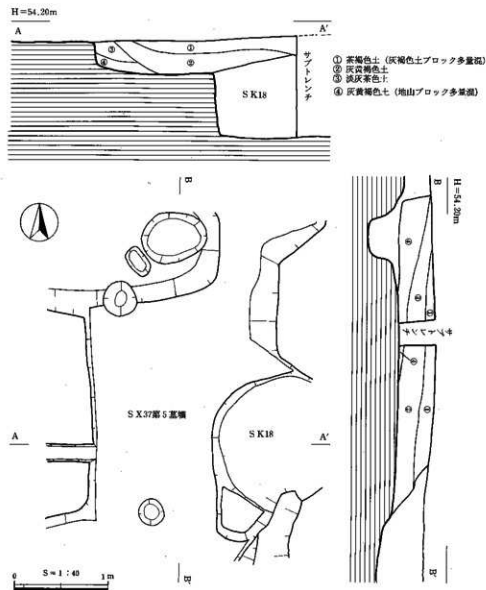
挿図115 第1墓塚遺構図



挿図116 第2墓塚遺構図



挿図117 第3墓塚遺構図



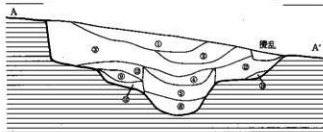
挿図118 S X 37第5墓墳遺構図

- 遺物 各墓墳出土遺物の他に、壺Po89、甕Po90・91などが埋土中より出土した。
 時期 出土した土器より、弥生時代後期から末と考えられる。

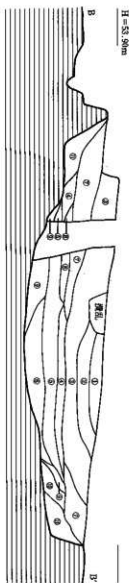
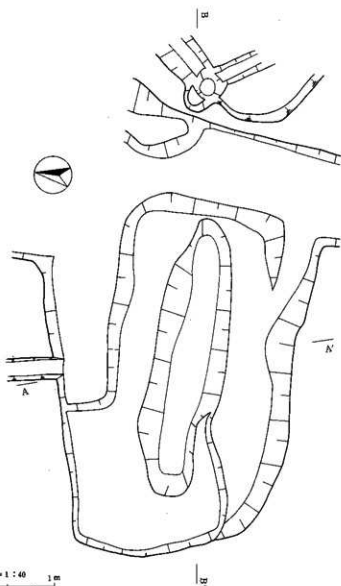
S X 38 (挿図126・付図8)

- 位置 D7、E7グリッドに位置する。3号墳丘墓東側周溝の東側に密集する土墳墓群の中にあり、S X 68と並列している。土墳墓群を検出した標高は57.0mである。
 形態 複数の土墳墓が重複しており、検出面で個々の平面形を捉えるに至らなかった。そのため、土墳墓群における個々の前後関係をふまえて掘り下げることができなかった。ここでは、土墳墓群の埋土完掘後の形態を記すにとどめる。ほぼ東西に軸をもち、隅丸長方形を呈する。北壁の一部から東、南壁にかけてゆるい段があり、底部は上面と比べて幅が狭まる。検出できた規模は上面で(3.0×1.2)mを測る。深さは0.6m以上である。底面には直径約15cmの5個の小ピットがある。また、S X 68との間にピットがあるが土墳墓に伴うものかどうかは不明である。

H = 54.10m



- ① 淡灰褐色土 (地山ブロック少量混)
- ② 淡灰茶色土 (地山ブロック少量混)
- ③ 灰茶褐色土
- ④ 淡茶灰色土 (やや軟膏)
- ⑤ 灰褐色土 (地山ブロック少量混)
- ⑥ 黄灰褐色土 (地山軟泥)
- ⑦ 茶灰色土
- ⑧ 淡茶灰色土 (やや軟膏・茶灰色土ブロック混)
- ⑨ 灰褐色土 (地山ブロック多量混)
- ⑩ 灰茶色土 (地山ブロック多量混)
- ⑪ 黄灰色土
- ⑫ 灰褐色土



挿図119 S X 37第6 墓塚遺構図

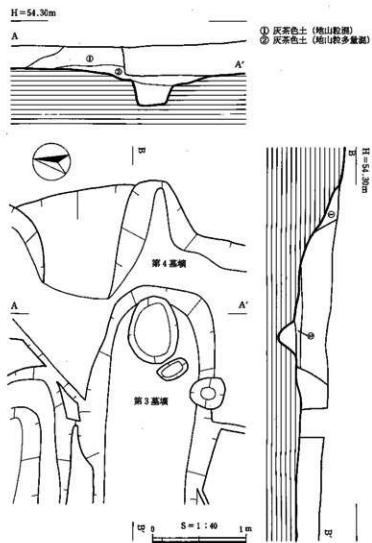


插图120 S X 37第4墓坑透视图

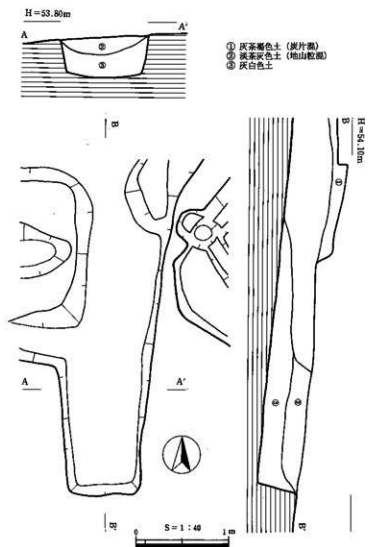


插图121 S X 37第7墓坑透视图

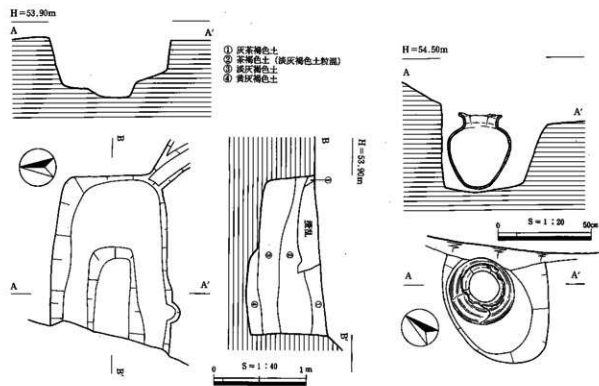
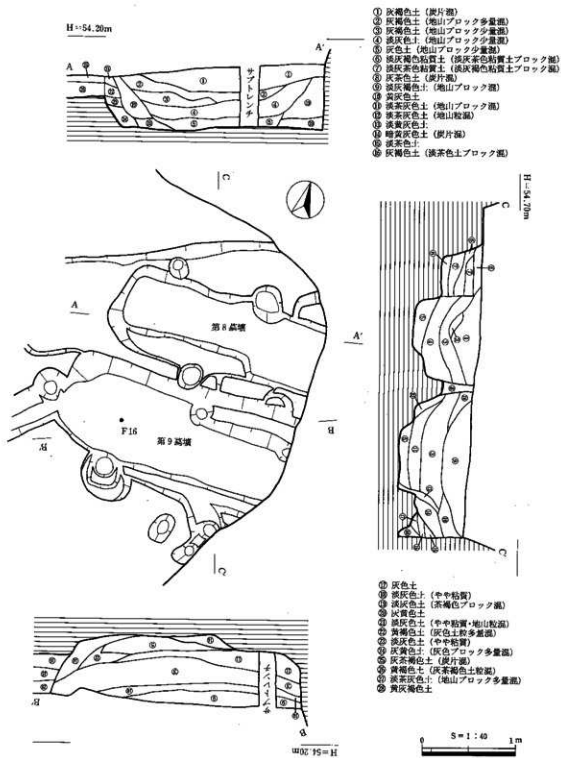


插图122 S X 37第10墓坑透视图

插图123 S X 37第11墓坑透视图



挿図124 S X37第8・9基壇遺構図

埋 土 平面形が全く検出できず、周辺の土墳墓と一括で掘り下げた。そのため埋土の地積を確認するに至らなかったが、埋土は全体的に暗灰褐色土で、底面付近ではシルト質であった。

遺 物 出土していない。

時 期 周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。

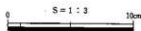
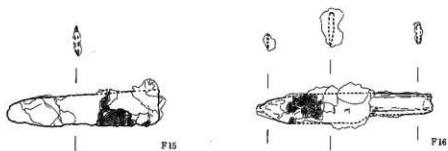
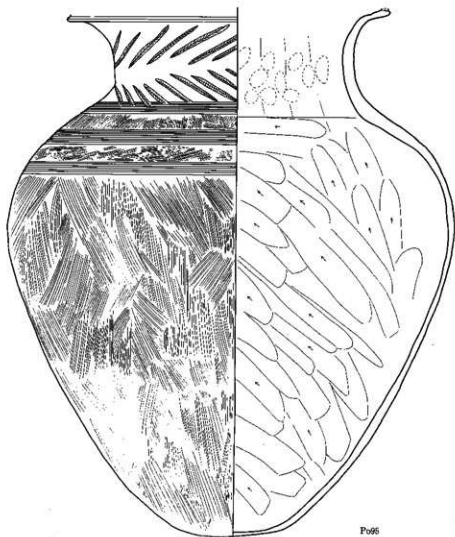
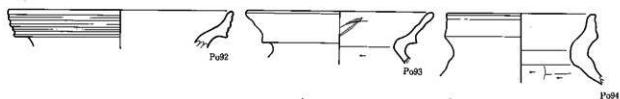
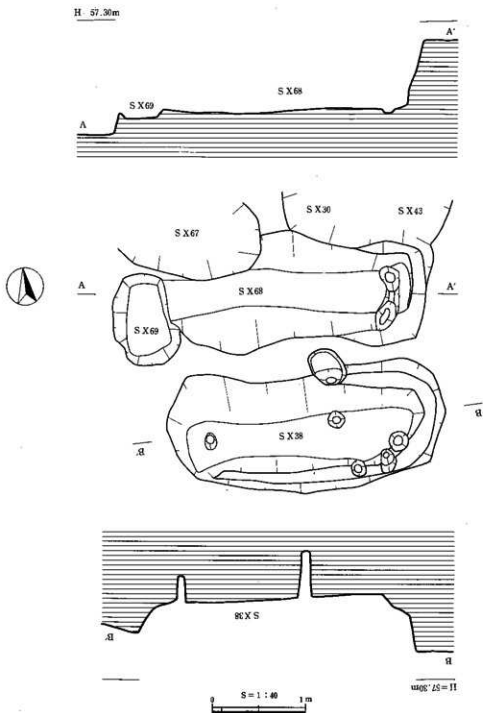


插图125 S X 37第6·第8·第9·第11墓坑遗物实测图



挿図126 S X 38・68・69遺構図

S X 39 (挿図127、128・付図8・図版25、37)

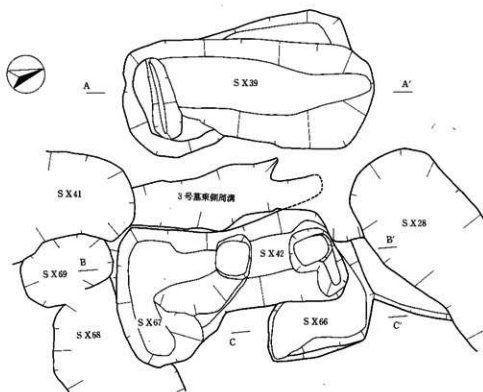
位 置 D 7グリッドに位置する。3号墳丘基東側周溝の東側に密集する土墳墓群の中にある。土墳墓群を検出した標高は57.0mである。

形 態 複数の土墳墓が重複しており、検出面で個々の平面形を捉えるに至らなかった。そのため、土墳墓群における個々の前後関係をふまえて掘り下げることはできなかった。ここでは、土墳墓群の埋土完掘後の形態を記すにとどめる。およそ南北に軸をもち、隅丸長方形を呈する。検出できた平面の規模は(2.65×1.1) mを測る。深さは検出面から約0.8mである。底面の南側には小口を設置したと思われる溝がある。片側にのみ小口をもつ土墳墓と考えられる。

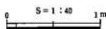
H = 58.20m



H = 57.80m



H = 57.00m

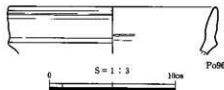


挿図127 SX39・42・66・67遺構図

埋土 平面形が全く検出できず、周辺の土墳墓と一括で掘り下げたが、土墳墓群を横断するように残した土層断面から埋土を確認することができた。埋土には①・②・③・④層の4層が認められた。また、本土墳墓を切る26層は平面では全く検出できなかったが、土墳墓もしくは土坑があったことを示すものと思われる。

遺物 埋土中で逆位に立てられている甕Po96を検出した。また、土器の北側に板状の石が立っていた。しかし、検出直後に倒壊し、出土状況を図化することができなかった。

時期 出土した土器から弥生時代後期と考える。



挿図128 S X 39遺物実測図

S X 40 (挿図129・図版25)

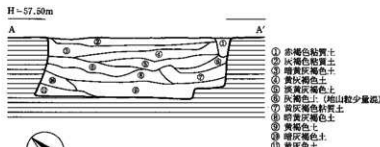
位置 E 7グリッドにあり、標高57.3mに位置する。

形態 軸はやや南北に振られているが、東西方向を意識していると思われる。平面形は隅丸長方形を呈すが、東側はやや突出する。検出できた規模は(2.4×0.8-0.6)mである。断面形は西側がやや下に広がり、底面中央部は一段落ち込む。形態から土墳墓と考えた。

埋土 11層の埋土が認められた。ほぼ水平堆積である。断面形からは木棺が設置してあった可能性もあるが、堆積からは判断できない。

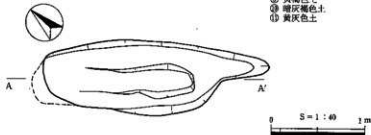
遺物 出土していない。

時期 周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。



S X 41 (挿図130、131・付図8、9・図版26、37)

位置 D 7グリッドにあり、標高57.1mである。3号墳丘墓東側周溝上に掘り込まれており、東側周溝北端部に位置する。



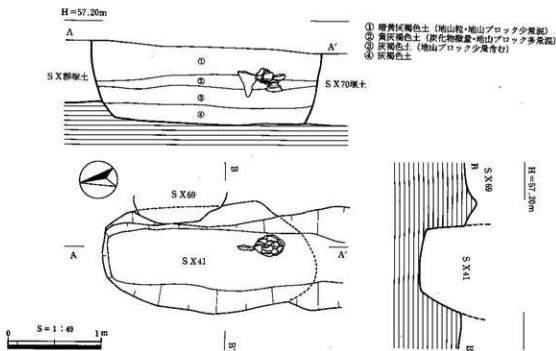
挿図129 S X 40遺構図

形態 平面形を検出することはできなかった。3号墳丘墓東側周溝及び東側周溝に接する土墳墓群掘り下げ中に埋葬された。土器を検出したことで土墳墓であることを確認した。複数の土墳墓が密集して造られているが、S X 41はそれらを切り込んでいた。平面形は南北に軸をもち隅丸長方形を呈す。土墳墓群完掘後の平面規模は(2.2以上×1.1以上)mを測る。深さは、土墳墓群検出面より1mである。遺物の埋納状況は、埋土中に土器が逆位に立てられ、その北側には板状の石が立ってあった。土器の埋納はS X 06と似るが、蓋石はなかった。

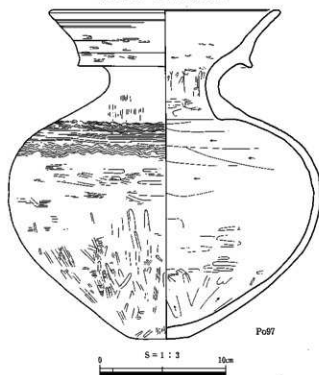
埋土 土墳墓群掘り下げのために入れたサブトレンチに残った壁で確認したところ、4層の水平堆積が認められた。③層上面には、土器が逆位で置かれ、板状の石が立ってあった。

遺物 甕Po97が出土した。

時期 S X 67を切る。出土した土器から弥生時代後期と考えられる。



挿図130 S X 41遺構図



挿図131 S X 41遺物実測図

S X 42 (挿図127・付図8)

位置 D7グリッドに位置する。3号墳丘墓東側周溝の東側に密集する土壌墓群の中にある。S X 66を切り、S X 67と重複する。土壌墓群を検出した標高は57.0mである。

形態 複数の土壌墓が重複しており、検出面で個々の平面形を捉えるに至らなかった。そのため、土壌墓群における個々の前後関係をふまえて掘り下げることはできなかった。ここでは、土壌墓群の埋土完

掘後の形態を記すにとどめる。およそ南北に軸をもち隅丸長方形を呈する。平面の規模は(2.4以上×0.9以上-0.5以上)mを測る。底面の北側には小口を設置したと思われる溝がある。片側にのみ小口をもつ土壇墓と考えられる。

埋土 平面形が全く検出できず、周辺の土壇墓と一括で掘り下げたが、土壇墓群を横断するように残した土層断面から埋土を確認することができた。埋土は⑥・⑦・⑧・⑨層の4層が認められた。

遺物 遺物は出土していない。

時期 土層断面よりSX30・67に切られていることが判る。このことと、周辺遺構との関係から弥生時代後期と考えられる。

S X 43 (押図104・付図8)

位置 E7グリッドに位置する。3号墳丘墓東側周溝の東側に密集する土壇墓群の中にあり、SX38と並列するように重複している。土壇墓群を検出した標高は57.0mである。

形態 複数の土壇墓が重複しており、検出面で個々の平面形を捉えるに至らなかった。そのため、土壇墓群における個々の前後関係をふまえて掘り下げることができなかった。ここでは、土壇墓群の埋土完掘後の形態を記すにとどめる。およそ南北に軸をもち隅丸長方形を呈する。規模は(2.3以上×0.9以上-0.3以上)mである。南北の両端に小口を設置したと思われる溝がある。

埋土 平面形が全く検出できず、周辺の土壇墓と一括で掘り下げたが、土壇墓群を横断するように残した土層断面から埋土を確認することができた。埋土は⑩・⑪層の2層が認められた。小口に相当する部分に木質の痕跡は認められなかった。

遺物 出土していない。

時期 土層断面よりSX30に切られていることが判る。周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。

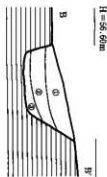
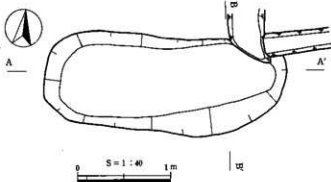
S X 44 (押図132・図版26)

位置 E9、F9グリッドにあり、標高56.25mに位置する。SX45と並列している。南側にはSD03がある。

II = 56.60m



① 黄灰褐色土 (灰色粘土ブロック多量混入)
② 黄灰褐色土
③ 黄灰褐色土 (シルトに近い)



押図132 S X 44遺構図

形態 上面は果樹園の攪乱により遺存状態は悪い。平面形は隅丸長方形を呈し、主軸を東西にもつ。検出できた規模は、(2.5×1.0-0.5) mを測る。付近には方形周溝墓の存在が確認されており、南側のS D03との位置的關係を考えると、方形周溝墓主体部の可能性がある。

埋土 埋土は3層に分層できた。

遺物 埋土中より鉄製品の小片が出土したが図化できなかった。

時期 周囲の遺構との関係から弥生時代後期と考えられる。

S X 45 (挿図133・図版26)

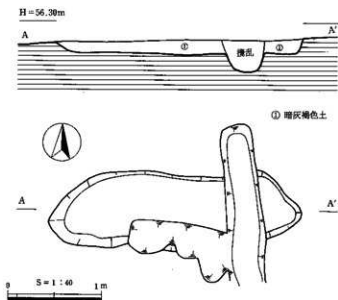
位置 E 9、F 9グリッドにあり、標高56.15mに位置する。S X 44と並列している。南側にはS D03がある。

形態 上面は果樹園の攪乱により削平され遺存状態は非常に悪い。平面形は隅丸長方形を呈し、主軸を東西にもつ。検出規模は、(2.68×0.8-0.16) mを測る。付近には方形周溝墓の存在が確認されており、南側のS D03との位置的關係を考えると、方形周溝墓主体部の可能性がある。

埋土 埋土は暗灰褐色土の1層である。

遺物 出土しなかった。

時期 周囲の遺構との関係から弥生時代後期と考えられる。



挿図133 S X 45遺構図

S X 46 (挿図134・図版26)

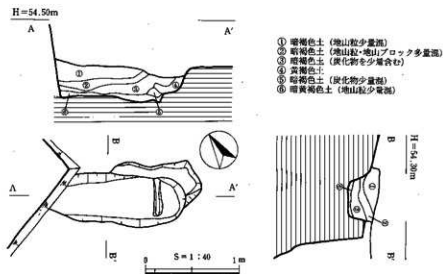
位置 調査区北側、E10グリッドにあり、S I 01北西部の埋土を掘り込む形でつくられている。

形態 やや南北に振った東西軸を持つ隅丸方形の土壌墓で、東側に小口を持つ。北西側は調査区外のため長軸の長さは不明であるが、確認できる範囲の規模は長軸1.4m以上、短軸約0.7m、深さ約0.3mであった。

埋土 埋土は6層が確認された。

遺物 弥生土器細片が出土した。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から弥生時代後期と考えられる。



挿図134 S X 46遺構図

S X 47 (挿図135・図版26)

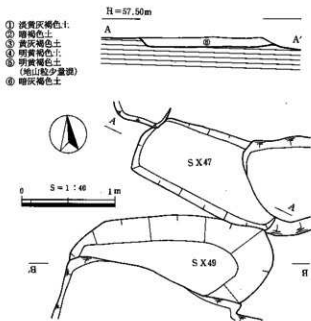
位置 D 7グリッドにあり、標高57.1mで検出した。3号墳丘墓上に位置する。

形態 攪乱を受けており、依存状況は悪い。およそ東西に軸をもち隅丸長方形を呈する。上面の規模は(2.1以上×0.9以上)m、底面(1.6以上×0.6以上)mを測る。残存する深さは0.25mである。土層断面より木棺墓と思われる。

埋土 5層の埋土が確認された。②層は木棺の痕跡と思われる。

遺物 出土していない。

時期 3号墳丘墓上に位置することから弥生時代後期と思われる。



S X 48 (挿図136・図版26)

位置 D 7グリッドにあり、標高57.1mで検出した。3号墳丘墓上に位置する。

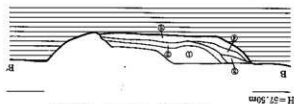
形態 かなり攪乱を受けているが、依存状況は良好であった。およそ東西に軸をもち、平面形はT字状を呈す。長軸3m、短軸中央部で0.9m、西端部で1.3mを測る。深さは

0.4m、西端部は二段に落ち込み、最深部は検出面から0.6mを測る。

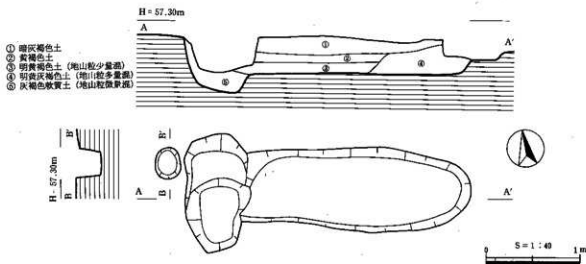
埋土 5層の埋土が確認された。西側にある落ち込み⑤層はS X 48より古いピットの可能性も考えられる。④層は埋葬部を形成するものと思われる。土層断面から木棺の可能性もある。

遺物 出土していない。

時期 3号墳丘墓上に位置することから弥生時代後期と思われる。



挿図135 S X 47・49遺構図



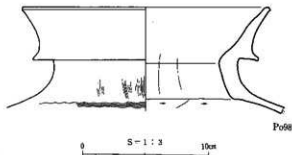
挿図136 S X 48遺構図

S X 49 (挿図135・図版26)

- 位置 D 7グリッドにあり、標高57.1mで検出した。3号墳丘墓上に位置する。
 形態 攪乱を受けており、依存状況は悪い。およそ東西に軸をもち、隅丸長方形を呈する。残存する規模は(1.6×0.9-0.1)である。
 埋土 1層残っているにすぎなかった。
 遺物 出土していない。
 時期 3号墳丘墓上に位置することから弥生時代後期と思われる。

S X 50 (挿図137・付図9・図版37)

- 位置 D 6グリッドにあり、標高56.9mで検出した。3号墳丘墓東側周溝上に位置する。
 形態 周溝内には複数の土壇墓が重複しており、検出面で個々の平面形を捉えるに至らなかったが、土層断面により切り合い関係を確認することができた。規模は土層断面及び埋土完掘後の形態により推定して記すことにした。主軸を南北にもち、平面形は隅丸長方形を呈すと考えられる。規模は(1.6以上×1.1-0.8)mを測る。
 埋土 埋土は、⑨~⑬の5層に分層できたが、⑨層については完掘後の平面形からS X 50以前に掘り込まれていた土壇墓埋土の可能性があり、切り合い関係については、S X 71埋土⑩層上面から切り込んでおり、⑨層上面からS X 51に切り込まれている。
 遺物 ⑨層中より出土した埴Po98を図化した。
 時期 周囲の遺構との関係から弥生時代後期と考えられる。



挿図137 S X 50遺物実測図

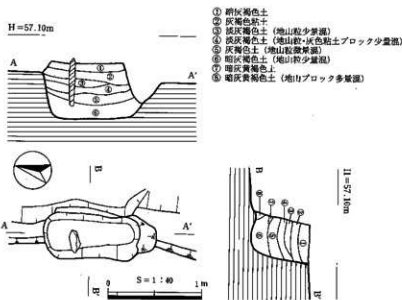
S X 51 (付図9)

- 位置 D 6・7グリッドにあり、標高56.9mで検出した。3号墳丘墓東側周溝上に位置する。
 形態 周溝内には複数の土壇墓が重複しており、検出面で個々の平面形を捉えるに至らなかったが、土層断面により切り合い関係を確認することができた。規模は土層断面及び埋土完掘後の形態により推定して記すことにした。主軸を南北にもち、平面形は隅丸長方形を呈すと考えられる。規模は(1.6以上×1.45-0.85)mを測る。
 埋土 埋土は、④~⑧の5層に分層できた。⑧層はシルト質であった。切り合い関係については、S X 50埋土⑨層上面から切り込んでおり、④層上面からS X 70に切り込まれている。
 遺物 出土しなかった。
 時期 周囲の遺構との関係から弥生時代後期と考えられる。

S X 52 (挿図138)

- 位置 D 6グリッドにあり、標高56.8mに位置する。3号墳丘墓東側周溝内S X 72と重複している。
 形態 上面は果樹園の攪乱を受けていた。掘り方は、3号墳丘墓東側周溝西壁を大きく削り込んでいた。平面形は隅丸長方形を呈し、主軸をやや北西に振るものの南北にもつ。検出できた規模は、(1.0×0.48-0.55)mを測る。墓墳内北側に⑥層上面より板石が立てられていた。
 埋土 埋土は8層に分層できた。
 遺物 埋土中より土器細片が出土したが図化できなかった。

時期 周囲の遺構との関係から弥生時代後期と考えられる。



挿図138 S X 52遺構図

S X 53 (挿図139・図版27)

- 位置 B 6グリッドにあり、標高56.0mで検出した。3号墳丘基西側周溝上に位置する。
- 形態 南北に軸をもつ長方形を呈す。検出規模は長軸3.7m、幅は1.5m以上、深さ0.3mを測る。
- 埋土 3層の埋土が堆積していた。
- 遺物 出土していない。
- 時期 3号墳丘基西側周溝を切っていることが土層断面から判断できる。周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。

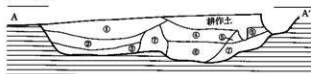
S X 54 (挿図140)

- 位置 C 4グリッドにあり、調査区南側の緩斜面上、53.6m付近に位置する。S X 55の北側に隣接し、S K12と重複している。
- 形態 S K12と切り合っているため全体形は把握できなかったが、平面形はほぼ隅丸長方形を呈するものと思われる。検出できた規模は(1.5以上×1.0-0.4)mを測る。
- 遺物 土器片数点が出土したが、図化できなかった。
- 時期 出土遺物と周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。

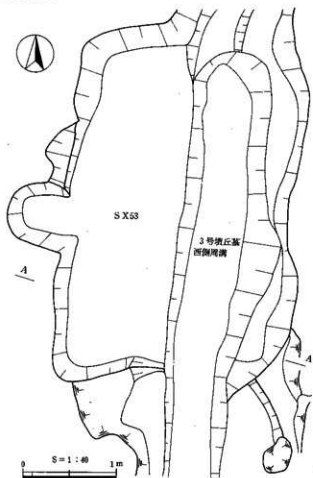
S X 55 (挿図140)

- 位置 C 3・4グリッドにあり、調査区南側の緩斜面上、53.3m付近に位置する。S X 54の南側に位置し、S K12と重複している。
- 形態 S K12と切り合っているため全体形は把握できなかったが、平面形はほぼ隅丸長方形を呈するものと思われる。検出できた規模は(1.5以上×0.8-0.25)mを測る。
- 遺物 出土していない。
- 時期 周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。

H = 56.30m



- ① 暗黄灰褐色土 (地山較少量混) ⑤ 灰褐色土 (地山較少量混)
② 暗黄灰褐色土 (地山較多量混) ⑥ 赤赤灰色粘土
③ 暗灰褐色土 ⑦ 灰褐色土 (地山較多量混)
④ 黄灰褐色土



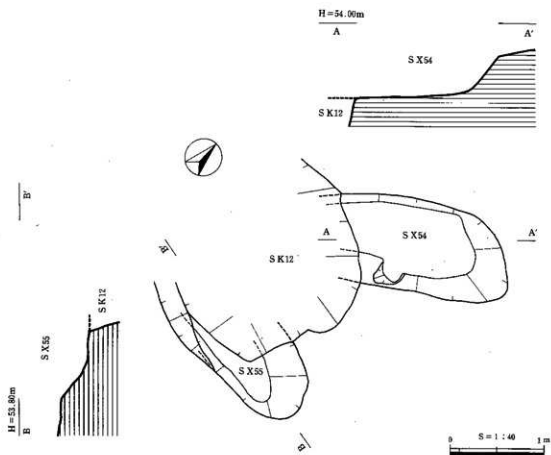
挿図139 S X 53遺構図

S X 56 (挿図141・図版27)

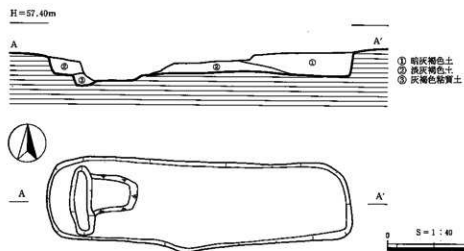
- 位置 E 8 グリッドにあり、標高57.1mに位置する。すぐ東側にはS X 57がある。
- 形態 擾乱を受けており依存状況は悪い。およそ東西に軸をもち、隅丸長方形を呈する。残存する規模は(3.2×0.9-0.25) mである。底面西側には小口を設置したと思われる溝があり、片側に小口をもつ土墳墓と考えられる。
- 埋土 埋土は3層に分層できた。
- 遺物 出土していない。
- 時期 周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。

S X 57 (挿図142・図版27)

- 位置 E 8 グリッドあり、標高57.1mに位置する。すぐ西側にはS X 56がある。



挿図140 S X 54・55遺構図



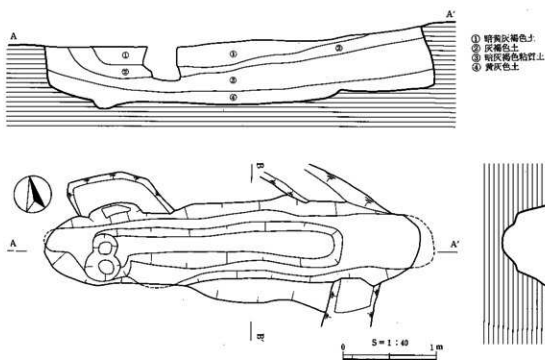
挿図141 S X 56遺構図

形 態 攪乱を受けており依存状況は悪い。およそ東西に軸をもち、隅丸方形を呈する。底面に低い落ち込みがあり、断面形は逆凸字状を呈し、長軸の断面形は下に向かってやや広がる。上面の規模は(4×1.1)mを測る。深さは最深部で0.7mである。

埋 土 4層の埋土が認められた。ほぼ水平堆積である。遺構の断面形から木棺墓の可能性も考えられるが、埋土の堆積状況からは判断できなかった。

遺物 出土していない。
 時期 周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。

II=57.40m

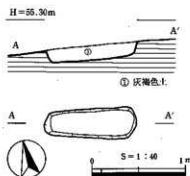


- ① 暗褐色褐色土
- ② 灰褐色土
- ③ 暗灰褐色粘質土
- ④ 黄灰色土

挿図142 S X 57遺構図

S X 58 (挿図143)

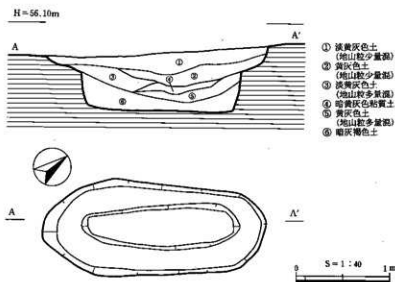
位置 D 9グリッドにあり、標高56.0mに位置する。
 形態 上面は削平されており、依存状況は悪い。およそ東西に軸をもち、隅丸方形を呈する。残存する規模は(1×0.3-0.2)mである。形態から土墳墓と思われる。
 埋土 1層残っているにすぎなかった。
 遺物 出土していない。
 時期 周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。



挿図143 S X 58遺構図

S X 59 (挿図144・図版28)

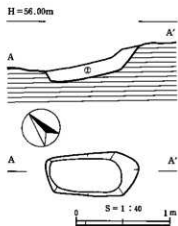
位置 C 8グリッドにあり、標高55.9mで検出した。3号墳丘基西側周溝北端部のすぐ東側に位置する。
 形態 平面形はおおよそ南北に軸をもつ楕円形である。断面形は二段に落ち込む。検出できた規模は(2.4×1-0.6)mを測る。
 埋土 6層の埋土が認められた。埋土の堆積状況及び断面形態から⑥層上に刳抜式の木棺が設置してあった可能性も考えられる。
 遺物 出土していない。
 時期 周辺の遺構との関係から弥生時代後期と考えられる。



挿図144 S X 59遺構図

S X 60 (挿図145・図版28)

- 位置 C 8グリッドにあり、標高55.7mに位置する。
 形態 やや東西に振れているが軸は南北を意識していると思われる。平面形は隅丸長方形を呈する。検出できた規模は(1×0.4)mを測る。上面は攪乱を受けており、明確な深さは不明であるが、北側がやや深く0.4m程度と思われる。
 埋土 1層であった。
 遺物 出土していない。
 時期 周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。



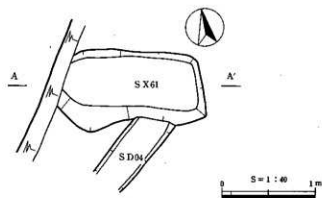
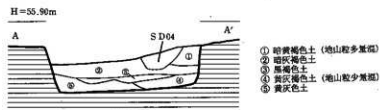
挿図145 S X 60遺構図

S X 61 (挿図146・図版28)

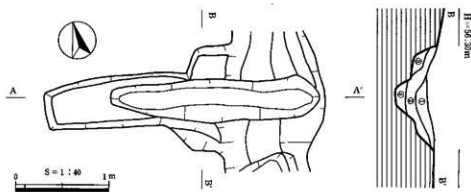
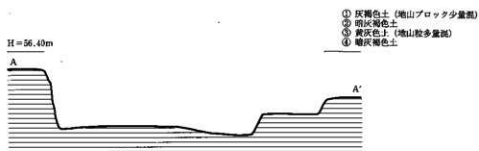
- 位置 調査区の西側、B 8、C 8グリッドにあり、標高55.6mに位置する。SD04と一部重複する。
 形態 およそ南北に軸をもつ隅丸長方形を呈する。西側は調査区の壁と接する為、長軸の規模は明らかでないが(1.4以上×0.7-0.5)mを測る。平面形および土層断面より土墳墓と考えられる。
 埋土 SD04に東側の一部を切られているが、埋土は5層に分層できた。
 遺物 出土していない。
 時期 周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。

S X 62 (挿図147)

- 位置 B 7グリッドにあり、標高56.1mで検出した。3号墳丘墓西側周溝上に位置する。
 形態 東西に長い長方形である。断面形は二段に落ち込みむ。検出できた規模は(3×0.55-0.5)mを測る。
 埋土 4層の埋土が認められた。木棺を示す堆積は認められないが、断面形から考えると木棺墓の可能性はある。
 遺物 出土していない。
 時期 周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。また、3号墳丘墓西側周溝上に位置することから、3号墳丘墓より新しい。



押図146 S X 61遺構図



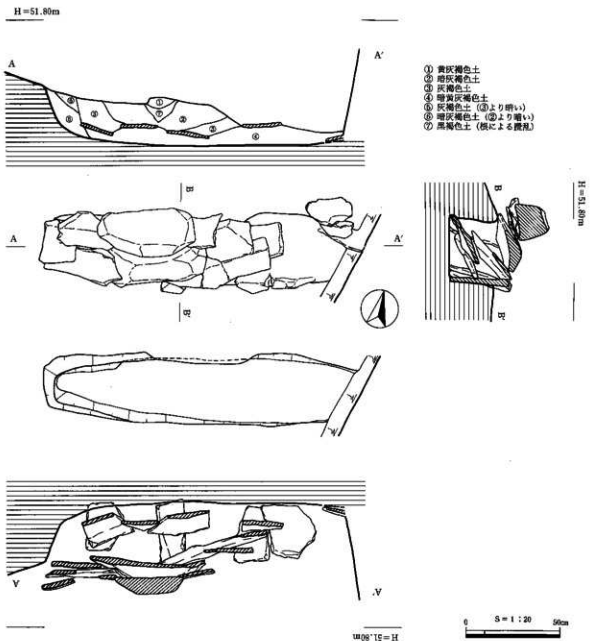
押図147 S X 62遺構図

S X 63 (押図148・図版28、29)

位置 調査区南端、C1グリッドにあり、1号墳丘基の周溝内に南東側突出部と平行する形でつくられている。

形態 ほぼ東西方向に軸を持つ箱式石棺であるが、小口状の石材は検出されなかった。北側の側板は棺内に向けて倒れていた。掘り方は隅丸方形を呈し、東側は調査区外のため長軸の長さは不明であるが、確認できる範囲の規模は長軸1.6m以上、短軸約0.35m、深さ約0.25mであった。

- 埋土 埋土は6層が確認された。
 遺物 図化できる遺物は出土しなかった。
 時期 周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。



挿図148 S X 63遺構図

S X 64 (挿図102・付図8)

- 位置 D7グリッドに位置する。3号墳丘基東側周溝の東側に密集する土壌墓群の中にあり、S X 28に切られる。土壌墓群を検出したした標高は57.0mである。
- 形態 複数の土壌墓が重複しており、検出面で個々の平面形を捉えるに至らなかった。そのため、土壌墓群における個々の前後関係をふまえて掘り下げることはできなかった。ここでは、土壌墓群の埋土完掘後の形態を記すにとどめる。およそ東西に軸をもつ隅丸方形を呈する。規模は(1.5以上×0.7以上-0.3以上)mを測る。
- 埋土 平面形が全く検出できず、周辺の土壌墓と一括で掘り下げた。そのため埋土の堆積を確認するに至

らなかった。埋土は全体的に暗灰褐色土であった。

遺物 出土していない。
時期 周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。

S X 65 (挿図102・付図8)

位置 D 7グリッドに位置する。3号墳丘基東側周溝の東側に密集する土壌墓群の中にあり、S X 28に切られる。土壌墓群を検出した標高は57.0mである。
形態 複数の土壌墓が重複しており、検出面で個々の平面形を捉えるに至らなかった。そのため、土壌墓群における個々の前後関係をふまえて掘り下げることができなかった。ここでは、土壌墓群の埋土完掘後の形態を記すにとどめる。およそ東西に軸をもつ隅丸方形を呈する。規模は(1以上×0.7以上-0.3以上)mを測る。小型の土壌墓と思われる。
埋土 平面形が全く検出できず、周辺の土壌墓と一括で掘り下げた。そのため埋土の堆積を確認するに至らなかったが、埋土は全体的に暗灰褐色土であった。
遺物 埋土中で30cm程の礫を検出した。他に遺物は出土していない。
時期 周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。

S X 66 (挿図127・付図8)

位置 D 7グリッドに位置する。3号墳丘基東側周溝の東側に密集する土壌墓群の中にあり、S X 42に切られる。土壌墓群を検出した標高は57.0mである。
形態 複数の土壌墓が重複しており、検出面で個々の平面形を捉えるに至らなかった。そのため、土壌墓群における個々の前後関係をふまえて掘り下げることができなかった。ここでは、土壌墓群の埋土完掘後の形態を記すにとどめる。およそ南北に軸をもつ隅丸方形を呈する。規模は(1.1以上×0.7以上-0.3以上)mを測る。小型の土壌墓と思われる。
埋土 平面形が全く検出できず、周辺の土壌墓と一括で掘り下げたが、土壌墓群を横断するように残した土層断面から埋土を確認することができた。埋土は㊸層の一層であった。
遺物 出土していない。
時期 土層断面よりS X 42に切られていることが判る。周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。

S X 67 (挿図127・付図8)

位置 D 7グリッドに位置する。3号墳丘基東側周溝の東側に密集する土壌墓群の中にあり、S X 42に重複する。土壌墓群を検出した標高は57.0mである。
形態 複数の土壌墓が重複しており、検出面で個々の平面形を捉えるに至らなかった。そのため、土壌墓群における個々の前後関係をふまえて掘り下げることができなかった。ここでは、土壌墓群の埋土完掘後の形態を記すにとどめる。およそ南北に軸をもつ隅丸方形を呈する。規模は(1.5以上×0.8以上-0.3以上)mを測る。小型の土壌墓と思われる。
埋土 平面形が全く検出できず、周辺の土壌墓と一括で掘り下げたが、土壌墓群を横断するように残した土層断面から埋土を確認することができた。埋土は㊸・㊹・㊺層の3層が堆積していた。
遺物 出土していない。
時期 土層断面よりS X 42を切り、S X 41に切られていることが判る。周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。

S X 68 (挿図126・付図8)

- 位置 D7、E7グリッドに位置する。3号墳丘墓東側周溝の東側に密集する土壌墓群の中にあり、S X 67・69と重複する。土壌墓群を検出した標高は57.0mである。
- 形態 複数の土壌墓が重複しており、検出面で個々の平面形を捉えるに至らなかった。そのため、土壌墓群における個々の前後関係をふまえて掘り下げることができなかった。ここでは、土壌墓群の埋土完掘後の形態を記すにとどめる。およそ東西に軸をもつ隅丸方形を呈する。規模は(2.7以上×1.1以上)mを測る。深さは土壌墓群検出面から0.8mである。底面の東側には小口を設置したと思われる溝がある。この溝の南北両端はピット状に落ち込む。片側にのみ小口をもつ土壌墓と考えられる。
- 埋土 平面形が全く検出できず、周辺の土壌墓と一括で掘り下げた。そのため埋土の堆積を確認するに至らなかったが、埋土は全体的に暗灰褐色土であった。
- 遺物 出土していない。
- 時期 周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。

S X 69 (挿図126・付図8)

- 位置 D7グリッドに位置する。3号墳丘墓東側周溝の東側に密集する土壌墓群の中にあり、S X 68と重複する。土壌墓群を検出した標高は57.0mである。
- 形態 複数の土壌墓が重複しており、検出面で個々の平面形を捉えるに至らなかった。そのため、土壌墓群における個々の前後関係をふまえて掘り下げることができなかった。ここでは、土壌墓群の埋土完掘後の形態を記すにとどめる。およそ南北に軸をもつ隅丸方形を呈する。規模は(1以上×0.6以上-0.1以上)mを測る。小型の土壌墓と思われる。
- 埋土 平面形が全く検出できず、周辺の土壌墓と一括で掘り下げた。そのため埋土の堆積を確認するに至らなかったが、埋土は全体的に暗灰褐色土であった。
- 遺物 出土していない。
- 時期 周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。

S X 70 (付図9)

- 位置 D7グリッドにあり、標高56.9mで検出した。3号墳丘墓東側周溝上に位置する。
- 形態 周溝内には複数の土壌墓が重複しており、検出面で個々の平面形を捉えるに至らなかったが、土層断面により切り合い関係を確認することができた。規模は土層断面及び埋土完掘後の形態により推定して記すことにした。主軸を南北にもち、平面形は隅丸長方形を呈すと考えられる。規模は(1.1以上×1.1-0.7)mを測る。
- 埋土 埋土は、①-③の3層に分層できた。切り合い関係については、南側のS X 51埋土④層上面から切り込んでおり、①層上面から北側のS X 41に切り込まれている。
- 遺物 出土しなかった。
- 時期 周囲の遺構との関係から弥生時代後期と考えられる。

S X 71 (付図9)

- 位置 D6グリッドにあり、標高56.9mに位置する。3号墳丘墓東側周溝上に位置する。
- 形態 周溝内には複数の土壌墓が重複しており、検出面で個々の平面形を捉えるに至らなかったが、土層断面により切り合い関係を確認することができた。規模は土層断面及び埋土完掘後の形態により推定して記すことにした。主軸を南北にもち、平面形は隅丸長方形を呈すと考えられる。規模は(1.5以上×0.9以上-0.7)mを測る。

- 埋土 埋土は、⑩～⑬の5層に分層できた。切り合い関係については、南側は、上面をSX02に切り込まれており、SX72埋土⑭層上面から切り込んでいる。北側は、⑭層上面からSX50に切り込まれており、SX71の掘り方を北側⑩・⑪層で確認することはできなかった。
- 遺物 出土しなかった。
- 時期 周囲の遺構との関係から弥生時代後期と考えられる。

SX72 (付図9)

- 位置 D6グリッドにあり、標高56.9mに位置する。3号墳丘基東側周溝上に位置する。
- 形態 周溝内には複数の土墳墓が重複しており、検出面で個々の平面形を捉えるに至らなかったが、土層断面により切り合い関係を確認することができた。規模は土層断面及び埋土完掘後の形態により推定して記すことにした。主軸を南北にもち、平面形は隅丸長方形を呈すと考えられる。規模は(1.2×1.1-0.7)mを測る。
- 埋土 埋土は、②～⑦の8層に分層できた。切り合い関係については、南側は、3号墳丘基東側周溝埋土⑧層上面から切り込んでいる。北側は上面をSX02に切り込まれており、②層上面からSX71に切り込まれている。
- 遺物 出土しなかった。
- 時期 周囲の遺構との関係から弥生時代後期と考えられる。

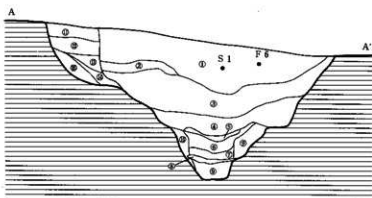
SX73 (挿図63、149・図版39、40)

- 位置 調査区南側、C3、D3グリッドにあり、標高52.1m付近に位置する。2号墳丘基の北側周溝内に周溝と平行する形でつくられている。
- 形態 周溝掘り下げ中に検出することができず、完掘後に平面形および土層断面で確認した。東端が調査区外のため全体形を把握することはできなかったが、平面形はほぼ東西に軸を持つ隅丸長方形を呈すると思われる。検出規模は長軸1.5m以上、短軸1.3mを測る。掘り込み面は確定できなかったが、自然堆積と思われる上部堆積を除けば、深さは約0.7mである。
- 埋土 調査区東壁断面で埋土を15層確認した。この内、当遺構に関する埋土は④～⑩層と思われる。
- 遺物 図化できる遺物は出土しなかった。なお、上層の埋土から磨製石斧S1、袋状鉄斧F6が出土している。
- 時期 周溝との切り合い関係、および周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。

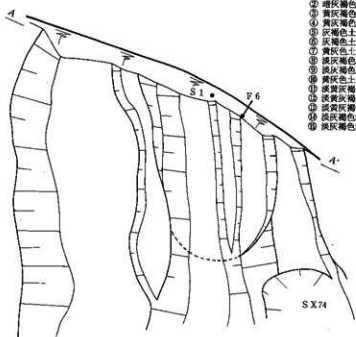
SX74 (挿図150)

- 位置 調査区南側、C3グリッドにあり、標高52m付近に位置する。2号墳丘基の北側周溝に沿って、墳丘を掘り込む形でつくられている。
- 形態 周溝掘り下げ中に検出することができなかったため、完掘後に平面形と土層断面から確認した。検出できた平面形は、ほぼ東西軸に沿った隅丸長方形を呈する。墳墓を掘り込んでつくっており、その際に2号墳丘基の墳丘を削り取ったものと思われる。確認できる範囲の規模は長軸2.8m以上、短軸約1.1m、深さは約1mである。
- 埋土 土層断面では7層が確認された。このうち、⑤・⑥層が当遺構に伴う埋土と思われる。②～④層は不自然な堆積をしており、別の土墳墓か溝が切り込んでいる可能性も考えられる。
- 遺物 図化できる遺物は出土しなかった。
- 時期 周辺の遺構との関係から弥生時代後期と考えられる。

H=53.30m



- ① 暗灰褐色土 (①より暗く、粘土粒多量混)
- ② 暗灰褐色土 (地山較多量混)
- ③ 黄灰褐色土 (地山較多量混)
- ④ 黄灰褐色土 (地山較多量混)
- ⑤ 灰褐色土 (やや粘質で炭化物混)
- ⑥ 灰褐色土 (地山ブロック多量混)
- ⑦ 黄灰土 (地山ブロック混)
- ⑧ 黄灰褐色粘質土
- ⑨ 黄灰褐色土 (地山ブロック多量混)
- ⑩ 黄灰土 (地山ブロック多量混)
- ⑪ 淡黄灰褐色土 (地山ブロック混)
- ⑫ 淡黄灰褐色土 (地山ブロック・粘土粒少量混)
- ⑬ 淡黄灰褐色土 (暗灰色粘質土・ブロック多量混)
- ⑭ 淡灰褐色粘質土
- ⑮ 淡灰褐色粘質土 (地山ブロック混)



挿図149 S X 73遺構図

S X 75 (挿図151)

位置 調査区南側、C 3 グリッドにあり、標高52.3m付近に位置する。2号墳丘墓の北側周溝、および西側周溝と重複する形でつくられている。

形態 掘り込み面で確認できなかつたため、完掘後に平面形から確認した。平面形は南西側がやや影らんだ隅丸方形を呈し、やや南北に振った東西軸に沿っている。検出規模で(2.3×1.25~0.7) mを測る。

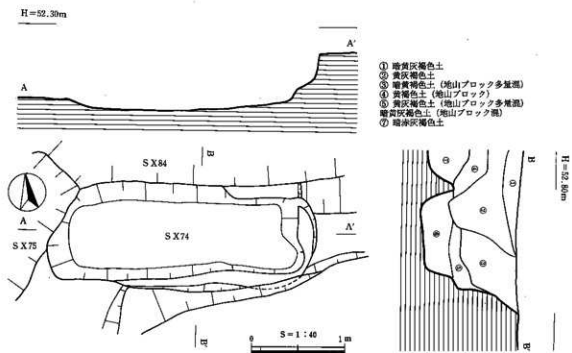
遺物 図化できる遺物は出土しなかつた。

時期 周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。

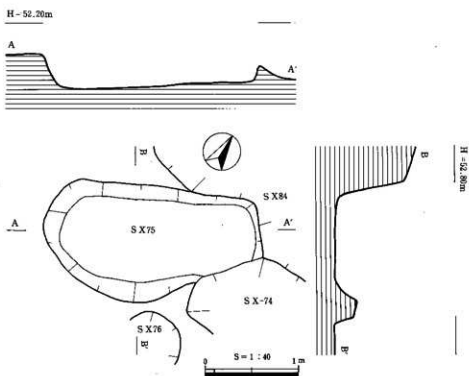
S X 76 (挿図152)

位置 調査区南側、C 2 グリッドにあり、52.3m付近に位置する。2号墳丘墓の北西端を切り取る形でつくられている。

形態 掘り込み面で平面形を検出することはできなかつたが、掘り下げ中に埋葬部を検出した。平面形



挿図150 SX74遺構図

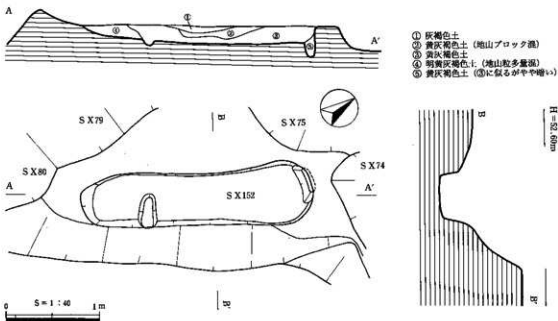


挿図151 SX75遺構図

は、かなり東に振った南北軸を持つ隅丸方形を呈する。2号墳丘墓の墳丘を削り取ってつくったものと思われる。検出できた規模は(2.5以上×0.7-0.9)mを測る。

- 埋 土 5層の埋土が確認された。
 遺 物 図化できる遺物は出土しなかった。
 時 期 2号墳丘墓との切り合い、および周辺の遺構との関係から弥生時代後期と考えられる。

H=52.20m



挿図152 S X 76遺構図

S X 77 (挿図63、153・図版40)

- 位 置 調査区南側、C 2・3グリッドにあり、標高52.4m付近に位置する。2号墳丘墓西側周溝の北端部を切る形で作られている。
 形 態 周溝掘り下げ中に検出することができなかったため、周溝底面で平面形を確認した。平面形は、東西に軸を持つ隅丸方形を呈すると思われる。検出できた規模は(2.6×2.0-0.5)mを測る。
 埋 葬 部 底面で埋葬部と思われる掘り込みを確認した。埋葬部の規模は最大で(1.9×0.7-0.3)mを測る。
 埋 土 5層の埋土が確認された。
 遺 物 図化できる遺物は出土しなかった。なお、上層の埋土から不明鉄製品F 7が出土している。
 時 期 1号墳丘墓東側周溝、および2号墳丘墓西側周溝との切り合い関係から、弥生時代後期と考えられる。

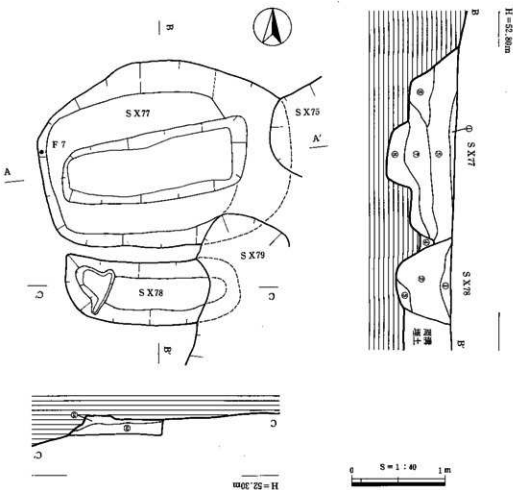
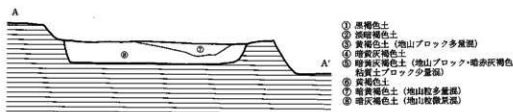
S X 78 (挿図153)

- 位 置 調査区南側、C 2グリッドにあり、標高52.3m付近に位置する。2号墳丘墓西側周溝内に、S X 77と隣接する形で作られている。
 形 態 周溝掘り下げ中に検出することができなかったため、周溝底面で平面形を確認した。底面形から、東西に軸を持つ隅丸方形を呈すると思われる。周溝の埋土を掘り込んでつくっており、検出規模で(1.5×0.7-0.6)mを測る。
 埋 土 3層の土層が確認された。

遺物 図化できる遺物は出土しなかった。

時期 2号墳丘墓西側周溝との切り合い、および周辺の遺構との関係から弥生時代後期と考えられる。

H=52.50m



押図153 S X 77・78遺構図

S X 79 (押図154)

位置 調査区南側、C 2グリッドにあり、標高51.7m付近に位置する。2号墳丘墓の西側周溝に沿って掘り込み形で作られている。S X 78・80と重複している。

形態 周溝掘り下げ中に検出することができなかつたため、完掘後に周溝底面で確認した。平面形は南北軸に沿った長方形を呈すると思われる。掘り込み面を確認できなかつたため、ここでは周溝底で確認できる範囲の記述にとどめる。検出規模は(1.5×1.0-0.2)mを測る。

埋土 確認できなかつた。

- 遺物 図化できる遺物は出土しなかった。
 時期 周辺の遺構との関係から弥生時代後期と考えられる。

S X 80 (挿図154)

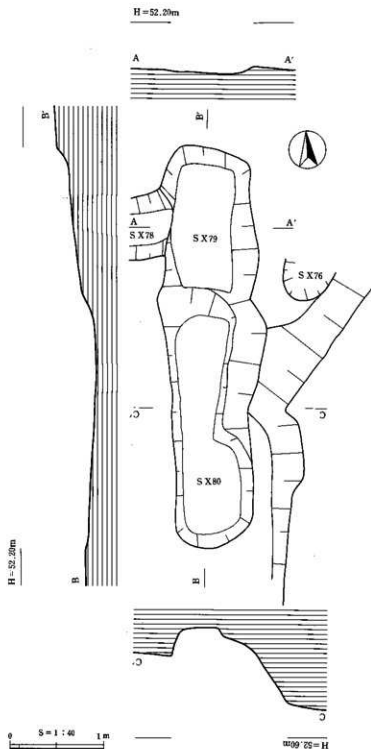
位置 調査区南側、C 2 グリッドにあり、標高52.2m付近に位置する。2号墳丘墓の西側周溝を掘り込む形でつくられており、S X 79と重複している。

形態 周溝掘り下げ中に検出することができなかったため、完掘後に周溝底面で確認した。平面形は南北軸に沿った隅丸方形を呈するとと思われる。掘り込み面を確認できなかったため、ここでは周溝底で確認できる範囲の記述にとどめる。検出規模は(2.8×1.1-0.3) mを測る。

埋土 確認できなかった。

遺物 図化できる遺物は出土しなかった。

時期 周辺の遺構との関係から弥生時代後期と考えられる。



挿図154 S X 79・80遺構図

S X 81 (挿図155)

- 位置 調査区南側、B 3グリッドにあり、標高52.2m付近に位置する。1号墳丘墓の北側周溝を掘り込む形でつくられている。
- 形態 掘り込み面で平面形を検出することができなかったため、周溝完掘後に周溝底面で平面形を確認した。周溝と切り合っているため明確な平面形は確認できなかったが、東西軸に沿った隅丸方形を呈すると思われる。掘り込み面で遺構を検出できなかったため、ここでは周溝底で確認できる範囲の記述にとどめる。検出規模は (4.2×1.8-0.6) mを測る。
- 埋葬部 遺構底面で埋葬部と思われる掘り込みを検出した。埋葬部の検出規模は (2.3×0.9-0.3) mを測る。
- 埋土 埋葬部で3層の土層を確認した。
- 遺物 図化できる遺物は出土しなかった。
- 時期 1号墳丘墓周溝との切り合い、および周辺の遺構との関係から弥生時代後期と考えられる。

S X 82 (挿図155)

- 位置 調査区南側、B 2グリッドにあり、標高52.2m付近に位置する。1号墳丘墓の北側周溝を掘り込む形でつくられている。
- 形態 掘り込み面で平面形を検出することができなかったため、土層断面、および周溝底面に残る平面形から確認した。土層断面から判断すると、周溝埋土を掘り込んでつくったものと思われ、周溝底面の落ち込みは埋葬部と思われる。周溝の平面形が周溝底面の落ち込みに対応して掘り広げられているように見えることから、周溝東側の肩は当遺構にともなう可能性もある。周溝と切り合っているため明確な平面形は確認できなかったが、ほぼ東西軸に沿った隅丸方形を呈すると思われる。検出規模は (3.0以上×2.6-0.5) mを測る。埋葬部の検出規模は (1.6以上×0.9-0.2) mであった。
- 埋土 当遺構に関する土層は3層を確認した。
- 遺物 図化できる遺物は出土しなかった。
- 時期 1号墳丘墓周溝との切り合い、および周辺の遺構との関係から弥生時代後期と考えられる。

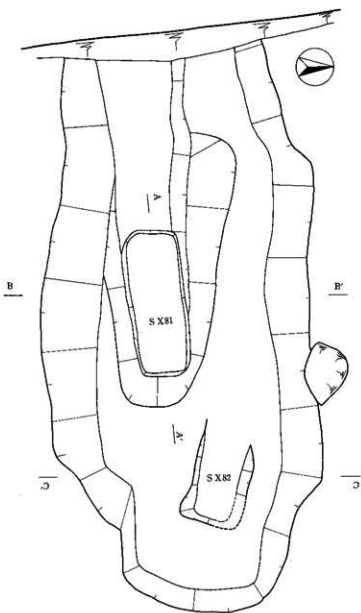
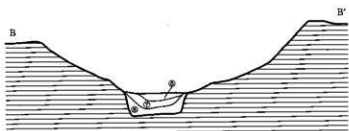
S X 83 (挿図156)

- 位置 調査区南側、B 3グリッドにあり、標高53m付近に位置する。1号墳丘墓北側周溝の北側に、これと平行する形でつくられている。
- 形態 西端が調査区外のため全体形は把握できないが、平面形は東西に伸びる溝状を呈すると思われる。検出規模は (8.5以上×2.3-0.7) mを測る。
- 埋葬部 底面で埋葬部と思われる長方形の掘り込みを検出した。検出規模は (8.5×2.3-0.3) mを測る。この掘り込みの西側に小口と思われるT字型の落ち込み (0.7×0.8-0.3) mを確認した。土層断面で確認したところ、埋葬部と思われる掘り込みからの立ち上がりが確認された。平面形では確認できなかったが、先行する溝状遺構の埋土に肩を共有するように掘り込まれた可能性もある。
- 埋土 埋土は9層確認できた。
- 遺物 図化できる遺物は出土しなかった。
- 時期 周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。

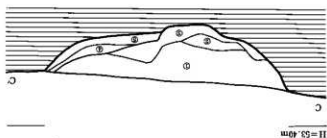
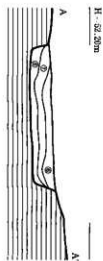
S X 84 (挿図156)

- 位置 調査区南側、C 3グリッドにあり、標高52m付近に位置する。2号墳丘墓北側周溝に沿って、墳丘を掘り込む形でつくられている。S X 7 4に隣接し、S X 7 3と重複している。

H = 53.20m



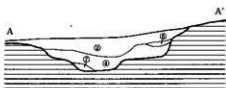
- ① 黄褐色土 (地山粒多量混)
- ② 黄褐色土 (地山粒少量混)
- ③ 黄灰褐色土 (地山粒・灰色粘土ブロック多量混)
- ④ 暗黄灰褐色土 (地山粒少量混)
- ⑤ 暗黄褐色土 (④より明々)
- ⑥ 黄灰褐色土 (地山ブロック少量混)
- ⑦ 暗黄灰褐色土 (地山粒多量混)
- ⑧ 灰黄褐色土 (地山粒少量混)



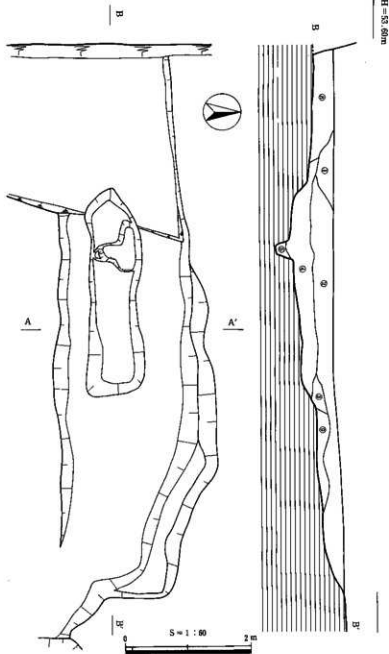
S = 1 : 60 2m

挿図155 S X 81・82遺構図

H = 53.60m



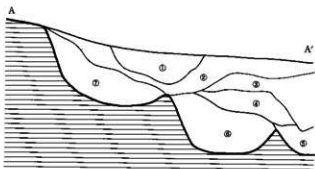
- ① 黄褐色土 (赤灰褐色粘質土ブロック多量混)
- ② 赤黄褐色土 (赤灰褐色粘質土ブロック多量混)
- ③ 暗黄褐色土 (地山ブロック・赤灰褐色粘質土ブロック多量混)
- ④ 淡黄褐色土 (赤灰褐色粘質土ブロック混)
- ⑤ 暗黄褐色土 (地山ブロック多量混)
- ⑥ 黄褐色土 (赤灰褐色粘質土ブロック混)
- ⑦ 淡黄褐色土 (地山ブロック混)
- ⑧ 淡黄褐色土 (地山ブロック多量混)
- ⑨ 暗黄褐色土 (地山ブロック多量混) (赤灰褐色粘質土ブロック多量混)



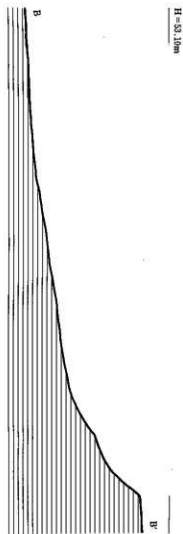
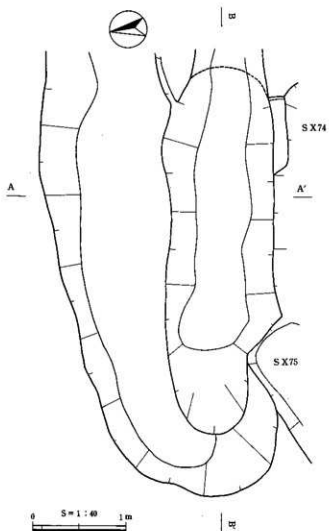
挿図156 S X 83遺構図

形 態 掘り込み面で検出することができなかったため、土層断面、および底面形から確認した。平面形は東西に軸を持つ隅丸長方形を呈すると思われる。検出規模は(3.9×1.3-0.7) mを測る。
 埋 土 埋土は7層を確認した。このうち⑥層が当遺構に伴う埋土と思われる。
 遺 物 図化できる遺物は出土しなかった。
 時 期 周辺の遺跡との関係から弥生時代後期と思われる。

H=53.10m



- ① 淡褐色土
- ② 暗黄次褐色土
- ③ 黄灰褐色土
- ④ 黄褐色土 (地山ブロック多量混)
- ⑤ 暗黄次褐色土 (地山ブロック混)
- ⑥ 暗赤褐色土
- ⑦ 暗赤褐色土

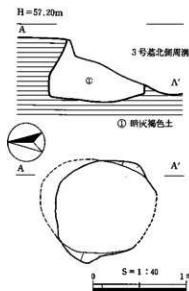


挿図157 S X 84遺構図

第3節 土坑

SK01 (挿図158、159・図版29、37)

- 位置 調査区の中央、D8グリッドにあり、標高57.1mに位置する。
3号墳丘基北側周溝に切られている。
- 形態 上半部は3号墳丘基北側周溝に切られている。平面形、底面形ともにほぼ円形、断面形は袋状を呈する。検出できた規模は上縁部径1m、底面(1.2×1)m、深さは検出面から約0.65mである。
- 埋土 埋土は1層であった。
- 遺物 埋土中から弥生土器の甕Po99・100の他、弥生土器片が出土した。
- 性格 断面が袋状を呈することから、貯蔵穴と考えられる。
- 時期 出土した遺物から弥生時代後期と考えられる。



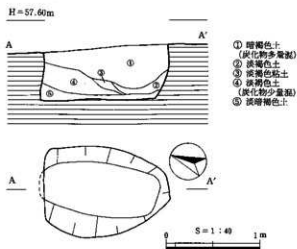
挿図158 SK01遺構図



挿図159 SK01遺物実測図

SK02 (挿図160・図版30)

- 位置 D5・6グリッドにあり、標高57.4mに位置する。
- 形態 平面形は楕円形、断面形はU字形を呈する。検出できた規模は(1.3×1-0.5)mを測る。
- 埋土 5層の埋土が認められた。
- 遺物 埋土中から弥生土器が出土した。いずれも小片で図化できなかった。
- 時期 出土した遺物から弥生時代後期と考えられる。



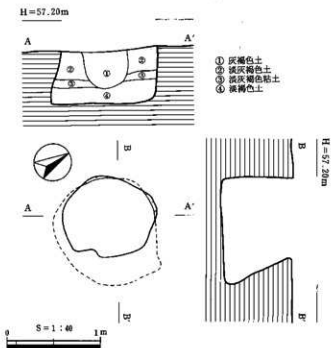
挿図160 SK02遺構図

S K 03 (挿図161・図版30)

位置 E 6グリッドにあり、標高57.0mに位置する。S X20を切る。

形態 上半部は3号墳丘基北側周溝に切られている。平面形、底面形ともにほぼ円形、断面形は台形を呈する。検出できた規模は上縁部径1m、底面径1.2m、深さは検出面から約0.55mである。

埋土 4層の埋土が認められた。
遺物 弥生土器片が出土した。
性格 土坑の形態から貯蔵穴の可能性もあるが、①層が②層上面から掘り込まれており、用途は特定できない。
時期 出土した遺物から弥生時代後期と考えられる。



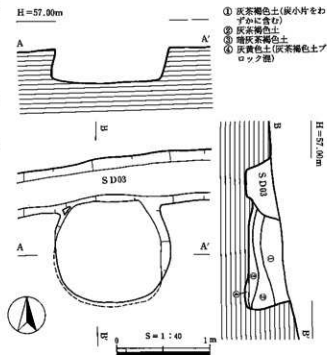
挿図161 S K 03遺構図

S K 04 (挿図162、163・図版30、37)

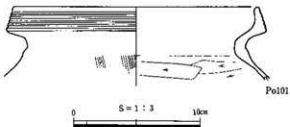
位置 E 9グリッドにあり、標高57m付近に位置する。S D03と切り合う。

形態 平面形は円形を呈し、検出できた規模は(1.22×1.07-0.43) mを測る。

埋土 埋土は4層に分層できた。
遺物 甕Pol01の他、弥生土器片が出土した。
性格 断面の一部がやや袋状を呈することから、貯蔵穴である可能性がある。
時期 出土した土器より、弥生時代後期と考えられる。



挿図163 S K 04遺構図



挿図162 S K 04遺物実測図

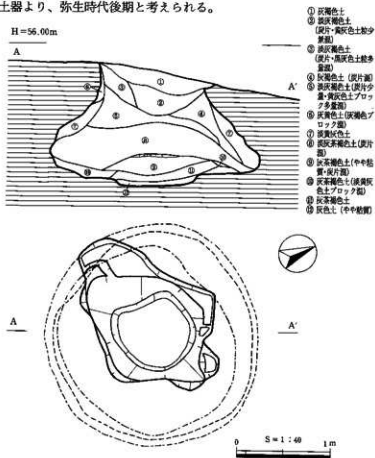
S K 05 (挿図164、165・図版30、37、41)

位置 E 9グリッドにあり、標高56m付近に位置する。

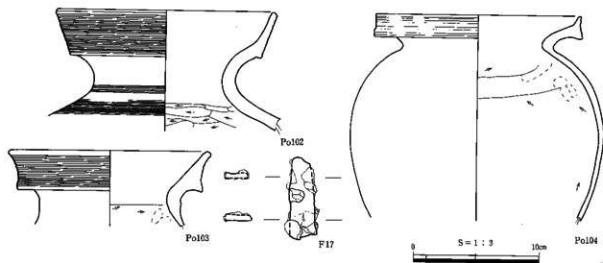
形態 平面形は上縁部不定形、底面円形を呈し、断面形は袋状である。検出できた規模はそれぞれ(1.89×1.38) m、(2.2×2.1) mを測り、深さは1.25mである。また底面で(92×87-8) cmを測る不定形の落ち込みを検出した。

埋土 埋土は12層に分層でき、⑨層上面で層をなす炭を検出した。

遺物 壺Po102、103、甕Po104、鉢F17の他、弥生土器片が出土した。
 性格 断面形が袋状を呈することから、貯蔵穴と考えられる。
 時期 出土した土器より、弥生時代後期と考えられる。



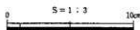
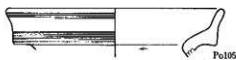
挿図164 SK05遺構図



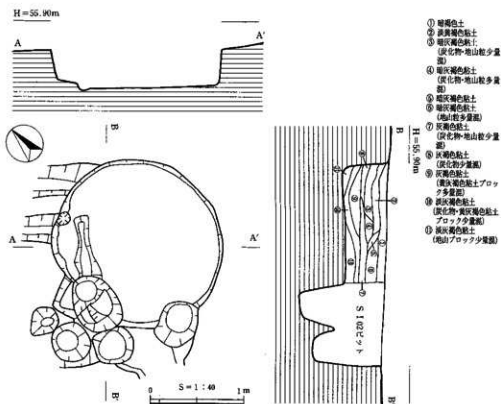
挿図165 SK05遺物実測図

S K 06 (挿図166、167・図版37)

- 位置 E 5・6グリッドで、S I 02内にあり、標高55.6mに位置する。
- 形態 上面は耕作による攪乱を受けていた。南西側はS I 02のピットに切り込まれている。平面形、底面形いずれも円形で、断面形は逆台形を呈する。検出できた規模は上縁部(2.7×2.65)m、底部(2.55×2.5)m、深さ0.75mを測る。
- 埋土 埋土は11層に分層できた。
- 遺物 埋土中より出土した甕Po105を図化した。
- 性格 不明である。
- 時期 出土した土器及び周囲の遺構との関係から弥生時代後期と考えられる。



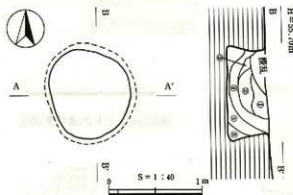
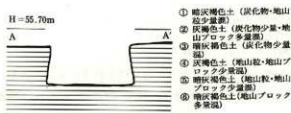
挿図166 S K 06遺物実測図



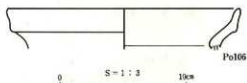
挿図167 S K 06遺構図

S K 07 (挿図168、169・図版37)

- 位置 E 5グリッドで、S I 02内にあり、標高55.5mに位置する。
- 形態 上面は耕作による攪乱を受けていた。平面形、底面形いずれも円形で、断面形は袋状を呈する。検出できた規模は上縁部(0.94×0.88)m、底部(1.1×1.0)m、深さ0.4mを測る。
- 埋土 埋土は6層に分層できた。
- 遺物 埋土中より出土した甕Po106を図化した。
- 性格 袋状を呈することから貯蔵穴と考えられる。S I 02に伴う可能性も考えられる。
- 時期 出土した土器及び周囲の遺構との関係から弥生時代後期と考えられる。



挿図168 S K 07遺構図



挿図169 S K 07遺物実測図

S K 08 (挿図170)

位置 E 5グリッドで、S I 02内にあり、標高55.6mに位置する。

形態 南西側は一部削平されているが、平面形は円形を呈すると考えられる。底面形は円形で、断面形は袋状を呈する。検出できた規模は上縁部 (1.05×1.0以上) m、底部 (1.6×1.54) m、深さ1.2mを測る。

S K 08上面で、掘り方に沿うような小ピットと焼土面を検出した。小ピットは径8~20cm、深さ30~40cmを測る。焼土面は①・②層上面でそれぞれ検出された。

埋土 埋土は17層に分層できた。①・②層は固く押し固められており人為的に敷き詰められたものと考えられる。⑤層は小ピットの埋土である。

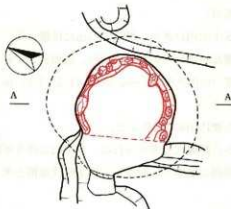
遺物 埋土中より土器細片が出土したが図化できなかった。

性格 袋状を呈することから貯蔵穴と考えられる。しかし、上面で検出された小ピットと焼土面はS I 02に伴う可能性がある。

時期 S I 02および周囲の遺構との関係から



- ① 黄灰色土 (地山粒多量混)
- ② 淡黄灰褐色粘質土
- ③ 明灰褐色土
- ④ 灰褐色粘土
- ⑤ 暗灰褐色土
- ⑥ 明灰褐色土
- ⑦ 明灰褐色粘土
- ⑧ 灰褐色土 (地山ブロック多量混)
- ⑨ 灰黄褐色土 (地山粒・明灰褐色粘土ブロック多量混)
- ⑩ 淡黄褐色土 (地山粒・明灰褐色粘土ブロック多量混)
- ⑪ 淡灰黄褐色土 (地山粒少量混)
- ⑫ 暗灰黄褐色土 (地山粒少量混)
- ⑬ 淡灰黄褐色土 (地山粒少量混)
- ⑭ 暗灰褐色土 (地山粒多量混)
- ⑮ 黄灰色土 (地山粒多量混)
- ⑯ 黄灰色土 (地山粒少量混)



挿図170 S K 08遺構図

弥生時代後期と考えられる。

SK09 (挿図171)

位置 E7グリッドにあり、標高57.1mに位置する。

形態 上半部は攪乱をかなり受けている。平面形、底面形ともにほぼ円形、断面形は袋状を呈する。検出できた規模は上縁部径約1m、底面径1.3m、深さは検出面から約0.7mである。

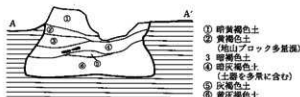
埋土 6層の堆積が認められた。

遺物 埋土中から弥生土器片が出土した。

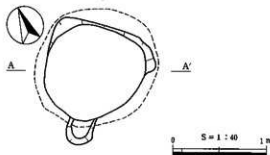
性格 断面形が袋状を呈することから、貯蔵穴と考えられる。

時期 出土した遺物から弥生時代後期と考えられる。

H=57.40m



- ① 暗黄褐色土
- ② 黄褐色土 (地山ブロック少量混)
- ③ 暗褐色土
- ④ 暗灰褐色土 (土器を多量に含む)
- ⑤ 灰褐色土
- ⑥ 黄灰褐色土



挿図171 SK09遺構図

SK10 (挿図172)

位置 D4グリッドにあり、標高53m付近に位置する。SX37底面で検出した。

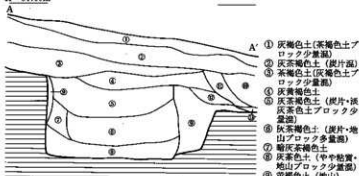
形態 平面形は上縁部、底面とも円形を呈し、断面形は袋状をなしていたと思われる。検出できた規模はそれぞれ(1.47×1.38)m、(1.39×1.35)mを測り、深さは0.84mである。

埋土 埋土は4層に分層できた。

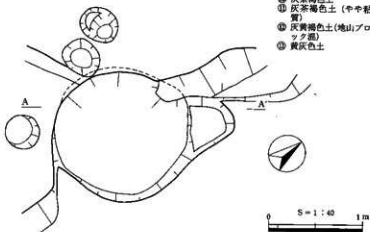
性格 断面形が袋状を呈していたと思われることから、貯蔵穴と考えられる。

時期 遺物は出土していないが、SX37との関係から弥生時代後期以前と考えられる。

H=54.60m



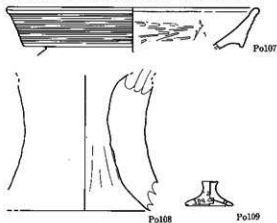
- ① 灰褐色土(茶褐色土ブロック少量混)
- ② 灰茶褐色土(灰片混)
- ③ 茶褐色土(灰褐色土ブロック少量混)
- ④ 灰黄褐色土
- ⑤ 灰茶褐色土(灰片・灰褐色土ブロック少量混)
- ⑥ 灰茶褐色土(厚片・地山ブロック多量混)
- ⑦ 暗灰茶褐色土
- ⑧ 灰褐色土(中や粘質・地山ブロック少量混)
- ⑨ 黄褐色土(地山)
- ⑩ 灰茶褐色土(やや粘質)
- ⑪ 灰黄褐色土(地山ブロック混)
- ⑫ 黄灰色土



挿図172 SK10遺構図

SK11 (挿図173、175・図版38)

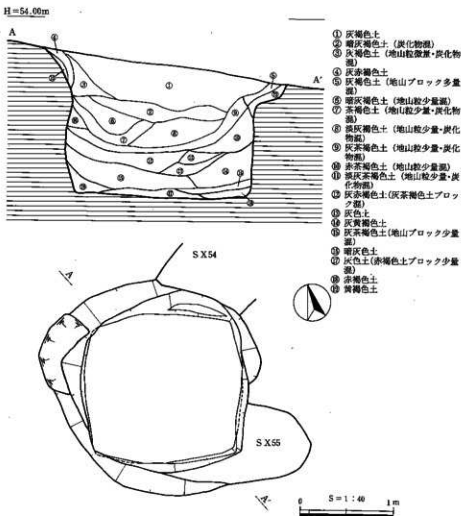
- 位置 D 6 グリッドにあり、標高56.9mに位置する。3号墳丘墓東側周溝と切り合っている。
- 形態 上面は耕作による擾乱を受け、東側は3号墳丘墓東側周溝に切り込まれている。平面形は方形を呈すると考えられ、底面形は方形で、断面は袋状を呈する。検出できた規模は上縁部(1.9×1.7)m、底部(2.1×1.8)m、深さ1mを測る。底部でピットを7個検出した。これらは壁際に沿うように掘り込まれており、規模は径20~30cm、深さ6~18cmを測る。
- 埋土 埋土は19層に分層できた。
- 遺物 埋土中より出土した甕Po107、ミニチュア蓋Po109、床面より出土した支脚Po108を図化した。
- 性格 断面が袋状を呈することから、貯蔵穴と考えられる。
- 時期 出土した土器及び周囲の遺構との関係から弥生時代後期と考えられる。



挿図173 SK11遺物実測図

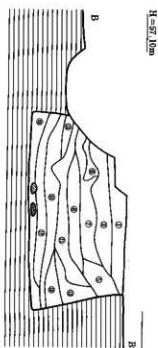
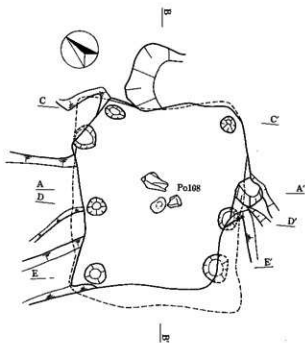
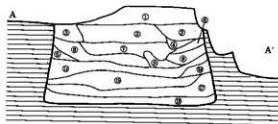
SK12 (挿図174、176・図版38)

- 位置 C 4 グリッドにあり、調査区南側の緩斜面上、53.7m付近に位置している。SX54・55と重複している。
- 形態 平面形はほぼ隅丸方形を呈し、底面形は方形を呈する。断面形はやや中央の膨らむ方形を呈し、上部は外側に膨らむ。検出規模は(2.3×2.2-1.5)mを測る。
- 埋土 18層の埋土を確認した。
- 遺物 甕Po110、器台Po111を図化した。
- 性格 形態から貯蔵穴として利用されたものと考えられる。

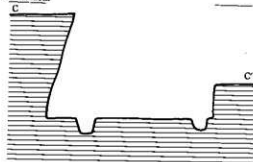


挿図174 SK12遺構図

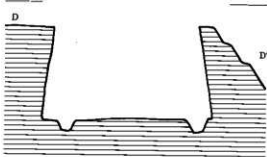
H=57.10m



H=57.10m



H=57.10m



H=57.10m



- ① 灰褐色土 (炭化物・地山粒少量・灰色粘土粒多量混)
- ② 暗灰褐色土 (炭化物・地山粒少量・灰色粘土粒多量混)
- ③ 暗灰褐色土 (③より淡い)
- ④ 灰褐色土 (灰色粘土ブロック多量混)
- ⑤ 弱灰褐色土 (灰色粘土ブロック多量混)
- ⑥ 灰褐色土 (炭化物・地山粒少量・灰色粘土粒多量混)
- ⑦ 暗灰褐色土 (炭化物・地山粒少量混)
- ⑧ 暗灰褐色土 (炭化物・地山粒少量混)
- ⑨ 暗灰褐色土 (炭化物・地山粒少量混)
- ⑩ 暗灰褐色土 (炭化物・地山粒少量混)
- ⑪ 暗灰褐色土 (炭化物・地山粒少量混)
- ⑫ 暗灰褐色土 (炭化物・地山粒少量混)
- ⑬ 暗灰褐色土 (炭化物・地山粒少量混)
- ⑭ 暗灰褐色土 (炭化物・地山粒少量混)
- ⑮ 暗灰褐色土 (炭化物・地山粒少量混)
- ⑯ 暗灰褐色土 (炭化物・地山粒少量混)
- ⑰ 暗灰褐色土 (炭化物・地山粒少量混)
- ⑱ 暗灰褐色土 (炭化物・地山粒少量混)
- ⑲ 暗灰褐色土 (炭化物・地山粒少量混)
- ⑳ 暗灰褐色土 (炭化物・地山粒少量混)

0 S=1:40 1m

挿図175 SK11遺構図

時期 出土した土器と周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。

SK13 (挿図177、178・図版31、38)

位置 C8グリッドに位置し、標高56.0mで検出した。SK14を切る。

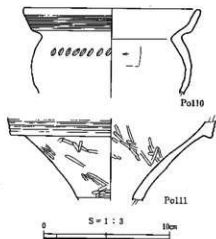
形態 平面形、底面形ともにほぼ楕円形、断面形は袋状を呈する。検出できた規模は上縁部(2.3×1.9)m、底面(2.7×2.5)m、深さは検出面から約1.2mである。

埋土 23層の堆積が認められた。堆積の方向は北から南へ落ちており、埋土中から土器片、シジミが出土したことから投げ込みによる人為的な堆積と考えたい。

遺物 埋土中から壺Pol12が出土した。また、SK13埋土中にほぼ含まれると考えられる縄文土器押型文胴部片Pol13、弥生土器壺Pol14~117、胴部Pol18、蓋Pol19を併せて図化した。

性格 断面形が袋状を呈していたと思われることから、貯蔵穴と考えられる。

時期 出土した遺物から弥生時代後期と考えられる。



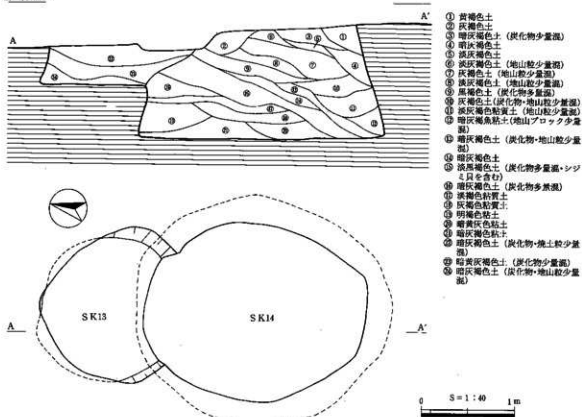
挿図176 SK12遺物実測図

SK14 (挿図177、178・図版31)

位置 C8グリッドに位置し、標高56.0mで検出した。SK13に切られる。

形態 平面形、底面形ともにほぼ円形、断面形は台形を呈する。検出できた規模は上縁部径1.5m、底面径1.55m、深さは検出面から約0.4mである。

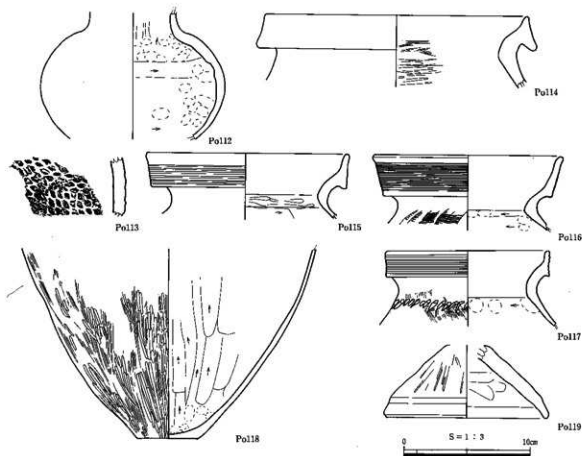
H=56.20m



挿図177 SK13・14遺構図

- ① 黄褐色土
- ② 灰褐色土
- ③ 暗灰褐色土 (炭化物少量混)
- ④ 暗灰褐色土
- ⑤ 灰褐色土
- ⑥ 灰褐色土 (地山較少量混)
- ⑦ 灰褐色土 (地山較少量混)
- ⑧ 灰褐色土 (地山較少量混)
- ⑨ 黄褐色土 (炭化物少量混)
- ⑩ 灰褐色土 (炭化物・地山較少量混)
- ⑪ 灰褐色粘質土 (地山較少量混)
- ⑫ 暗灰褐色粘土 (地山ブロック少量混)
- ⑬ 暗灰褐色土 (炭化物・地山較少量混)
- ⑭ 暗灰褐色土
- ⑮ 淡褐色土 (炭化物多量混・シジミを含む)
- ⑯ 暗灰褐色土 (炭化物多量混)
- ⑰ 淡褐色粘質土
- ⑱ 灰褐色粘質土
- ⑲ 明褐色粘土
- ⑳ 暗灰褐色粘土
- ㉑ 暗灰褐色粘土 (炭化物・粘土較少量混)
- ㉒ 暗灰褐色土 (炭化物少量混)
- ㉓ 暗灰褐色土 (炭化物・地山較少量混)

- 埋土 3層の堆積が認められた。
 遺物 SK14に伴うと考えられる遺物は出土していない。
 性格 断面形から、貯蔵穴と考えられる。
 時期 SK13に切られることから、SK13より古い。周辺の遺構との関係から本遺構も弥生時代後期と考えられる。



挿図178 SK13・14遺物

SK15 (挿図179・図版31)

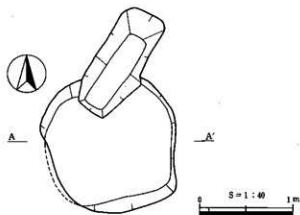
- 位置 E8グリッドにあり、標高57.2mに位置する。
 形態 平面形、底面形ともにほぼ不定形な円形である。検出できた規模は(1.4×0.25)mである。
 埋土 4層の堆積が認められた。
 遺物 埋土中より弥生土器片が出土した。
 性格 貯蔵穴と考えられる。
 時期 出土した遺物から弥生時代後期と考えられる。

SK16 (挿図180)

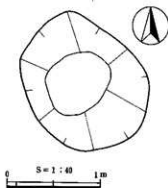
- 位置 E9・D9グリッドにあり、標高56.5mに位置する。
 形態 ほぼ楕円形を呈す土坑である。検出規模は(1.5×1.2-0.3)mを測る。
 埋土 埋土は1層であった。
 遺物 出土していない。
 性格 不明である。

時 期 周辺の遺構との関係から弥生時代後期と思われる。

H=57.40m



挿図179 SK 15遺構図



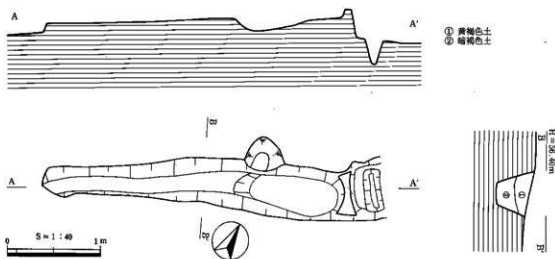
挿図180 SK 16遺構図

第4節 溝状遺構

S D01 (挿図181、185・図版38)

- 位置 D 5 グリッドにあり、標高56.1mに位置する。西端はS X 25に接する。
- 形態 ほぼ東西に延びる溝と思われる。規模は長さ約3.2m、幅約0.5m、深さは中央部で0.35mである。また、西側はやや低く落ち込む。
- 埋土 2層の水平堆積が認められた。
- 遺物 甕Po120・121、高坏Po122が出土した。
- 時期 出土した遺物から弥生時代後期と考えられる。

H = 56.40m



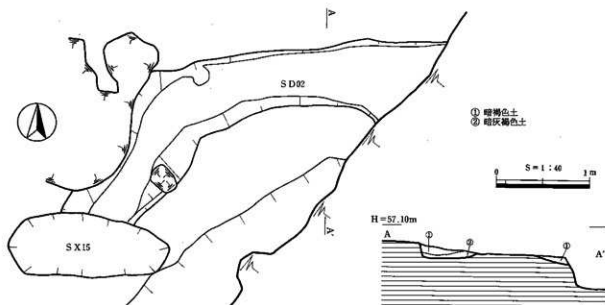
挿図181 S D01遺構図

S D02 (挿図182・図版31)

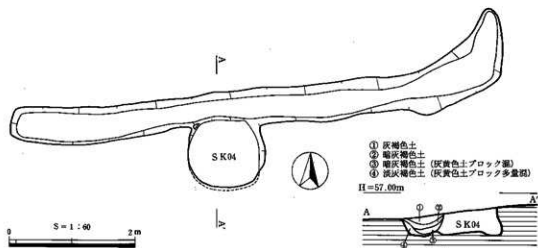
- 位置 D 6、E 6 グリッドにあり、標高56.9mに位置する。東端は削平され、南端はS X 15に切られている。
- 形態 東から南へ湾曲する溝である。検出規模は幅約80cm、深さ約10cmを測る。
- 埋土 2層の水平堆積が認められた。
- 遺物 埋土中から頭大の扁平な石が数点出土した以外に、遺物は出土していない。
- 時期 S X 15に切られていることから、S X 15より古い。周辺の遺構との関係から弥生時代後期の範疇と思われる。

S D03 (挿図183、185・図版31、38)

- 位置 E 9、F 9 グリッドにあり、標高56.7mに位置する。S K 04と重複している。北側にはS X 44・45がある。
- 形態 上面は耕作による削平を受けていた。この溝は、東西に延び、東側端部は北側にわずかに屈曲する。検出できた規模は、全長約8m、幅0.5~0.75m、深さ0.3mを測る。付近には方形周溝墓の存在が確認されており、北側にS X 44・45が並列してあることから、位置の関係を考えてみるとこの溝は方形周溝墓周溝の可能性もある。



挿図182 SD02遺構図

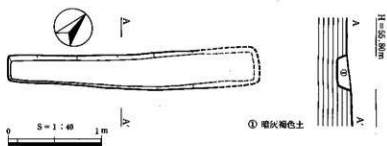


挿図183 SD03遺構図

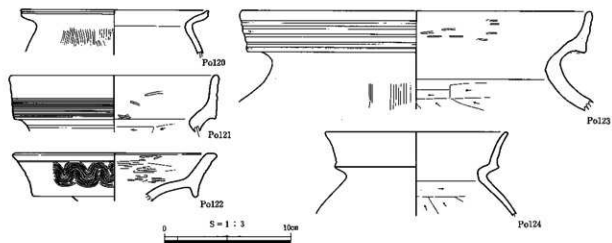
- 埋土 埋土は4層に分層できた。SK04上層より切り込んでいた。
- 遺物 埋土中より出土した甕Po123・124を図化した。
- 時期 出土した土器より、弥生時代後期と考えられる。

SD04 (挿図184)

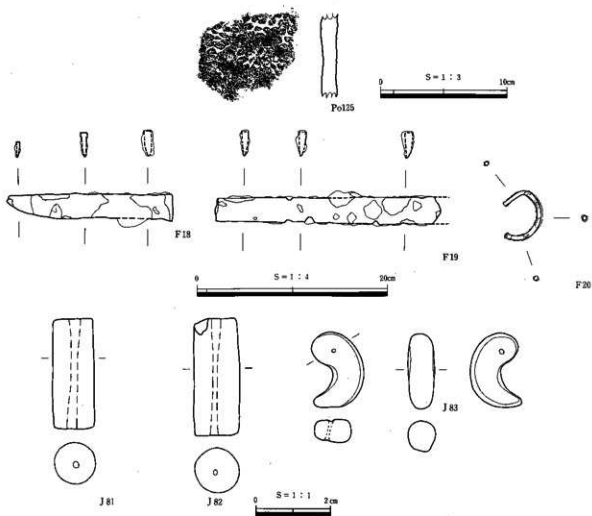
- 位置 B8グリッドにあり、標高55.5mに位置する。北東端はSX61を切っている。
- 形態 南西から北東へ延びる溝である。検出規模は直線距離で約2.7m、幅約0.4m、深さは約0.15mである。
- 埋土 埋土は1層であった。
- 遺物 出土していない。
- 時期 SX61を切っていることから、弥生時代後期以降と考えられる。



挿図184 S D04遺構図



挿図185 S D01・03出土遺物



挿図186 宮内第1遺跡 (D区) 遺構外出土遺物

第5章 宮内第4遺跡(A区)の調査

宮内第4遺跡(A区)では、竪穴住居跡3棟、土坑2基、段状遺構2基を検出した。以下に遺構ごとに調査の結果を述べる。

第1節 竪穴住居跡

S101 (挿図188、189、192・図版42、44)

位置 D2グリッドにあり、標高43.5mに位置する。S102を建て替えたもので、S103を切り込んでい

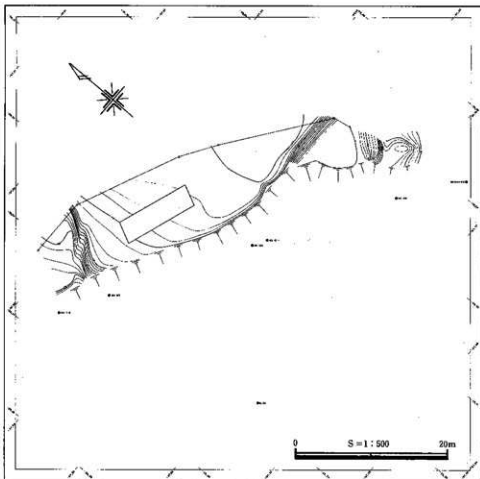
形態 南側は調査区外となる。平面形は方形を呈する。検出できた規模は南北3.6m、東西3.5mを測る、残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大50cmを測る。

側溝は南東側及び北西側壁際で検出された。幅8~24cm、深さ5~8cmを測る。

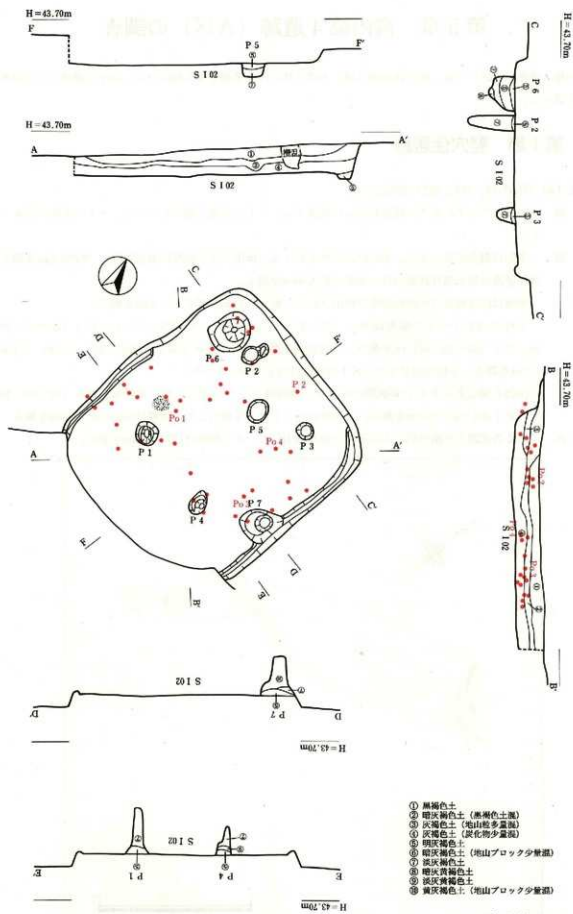
支柱穴はP1~4で規模はP1(36×35-75)cm、P2(45×25-75)cm、P3(28×25-30)cm、P4(40×28-45)cmを測り、支柱穴間距離は、P1-P2間から順に2.1m、1.5m、2.1m、1.5mを測る。支柱穴のP2は、S102の支柱穴と共有していた。

特殊ピット 住居北側にあるP6と東壁際にあるP7は特殊ピットと考えられ、規模は、P6(70×60-40)cm、P7(60×55-65)cmを測る。その外にピットP5を検出した。規模は(35×30-20)cmを測る。

焼土面 P1の北側より楕円形に広がる焼土面を検出した。その範囲は(27×25)cmを測る。

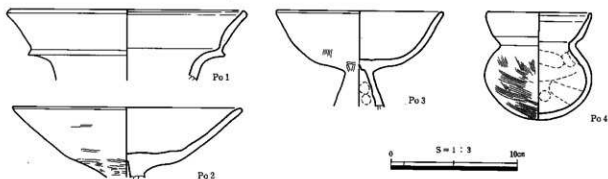


挿図187 宮内第4遺跡(A区)調査前地形測量図



挿図188 S102遺構図

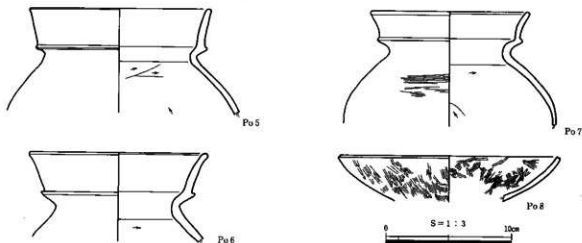
- 埋土 埋土は5層に分層でき自然堆積したものと考えられる。
 遺物 埋土中から多量の遺物が出土した。ここでは甕Po1、高坏Po2・3、小型丸底甕Po4を図化した。
 時期 出土した土器より古墳時代前期から中期と考えられる。



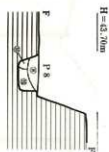
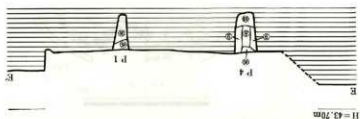
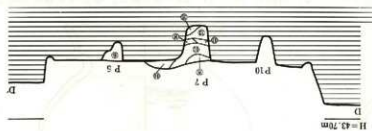
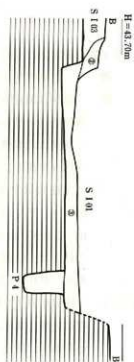
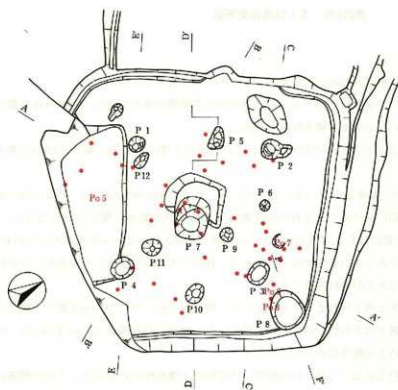
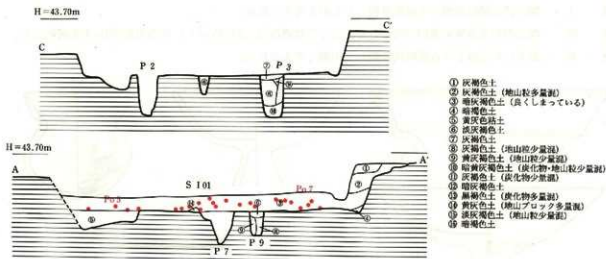
挿図189 S101遺物実測図

S102 (挿図190~192・図版42、44)

- 位置 D2グリッドにあり、標高43.5mに位置する。S103と切り合っている。
 形態 南側は調査区外となる。平面形は方形を呈する。検出できた規模は南北4.4m、東西4.4mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大65cmを測る。
 側溝は西側壁際で一部途切れるもののほぼ全周していたものと考えられる。幅12~18cm、深さ5~10cmを測る。
 支柱穴はP1~P4で、規模はP1(27×25-57)cm、P2(50×30-65)cm、P3(38×30-65)cm、P4(37×33-63)cmを測り、支柱穴間距離は、P1-P2間から順に2.2m、2.1m、2.2m、2.0mである。支柱穴間にはP5(36×24-30)cm、P6(18×18-33)cmを測るビットがある。これらは、位置的に間柱であった可能性がある。その外、柱穴と考えられるP9が中央ビット東側にあり、P10~12についてはS101の柱穴痕である。
 特殊ビット 住居東隅より特殊ビットと考えられるP8を検出した。規模は(63×50-30)cmを測り、埋土は3層に分層できた。住居南側では方形の落ち込みを検出した。検出した規模は(2.5×1.0以上-0.2)mを測る。埋土は⑤層で粘土が敷き詰められていた。
 中央ビット 住居中央部には、黄灰色土によって高さ12cm程度の不定形な土壇が作られている。この土壇部分の南東側に中央ビットP7が掘り込まれている。規模は(67×53-55)cmを測る。埋土は6層に分層で



挿図190 S102遺物実測図



挿図191 S 102遺構図

き、③層中には、多量の炭化物が含まれていた。

埋土 埋土は4層に分層できた。この住居は建て替えられており、③層は固くしまっており、S I 01の貼床で、①・②層は住居の壁を作るための裏込めと考えられる。

遺物 この住居の③層中から多量の遺物が出土した。この中で、壺Po5～7、高坏Po8を図化した。又、S I 01、S I 02埋土中より出土した壺Po9・10を図化した。

時期 出土した土器より古墳時代前期と考えられる。



挿図192 S I 01・02遺物実測図

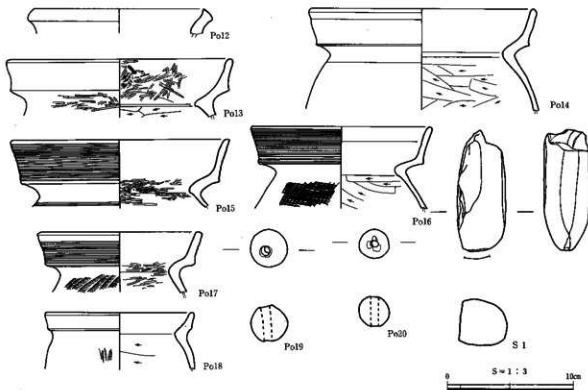
S I 03 (挿図193、196・図版42・44～46)

位置 D 2・3グリッドにあり、標高43.5mに位置する。S I 01、S I 02に切り込まれている。

形態 南東側はS I 01・02に切られているが、平面形は方形を呈するものと考えられる。検出できた規模は南北3.9m、東西4.4mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大45cmを測る。

側溝は検出した壁際すべてに巡っており全周していたものと考えられる。幅10～25cm、深さ5～10cmを測る。

主柱穴はP 1～P 4と考えられる。規模はP 1 (50×45～70) cm、P 2 (65×60～80) cm、P 3 (40×35～55) cm、P 4 (50×35～83) cmを測り、主柱穴間距離は、P 1～P 2間から順に2.6m、1.8m、2.6m、2.5mである。用途は不明であるが柱穴と考えられるビットP 5～P 7を検出した。規模は、P 5 (25×23～25) cm、P 6 (45×40～25) cm、P 7 (43×35～70) cmを測る。



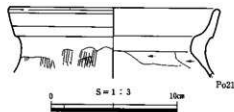
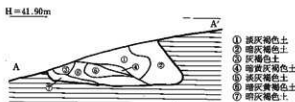
挿図193 S I 03遺物実測図

- 特殊ピット 住居北隣壁際に特殊ピットと考えられるP9を検出した。規模は(60×40-52)cmを測る。埋土は3層に分層できた。
- 住居北東側には、土坑状に掘り込まれたP10を検出した。平面形はほぼ円形を呈し、規模は(83×75-53)cmを測る。断面は逆台形を呈する。埋土は5層に分層できた。
- 中央ピット 中央ピットはP8で規模は(63×50-65)cmを測る。埋土は3層に分層でき⑨層中には炭化物が含まれていた。中央ピットを囲むような炭化面を検出した。
- 埋土 埋土は6層に分層でき自然堆積したものと考えられる。住居南東側は、第1層上面よりS101・02に切り込まれていることが確認できた。
- 遺物 埋土中から多量の遺物が出土した。ここでは壺Po12、甕Po13~18、土玉Po19・20、磨製石斧S1を図化した。
- 時期 出土した土器より弥生時代後期と考えられる。

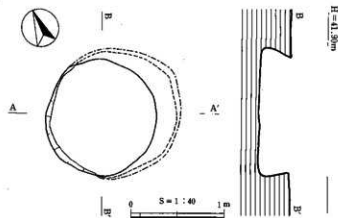
第2節 土坑

SK01 (挿図194、195・図版43)

- 位置 B3グリッドにあり、標高41.7mに位置する。SS01内にある。
- 形態 上面はほとんど削平されているが、平面形、底面形いずれも円形で、断面形は袋状を呈すると考えられる。規模は上縁部(1.2×1.2)m、底部(1.35×1.3)m、深さ0.5mを測る。
- 埋土 埋土は7層に分層できた。
- 遺物 壺Po21が出土した。
- 性格 断面が袋状を呈することから貯蔵穴と考えられる。
- 時期 出土した土器とSS01との関係から弥生時代後期と考えられる。



挿図194 SK01遺物実測図



挿図195 SK01遺構図

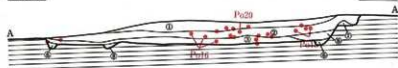
SK02 (挿図197・図版43)

- 位置 C3グリッドにあり、標高41.7mに位置する。SS01内にある。
- 形態 平面形、底面形いずれも楕円形を呈し、断面形は袋状を呈する。規模は上縁部(1.56×0.95)m、底部(2.2×1.6)m、深さ0.85mを測る。
- 埋土 埋土は2層に分層できた。人為的に埋められたものと考えられる。
- 遺物 埋土中より土器小片が出土したが図化できなかった。

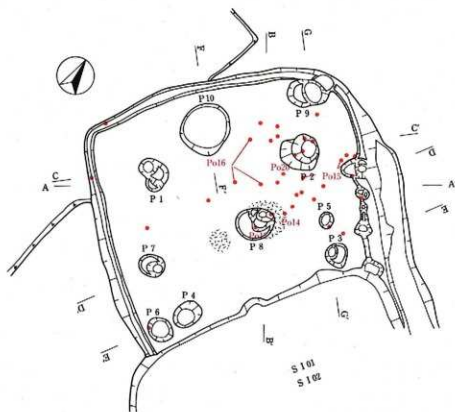
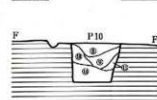
H = 43.80m



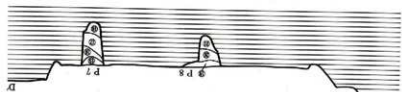
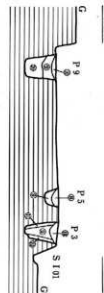
H = 43.80m



H = 43.80m



H = 43.80m

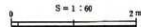


H = 43.80m



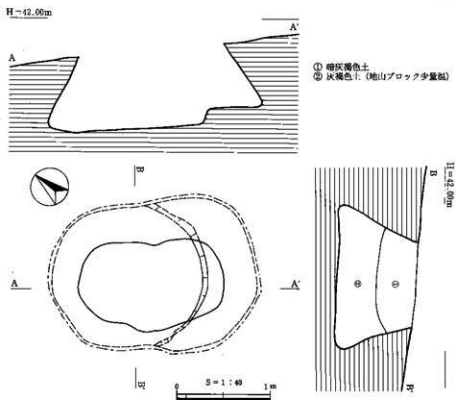
H = 43.80m

- ① 淡灰褐色土 (炭化物少量層)
- ② 明灰褐色土 (炭化物・焼山アロック少量層)
- ③ 灰褐色土 (炭化物少量層)
- ④ 明灰褐色土 (焼山較多量層)
- ⑤ 明灰褐色土
- ⑥ 灰褐色土 (焼山較多量層)
- ⑦ 灰褐色土
- ⑧ 灰褐色土 (焼山較少量層)
- ⑨ 暗灰褐色土
- ⑩ 淡灰褐色土 (焼山較少量層)
- ⑪ 淡灰褐色土 (焼山較多量層)
- ⑫ 灰褐色土
- ⑬ 灰褐色土 (炭化物少量層)
- ⑭ 灰褐色土 (炭化物少量層)
- ⑮ 灰褐色土 (炭化物少量層)
- ⑯ 暗灰褐色土 (焼山較多量層)
- ⑰ 暗灰褐色土
- ⑱ 暗灰褐色土
- ⑲ 暗灰褐色土
- ⑳ 暗灰褐色土
- ㉑ 暗灰褐色土
- ㉒ 暗灰褐色土
- ㉓ 暗灰褐色土
- ㉔ 暗灰褐色土
- ㉕ 暗灰褐色土
- ㉖ 暗灰褐色土
- ㉗ 暗灰褐色土
- ㉘ 暗灰褐色土
- ㉙ 暗灰褐色土
- ㉚ 暗灰褐色土
- ㉛ 暗灰褐色土
- ㉜ 暗灰褐色土
- ㉝ 暗灰褐色土
- ㉞ 暗灰褐色土
- ㉟ 暗灰褐色土
- ㊱ 暗灰褐色土
- ㊲ 暗灰褐色土
- ㊳ 暗灰褐色土
- ㊴ 暗灰褐色土
- ㊵ 暗灰褐色土
- ㊶ 暗灰褐色土
- ㊷ 暗灰褐色土
- ㊸ 暗灰褐色土
- ㊹ 暗灰褐色土
- ㊺ 暗灰褐色土
- ㊻ 暗灰褐色土
- ㊼ 暗灰褐色土
- ㊽ 暗灰褐色土
- ㊾ 暗灰褐色土
- ㊿ 暗灰褐色土



挿図196 S103遺構図

- 性 格 袋状を呈することから貯蔵穴と考えられる。
 時 期 S S 01内にあり、周囲の遺構との関係から弥生時代後期と考えられる。



挿図197 S K 02遺構図

第3節 段状遺構

S S 01・02 (挿図198、199・図版43・45・46)

- 位 置 B 3・C 2・3グリッドにあり、標高43.1mに位置する。南東側にはS I 03がある。
- 形 態 北側及び南側は調査区外となり、西側は削平されている。S S 01は、西側に傾斜する斜面を約0.5 m削り込み平坦面を作っている。検出規模は東西約8 m、南北約9 mを測る。この南西側で、床をさらに約30cm程度削り込んで作られている楕円形状の平坦面をもつS S 02を検出した。検出規模は、東西約6 m、南北約6.4 mを測る。
- ピットは、P 1～P 6の6個を検出した。これらの中で、柱穴と考えられるものはP 3～6の4個で、規模はP 3 (60×42～56) cm、P 4 (32×30～70) cm、P 5 (38×32～64) cm、P 6 (41×30～60) cmを測る。
- 焼 土 面 S S 02内南側で楕円形状の焼土面を検出した。規模は(66×50) cmを測る。
- 土 坑 この遺構に伴うものとして、S S内S K 01～03の3個を検出した。S S内S K 01・2はS S 01に伴うものと考えられる。S S内S K 01は、平面形は、楕円形で、規模は(1.35×0.8～0.2) mを測る。S S内S K 02は、南側がほとんど調査区外となるが、平面形は、円径を呈すると考えられる。検出規模は(2.6×1.0以上～0.3) mを測る。S S 02に伴うものと考えられるS S内S K 03は、平面形は、楕円形径で底面壁際にピットを伴う。規模は(1.6×1.3～0.5) mを測る。底面のピットの規模は径

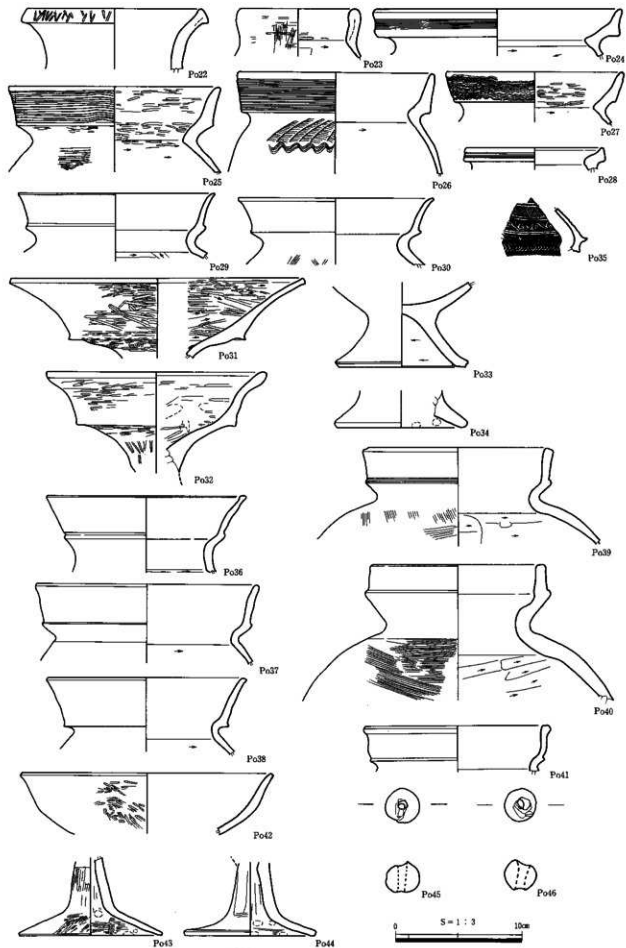
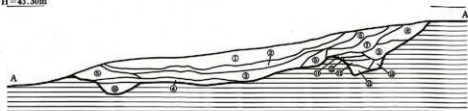
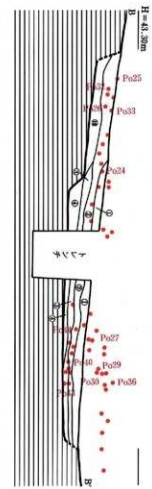
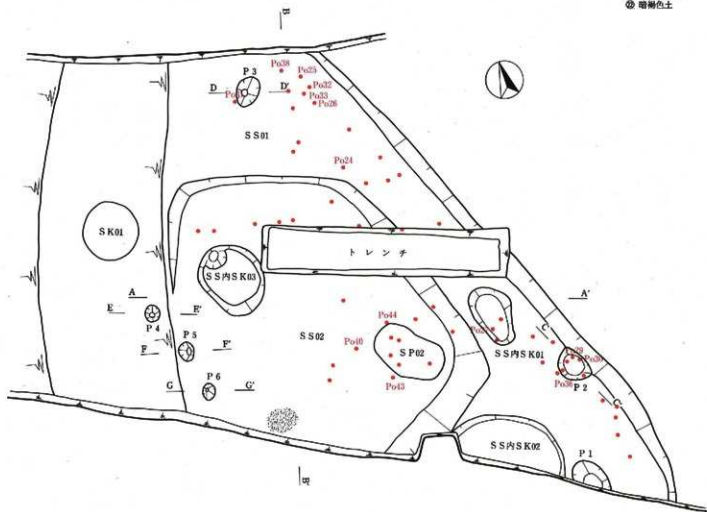


插图198 S S 01 · 02 遗物实测图

H = 43.30m



- ① 赤褐色土
- ② 黄褐色土
- ③ 灰褐色土
- ④ 赤褐色シルト (③層内)
- ⑤ 赤褐色土 (黄灰色シルト混)
- ⑥ 赤褐色土
- ⑦ 黄褐色土
- ⑧ 黄褐色土
- ⑨ 赤褐色土 (黄片混)
- ⑩ 赤褐色土 (地山アロック少量混)
- ⑪ 赤褐色土
- ⑫ 赤褐色土 (黄褐色シルト混)
- ⑬ 赤褐色土 (地山アロック少量混)
- ⑭ 赤褐色土 (地山アロック少量混)
- ⑮ 赤褐色土 (地山アロック少量混)
- ⑯ 赤褐色土
- ⑰ 赤褐色土 (地山アロック少量混)
- ⑱ 赤褐色土 (地山アロック少量混)
- ⑲ 赤褐色土 (地山アロック少量混)
- ⑳ 赤褐色土
- ㉑ 赤褐色土



H = 42.70m



H = 42.50m



H = 42.50m



H = 42.50m



H = 42.50m



S = 1 : 80

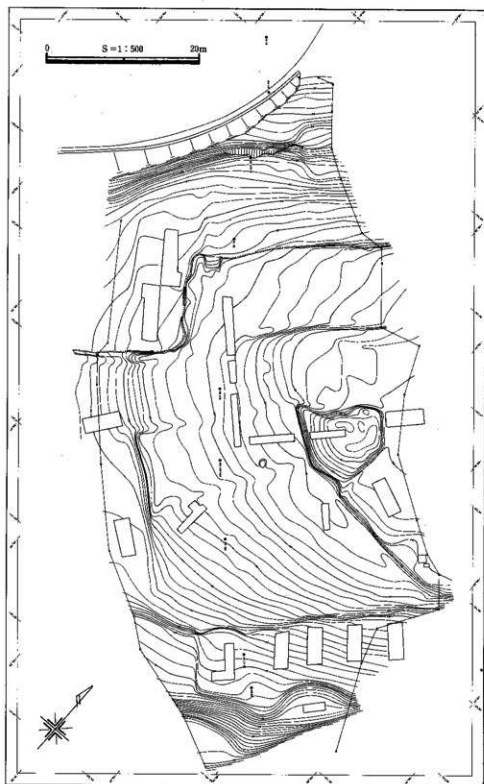
挿図199 S S 01・02選構図

約40cm、深さ28cmを測る。

埋土 埋土は①～⑩の10層を確認した。土層断面からSS01埋土⑥層及び⑩層上面からSS02に切り込まれていることが確認できた。

遺物 埋土中から多量の遺物が出土した。ここでは壺Po22・23・36、甕Po24～30・37～41、器台Po31・32、高坏Po42、脚台部Po33、脚部Po34、特殊壺Po35、筒脚部Po43・44、土玉Po45・46を図化した。

時期 出土した土器よりSS01は弥生時代後期、SS02は古墳時代前期から中期と考えられる。



挿図200 宮内第5遺跡調査前地形測量図

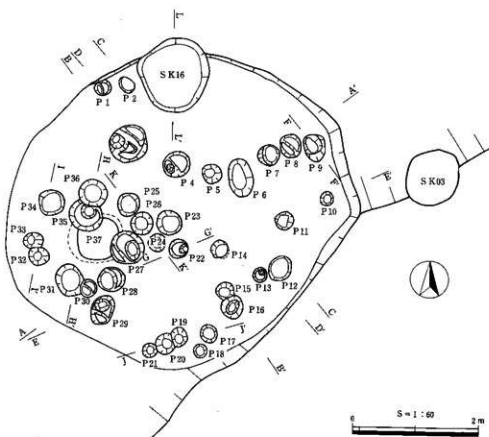
第6章 宮内第5遺跡（B区）の調査

宮内第5遺跡では、竪穴住居跡3棟、土壇基3基、土坑25基、溝状遺構3条、段状遺構1基の他、多数のピットを検出した。また、宮内2、63、64、65号墳を併せて調査しているが、詳細は次章で記述することとする。

第1節 竪穴住居跡

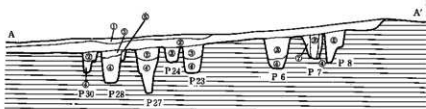
S101 (挿図201～203・図版48、64)

- 位置** 調査区の北側、C7、D7グリッドにあり、標高47.2～46.9mのほぼ平坦地に位置する。宮内63号墳周溝から北東に延びるSD02の埋土を取り除いた段階で検出した。
- 形態** SD02に削平されているため明らかではないが、おそらく円形を呈するものと思われる。②層掘り下げ中、地山面直上で36個のピットを検出したが、貼床を特定することはできなかった。そのため、グリッドに広がるピット群に伴うピットも同時に検出していると考えられるため、住居に伴う柱穴を特定するに至らなかった。ピットの規模は径20～50cm、深さ20～70cmである。P4・5・7・11・22・27・29・30・35については、土層断面で柱痕が確認できた。また、本住居に側溝はみられない。
- 埋土** 1層の水平堆積が認められた。
- 遺物** 埋土中から弥生土器P01～5が出土した。
- 時期** 出土した遺物から弥生時代後期と考えられる。



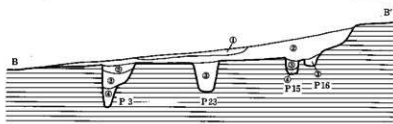
挿図201 S101遺構図

H = 47.90m



- ① 暗灰褐色土 (S D02埋土)
- ② 黄灰褐色土
- ③ 淡褐色土
- ④ 暗灰色土
- ⑤ 深灰褐色土 (棕色土斑)
- ⑥ 灰褐色土
- ⑦ 暗褐色土
- ⑧ 灰褐色粘质土
- ⑨ 暗灰褐色粘质土
- ⑩ 暗灰褐色土
- ⑪ 淡灰褐色土

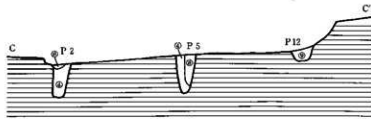
H = 47.90m



II = 47.30m



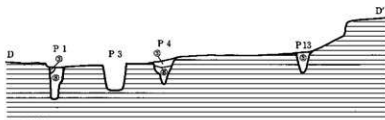
H = 47.90m



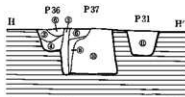
H = 47.30m



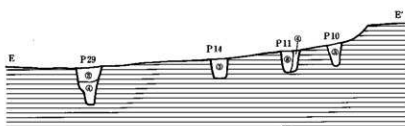
H = 47.90m



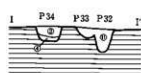
II = 47.30m



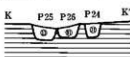
H = 47.90m



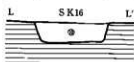
H = 47.30m



H = 47.30m



H = 47.30m



H = 47.30m

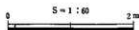
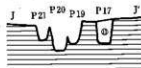
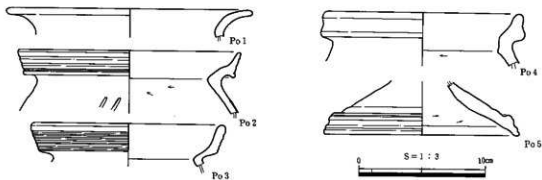


插图202 S I 01土塍断面图



挿図203 S101遺物実測図

S102 (挿図204、205・図版48、64)

位置 C4グリッドにあり、標高46.0~45.3mの緩い傾斜地に位置する。宮内65号墳墳丘下で検出した。
形態 西側壁面の一部削平されているが、残存状況は良好である。平面形は隅丸方形を呈す。規模は一辺約4.5m、壁高は最も遺存状態の良い北東側の壁で最大約40cmである。

主柱穴はP1~P4の4個で、それぞれの規模はP1(70×55-80)cm、P2(55×50-80)cm、P3(70×50-90)cm、P4(60×55-80)cmを測り、柱穴間距離はP1-P2間から順に2.5m、2.6m、2.7m、2.7mである。

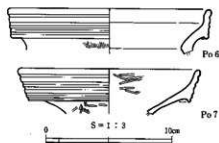
側溝の幅は最も広いところで約30cm、深さは約10cmである。

中央ピット P5が中央ピットである。平面形はほぼ円形で、二段に掘られている。規模は(110×100-50)cmを測る。5層の埋土が認められ、①層の上層には土器片を包含していた。また、③層には焼土粒が多く含まれていた。

焼土面 住居の西側床面、P1とP2の間に焼土面を検出した。また、中央ピット周辺には、直径約2mにわたって炭化した面が円形に広がっていた。

遺物 埋土中および中央ピット上から甕Po6、器台Po7が出土した。

時期 出土した土器から弥生時代後期と考えられる。



挿図204 S102遺物実測図

S103 (挿図206、207・図版48、64)

位置 D5・6グリッドにあり、標高48.2m付近に位置する。宮内2号墳前方部盛土下になり、SX04・05とそれぞれ切り合う。また、床面でSK21を検出した。

形態 平面形は隅丸方形を呈すると考えられる。検出できた規模は南北約3.9m、東西約3.4mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い南東壁で最大40cmを測る。

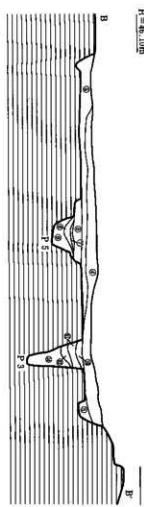
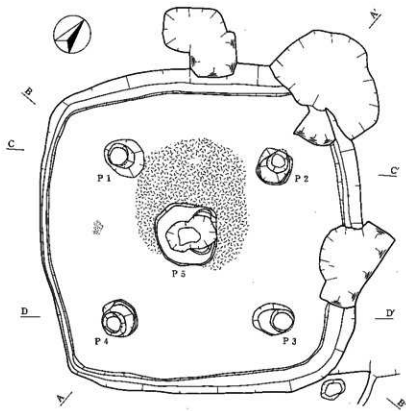
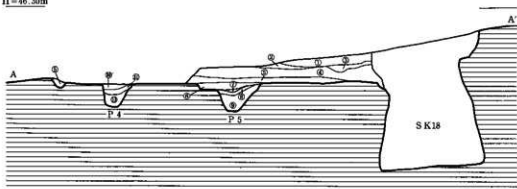
側溝は幅15~23cm、深さ8~12cmを測る。

主柱穴はP1~P4の4個で、P1・2はSX05底面で検出した。規模はP1(50×40-36)cm、P2(34×32-28)cm、P3(61×54-73)cm、P4(56×56-55)cmを測り、柱穴間距離はP1-P2間から順に1.9m、2.3m、2.1m、2.3mである。

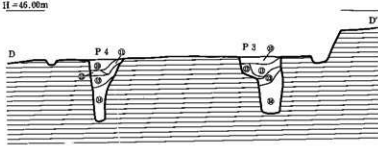
中央ピット 中央ピットはP5で、平面形は隅丸長方形を呈す。規模は(68×56-54)cmを測る。埋土は灰褐色土系の埋土3層に分層できた。

焼土面 南東部で方形に、P4の南側で楕円形に広がる焼土面を検出した。それぞれの範囲は(50×50)

H = 46.30m



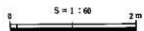
H = 46.00m



H = 46.10m

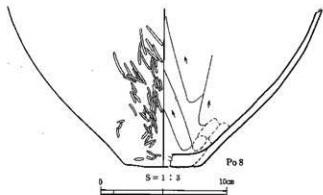


- ① 灰褐色土
- ② 淡灰褐色土 (粘性がよい)
- ③ 暗灰褐色シルト
- ④ 暗黄灰褐色土 (炭化物少量混)
- ⑤ 黄灰褐色土 (炭化物・焼土混)
- ⑥ 暗灰褐色土
- ⑦ 黄灰褐色土
- ⑧ 淡灰褐色土 (粘土混)
- ⑨ 黄灰色シルト
- ⑩ 黄灰褐色土
- ⑪ 暗褐色土
- ⑫ 明黄褐色土
- ⑬ 灰褐色土
- ⑭ 淡黄褐色土
- ⑮ 暗灰褐色土



挿図205 S102遺構図

- cm、(20×16) cmを測る。
- 埋土 埋土は⑯～⑰の4層で、自然堆積したものと考えられ、他はSX04・05の埋土および宮内2号墳前方部盛土である。
- 遺物 P4両側に広がる焼土面の脇で底部Po8が出土した。その他、埋土中より弥生土器片が出土した。
- 時期 出土した土器より弥生時代後期と考えられる。



挿図206 S I 03遺物実測図

第2節 土墳墓

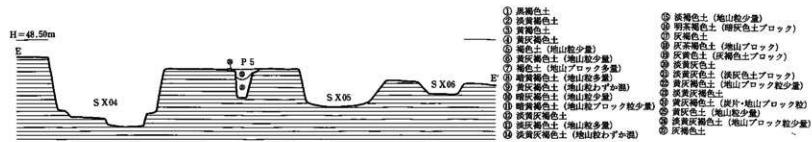
第2節では、宮内2号墳丘下で検出された土墳墓について述べることにし、古墳の埋葬施設に伴うと考えるSX01～03については、次章で述べることにする。

SX04 (挿図208、211・図版48、73)

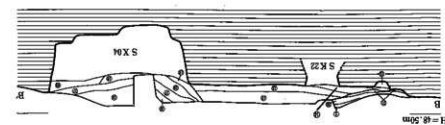
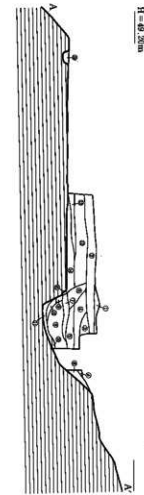
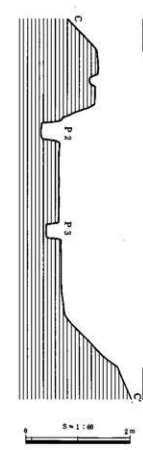
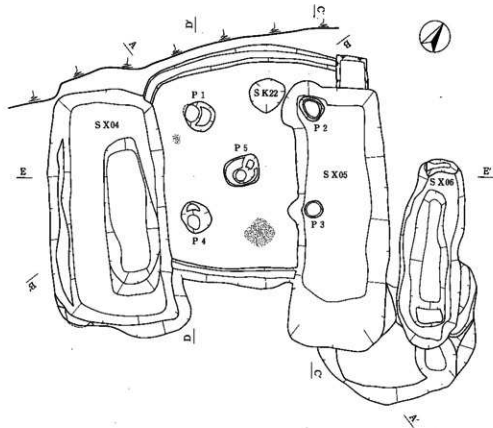
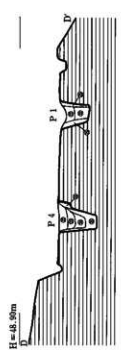
- 位置 C5・6、D5・6グリッドにあり、標高48m付近に位置する。宮内2号墳前方部盛土下にあり、S I 03と切り合う。
- また、SX05・06と平行するように並んでいる。
- 形態 墓壇掘り方は、ほぼ長方形を呈し、検出できた規模は(4.95×2.64-1.20) mを測る。
- 埋葬部 墓壇底面の東寄りの位置で、木棺と思われる痕跡を検出した。検出できた木棺痕跡の規模は長さ3.26m、幅0.7～1.19m、深さは最深部で0.4mをそれぞれ測る。この底部のほぼ3/4におよぶ範囲で木質を検出した。検出できた木質は、断面が船底形を呈し、厚さは最大6cmを測る。これらのことから、この埋葬部は舟形木棺であったと考えられる。
- 埋土 埋土は13層に分層できた。この内の7層は棺蓋、⑬層は棺身を示すものと考えられる。
- 遺物 埋土上層から板状鉄斧F1が、埋土中から弥生土器細片がわずかではあるが出土した。
- 時期 出土遺物およびS I 03との切り合い、また宮内2号墳との関係から弥生時代後期であると考えられる。

SX05 (挿図209、211・図版48、64)

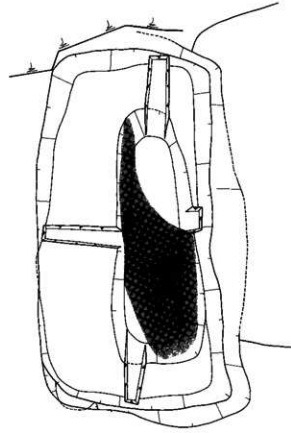
- 位置 D5・6グリッドにあり、標高48m付近に位置する。宮内2号墳前方部盛土下にあり、SX06と切り合う。
- 形態 墓壇掘り方は、ほぼ長方形を呈し、検出できた規模は(3.68×1.26-0.48) mを測る。
- 埋葬部 墓壇底面で埋葬部と考えられる痕跡を検出した。検出できた規模は長さ2.26m、幅0.5～0.82m、深さは最深部で0.12mを測る。
- 埋土 埋土は7層に分層できた。
- 遺物 埋土中から弥生土器細片が出土した。また、SX06との境界部分で脚台部Po9が出土した。
- 時期 出土した土器およびS I 03、SX04・06、宮内2号墳との関係から弥生時代後期と考えられる。



- ① 赤褐色土
- ② 赤褐色土
- ③ 赤褐色土
- ④ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ⑤ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ⑥ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ⑦ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ⑧ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ⑨ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ⑩ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ⑪ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ⑫ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ⑬ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ⑭ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ⑮ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ⑯ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ⑰ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ⑱ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ⑲ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ⑳ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ㉑ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ㉒ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ㉓ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ㉔ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ㉕ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ㉖ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ㉗ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ㉘ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ㉙ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ㉚ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ㉛ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ㉜ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ㉝ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ㉞ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ㉟ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ㊱ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ㊲ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ㊳ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ㊴ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ㊵ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ㊶ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ㊷ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ㊸ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ㊹ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ㊺ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ㊻ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ㊼ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ㊽ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ㊾ 赤褐色土 (地山粒少量)
- ㊿ 赤褐色土 (地山粒少量)

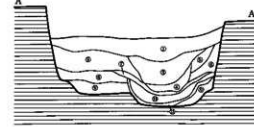


挿図207 S103遺構図

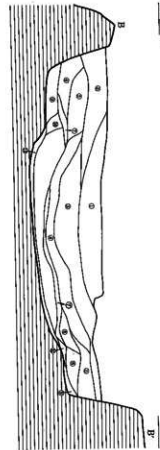
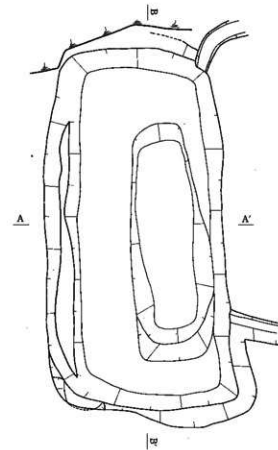


5 = 1 : 40

H = 48.30m

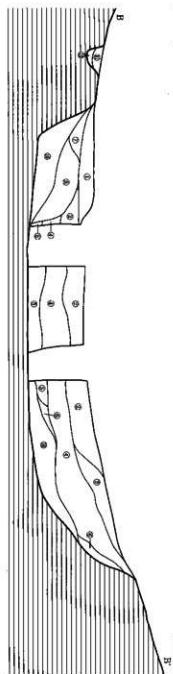
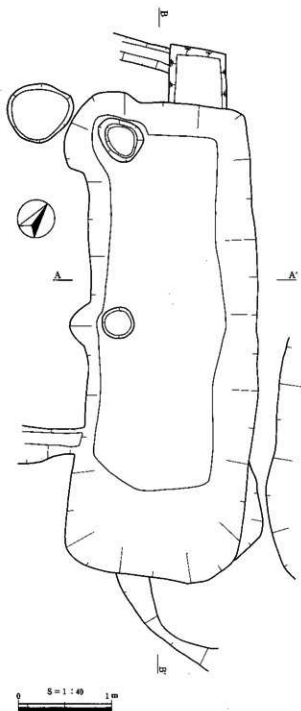


- ① 灰茶褐色土 (地山ブロック敷設)
- ② 灰茶褐色土 (地山ブロック敷設)
- ③ 茶褐色土 (灰褐色土ブロック敷)
- ④ 灰褐色土 (中平粘質)
- ⑤ 明黄茶褐色土 (地山ブロック敷設)
- ⑥ 黄茶褐色土 (地山ブロック敷設)
- ⑦ 灰茶褐色土 (中平粘質)
- ⑧ 明灰褐色土 (中平粘質)
- ⑨ 黄褐色土 (灰褐色土ブロック敷)
- ⑩ 淡灰褐色土 (中平粘質)
- ⑪ 淡黄褐色土 (中平粘質) (塗りしまりがない)
- ⑫ 明灰質褐色土 (中平粘質)
- ⑬ 明茶褐色土 (木質)



H = 48.30m

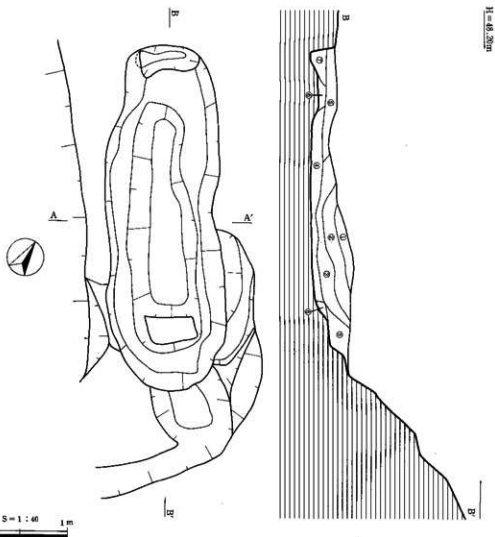
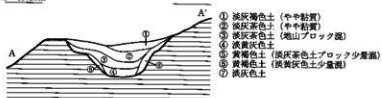
挿図208 S X 04埋葬部平面図及び構造図



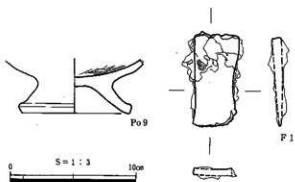
- ① 淡灰褐色土 (地山粒少量混)
- ② 褐色土 (地山粒少量混)
- ③ 褐色土 (地山ブロック多量混)
- ④ 新黄褐色土 (地山粒少量混)
- ⑤ 暗灰褐色土 (地山粒少量混)
- ⑥ 暗茶褐色土
- ⑦ 淡灰褐色土 (淡黄灰色シルト多量混)
- ⑧ 明灰黄褐色シルト (淡黄灰色シルト混)
- ⑨ 灰黄褐色土
- ⑩ 暗黄褐色土 (地山ブロック少量混)
- ⑪ 淡灰褐色土
- ⑫ 淡褐色土 (地山粒少量混)

挿図209 S X 05遺構図

H=48.20m



挿図210 S X 06遺構図



挿図211 S X 04~06遺物実測図

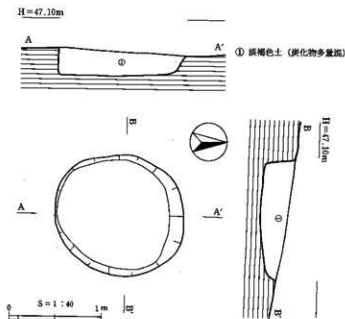
S X 06 (挿図210、211・図版48、64)

- 位置 D 5・6 グリッドにあり、標高48m付近に位置する。宮内2号墳盛土下にあり、S I 03と切り合う。また、S X 04・05と平行するように並んでいる。
- 形態 墓壇掘り方は、ほぼ長方形を呈し、検出できた規模は(5.07×1.88-1.1)mを測る。この墓壇底面でS I 03のP 1・2を検出した。
- 埋葬部 埋葬部を検出することはできなかったが、⑤、⑥層が埋葬部となる可能性が考えられる。
- 埋土 埋土は10層に分層できた。⑪、⑫層はS I 03側溝埋土である。
- 遺物 埋土中から弥生土器細片が出土した。
- 時期 出土した土器およびS I 03との切り合い、また宮内2号墳との関係から弥生時代後期と考えられる。

第3節 土坑

S K 01 (挿図212・図版49)

- 位置 D 4グリッドにあり、標高46.9mに位置する。
- 形態 楕円形を呈す土坑である。検出規模は(1.4×1.2-0.3)mである。
- 埋土 堆積は一層であった。
- 遺物 埋土中から弥生土器の特殊壺の小片が出土したが、図化できなかった。
- 時期 出土した土器から弥生時代後期と考えられる。

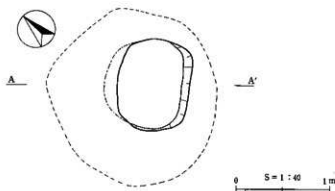
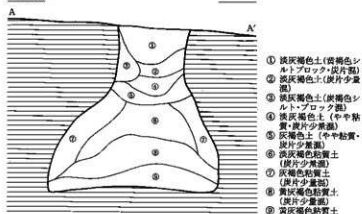


挿図212 S K 01遺構図

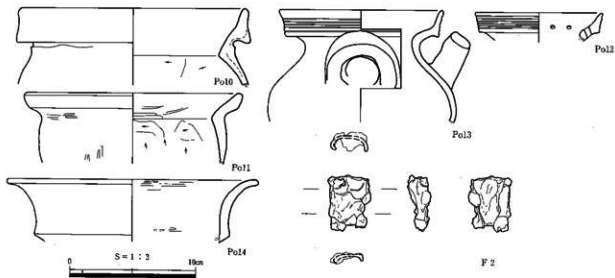
S K 02 (挿図213、214・図版49、64)

- 位置 C 4グリッドにあり、標高45.8m付近に位置する。宮内65号墳填丘下であり、S I 02とほぼ接している。
- 形態 平面形は上縁部長楕円形、底面円形で、断面形は袋状を呈する。検出できた規模はそれぞれ(0.99×0.77)m、(1.92×1.82)mを測り、深さは1.7mである。
- 埋土 埋土は9層に分層できた。
- 遺物 壺Po10-12、注口土器Po13、高坏Po14の他、埋土中から弥生土器片が出土した。
- 性格 断面形が袋状を呈することから、貯蔵穴と考えられる。
- 時期 出土した土器から弥生時代後期中葉以前と考えられる。

H=46.00m



挿図213 S K02遺構図



挿図214 S K02遺物実測図

S K03 (挿図215、216・図版49、65)

位置 D7グリッドにあり、標高46.8mに位置する。

形態 平面形は楕円形、底面形は円形を呈し、断面形は袋状をなす。検出できた規模は上縁部(1.2×0.95)m、底面(1.2×0.95)mである。検出面からの深さは約1mを測る。

埋土 12層の埋土が認められた。埋土中に多量の土器片が含まれており、堆積状況から人為的な堆積と推測される。

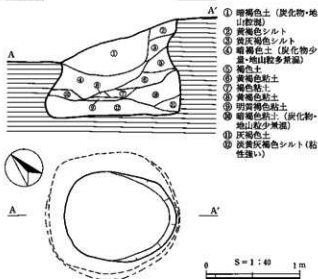
遺物 埋土中から壺Po15~17、脚

台部Po18が出土した。

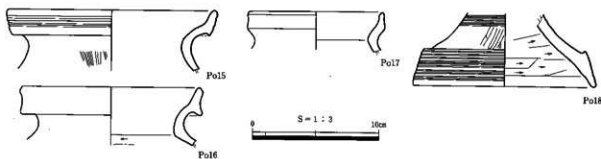
性格 断面形が袋状を呈することから、貯蔵穴と考えられる。

時期 出土した土器から弥生時代後期と考えられる。

H=47.00m



挿図215 SK 03遺構図



挿図216 SK 03遺物実測図

SK 04 (挿図217、218・図版49、65)

位置 C 6グリッドにあり、標高45.4m付近に位置する。宮内63号墳周溝底面で検出した。

形態 平面形は上縁部不定形、底面円形で、断面形はやや袋状を呈する。検出できた規模はそれぞれ (1.21×0.99)m、(1.57×1.54)mを測り、深さは1.4mである。

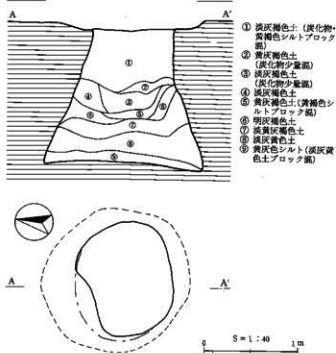
埋土 埋土は9層に分層できた。

遺物 壺Po19~23、器台Po24、脚部Po25の他、埋土中から弥生土器片が出土した。

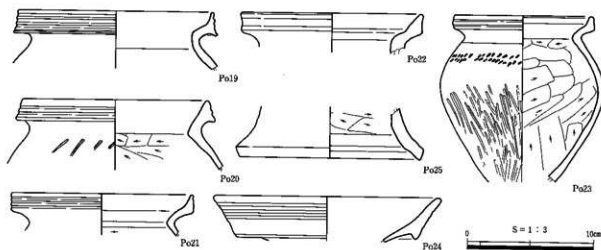
性格 断面形がやや袋状を呈することから、貯蔵穴と考えられる。

時期 出土した土器から弥生時代後期と考えられる。

H=45.70m



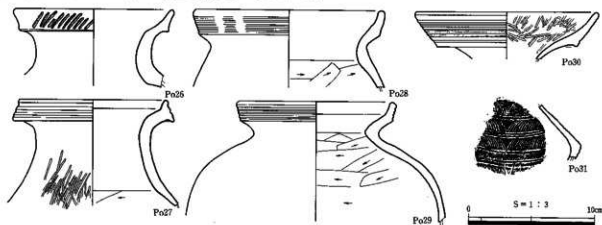
挿図217 SK 04遺構図



挿図218 SK04遺物実測図

SK05 (挿図219、220・図版50、65)

- 位置 C4、D4グリッドにあり、標高46.1m付近に位置する。SD01と切り合う。
- 形態 平面形は上縁部不定形、底面ほぼ円形で、断面形は袋状を呈する。検出できた規模はそれぞれ(1.63×1.38)m、(2.5×2.33)mを測り、深さは2.0mである。
- 埋土 埋土は20層に分層できた。⑤層は炭化物の堆積層である。
- 遺物 壺Po26、甕Po27~29、器台Po30、特殊壺Po31の他、弥生土器片が出土した。
- 性格 断面形が袋状を呈することから、貯蔵穴と考えられる。
- 時期 出土した土器から弥生時代後期と考えられる。

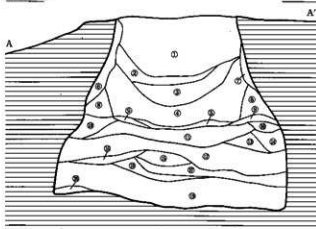


挿図219 SK05遺物実測図

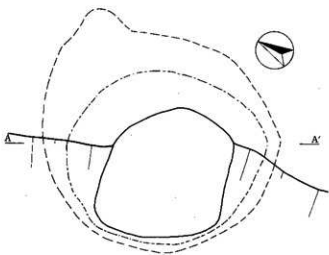
SK06 (挿図221、222・図版50、65)

- 位置 B7グリッドにあり、標高43.8m付近に位置する。SS01上に掘り込まれていた。
- 形態 平面形、底面形いずれも円形を呈し、断面形は袋状を呈する。規模は(0.8×0.7~0.9)mを測る。
- 埋土 埋土は4層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
- 遺物 壺Po32、甕Po33を腐化した。
- 性格 断面形が袋状を呈することから、貯蔵穴と考えられる。
- 時期 出土した土器から弥生時代後期と考えられる。

H=46.30m



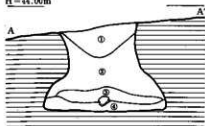
- ① 淡灰褐色土 (黄褐色シルトブロック少量・炭片少量混)
- ② 灰褐色土 (炭片少量混)
- ③ 淡灰褐色土 (黄褐色シルトブロック少量・炭片少量混)
- ④ 灰褐色土 (炭片混) → ②よりしまりがよい
- ⑤ 炭化物層
- ⑥ 黄褐色シルト (淡灰褐土混)
- ⑦ 淡灰褐色土 (黄褐色シルト多量混)
- ⑧ 灰褐色土 (しまりがよい)
- ⑨ 黄褐色土 (中粘質)
- ⑩ 黄灰色土
- ⑪ 黄灰色粘質土
- ⑫ 灰褐色粘質土
- ⑬ 灰褐色粘質土 (黄褐色シルトブロック混)
- ⑭ 黄褐色シルト (灰褐色粘質土混)
- ⑮ 淡灰色粘質土
- ⑯ 黄褐色シルト (灰褐色粘質土ブロック少量混)
- ⑰ 白灰色粘質土 (黄白色粘質土ブロック混)
- ⑱ 白灰色粘質土 (炭片少量混)
- ⑳ 淡灰茶色粘質土
- ㉑ 羽黄灰色土



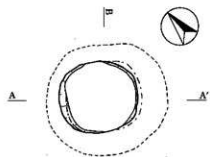
0 S=1:40 1m

挿図220 SK 05遺構図

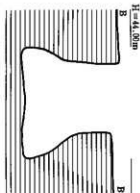
H=44.00m



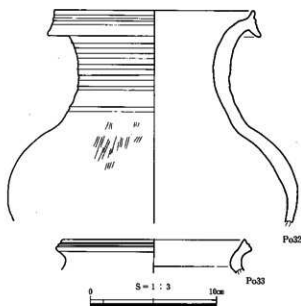
- ① 黄灰褐色土 (地山粒少量混)
- ② 暗黄灰褐色土 (地山ブロック多量混)
- ③ 黄褐色土 (地山ブロック多量混)
- ④ 暗灰褐色土



0 S=1:40 1m



挿図221 SK 06遺構図



挿図222 SK06遺物実測図

SK07 (挿図223・図版50)

位置 B6グリッドにあり、標高45.9m付近に位置する。SS01を切っている。 H=46.30m

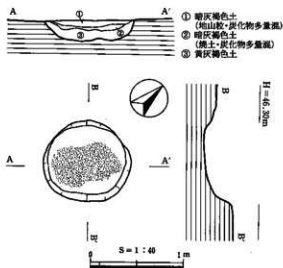
形態 平面形、底面形とも円形を呈し、断面形は浅い皿状を呈する。規模は(0.95×0.85-0.2)mを測る。SS01の埋土を掘り込む形でつくられていた。

埋土 埋土は3層に分層できた。なお、②層では大量の焼土、炭化物を検出している。

遺物 出土しなかった。

性格 不明である。

時期 SS01との切り合い関係から、少なくとも弥生時代後期以降と考えられる。



挿図223 SK07遺構図

SK08 (挿図224、225・図版50、65)

位置 B7グリッドにあり、標高43.8m付近に位置する。SS01に隣接する形で掘り込まれていた。

形態 平面形、底面形、断面形とも長方形を呈する。検出規模は(1.25×1-1.15)mを測る。

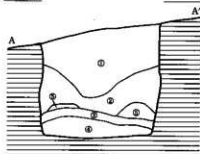
埋土 埋土は5層に分層できた。

遺物 壘Po34・35を固定した。

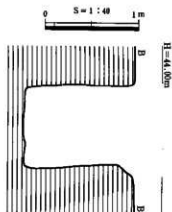
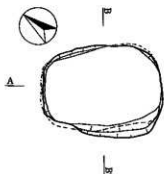
性格 形態から貯蔵穴と考えられる。

時期 出土した土器から弥生時代後期と考えられる。

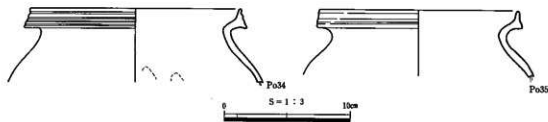
H=44.00m



- ① 黄灰褐色土 (地山崩少量混)
- ② 暗黄灰褐色土 (地山ブロック多く混)
- ③ 暗赤褐色土
- ④ 暗黄灰褐色土 (地山ブロック混)
- ⑤ 黄褐色土 (地山ブロック多量混)



挿図224 S K 08遺構図



挿図225 S K 08遺物実測図

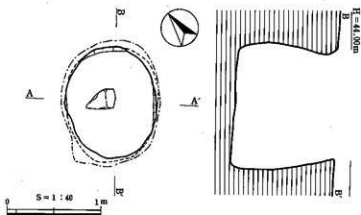
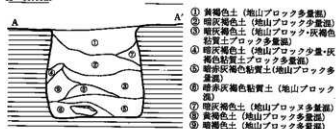
S K 09 (挿図226・図版51)

- 位置 B 7 グリッドにあり、標高43.8m付近に位置する。S S 01上に掘り込まれていた。
- 形態 平面形、底面形ともに楕円形を呈し、断面形は台形状を呈する。規模は (1.2×0.9-1.1) mを測る。
- 埋土 埋土は9層に分層できた。
- 遺物 弥生土器の小片が出土したが、図化できるものはなかった。
- 性格 形態から貯蔵穴と考えられる。
- 時期 出土した土器から弥生時代後期と考えられる。

S K 10 (挿図227、229・図版51、66)

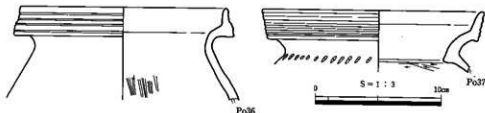
- 位置 C 3 グリッドにあり、標高45.6mに位置する。西側にはS K 11、東側にはS K 13がある。
- 形態 平面形は不定形な楕円形を呈す。検出できた規模は上縁部 (2×1.5) m、底面 (1.8×1.7) mである。断面形は台形を呈し、検出面からの深さは約0.6mを測る。埋土除去後、底面の西よりのところで炭化物の広がりが認められた。その下には小ピットがあった。ピットの規模は (40×30×10) cmである。3層の堆積が認められ、③層は焼土層であった。

H=44.00m



挿図226 SK 09遺構図

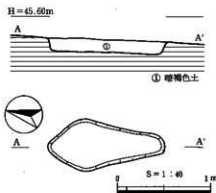
- 埋 土 土坑内には2層の水平堆積が認められた。
 遺 物 ③層中から壺Po36・37が出土した。
 時 期 出土した土器から弥生時代後期と考えられる。



挿図227 SK 10遺物実測図

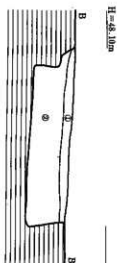
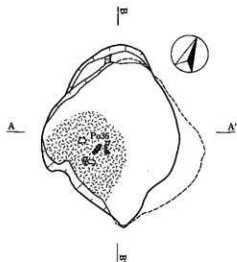
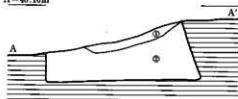
SK 11 (挿図228・図版51)

- 位 置 C 3グリッドにあり、標高45.5mに位置する。東側にはSK 10がある。
 形 態 平面形は不定型な楕円形を呈す。検出できた規模は(1.2×0.5-0.15) mを測る。
 埋 土 埋土は1層であった。
 遺 物 遺物は出土していない。
 時 期 周辺の遺構との関係から弥生時代後期と考えられる。

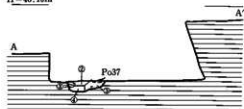


挿図228 SK 11遺構図

H = 48.10m



H = 48.10m



- ① 黄灰褐色土
- ② 暗灰褐土
- ③ 黄土
- ④ 炭化材

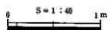
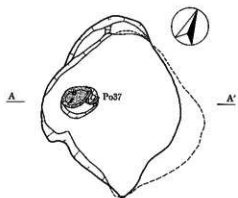
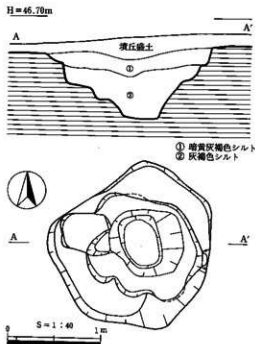


插图229 SK10遺構図

S K 12 (挿図230・図版51)

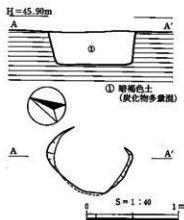
- 位置 C 6 グリッドにあり、標高46.5mに位置する。
宮内63号墳南側周溝下で検出した。
- 形態 平面形は不定型な円形を呈す。断面形は階段状で検出できた規模は径1.7m、深さは0.7mである。
- 埋土 2層の水平堆積が認められた。
- 遺物 埋土中から弥生土器と思われる小片が出土したにとどまる。
- 性格 形態から風倒木痕の可能性も考えられる。
- 時期 宮内63号墳墳丘および周溝下で検出したこと、および弥生時代後期のピット群の中に位置することから、弥生時代後期と思われる。



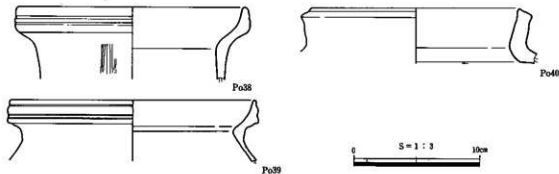
挿図230 S K 12遺構図

S K 13 (挿図231、232・図版51、66)

- 位置 C 3 グリッドにあり、標高45.8mに位置する。東側はS D 01に切られている。
- 形態 平面形はほぼ円形を呈す。検出できた規模は直径約90cm、深さ約35cmである。
- 埋土 堆積は1層であった。
- 遺物 埋土中から壺Po38、甕Po39・40が出土した。
- 時期 出土した土器から弥生時代後期と考えられる。



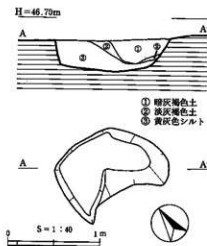
挿図231 S K 13遺構図



挿図232 S K 13遺物実測図

S K 14 (挿図233・図版52)

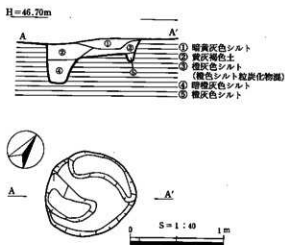
- 位置 C 6グリッドにあり、標高46.4mに位置する。宮内63号墳南側周溝下で検出した。
- 形態 平面形は不定形を呈す。検出できた規模は(1.2×0.7-0.4) mである。
- 埋土 3層の堆積が認められた。自然堆積と考えられる。
- 遺物 弥生土器の小片が出土したが、図化することはできなかった。
- 時期 出土した土器から弥生時代後期と考えられる。



挿図233 S K 14遺構図

S K 15 (挿図234・図版52)

- 位置 C 6グリッドにあり、標高46.5mに位置する。宮内63号墳北西側周溝下で検出した。
- 形態 平面形は円形を呈す。底面には溝状の落ち込みがあり、断面形は不定形である。検出できた規模は直径約1m、深さは最深部で約40cmである。
- 埋土 5層の堆積が認められた。
- 遺物 出土していない。
- 性格 断面形から風倒木痕の可能性も考えられる。
- 時期 宮内63号墳周溝下で検出したこと、および弥生時代後期のピット群の中に位置することから、弥生時代後期と思われる。



挿図234 S K 15遺構図

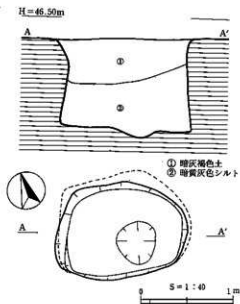
S K 16 (挿図201・図版52)

- 位置 D 7グリッドにあり、標高47.0mに位置する。S I 01完掘後、検出した。
- 形態 平面形はほぼ楕円形を呈する。検出規模は(1.2×1.1-0.3) mである。
- 埋土 埋土は1層であった。
- 遺物 出土していない。
- 性格 不明であるが、S I 01に伴う可能性もある。
- 時期 S I 01下で検出したが、S I 01より古いかどうか判断できない。いずれにしても弥生時代後期と思われる。

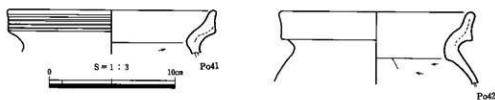
S K 17 (挿図235、236・図版52、66)

- 位置 C 6グリッドにあり、標高46.3mに位置する。宮内63号墳西側周溝下で検出した。
- 形態 平面形は楕円形、断面形は途中で内側にくびれて袋状を呈す。底面に浅い落ち込みがある。検出で

- きた規模は上縁部(1.4×1)m、底面(1.4×1.1)mで
ある。検出面からの深さは約1mを測る。
- 埋 土 2層の水平堆積が認められた。
- 遺 物 ②層中から弥生土器の壺Po41・42が出土した。
- 性 格 形態から貯蔵穴の可能性も考えられる。
- 時 期 出土した遺物から弥生時代後期と考えられる。

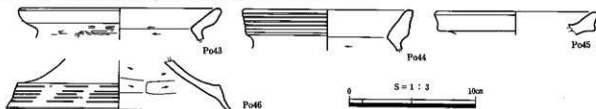


挿図235 S K 17遺構図



挿図236 S K 17遺物実測図

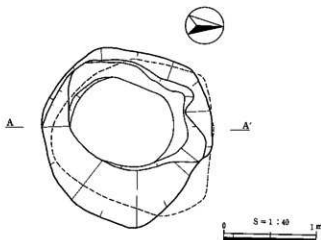
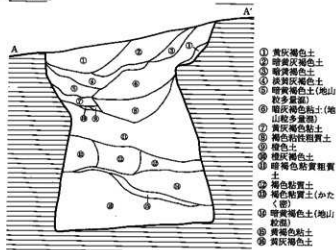
- S K 18 (挿図237、238・図版52、66)
- 位 置 C 4 グリッドにあり、標高46.1mに位置する。宮内65号墳丘下で検出され、S 1 02の北隅を切る。
- 形 態 検出面および底面の平面形はほぼ円形を呈す。断面形は途中でくびれて袋状を呈す。検出できた規模は上縁部径1.8m、底面径1.7mを測る。検出面からの深さは2.2mである。
- 埋 土 16層の堆積が認められた。本遺構の堆積状況は下半では南から北へ、上半では北から南へ傾いており、投棄による人為的な堆積と判断できる。
- 遺 物 埋土中から壺Po43~45、脚台部Po46が出土した。
- 性 格 形態から貯蔵穴と考えられる。
- 時 期 出土した遺物から弥生時代後期と考えられる。



挿図237 S K 18遺物実測図

- S K 19 (挿図239、240・図版53、66)

H=46.30m



挿図238 S K 18遺構図

位置 B 6 グリッドにあり、標高43.3m付近に位置する。SS 01の南西に位置する。

形態 平面形、底面形ともに不定形を呈し、断面形は袋状を呈する。検出できた規模は上縁部で(0.8×0.6)m、底面で(1.1×1)m、深さ0.9mを測る。

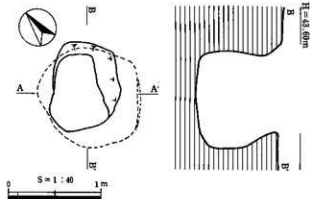
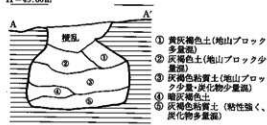
埋土 埋土は5層に分層できた。

遺物 甕Po47・48を図化した。

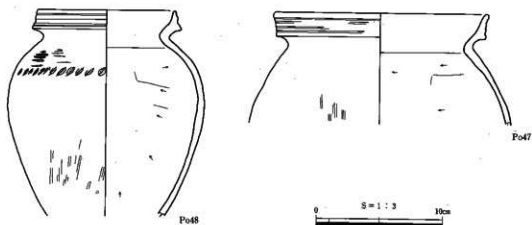
性格 断面形が袋状を呈することから、貯蔵穴と考えられる。

時期 出土した土器から弥生時代後期と考えられる。

H=43.60m



挿図239 S K 19遺構図



挿図240 S K 19遺物実測図

S K 20 (挿図241・図版53)

位置 B 6・7グリッドにあり、標高44.5 m付近に位置する。S S 01に切られている。

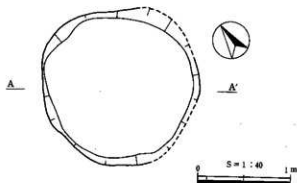
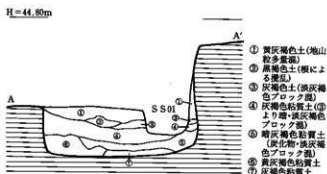
形態 平面形、底面形ともに円形を呈し、残存部分から判断するかぎり断面形は長方形を呈する。規模は残存部分で(1.6×1.6-0.9) mを測る。

埋土 埋土は7層に分層できた。

遺物 図化できる遺物は出土しなかった。

性格 形態から貯蔵穴と考えられる。

時期 切り合い関係から弥生時代後期以前と考えられる。



挿図241 S K 20遺構図

S K 21 (挿図242、243・図版53、66)

位置 A 6グリッドにあり、標高43.5m付近に位置する。S S 01の西側に位置している。

形態 平面形、底面形ともに楕円形を呈し、断面形は台形状を呈する。規模は(1×0.8-0.8) mを測る。底面の周囲は5cmほど掘り下げられており、これが全周におよぶ。

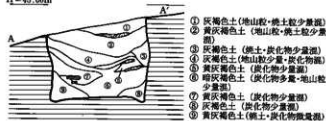
埋土 埋土は9層に分層できた。

遺物 壺Po49・50、甕Po51~53が出土した。

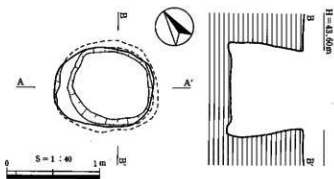
性格 形態から貯蔵穴と考えられる。

時期 出土した土器から弥生時代後期と考えられる。

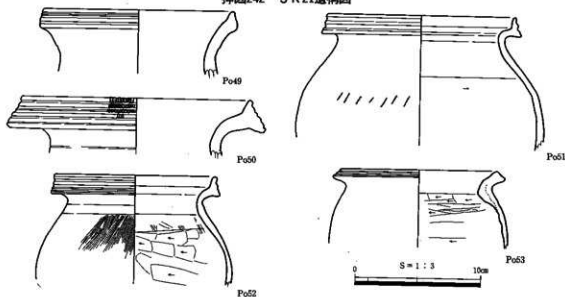
H = 43.60m



- ① 灰褐色土(地山砂・焼土粒少量混)
- ② 黄灰褐色土(地山砂・焼土粒少量混)
- ③ 灰褐色土(焼土・炭化物少量混)
- ④ 灰褐色土(地山砂少量・炭化物混)
- ⑤ 黄灰褐色土(炭化物少量混)
- ⑥ 暗灰褐色土(炭化物多量・地山砂少量混)
- ⑦ 黄灰褐色土(炭化物少量混)
- ⑧ 灰褐色土(炭化物少量混)
- ⑨ 黄灰褐色土(焼土・炭化物微量混)



挿図242 S K 21遺構図

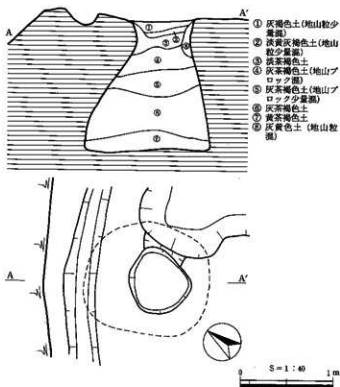


挿図243 S K 21遺物実測図

S K 22 (挿図244・図版53)

- 位置 D 6 グリッドにあり、標高48m付近に位置する。S I 03床面で検出した。
- 形態 平面形は上縁部不定形、底面長楕円形で、断面形は袋状を呈する。検出できた規模はそれぞれ(0.71×0.62)m、(1.32×1.28)mを測り、深さは1.4mである。
- 埋土 埋土は8層に分層できた。
- 遺物 埋土中から弥生土器細片が出土した。
- 性格 断面形が袋状を呈することから、貯蔵穴と考えられる。
- 時期 出土した土器およびS I 03との関係から弥生時代後期以前と考えられる。

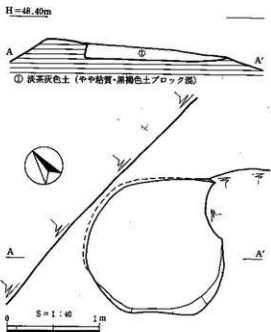
H=48.20m



挿図244 S K 22遺構図

S K 23 (挿図245・図版54)

- 位置 D 6 グリッドにあり、標高48.2m付近に位置する。宮内 2 号墳北側周溝底面で検出した。
- 形態 平面形は上縁部、底面とも不定形をなし、断面形は一部袋状を呈する。検出できた規模はそれぞれ (1.43×1.40) m、(1.49×1.40) m を測り、深さは0.15mである。
- 埋土 埋土は1層である。
- 性格 断面形が一部袋状を呈することから、貯蔵穴の可能性も考えられる。
- 時期 不明である。



挿図245 S K 23遺構図

S K 24 (挿図246・図版54)

位置 E 5 グリッドにあり、宮内 2号墳墳丘下、標高49.4m付近に位置する。2号墳第3主体部により南東の一部が切られている。

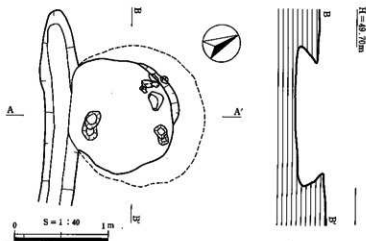
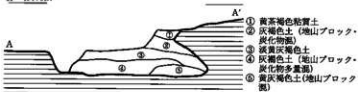
形態 平面形、底面形ともに円形を呈し、断面形は袋状を呈する。検出された規模は上縁部径1m、底面径1.5mを測る。深さは残存部分で0.5mである。なお、底面の2箇所で深さ5cmほどの窪みを検出した。

埋土 埋土は5層に分層できた。
遺物 弥生土器片数点が出土したが図化するに至らなかった。他に20cm大の石片が出土した。

性格 断面形が袋状を呈することから、貯蔵穴と考えられる。

時期 出土した土器から弥生時代後期と考えられる。

H=49.70m



挿図246 S K 24遺構図

S K 25 (挿図247・図版54)

位置 E 5 グリッドにあり、標高49.5m付近に位置する。宮内 2号墳後円部盛土下で検出した。

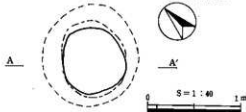
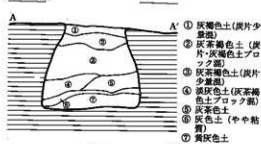
形態 平面形は上縁部、底面とも楕円形をなし、断面形は袋状を呈する。検出された規模はそれぞれ(0.71×0.64)m、(1.10×1.02)mを測り、深さは0.89mである。

埋土 埋土は7層に分層できた。

性格 断面形が袋状を呈することから、貯蔵穴と考えられる。

時期 宮内 2号墳との関係および他の貯蔵穴の時期から弥生時代後期以前と考えられる。

H=49.70m

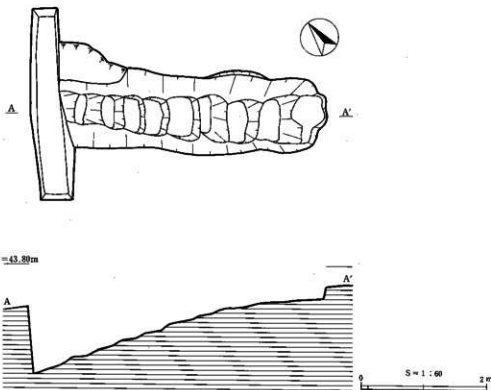


挿図247 S K 25遺構図

第4節 溝状遺構

S D 01 (挿図248、249・図版54、55)

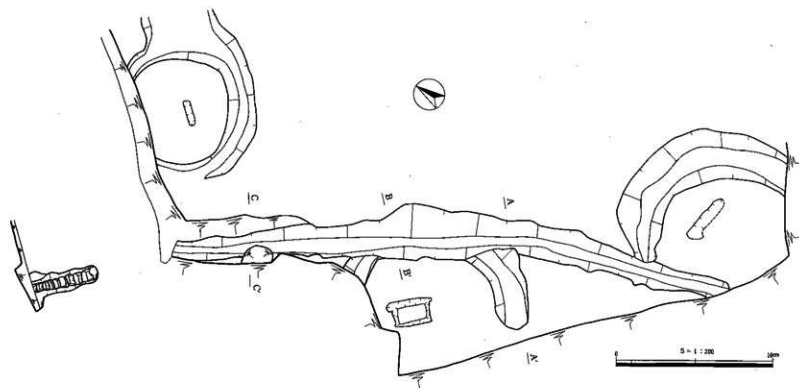
- 位置** 調査区の西側をほぼ南北に走る溝である。B 5、C 4・5、D 3グリッドにあり、標高46.0mに位置する。当遺構の中央部西側には宮内65号墳、南端東側には宮内64号墳が位置する。
- 形態** 調査区北側は削平されているため一部途切れるが、規模は直線距離にして長さ約44m、幅約1.2～3m、深さ約0.8～1.2mである。
- 階段状遺構** 調査区の北端は傾斜地に沿って、緩い階段状になっている。南東から北西に向かって降っていく。一段の規模は平均(60×30)cm、一段の高さは約10cmである。
- 埋土** 4層の水平体積が認められた。自然体積と思われる。階段状の部分は、上面をかなり削平されており1層の体積が認められたにすぎない。堆積していたのは③層である。また、宮内65号墳を本遺構が切っていることが確認された。宮内65号墳周溝が完全に埋まった後に掘り込まれていることから、前後関係についてある程度の時間差を考慮しなければならない。
- 遺物** 埋土全体をととして、弥生土器片が認められた。③層中から須恵器小片が出土したが、図化できなかった。また、①層中から底部に糸切り痕のある素焼きの中世土器が数点出土した。
- 時期** 宮内64号墳、宮内65号墳を切っていることから、これらの円墳よりも新しいことは確実である。しかし、時代を特定する遺物がなく、古墳時代後期後葉以降と考えておきたい。



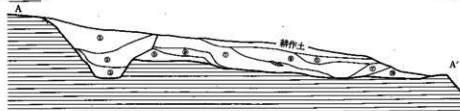
挿図248 S D 01階段状遺構

S D 02 (挿図250、251・図版66)

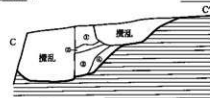
- 位置** 調査区の北側C 7、D 7グリッドに位置する。宮内63号墳主体部主軸に沿って宮内63号墳周溝から北東に延びる浅い溝である。
- 形態** 北東に向かって浅くなるが、南側の形は調査区の端まで確認することができた。規模は、直線距離で長さ7m以上、幅約4.5m、深さ0.2mである。



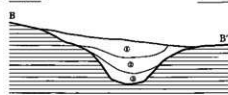
H = 66.80m



H = 66.40m



H = 67.10m

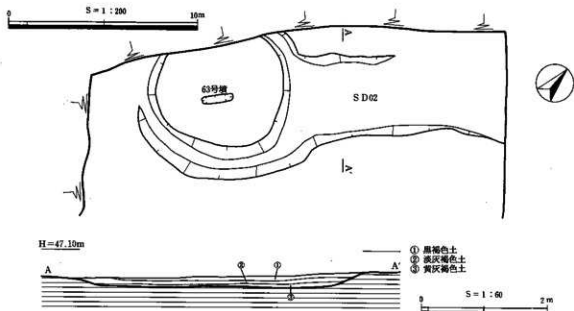


- ① 灰褐色土
- ② 黄土
- ③ 暗灰褐色土
- ④ 黄褐色シルト
- ⑤ 褐色土
- ⑥ 暗褐色土
- ⑦ 灰褐色土
- ⑧ 灰褐色土
- ⑨ 黄褐色シルト
- ⑩ 黄灰褐色土 (S I - 02 埋土)

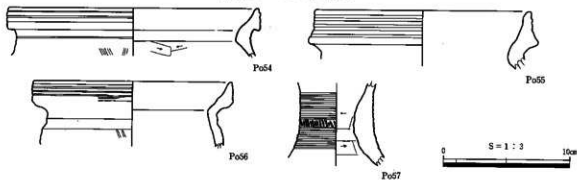
0 S = 1 : 40 2m

挿図249 SD01遺構図

- 埋土 3層の水平体積が認められた。自然体積と考えられる。
- 遺物 埋土中から甕Po54～56、筒部Po57が出土した。
- 時期 埋土中から出土した土器は全て弥生土器であったが、これは、溝が弥生時代後期のピット群の上に掘り込まれているからである。宮内63号墳に設定した土層断面には、宮内63号墳周溝とSD02に切り合い関係は認められず、同様の埋土が堆積していた。このことから、SD02は宮内63号墳に並行するものと考えたい。本遺構の時期は古墳時代後期と思われる。



挿図250 SD02遺構図



挿図251 SD02遺物実測図

S D03 (挿図256・図版55)

- 位置 E 5 グリッドにあり、標高49.6m付近に位置する。宮内2号墳の盛土除去後に検出した。SK24に隣接し、宮内2号墳の埋没周溝によって切られている。
- 形態 宮内2号墳の埋没周溝によって切られているため、遺構の全体形を把握することはできなかった。検出できた部分は全長3.2m以上、幅0.8m、深さ0.3mであった。
- 埋土 埋土は1層であった。
- 遺物 出土しなかった。
- 時期 宮内2号墳の墳丘下にあること、および周辺の遺構との関連から弥生時代後期と考えられる。

第5節 段状遺構

S S01 (挿図252、254・図版55、67、73)

- 位置 B 6・7、C 7グリッドにあり、標高43.9m付近に位置する。丘陵の北西斜面を切り取る形でつくられている。
- 形態 東北端が擾乱を受けており、明確な平面形は確認できなかった。残存部長軸で約12.5m、短軸で2～2.5mの広がりを持つと考えられる。床面は両端では緩く立ち上がるが、中央部では確認できなかった。壁に沿って逆台形状の溝が伸び、南西の一部で途切れるが、東北端から南西端まで続いている。当遺構内からは16個のピットを検出した。この内P 2・3・6・7は掘り込みが深く、壁面に沿って一定の間隔を持って配置されていることから柱穴の可能性も考えられる。P 1・4・5・8も掘り込みは浅いがこれに平行し、同様の性格がうかがわれる。並びは確認できなかったが、P 14・15・16は掘り込みが深く、P 9・10・11・12・13はこれが浅かった。また、壁の立ち上がりの上部を切り込むようにつくられた窪みがあり、これを3個検出した。
- 埋土 埋土は4層に分層できた。
- 遺物 壺Po58・59、甕60～65、鉢Po66、高坏Po67、ガラス小玉J 9を図化した。
- 性格 壁面に沿うピット、およびそれに類するピットが検出されていることから、何らかの上部施設を持っていたと考えられ、住居的な性格を持ち合わせていた可能性がある。
- 時期 出土した土器から弥生時代後期と考えられる。

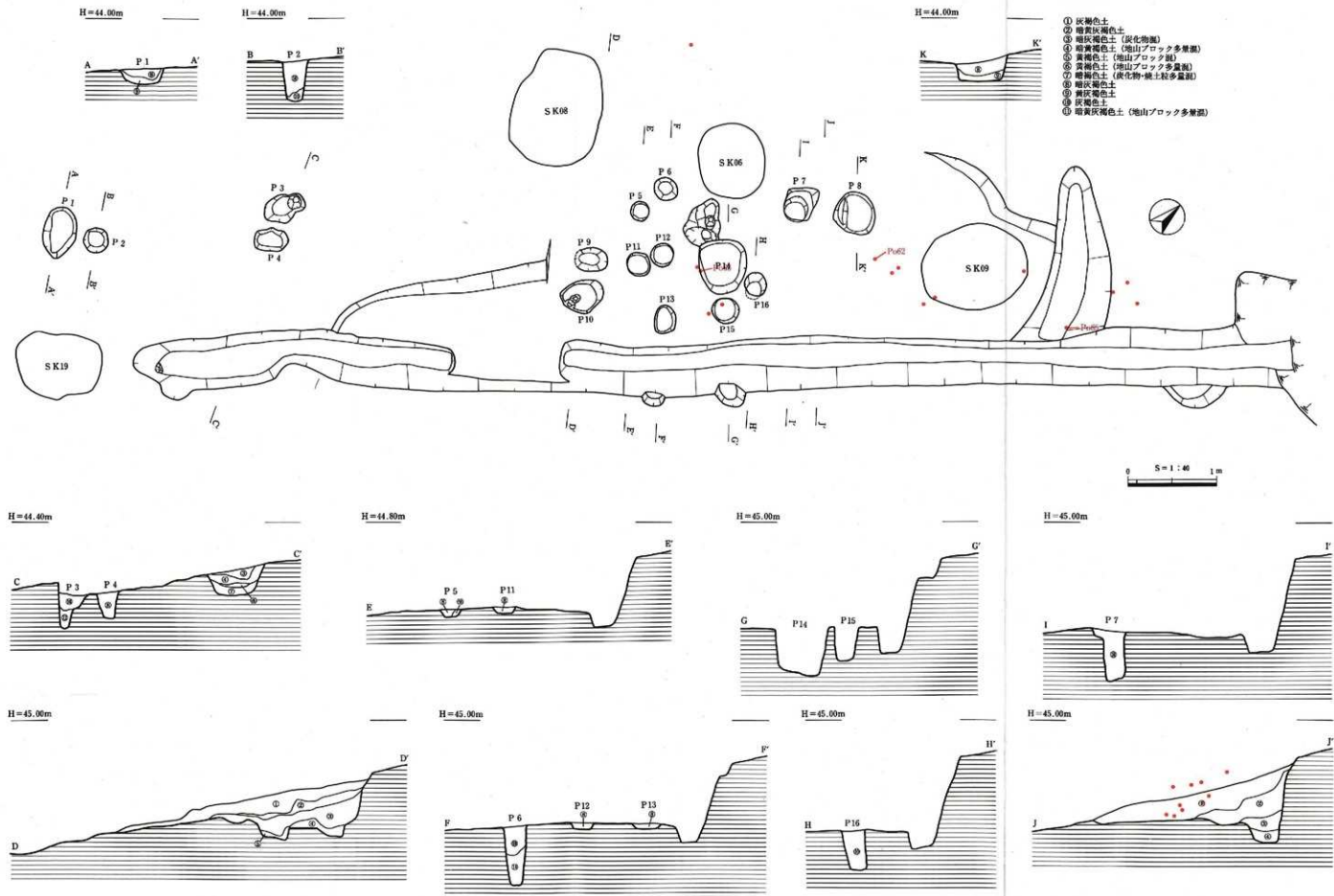
第6節 ピット群

ピット群1 (挿図253、255・図版55、73)

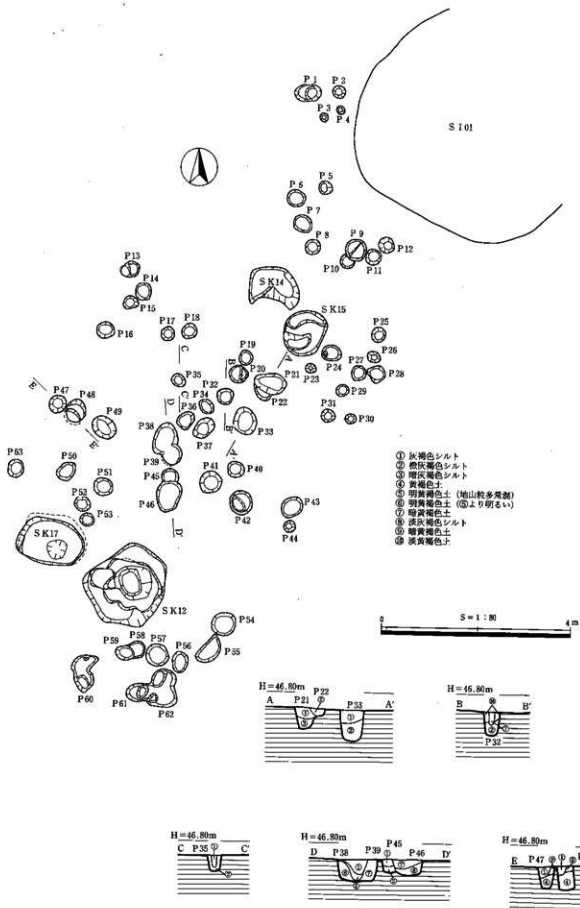
- 位置 調査区の北側、C 6・7、D 7グリッドにあり、標高46.4mのほぼ平坦地に位置する。ピットの大半を宮内63号墳墳丘・周溝下およびS D02下で検出した。
- ピット数 検出したピットの数は63個であった。このピット群中から規則性を何うことはできない。また、ほとんどのピットは暗褐色土が1層堆積しているにすぎなかった。2層以上の堆積が認められたものにP 21、22、32、33、35、38、39、45、46、47、48がある。この中でP 32、35は柱痕部をもつ。規模は平均すると直径約40cm、深さ約30～50cmである。
- 遺物 P 21から弥生土器の小片、P 55から砥石S 1が出土した。
- 時期 宮内63号墳墳丘・周溝下およびS D02下にあることと、出土した遺物から弥生時代後期と思われる。

ピット群2 (挿図256)

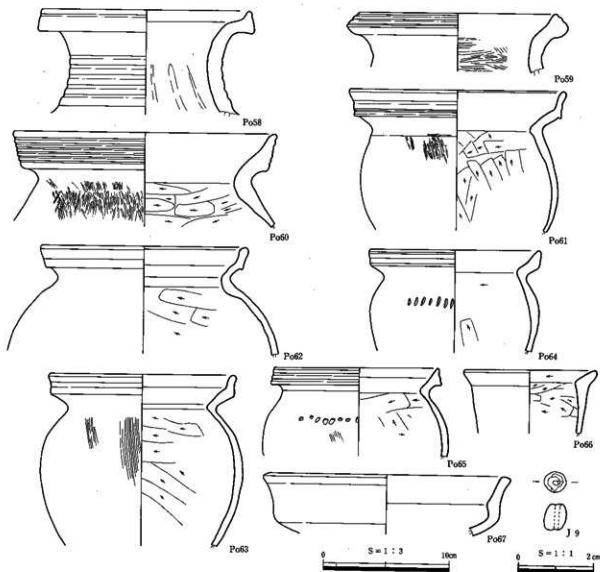
- 位置 E 5グリッドにあり、標高49.5m付近に位置する。宮内2号墳の盛土除去後に検出した。
- 形態 P 1～13のピットを検出した。このうち、P 1～4、P 6～8、同じくP 8～12はほぼ一直線上に並ぶ。P 1～4は南北に振った東西軸に、P 6～8、P 8～12はそれぞれ東西、南北の軸に沿っている。なお、S D03に対してP 6～8は平行し、P 8～12は直交する。
- 遺物 出土していない。
- 性格 P 6～8、P 8～12に関しては掘立柱建物の可能性を挙げておく。
- 時期 宮内2号墳の墳丘下にあることから、弥生時代後期以前のものと思われる。



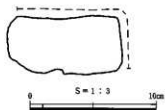
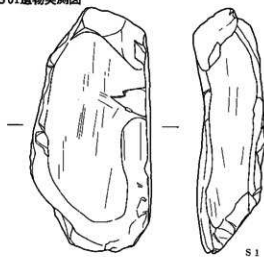
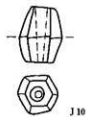
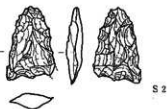
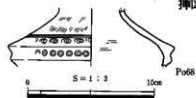
挿図252 S S 01遺構図



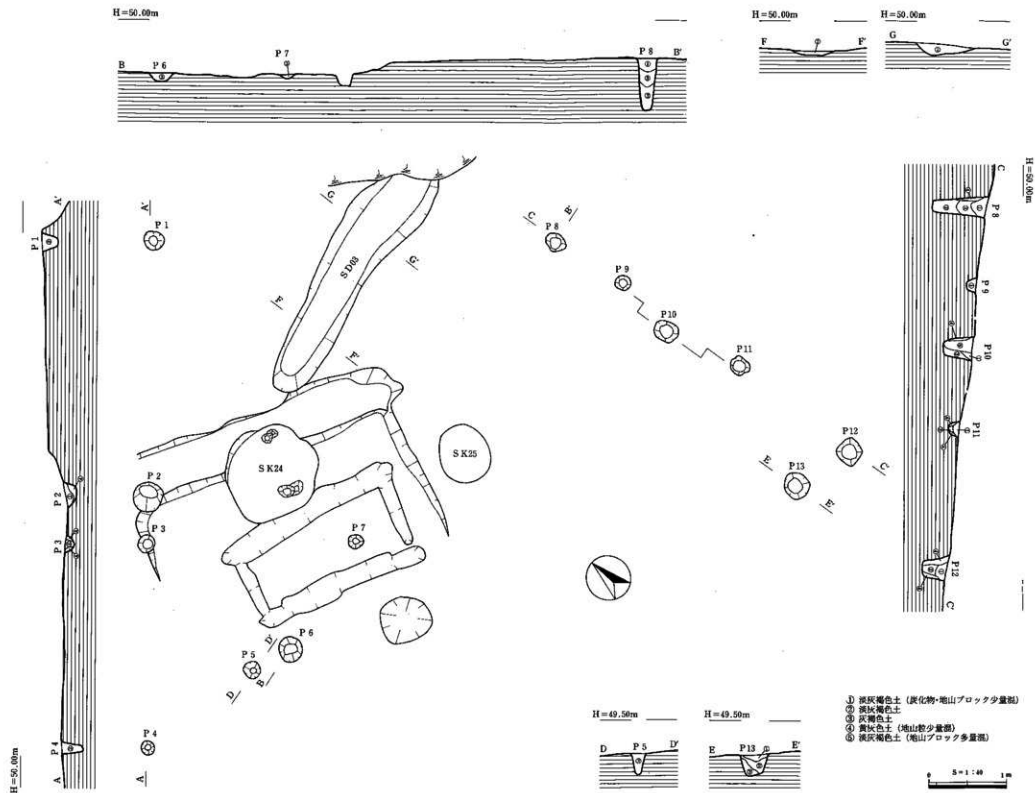
挿図253 ピット群1遺構図



挿図254 S S01遺物実測図



挿図255 ビット内及び巧遺構外出土遺物



挿図256 ピット群2遺構図

第7章 宮内2号墳、63～65号墳の調査

第1節 宮内2号墳 (押図257～271・図版56～61、67、68、73、74)

位置 D4～6、E5・6、F5グリッドにあり、標高48.0～51.1mに位置する。

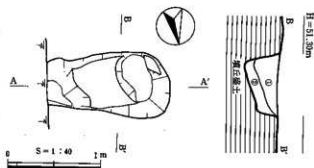
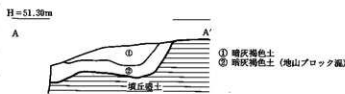
周溝 2号墳は前方後円墳である。南側と西側で大きく削平されていたが、北側、東側、および南側の一部で周溝を検出した。検出できた周溝の規模は幅3.5～6.7m、深さは0.1～1.4mを測る。前方部の周溝は西側に向かって急に立ち上がっており、周溝が全周におよんでいたかどうかは疑問である。埋土は5層が確認されたが、⑤層上面には平石が多く含まれていた。特に南側くびれ部の埋土では多量の平石が検出された。

墳丘 後円部の一部と前方部が削平されていたため、正確な数値は計測できなかったが、残存部分の全長は約26m、前方部の幅は約12m、後円部の径は約18mであった。墳丘の高さは、比較的残りのよい北側周溝の周溝底から計測した。2次墳丘は盗掘によって墳頂部が攪乱を受けていたが、残存部分の高さは約3.1mであった。1次墳丘の高さは土層断面で確認したところ約2.4mであった。1次墳丘に伴うと思われる埋没周溝を2次墳丘の墳丘下北側で検出したが、全周におよばなかった。長軸の土層断面で落ち込みを検出したが、これも同様の性格を持つものと思われる。1次墳丘の規模は土層断面で確認したところ、残存部分で径11m以上であった。

盛土 盛土は35層に分層できた。このうち、⑨～⑫層が1次墳丘に伴う盛土、⑬～⑮層は2次墳丘に伴う盛土と思われる。なお、⑯～⑳層は第3主体部を支えるための埋め土と思われる。

第1主体部 盗掘による墳頂部の攪乱を第1主体部と判断した。周囲に板石が散乱している状況から、第1主体部は箱式石棺かそれに類する構造を持つと推定される。

第2主体部 宮内2号墳の墳頂部東端、ほぼ軸線上で第2主体部を検出した。東端が削平されているが、およそ東西に軸を持つ隅丸方形を呈するものと思われる。規模は残存部分で(1.3以上×0.7～0.35)mを測る。宮内2号墳の2次墳丘上に盛土を掘り込み形で行われている。長軸両端に浅い窪みを持つ。



押図257 宮内2号墳第2主体部遺構図

埋土は2層が確認できた。
遺物は出土しなかった。

第3主体部 墳丘掘り下げ中、第1主体部のほぼ直下で第3主体部を検出した。6枚の板石を組み合わせた箱式石棺で、蓋石と北側の側板の一部が崩落している以外は比較的原型を保っていた。蓋石は多数の破片に分かれて崩落していたが、2枚の板石で構成されていたものと思われる。規模は長軸約1.9m、短軸約0.7m、深さ約0.7mであった。小口板と側板の回りには石棺を取り囲むように板石が並べられていた。棺底には3～5cmの厚さで粒子の荒い砂が敷き詰められていた。棺の内面は全面が赤色塗彩され、赤色顔料は蓋石の裏側や棺底におよんでいた。

東側の棺底には、赤色顔料の付着した坏蓋Po75、76および、坏身Po77～80がまとめて置かれて

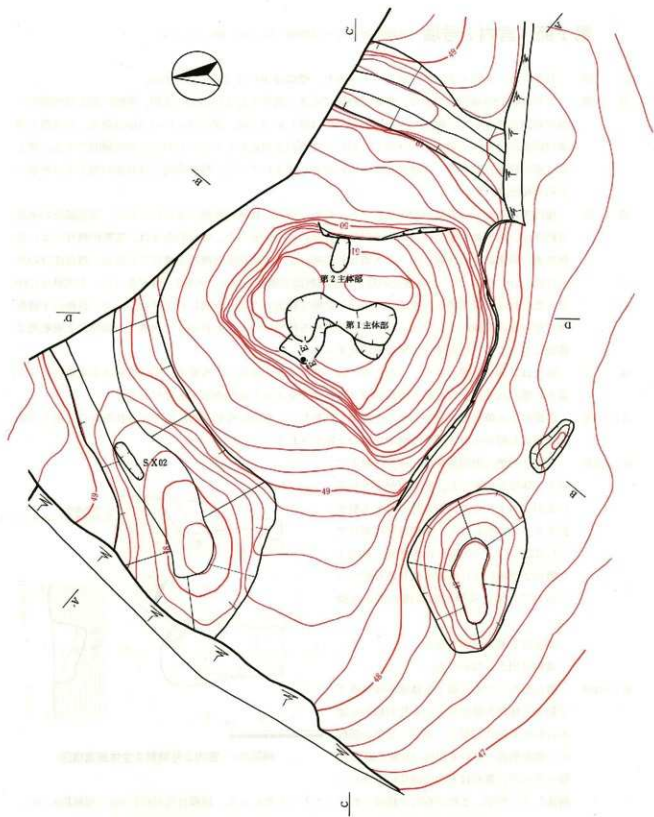
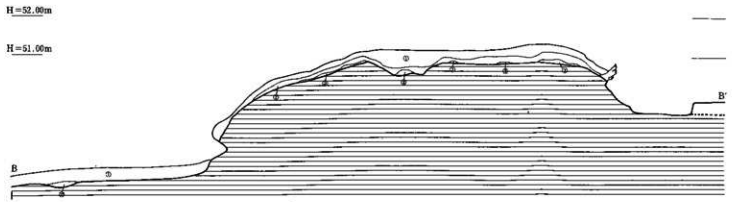
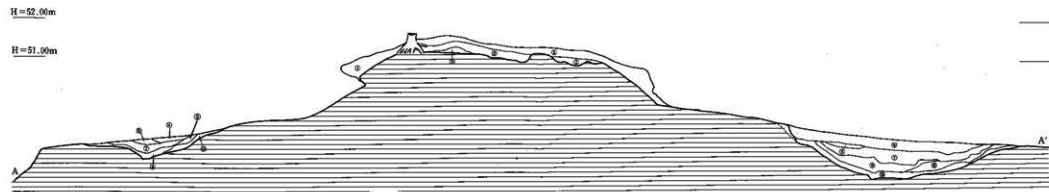


插图258 宫内2号坟2次填丘填丘图



- ① 黄土
- ② 暗褐色土
- ③ 黄褐色粘質土
- ④ 黄褐色シルト
- ⑤ 暗褐色土
- ⑥ 暗褐色土 (⑤より硬い)
- ⑦ 黒色土
- ⑧ 暗灰褐色土
- ⑨ 黄褐色シルト
- ⑩ 黄褐色土
- ⑪ 黄褐色シルト

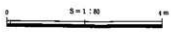
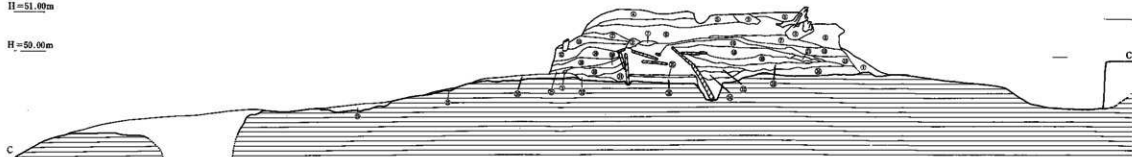


插图259 富内2号墳土層断面図(1)

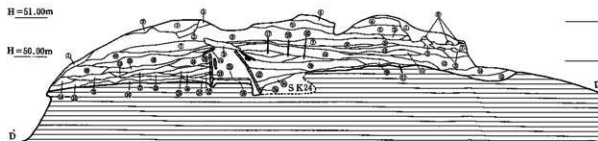
H=51.00m

H=50.00m



H=51.00m

H=50.00m



- 古墳遺土
- ① 灰褐色シルト
 - ② 灰褐色土 (樹による腐植)
 - ③ 暗灰褐色土 (樹による腐植)
 - ④ 緑黄灰褐色土
 - ⑤ 黄灰褐色土 (埴山ブロック多量混)
 - ⑥ 黄褐色土 (埴山ブロック多量混)
 - ⑦ 灰褐色土 (埴山ブロック多量混・黒褐色土ブロック混)
 - ⑧ 灰褐色土 (埴山ブロック多量混・黄褐色土ブロック多量混)
 - ⑨ 黄灰褐色土 (埴山ブロック少量混・黒褐色土ブロック混)
 - ⑩ 黄褐色土 (黒褐色土ブロック多量混)
 - ⑪ 暗灰褐色土 (黒褐色土ブロック多量混)
 - ⑫ 暗灰褐色粘質土 (黄褐色土ブロック混)
 - ⑬ 灰褐色粘質土 (黒褐色土ブロック混)
 - ⑭ 灰色粘質土 (灰褐色土ブロック少量混)
 - ⑮ 黄灰褐色土 (埴山ブロック少量混・黒褐色土ブロック混)
 - ⑯ 黄灰褐色土 (埴山ブロック少量混・黒褐色土ブロック混・白色砂子混)
 - ⑰ 黄褐色土 (埴山ブロック混・黒褐色土ブロック多量混)
 - ⑱ 暗灰褐色土
 - ⑲ 暗灰褐色粘質土 (灰褐色土ブロック多量混)
 - ⑳ 暗灰褐色粘質土 (灰褐色土ブロック多量混・黒褐色土ブロック多量混)
 - ㉑ 灰褐色土
 - ㉒ 暗灰色粘質土 (灰褐色土ブロック混)
 - ㉓ 黄褐色土 (黒褐色土少量混)
 - ㉔ 黄褐色粘質土 (埴山ブロック混・黒褐色土多量混)
 - ㉕ 黄褐色土 (黒褐色土少量混)
 - ㉖ 暗灰褐色粘質土 (灰褐色土多量混)
 - ㉗ 暗灰褐色粘質土 (埴山ブロック多量混)
 - ㉘ 暗灰褐色粘質土 (埴山ブロック多量混・灰褐色土ブロック混)
 - ㉙ 黒褐色土
 - ㉚ 暗灰褐色粘質土 (黒褐色土ブロック混)
 - ㉛ 黄褐色土 (埴山ブロック多量混)
 - ㉜ 黄灰褐色土

0 5 10 20 40 m

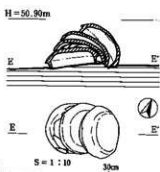
挿図260 宮内2号墳土層断面図(2)

いた。棺底には南側側板に沿って鉄刀F3が、中央にF4がそれぞれ柄を東にして置かれていた。西側棺底には小口石に隣接して鉄鏝F5～16がまとめて置かれていた。棺底の砂をふるいにかけたところ、針F17、ガラス小玉J1～5、水晶小玉J6、滑石小玉J7・8が含まれていた。

遺物 第3主体部石棺内出土遺物の他、2次墳丘の盛土中から器台Po81が出土した。1次墳丘上から須恵器坏蓋Po69・70、坏身Po71・72が出土した。また、削平を受けた墳丘北側断面から須恵器高坏Po73が出土しており、位置、標高ともPo69～72に近いことから、それらと同様に1次墳丘上に置かれていたものと考えられる。また、南側周溝くびれ部から弥生土器器台Po82が出土している

時期 第3主体部石棺内から出土した陶色編年のMT-15並行期の須恵器蓋坏、および1次墳丘上から出土した同TK-10並行期の須恵器蓋坏から、少なくとも1次墳丘の築造時期は古墳時代後期中葉と考

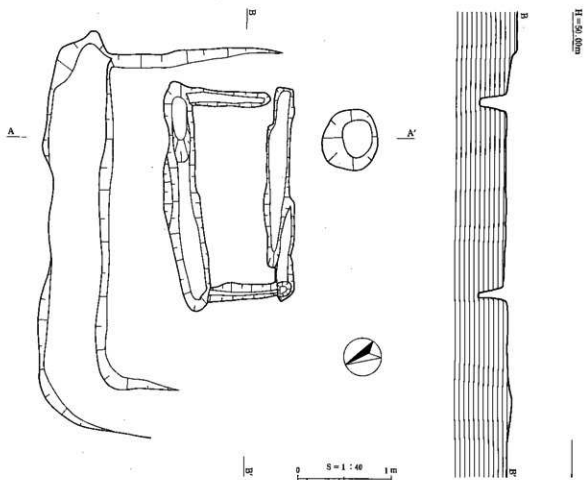
①=50.00m



挿図261 Po69～72出土状況図



① 黒褐色粘質土



挿図262 宮内2号墳第3主体部掘り方図

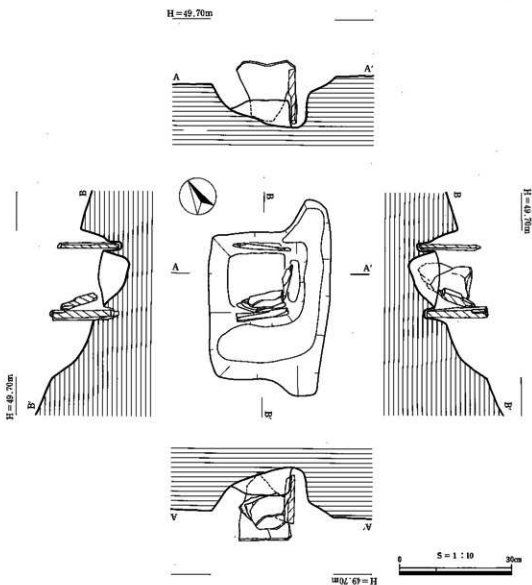
えられる。

墳裾部石棺 後円部北側墳裾部で埋葬施設を検出した。後世の削平によって既に封土を失っており、蓋石の一部、小口板もしくは側板のいずれか一枚も失われている。蓋石は2枚以上を重ねていたと思われ、1枚は石棺内に転落していた。この蓋石を含め小口板、側板とも同質の板石を用いており、小口板、側板は上部を平坦に、下部を鋭角に加工している。この石棺は残存部で長軸20cmに満たない小型の石棺である。

埋葬時期は、出土遺物がなく明確にはできないが、位置的に1次墳丘に伴うものではなく、2次墳丘に伴うか、2次墳丘築造後に埋葬されたものと考えられる。

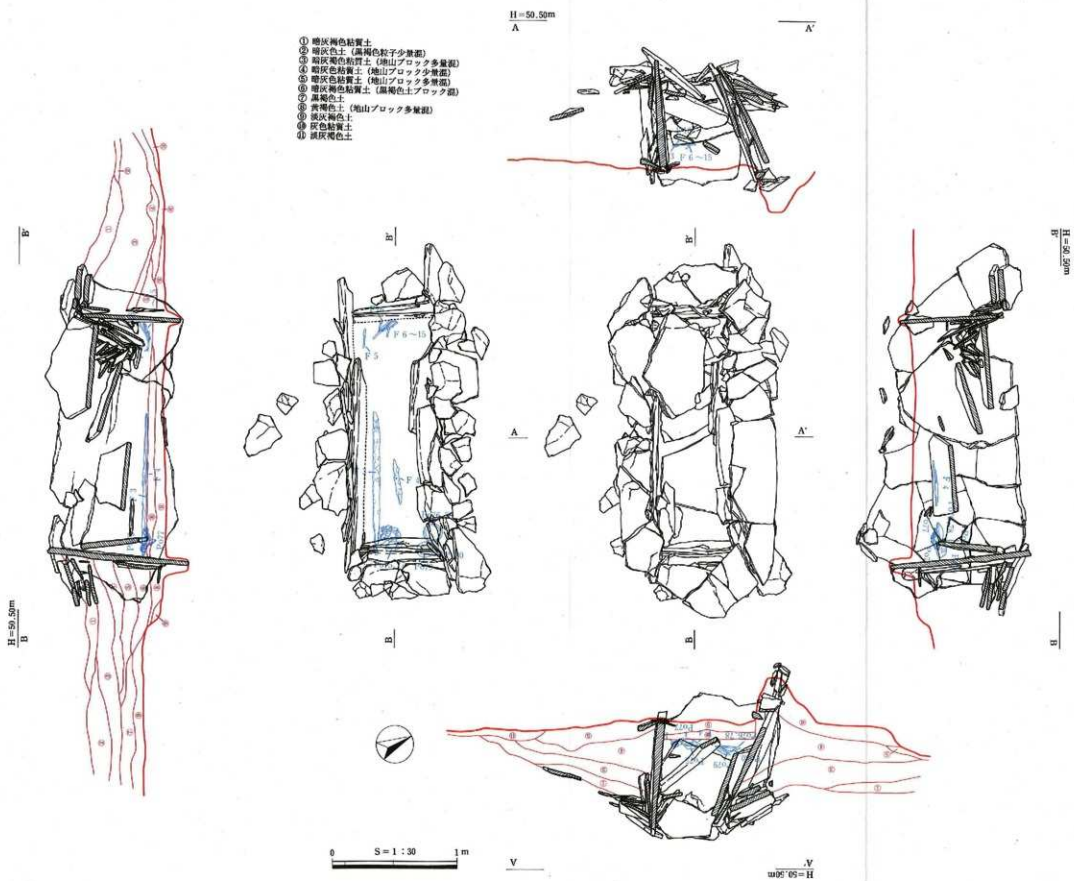
周溝内埋葬 (S X 02) 北側周溝内で検出した。平面形は、およそ東西に軸を持つ隅丸方形を呈する。規模は(1.8×0.6-0.25) mを測る。宮内2号墳の周溝底に沿って掘り込む形でつくられている。西端に段を持ち、約20cmの小ピットが検出された。埋土は3層に分層できた。

埋葬時期は、遺物がなく明確にはできないが、おそらく2次墳丘築造時期とほぼ同じであると考えられる。

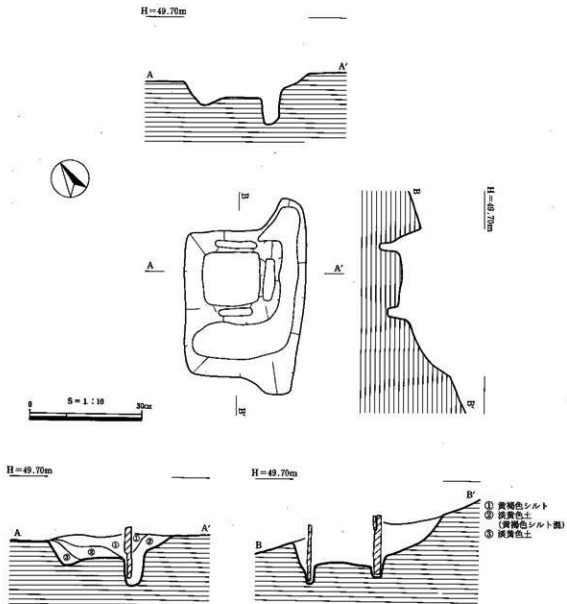


挿図263 S X 01遺構図

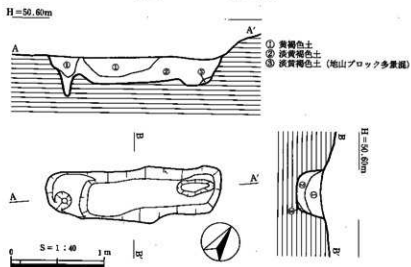
- ① 暗灰色粘質土
- ② 暗灰色土 (黒褐色砂子少量混)
- ③ 暗灰色粘質土 (地山ブロック多量混)
- ④ 暗灰色粘質土 (地山ブロック少量混)
- ⑤ 暗灰色粘質土 (地山ブロック多量混)
- ⑥ 暗灰色粘質土 (黒褐色土ブロック混)
- ⑦ 黒褐色土
- ⑧ 黄褐色土 (地山ブロック多量混)
- ⑨ 灰白色土
- ⑩ 灰色粘質土
- ⑪ 黄褐色土



挿図264 室内2号填第3主体部石積遺構図



挿図265 S X01掘り方図



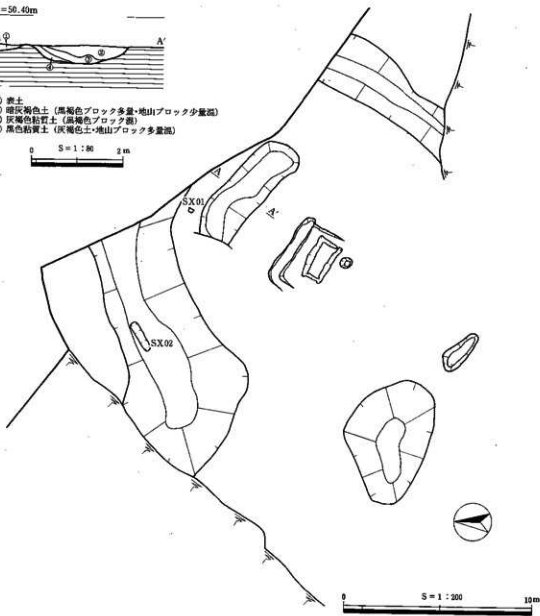
挿図266 S X02遺構図

H = 50.40m

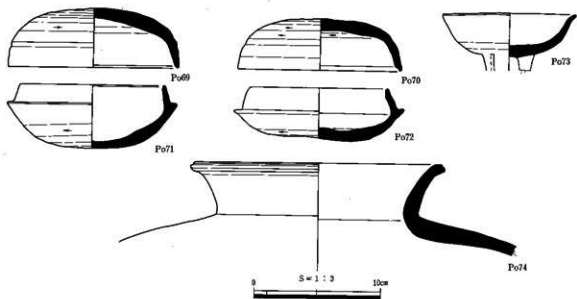


- ① 表土
- ② 暗灰褐色土 (黒褐色ブロック多量・地山ブロック少量混)
- ③ 灰褐色粘質土 (黒褐色ブロック混)
- ④ 黒色粘質土 (灰褐色土・地山ブロック多量混)

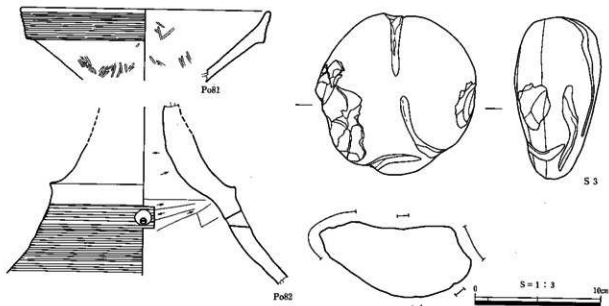
0 S = 1 : 80 2m



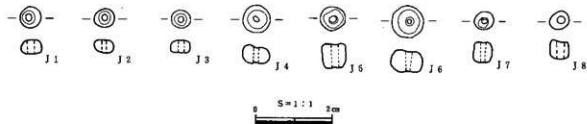
挿図267 宮内2号墳盛土除去後平面図



挿図268 宮内2号墳1次墳丘上遺物



挿図269 宮内2号墳周溝内及び盛土中遺物



挿図270 宮内2号墳第3主体部石棺内玉類実測図

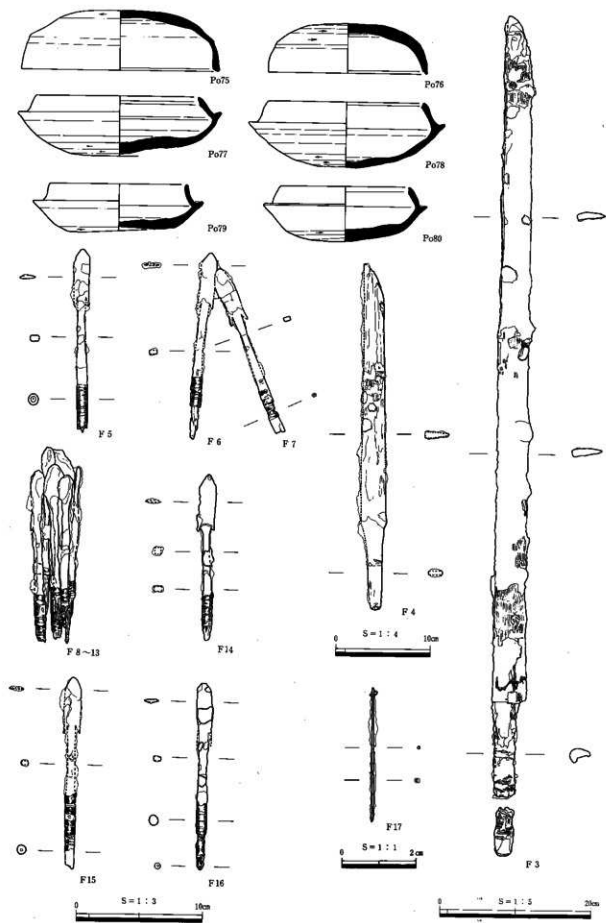
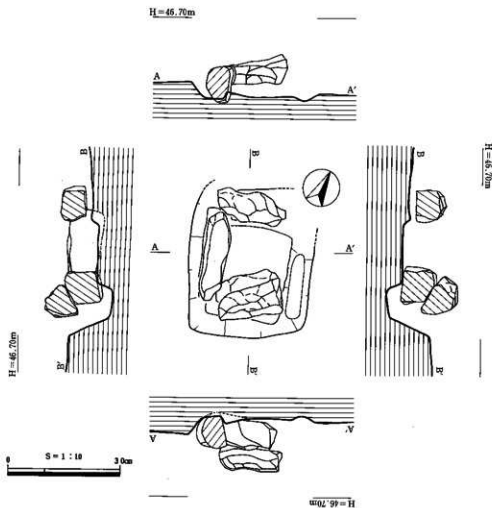


插图271 宫内2号墳石棺内出土遺物

第2節 宮内63号墳 (挿図272～274・図版61、62)

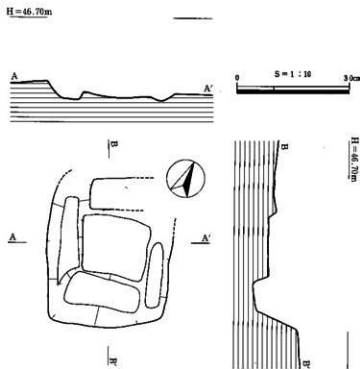
- 位置** 調査区北部のC 6 グリッドにあり、宮内2号墳の北側に位置する。標高は約46.4mとほぼ平坦になっている。調査前は果樹園だったために、墳丘盛土は全て削平されており、残存状況は極めて悪い。
- 周溝** 63号墳は円墳である。西側周溝については削平を受けている。検出できた周溝の幅は約1～1.6mである。また、主体部の軸にそって南西方向に延びるS D02と連なる。
- 墳丘** 墳丘直径は約7.5m、北側周溝底からの高さは約0.2mである。
- 盛土** 10cm程の盛土が一部に残っていたにすぎない。
- 埋葬施設** 墳丘中央部で主体部を検出した。攪乱を受け、大半が破壊されていた。石棺材及び底面が一部残存していたにすぎない。主体部の東側、南側には、石棺材がしっかりした状態で残っており、箱式石棺であったと思われる。主軸はおよそ北西-南東に振る。残存する石棺の規模は(1.6×0.4-0.1)mである。また、棺底の南側には直径約30cmの落ち込みがある。埋土は5層に分層でき、⑤層は裏込めである。石棺材、裏込め除去後の掘り方の規模は(1.95×0.75)mである。
- 遺物** 墳丘下に弥生時代後期のピット群があり、周溝内埋土から弥生土器の小片が若干出土したが、宮内63号墳に関係する遺物は出土していない。
- 時期** 周辺古墳との関係から古墳時代後期中葉から後葉と思われる。
- 周溝内石棺** 北東側周溝内で埋葬施設を検出した。後世の削平によって蓋石と片方の側板は失われている。この(S X03)石棺は、石材に長さ17～4cm、幅8～10cm、厚さ6～8cmの石を用い、長軸30cm程度の小型の石



挿図272 S X03遺構図

稍である。

埋葬時期は、出土遺物がなく明確にできないが、63号墳の築造時期と同じか、やや新しいものと考えられる。



挿図273 S X03掘り方図

第3節 宮内64号墳 (挿図275～279・図版62、63、68～72)

位置 宮内64号墳は、調査区南端のD3グリッドにある。標高45.0m～46.2mの南に向かって緩やかに傾斜する斜面に位置する。調査区を南北に横切るSD01の南端と接するように造られている。残存状況は悪く、削平により南半を失っている。

周溝 円墳と思われるが、西側がSD01と接しているために、半円形を呈する。墳丘北側を巡る周溝の幅は最大で幅約3.5m、深さ約0.6mである。埋土は4層の水平堆積が認められた。また、周溝はSD01に向かって狭く、浅くなる。また、64号墳とSD01との関係であるが、土層断面では周溝とSD01には切り合い関係を認めるに至らなかった。しかし、64号墳で出土した須恵器が、SD01に切られる宮内65号墳と時期差のないものであり、周溝がSD01と接する部分で終わると思われることから、宮内64号墳はSD01より古いと考えた。

墳丘 残存する最大径は約9m、北側周溝からの高さは約0.5mである。

盛土 盛土は一部に10cm程土残っているにすぎない。⑤層が盛土に相当する。

埋葬施設 墳丘北よりで主体部を検出した。果樹園により、かなり攪乱を受けていた。検出面及び埋土中から扁平な石が2点出土し、底面の西側に側板の痕跡と思われる溝が確認できた。おそらく箱式石棺であったと思われる。

遺物 宮内64号墳に伴うものとして、3ヵ所で須恵器がまとまって出土した。

SD01西側肩部で坏蓋Po83～88、坏身Po89～98、高坏Po99が出土し、坏蓋Po100～104、坏身Po105～112、蓋Po113・114、短頸壺Po115～117が北側周溝SD01よりの所で、提瓶Po121が北側周

H=47.10m



H=47.20m



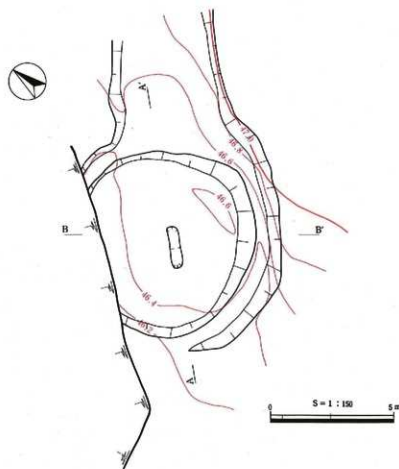
S = 1 : 80

- ① 黑褐色土
- ② 深灰褐色土
- ③ 灰褐色土
- ④ 暗褐色土
- ⑤ 暗褐色土
- ⑥ 暗褐色土
- ⑦ 灰褐色土
- ⑧ 暗褐色土

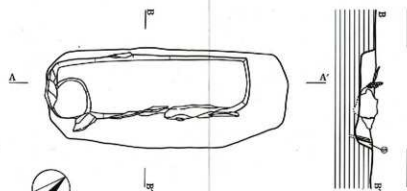
H=46.80m



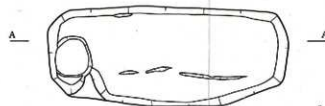
- ① 深黑色土
- ② 暗褐色土
- ③ 灰褐色土
- ④ 暗褐色土
- ⑤ 暗褐色土



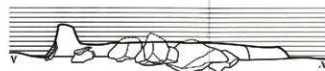
S = 1 : 150



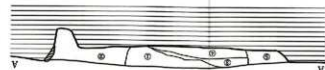
H=46.80m



S = 1 : 30



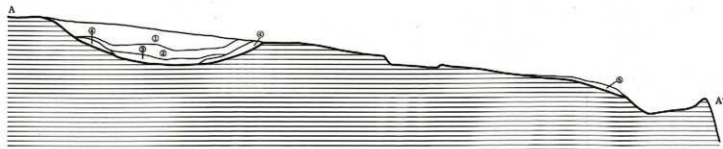
H=46.80m



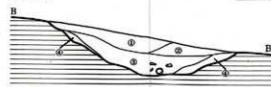
H=46.80m

插图274 宫内63号墳境丘图及び主体部建構图

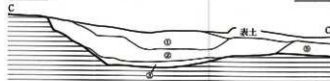
H=46.00m



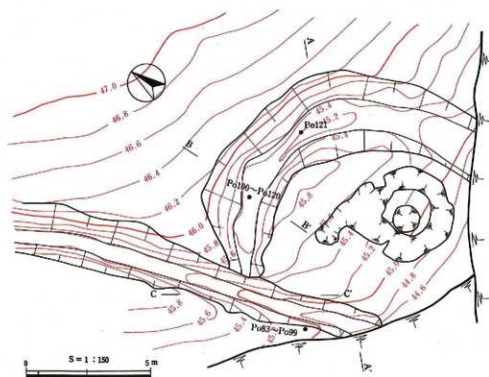
H=46.30m



H=46.10m



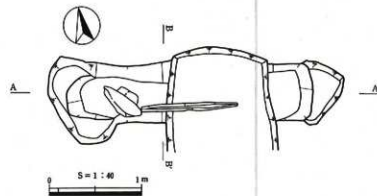
- S = 1 : 60
- ① 暗褐色土
 ② 黒色土
 ③ 暗灰褐色土
 ④ 暗黄褐色シルト
 ⑤ 灰褐色土 (黄砂層土)



H=45.50m



- ① 暗灰褐色土
 ② 黄褐色土



H=45.50m

挿図275 富内64号墳墳丘図及び主体部遺構図

溝中央部から出土した。これらの須恵器は陶色編年MT-85、TK-43に並行するものとする。

時期 出土した遺物から古墳時代後期中葉と考えられる。

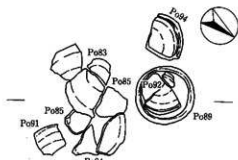
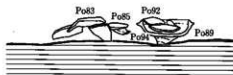
H=45.70m



S = 1 : 10 30cm

Po121出土状況図

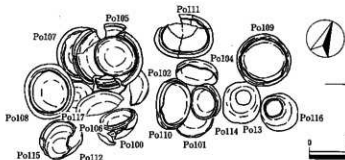
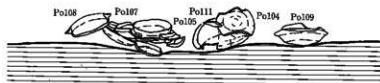
H=46.30m



Po83-Po89
出土状況図

S = 1 : 10 30cm

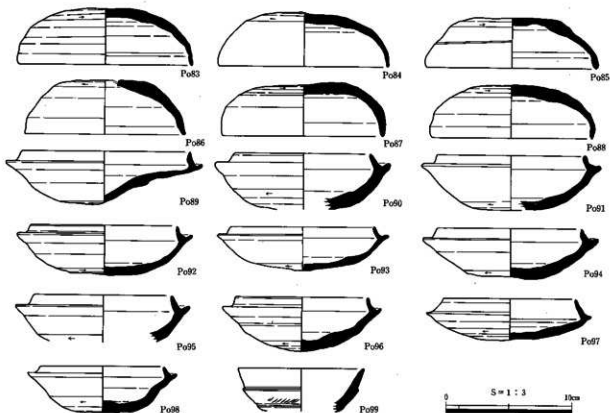
H=45.70m



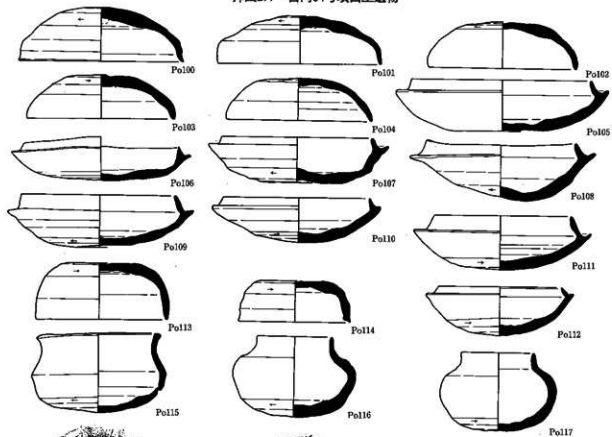
Po100~Po120出土状況図

S = 1 : 10 30cm

挿図276 宮内64号墳遺物出土状況図



挿図277 宮内64号墳出土遺物



挿図278 宮内64号墳周溝内出土遺物

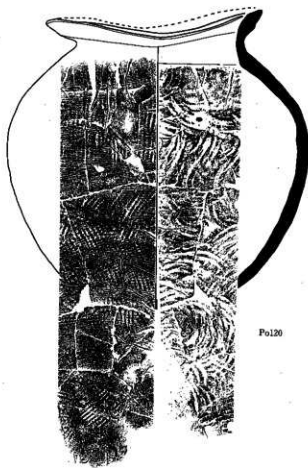




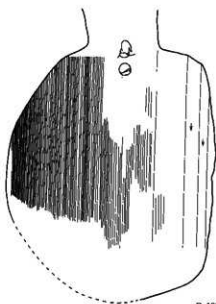
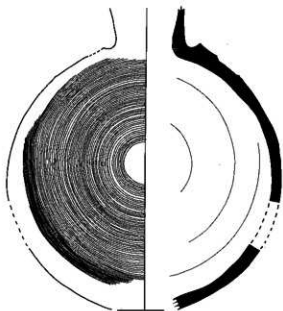
Po118



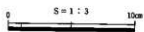
Po119



Po120



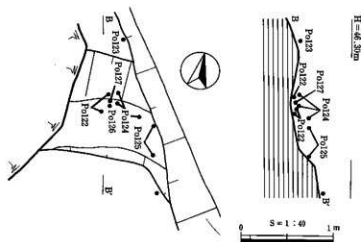
Po121



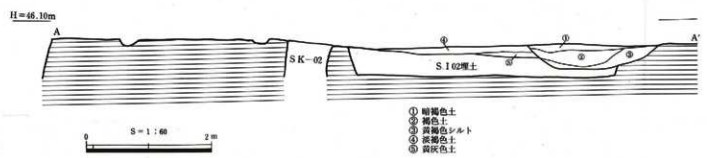
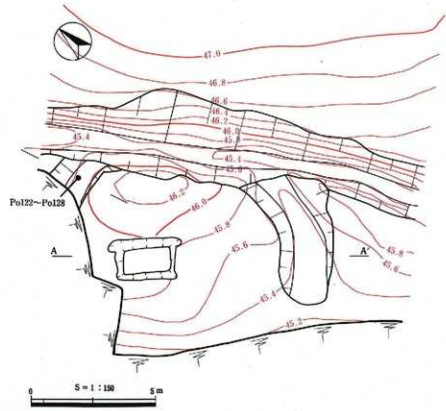
挿図279 宮内64号境周溝内出土遺物

第4節 宮内65号墳 (挿図280～282・図版63、72、74)

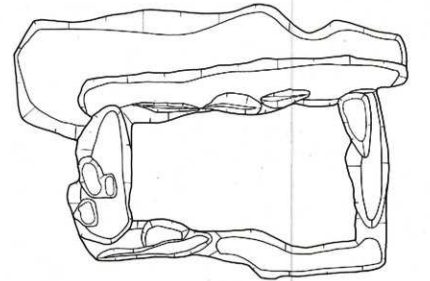
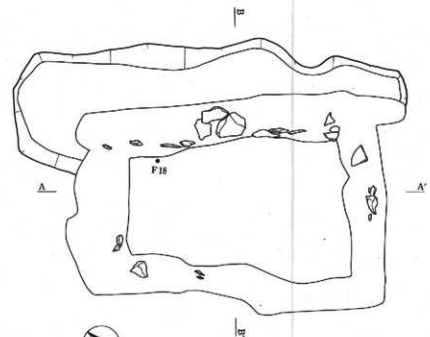
- 位置** 宮内65号墳はC4・5グリッドにある。標高45.4m～46.5mの南に向かって緩やかに傾斜する斜面に位置している。墳丘西側はSD01に接し、墳丘下には弥生時代後期の住居跡、貯蔵穴がある。墳丘のほとんどは削平を受けており、残存状況は極めて悪い。
- 周溝** 65号墳は削平を受け原形をとどめていないが、南側と北側で周溝を検出した。本来の墳形は円墳であったと思われる。南側周溝は比較的残りが良かったが、途中で途切れている。北側周溝は一部が確認できたにすぎない。残存する周溝の幅は約2m、深さは約40cmである。また、65号墳の西側はSD01に接しており、SD01を周溝の一部として利用していた可能性も考えられたが、SD01掘り下げの際、残した土層断面で切り合い関係を確認したところ、宮内65号墳はSD01に切られていることが判明した(挿図249参照)。
- 墳丘** 墳丘の直径はおそらく15m程度と推測される。高さは周溝底面から約40cmである。
- 盛土** 一部に20cm程度の盛土が認められたにすぎない。④、⑤層が盛土である。
- 埋葬施設** 主体部は箱式石棺である。削平されており、検出面がすでに棺底で、側板と小口に使用された板石がわずかに残る程度であった。北東側の側板は比較的残りが良かった。主軸は北西-南東に振る。残存する石棺の規模は(1.7×1)mである。
- 遺物** 北側周溝内埋土および底面から須恵器の坏蓋Po122～125、坏身Po126、高坏Po127、台付長頸壺Po128がまとまって出土した。これらの須恵器は陶邑編年MT-85、TK-43に並行するものと考えられる。
- 時期** 出土した遺物から古墳時代後期中葉と考える。



挿図280 宮内65号墳遺物出土ポイント



- ① 暗褐色土
- ② 褐色土
- ③ 黄褐色シルト
- ④ 赤褐色土
- ⑤ 黄灰色土



① 暗褐色土



挿図281 宮内65号墳横丘図及び主体部遺構図

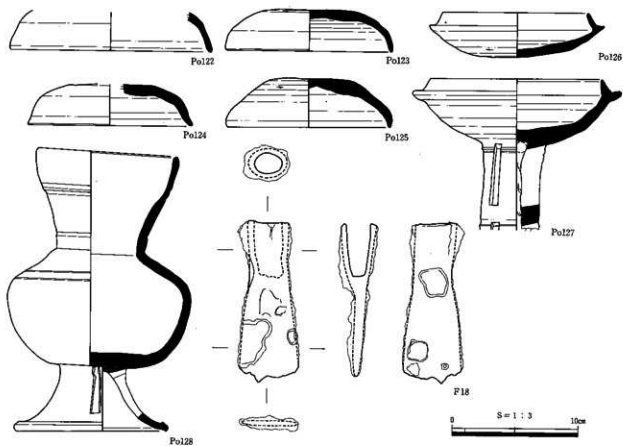


插图282 宫内65号墳出土物実測図

第8章 まとめ

今回の調査で出土した土器を、各調査区ごとに概観しまとめとしたい。

宮内第1遺跡(C区)出土土器

S101

甕 (Po1)

外傾する複合口縁。口縁端部は平坦面をなし外側に肥厚する。屈曲部の稜は鈍い。胴部はほぼ球形をなすものと思われる。口縁部内外面ヨコナデ。頸部内面シボリ。胴部外面ハケメ、内面ヘラケズリ後ナデ。

甕 (Po2, 3)

複合口縁。Po2は内傾し、口縁端部は平坦面をなし内側に肥厚する。Po3は外傾し、口縁端部は丸くおさめる。屈曲部の稜はいずれも鈍い。

高坏 (Po4)

外反気味に開く坏部。口縁端部は丸くおさめる。内外面ヘラミガキ。

S102

甕 (Po5, 6)

複合口縁。Po5は直立し、口縁端部は平坦面をなし上部が凹線状にくぼむ。Po6はやや外傾し、口縁端部は外側へ折り返すようにしておさめる。胴部は横方向に長い偏球形をなすものと思われる。屈曲部の稜はいずれも鈍い。口縁部内外面ヨコナデ。肩部外面ハケメ、内面指押さえ。

高坏 (Po7, 8)

Po7は浅い椀状の土器器坏部。口縁端部はつまみ出すようにしておさめる。外面にわずかにハケメが見られる。Po8は把手の付く須恵器坏部。2条の凸線の間に波状文が巡る。

S103

甕 (Po9)

やや外傾する複合口縁。口縁端部は平坦面をなし上部が凹線状にくぼむ。屈曲部の稜は鈍い。頸部下部外面にハケメ工具痕が残る。

高坏 (Po10, 11)

Po10は坏部と坏底部との間に段を持つ。坏部は外傾し、口縁端部はつまみ出すようにしておさめる。内外面ヘラミガキ。Po11は内湾する深目の坏部。口縁端部は丸くおさめる。内面にヘラミガキが見られる。外面赤色塗彩痕有り。

小型丸底甕 (Po12)

外傾する口縁部。口縁端部はつまみ出すようにしておさめる。胴部は横方向に長い偏球形をなす。

S104

甕 (Po14)

外傾する複合口縁。口縁端部は外側へ折り返すようにして平坦面をなす。屈曲部の稜は断面方形で下方へ突出する。

甕 (Po15~24)

Po15, 16は外傾する複合口縁。口縁端部は平坦面をなし、Po15は上部が凹線状にくぼみ、Po16は外側にやや肥厚する。屈曲部の稜はPo15は鈍いが、Po16はやや鋭さを残す。胴部は球形をなし、外面ハケメ、内面頸部に指押さえ。Po17~23はやや内湾気味に外傾する口縁。Po23は口縁端部をつまみ出すようにしておさめるが、他は内面がやや平坦面をなし、Po18, 19, 21, 22はわずかに肥厚する。胴部はほぼ球形をなし、外面にハケメが

見られる。Po23は口縁部内外面にもハケメが見られる。

高坏 (Po25~32)

浅い椀状の坏部。やや内湾気味に外傾するもの、外反気味のもの、内湾するものが見られる。口縁端部はほぼ丸くおさめるが、外側へ折り返すようにするもの (Po26、28、30) と平坦面をなすもの (Po27) もある。坏部外面ハケメ、ヘラミガキ。内面ヘラミガキ、ナデが見られる。脚端部は平坦面をなす。

小型丸底壺 (Po34~36)

やや内湾気味に外傾する口縁。口縁端部はつまみ出すようにしておさめる。胴部は横方向に長い偏球形をなす。胴部外面ハケメ。肩部、底部内面に指押さえ。

S 106

壺 (Po37)

内傾して上下にやや拡張される口縁。外面に凹線を施す。頸部下部外面に凹線を施し、その下に刻み目が巡る。胴部は倒卵形をなし、平底。頸部外面ハケメ。頸部内面シボリ。胴部内面ヘラケズリ。

甕 (Po38~41)

外傾する複合口縁。Po38、39は外面に平行沈線を施す。口縁端部は丸くおさめる。Po39肩部外面には刻み目が巡る。Po40は口縁端部が平坦面をなし、Po41はやや平坦な面をなす。いずれも屈曲部の稜は鈍い。胴部外面ハケメ。肩部内面指押さえ。

脚台部 (Po44)

器台の脚台部か。屈曲部に稜はなく、脚端部は丸くおさめる。

甕 (Po45)

口縁下部に断面方形の突帯が巡る。口縁端部はほぼ丸くおさめる。把手が付いていたと思われるが、剥落している。

S 106内SK

甕 (Po46)

外傾する複合口縁。外面に平行沈線を施す。口縁端部はまるくおさめる。肩部外面上部に平行沈線、下部にやや波状気味の沈線を施す。胴部外面、口縁部内面一部にヘラミガキ。

S 107

壺 (Po47)

外傾する複合口縁。口縁端部は平坦面をなし、外側へ折り返すようにしておさめる。屈曲部の稜は突出するがやや鈍い。肩部はあまり張らない。胴部外面ハケメ。頸部内面シボリ。

甕 (Po48)

内湾気味の口縁。口縁端部はやや平坦な面をなす。

高坏 (Po49)

外反気味の坏部。口縁端部は丸くおさめる。内外面ヘラミガキ。

小型丸底壺 (Po50)

外傾する口縁。口縁端部はつまみ出すようにしておさめる。口縁部外面ヘラミガキ。

蓋 (Po51)

内外面ヘラミガキする蓋。

S 108

甕 (Po52~54)

Po52、53は外傾する平行沈線。外面に平行沈線を施すが、Po53は一部ナデ消す。口縁端部は丸くおさめる。Po54はやや内傾して、上下にわずかに拡張される口縁端部外面に、凹線を施す。

S 108内SK

胴部片 (Po55)

楕円形の押型文を施す胴部片。

SK02

甕 (Po57~67)

Po57~66は外傾もしくは外反する複合口縁。Po57~63は口縁部外面に平行沈線、波状文を施すが、ナデ消されるものもある。口縁端部は丸くおさめるか、つまみ出すようにしておさめている。これらには肩部から最大胴径部にかけて、波状文、平行沈線が施される。胴部は倒卵形をなし、胴部外面下半ヘラミガキが見られる。Po64~66は口縁部外面無文で、口縁端部は、Po64が外側へつまみ出すようにしておさめ、Po65は丸くおさめている。屈曲部の稜は小さく突出する。これらには肩部外面に波状文、平行沈線が施され、Po65には平行沈線の上下に刻み目が巡る。Po66は口縁端部がやや平坦な面をなし、外側へわずかに肥厚する。屈曲部の稜は鈍い。肩部外面に刻み目が施される。Po67は内湾する口縁で、口縁端部は平坦面をなし、内側にわずかに肥厚する。Po66、67は胴部が球形をなし、外面にハケメが見られる。

器台 (Po69、70)

Po69は複合口縁状の器台脚台部。屈曲部下部に上下2段の平行沈線が施され、その間にスタンプ文が巡る。Po70は受部、脚台部とも複合口縁状をなし、筒部は短い。

蓋 (Po71)

内外面ヘラミガキする蓋。

宮内第1遺跡 (D区) 出土土器

S101

壺 (Po1~3)

外反もしくはやや外反する口縁部。Po1は口縁端部を丸くおさめる。Po2は口縁端部がやや平坦な面をなし、上方へわずかにつまみ上げる。内外面ヘラミガキ。Po3は口縁端部をつまみ出すようにしておさめ、頸部下部に断面方形の突帯が巡る。

甕 (Po4~11)

外傾もしくはほぼ直立する複合口縁。外面に平行沈線を施すが、ナデ消されるものもある。Po5、6は肩部外面に刻み目が施される。

S102

壺 (Po12)

外反する複合口縁。外面に平行沈線を施す。

甕 (Po13)

やや外反する複合口縁。外面に平行沈線を施す。口縁端部は丸くおさめる。肩部外面に押し引き沈線を施す。

脚部 (Po13)

内湾する複合口縁状の脚部。外面に平行沈線を施す。外面平行沈線後、内面ヘラケズリ後ヘラミガキ。器台の脚台部か。

S105

甕 (Po15)

外反気味に直立する複合口縁。外面に平行沈線を施すが一部ナデ消される。口縁端部は丸くおさめる。

S106

甕 (Po16)

外形する複合口縁。外面に平行沈線を施す。口縁端部は丸くおさめる。内面の屈曲は弱い。

1号墳丘墓

壺 (Po17~21)

Po17、18は外反する複合口縁。外面に波状文を施すが、Po17は平行沈線後に施している。口縁端部はPo18がやや肥厚気味で丸くおさめる。屈曲部の稜はPo17が下垂し、Po18は鈍い。Po17頸部外面にヘラミガキが見られる。Po19、20は外傾、外反する口縁部。Po19は口縁端部外面が平坦な面をなして丸くおさめ、Po20はつまみ出すようにしておさめる。Po21は複合口縁部片と思われ、内外面に波状文を施す。

甕 (Po22~29)

Po22~28は外傾する複合口縁で、Po28以外は外面に平行沈線を施す。口縁端部はいずれも丸くおさめる。Po25、26は肩部外面に刻み目が巡り、Po27は口縁内面にスタンプ文を施す。Po28は屈曲部の稜が水平方向に鈍く突出する。胴部は肩部の張る球形をなし、底部は平底。口縁部内面、胴部外面にヘラミガキ。Po29は低く外反する口縁部で、口縁端部は外側へつまみ出すようにしておさめる。胴部は横方向に長い偏球形をなす。胴部外面ヘラミガキ、内面ヘラケズリ後ヘラミガキ。

台付壺 (Po30)

やや内傾する短い口縁部に、横方向に長い偏球形の胴部。口縁端部はつまみ出すようにしておさめる。口縁下部に円孔を穿つ。胴部外面には沈線で区画された中に、半截竹管による刺突と貝殻腹縁による刻み目が巡る。

壺 (Po33)

外傾する複合口縁。口縁端部はつまみ出すようにしておさめる。屈曲部の稜は小さく突出する。頸部内面ハケメ後指押さえ。

甕 (Po34、35)

外反気味に外傾する複合口縁。Po34の口縁端部はわずかに肥厚し、Po35はやや平坦な面をなす。屈曲部の稜はいずれも小さく突出する。Po34は胴部が肩部の張る球形をなすと思われ、肩部外面に波状文を施す。

2号墳丘墓北側周溝土器溜

壺 (Po36~38)

外傾もしくは直立する複合口縁。外面に平行沈線を施すが一部ナゲ消される。口縁端部は丸くおさめる。Po36、37は頸部から肩部へとなだらかにつながる。

甕 (Po39~42)

外傾する複合口縁。外面に平行沈線を施すが一部ナゲ消される。口縁端部は丸くおさめる。Po39肩部外面には刻み目が巡る。

底部 (Po43)

やや上げ底気味の平底。

3号墳丘墓

甕 (Po44~51)

Po44、45は口縁端部が内傾して、上下あるいは下方へわずかに拡張されるもので、外面に沈線を施している。Po44は強くナゲられることにより、沈線が一部消されている。Po46~51は外傾もしくは外反する複合口縁で、外面に平行沈線あるいは波状文を施すが、一部ナゲ消されるものもある。Po50は頸部に円孔を穿つ。Po50以外は口縁部から肩部にかけて内面にヘラミガキが見られる。

高坏 (Po52)

椀状の坏部。口縁端部はつまみ出すようにしておさめる。内外面一部にヘラミガキが見られる。

器台 (Po53)

複合口縁状の器台受部。外面にヘラミガキが見られる。

脚部 (Po54、55)

「ハ」の字状に開く脚部。Po54は端部が肥厚して、ほぼ丸くおさめる。Po55は上下に拡張して直立し、外面に平行沈線を施す。Po54外面ヘラミガキ。Po55外面ハケメ、内面ヘラケズリ後ヘラミガキ。高坏脚部もしくは器

台脚台部か。

3号墳丘墓北側周溝

甕 (Po56~58)

複合口縁。Po56は外傾する口縁部外面に平行沈線を施し、口縁端部は丸くおさめる。肩部外面に押し引き沈線が巡る。口縁部内面にヘラミガキが見られる。Po57は内湾する口縁部で、外面下部は強くナデられることによりややくぼむ。口縁端部は上部が平坦な面をなす。Po58は直立する口縁部外面に平行沈線を施し、口縁端部は丸くおさめる。頸部に円孔を穿つ。

台付壺 (Po59)

横方向に長い偏球形の胴部に「ハ」の字状に開く脚台部が付く。

3号墳丘墓西側周溝

甕 (Po60)

直立する複合口縁。外面に平行沈線を施し、口縁端部はほぼ丸くおさめる。頸部内面にヘラミガキが見られる。高坏 (Po61)

椀状の坏部。口縁端部は外側が強くナデられ、つまみ出すようにしておさめる。坏部内外面ヘラミガキ。

4号墳丘墓

甕 (Po62)

直立する複合口縁。外面に平行沈線を施し、口縁端部は丸くおさめる。内面の屈曲は弱い。

4号墳丘墓南側周溝

壺 (Po63)

外傾する複合口縁。口縁端部は外側へ折り返すようにしておさめる。屈曲部の稜は水平方向に突出する。頸部外面に稜形文状の刻み目が巡り、肩部外面にも同一工具による刻み目が巡る。頸部内面シボリ後ナデ。胴部外面ハケメ、内面ヘラケズリ後ナデ。

甕 (Po64)

外傾する複合口縁。外面に平行沈線を施し、口縁端部は外側へつまみ出すようにして丸くおさめる。

S X 02

壺 (Po66)

外反する複合口縁。外面に平行沈線を施し、口縁端部は丸くおさめる。頸部は短め。肩部外面に押し引き沈線と平行沈線を施す。胴部は肩部の張る球形をなす。

甕 (Po67~69)

Po67は外反する複合口縁で、口縁端部は丸くおさめる。Po68、69は口縁端部が内傾して上方に拡張されるもので、Po68胴部外面にはヘラミガキが見られる。

器台 (Po70)

受部、脚台部とも複合口縁状をなす。それぞれの端部は丸くおさめる。筒部は短め。

鉢 (Po71)

短い高台の付く鉢。内外面ナデ。

S X 04

甕 (Po72)

外傾する複合口縁。外面に平行沈線を施すが一部ナデ消される。口縁端部は丸くおさめる。

S X 06

甕 (Po73)

外傾する複合口縁。外面に平行沈線を施すが端部付近外面はナデ消される。口縁端部は丸くおさめる。屈曲部の稜は鈍く突出する。肩部外面に波状文を施す。

器台 (Po74)

受部、脚台部とも複合口縁状をなす。脚台部端部は外側へつまみ出すようにしておさめる。筒部は短め。受部内外面一部にヘラミガキが見られる。

S X 15

甕 (Po75~77)

外傾する複合口縁。外面に平行沈線を施す。口縁端部はPo75、77はつまみ出すようにして丸くおさめるが、Po76はやや肥厚気味に丸くおさめる。Po76は胴部が縦方向に短い倒卵形をなし、口縁部内面ヘラミガキ。胴部外面ハケメ、ヘラミガキ。内面ヘラケズリ後ナデが見られる。Po77には肩部外面に押し引き沈線を施す。

器台 (Po78)

直線的に浅く開く受部。口縁端部は外側に平坦面をなし、上方へわずかにつまみ上げるようにしておさめる。筒部に平行沈線を施し、その上に刻み目が巡る。内外面ヘラミガキ。外面赤色塗彩痕有り。

小型壺 (Po79)

外反する口縁部。内外面ヘラミガキ。ミニチュアか。

S X 18

鉢 (Po80)

複合口縁を持つ鉢。胴部外面ヘラミガキ、内面ヘラケズリ後ナデ。平底。

蓋 (Po81)

外面ヘラミガキ、内面ヘラケズリ後ナデの蓋。

S X 24

甕 (Po82)

直立する複合口縁。外面に平行沈線を施し、口縁端部は丸くおさめるが、内側にわずかに肥厚する。

S X 27

甕 (Po83)

やや外傾する短い複合口縁。外面に平行沈線を施し、口縁端部は丸くおさめる。内面の屈曲は見られない。

S X 28

甕 (Po84、85)

Po84は外傾する複合口縁。外面に平行沈線を施し、口縁端部は平坦面をなす。内面にヘラミガキが見られる。Po85は外傾する口縁部で、口縁端部は丸くおさめる。胴部は肩部が張らない。口縁部から胴部にかけての外面ヘラミガキ。胴部内面ヘラケズリ。

S X 32

甕 (Po86、87)

Po86は外傾する複合口縁。口縁端部はほぼ丸くおさめ、屈曲部の稜は水平方向に突出する。Po87は壺棺として利用する際に口縁部を打ち欠いている。胴部はいずれも肩部の張る倒卵形をなし、底部は平底の名残をとどめる。胴部外面ハケメ、一部にヘラミガキ。内面ヘラケズリ、底部付近指押さえ。

S X 33

甕 (Po88)

外傾する複合口縁。口縁端部は丸くおさめる。肩部に刻み目が巡る。

S X 37

壺 (Po89)

外反してほぼ直立する複合口縁。外面に平行沈線を施し、口縁端部は丸くおさめる。屈曲部の稜は下垂する。頸部から肩部へとなだらかにつながる。肩部外面に波状文を施す。頸部外面ハケメ後ナデ、内面ヘラケズリ後ヘラミガキ。

甕 (Po90、91)

外傾する複合口縁。外面に平行沈線を施すが、Po90は一部ナデ消す。口縁端部は丸くおさめるが、Po90は外面を強くナデることにより、やや肥厚気味。Po90は屈曲部の稜が下垂し、Po91は口縁部下部に円孔を穿つ。

S X37第8墓壇

甕 (Po92)

外傾する複合口縁。外面に平行沈線を施し、口縁端部はつまみ出すようにして丸くおさめる。

S X37第9墓壇

甕 (Po93、94)

複合口縁。Po93は外傾し、口縁端部は肥厚気味で丸くおさめる。屈曲部の稜はやや鈍く突出する。Po94は直立し、口縁端部はほぼ丸くおさめる。屈曲部の稜は鈍い。

S X37第11墓壇

壺 (Po95)

複合口縁。屈曲部の稜は水平方向に突出する。頸部外面に綾杉文状の刻み目が巡り、肩部外面に3段の平行沈線を施す。胴部は肩部の張る倒卵形をなし、底部は平底の名残をとどめる。頸部内面指押さえ。胴部外面ハケメ、内面ヘラケズリ。

S X39

甕 (Po96)

直立する複合口縁。外面に平行沈線を施すが、ナデ消される。口縁端部はつまみ出すようにしておさめる。

S X41

壺 (Po97)

外反気味に外傾する複合口縁。外面に平行沈線を施すがナデ消される。口縁端部は外側へつまみ出すようにして丸くおさめる。屈曲部の稜は下垂する。肩部外面平行沈線と、その上下に波状文を施す。胴部は肩部が張り、縦方向に短い倒卵形をなす。平底。口縁部外面ナデ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ。頸部外面ハケメ、内面ヘラミガキ。胴部外面ハケメ後ヘラミガキ、内面上半ヘラケズリ後ナデ、下半一部にヘラミガキ。

S X50

壺 (Po98)

外反する複合口縁。口縁端部はつまみ出すようにして丸くおさめる。屈曲部の稜は、ほぼ水平方向に突出する。頸部は短めで、肩部外面に波状文を施す。

S K01

甕 (Po99、100)

やや外傾する複合口縁。Po99は口縁端部をつまみ出すようにしておさめるが、全体に風化しており不明瞭。Po100は外面に波状文を施し、口縁端部は平坦面をなす。

S K04

甕 (Po101)

内傾する複合口縁。外面に平行沈線を施し、口縁端部はほぼ丸くおさめる。

S K05

壺 (Po102、103)

外傾もしくは外反する複合口縁。いずれも外面に平行沈線を施し、口縁端部は丸くおさめる。頸部は短めで、Po102は肩部外面に平行沈線を施す。Po103は口縁内面の屈曲が見られない。

甕 (Po104)

外反して直立する短い複合口縁。外面に平行沈線を施すが一部ナデ消される。口縁端部はつまみ出すようにしておさめる。胴部はほぼ球形をなす。胴部内面ヘラケズリ後ナデ、肩部に指押さえ。外面風化のため調整不明。

SK06

壺 (Po105)

やや外反する複合口縁。外面に平行沈線を施すが、一部ナデ消される。口縁端部は丸くおさめる。

SK07

壺 (Po106)

外傾する複合口縁。口縁端部は丸くおさめる。風化しており調整不明。

SK11

壺 (Po107)

外傾する複合口縁。外面に平行沈線を施し、口縁端部は丸くおさめる。内面ヘラミガキ。内外面赤色塗彩痕有り。器台受部となる可能性がある。

支脚 (Po108)

太目のしっかりした支脚。

蓋 (Po109)

円孔を穿つミニチュア蓋。外面ヘラミガキ。赤色塗彩痕有り。

SK12

壺 (Po110)

外傾する複合口縁。外面に平行沈線を施すが、一部ナデ消される。口縁端部は丸くおさめる。肩部外面に刻み目が巡る。

器台 (Po111)

複合口縁状の受部。外面に平行沈線を施す。内外面ヘラミガキ。赤色塗彩痕有り。

SK13

壺 (Po112)

横方向に長い偏球形の胴部。外面ナデ、内面ヘラケズリ後ナデ、指押さえ。外面赤色塗。

SK13・14

胴部片 (Po113)

楕円形押し型文を施す胴部片。

壺 (Po114~117)

Po114は内傾する口縁端部で上下に拡張される。外面に凹線を施すが、強くナデられることにより不明瞭。頸部から肩部内面ハケメ、以下内面ヘラミガキ。Po115~117は外傾する複合口縁で、外面に平行沈線を施すが、Po115は一部ナデ消される。口縁端部はいずれも丸くおさめる。Po116は肩部外面に押し引き沈線を施し、Po117は刻み目が巡る。Po115は胴部内面にヘラミガキが見られる。

胴部 (Po118)

平底の胴部。外面ハケメ後ヘラミガキ。

蓋 (Po119)

外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ後ナデる蓋。

SD01

壺 (Po120、121)

Po120は低く外傾する口縁で、口縁端部は上方へわずかにつまみ上げるようにしておさめ、外面に沈線を施す。Po121はほぼ直立する複合口縁で、外面に平行沈線を施すが、上半はナデ消される。口縁端部は丸くおさめる。

高坏 (Po122)

外傾する複合口縁状の坏部。外面に波状文を施し、口縁端部は外側につまみ出すようにしておさめ、平坦面を

なす上面にも沈線を施す。内面ヘラミガキ。

S D 03

甕 (Po123、124)

複合口縁。Po123は外傾し、外面に平行沈線を施す。口縁端部は丸くおさめる。Po124は外面無文で、口縁端部はつまみ出すようにして丸くおさめる。屈曲部の稜はやや鈍い。

東端部精査中

胴部片 (Po125)

楕円形の押し型文を施す胴部片。

宮内第4遺跡 (A区) 出土土器

S I 01

壺 (Po1)

外傾する複合口縁。口縁端部は内側にわずかに肥厚し、やや平坦な面をなしている。屈曲部の稜は水平方向に鋭く突出する。内外面ともヨコナデ。

高坏 (Po2、3)

Po2は皿状、Po3は椀状の坏部をなす。いずれも口縁端部は丸くおさめられる。外面調整にヘラミガキ、ハケメが見られるが、全体に風化している。

小型丸底壺 (Po4)

やや内湾する口縁部。口縁端部は上方へつまみ出すようにして丸くおさめる。胴部は横方向に長い偏球形をなす。口縁部内外面はヨコナデ。胴部外面ハケメ、内面ヘラケズリ後ナデ。

S I 02

甕 (Po5～7)

やや外反気味に外傾する複合口縁。口縁端部はほぼ丸くおさめ、Po6は内側にわずかに肥厚する。屈曲部の稜は水平方向に小さく突出する。口頸部内外面、肩部外面ヨコナデ。胴部外面ハケメ、内面ヘラケズリ。

高坏 (Po8)

浅い皿状の坏部。口縁端部はやや平坦な面をなす。内外面ヘラミガキ。

S I 01・02

甕 (Po9、10)

外傾する複合口縁。口縁端部はPo9が外側に肥厚し、上面が凹線状をなす。Po10は丸くおさめる。屈曲部の稜はPo9は小さく突出するが、Po10は鈍い。いずれも内外面ヨコナデ。

高坏 (Po11)

低く「ハ」の字状に開く胴部。外面に円形の透かし孔を穿つ。

S I 03

壺 (Po12)

口縁端部は内傾して上方にわずかにつまみ出すようにしておさめる。内外面ヨコナデ。

甕 (Po13～18)

外傾する複合口縁。Po14はやや内湾気味だが、他はいずれも外反気味。口縁端部はほぼ丸くおさめる。Po15～17は外面に平行沈線を、肩部外面に平行沈線、押し引き沈線、波状文をそれぞれ施す。屈曲部の稜はわずかに突出する。口頸部内外面ヨコナデするが、ヘラミガキも見られる。

S K 01

甕 (Po21)

やや外傾する複合口縁。口縁端部は丸くおさめる。屈曲部の稜は下方に小さく突出する。口縁部内外面ヨコナ

デ。肩部外面ハケメ、内面ヘラケズリ。

S S 01・02

壺 (Po22、23、36)

Po22は口縁端部が内傾し、上方へつまみ出すようにしておさめ、外面に刻み目を施す。Po23は口縁部が直立し、口縁端部を丸くおさめる。Po36は外傾する複合口縁で、口縁端部は平坦面をなし、内側にわずかに肥厚する。屈曲部の稜は鈍い。いずれも口縁部内外面ともヨコナデし、Po23は外面にヘラミガキが見られる。

甕 (Po24～30、37～41)

いずれも複合口縁。Po24～26、28は外面に平行沈線。Po27は波状文を施し、Po24は一部ナデ消される。Po25、26には、肩部に波状文と押し引き沈線も施す。口縁端部はPo24～28、37、38は丸く、Po29、30はつまみ出すようにおさめ、Po39～41は平坦面をなす。Po29、30、37～41は屈曲部の稜が小さく突出する。口縁部内外面はいずれもヨコナデするが、ヘラミガキが見られるものもある。

器台 (Po31、32)

複合口縁状の受部。口縁端部はPo31が平坦面をなし、Po32はつまみ出すようにして丸くおさめている。内外面ヘラミガキ。

特殊壺 (Po35)

沈線間に刻み目、そ下部株にスタンプ文を施す。最大胴径部には上下2段に突出する稜が巡り、その間にも刻み目を施す。内外面ナデ。赤色塗彩痕有り。

高坏 (Po42)

浅い椀状の坏部。口縁端部はわずかに平坦な面をなす。外面にヘラミガキが見られるが、全体に風化している。

宮内第5遺跡 (B区) 出土土器

S 101

壺 (Po1)

大きく外反する口縁部。口縁端部は丸くおさめる。内外面ヨコナデ。

甕 (Po2～4)

複合口縁。Po2、3は外傾し、外面に平行沈線を施す。Po4は直立し、外面は強くナデられることによりくぼむ。口縁端部は、いずれも丸くおさめる。Po2は肩部に刻み目を施す。口縁部内外面ヨコナデ。肩部外面ナデ、内面ヘラケズリ。

脚部 (Po5)

複合口縁状の脚部。外面に平行沈線を施す。

S 102

甕 (Po6)

直立する複合口縁。外面に平行沈線を施す。口縁端部は丸くおさめ、屈曲部の稜は下垂する。内外面ヨコナデ。

器台 (Po7)

外傾する複合口縁状の受部。外面に平行沈線を施す。屈曲部の稜は下垂する。内外面ヘラミガキ。赤色塗彩痕有り。

S 103

底部 (Po8)

平底。

S X 05・06

脚台部 (Po9)

「ハ」の字状に開く脚台部。端部は平坦面をなす。外面ヨコナデ。底部内面ヘラミガキ。赤色塗彩。

SK02

甕 (Po10~12)

複合口縁。Po10は直立、Po11、12は外傾する。Po10、11は強くナデられ、Po12は外面に平行沈線を施し、頸部に穿孔する。Po11は内面の屈曲が弱い。口縁端部は丸くおさめるが、Po12はつまみ出すようにしている。内外面ヨコナデするが、Po11にはヘラミガキが見られる。

注口土器 (Po13)

外傾する複合口縁。外面に平行沈線を施す。横方向に長い偏球形の胴部に把手を付ける。全体に風化している。内外面赤色塗彩痕有り。

高坏 (Po14)

屈曲後大きく外反する坏部。内面にヘラミガキが見られるが、全体に風化している。

SK03

甕 (Po15~17)

複合口縁。Po15は外傾し、口縁端部は丸くおさめ、外面に平行沈線を施す。Po16、17は直立し、口縁端部はつまみ出すようにしておさめ、外面は強くナデられる。Po15、16は屈曲部の稜が下重し、Po17は稜が鈍い。内外面ヨコナデ。

脚台部 (Po18)

複合口縁状の器台脚台部。筒部、脚部外面に平行沈線を施す。筒部外面にヘラミガキが見られる。

SK04

甕 (Po19~23)

Po19、20は口縁端部が内傾し、上下、下に拡張され、外面に平行沈線を施す。Po21~23はほぼ直立する複合口縁で、外面に平行沈線を施すが、Po22はナデ消される。Po20、23には肩部外面に刻み目と刺突文を施す。Po23は倒卵形の胴部で、外面ヘラミガキ、内面ヘラケズリする。

器台 (Po24)

複合口縁状の器台受部。外面に平行沈線を施す。内外面赤色塗彩痕有り。

SK05

壺 (Po26、27)

Po26は外傾する複合口縁で、外面に刻み目を施す。Po27は内傾して上下に拡張された口縁端部の外面に平行沈線を施す。Po27には頸部外面にヘラミガキが見られる。

甕 (Po28、29)

外傾する複合口縁。外面に平行沈線を施すが、Po28はナデ消される。屈曲部の稜は鈍い。口縁部内外面ヨコナデ。Po29の胴部外面ナデ、内面ヘラケズリ。

器台 (Po30)

外傾する複合口縁状の浅い器台受部。外面に平行沈線を施す。内面ヘラミガキ。内外面赤色塗彩痕有り。

特殊壺 (Po31)

算盤玉状をなすと思われる胴部外面に、沈線と刻み目を施す。

SK06

壺 (Po32)

内傾して上下に拡張された口縁端部の外面および頸部外面に凹線を施す。全体に風化しているが、胴部外面にハケメが見られる。

甕 (Po33)

内傾して上方にわずかにつまみ出すようにしておさめる口縁端部外面に凹線を施す。内外面ヨコナデ。

S K 08

甕 (Po34、35)

内傾して上方に拡張された口縁端部外面に凹線を施すが、Po35は不明瞭。口頸部内外面ヨコナデ。

S K 10

甕 (Po36、37)

Po36は、内傾して上方に拡張された口縁端部外面に凹線を施す。肩部内面にハケメが見られる。Po37は、外傾する複合口縁で、外面に平行沈線を施し、肩部外面に刺突文が巡る。

S K 13

壺 (Po38)

直立する複合口縁。外面に平行沈線を施す。屈曲部の稜は鈍い。頸部外面にハケメが見られる。

甕 (Po39、40)

Po39は直立する複合口縁で、外面に平行沈線を施すが、一部ナデ消されている。口縁端部はつまみ出すようにしておさめる。Po40は内傾して、上方にわずかにつまみ出すようにしておさめる口縁端部をもつ。いずれも内外面ヨコナデ。

S K 17

甕 (Po41、42)

外反気味にほぼ直立する複合口縁。Po41は外面に平行沈線を施す。Po42は平行沈線をナデ消す。いずれも口頸部内外面ヨコナデ。

S K 18

甕 (Po43~45)

Po43は外傾する肥厚気味の「く」の字状口縁。Po44、45は複合口縁だが、Po45は立ち上がりが短く、内面の屈曲が弱い。Po44は外面に平行沈線を施す。いずれも口頸部内外面ヨコナデするが、Po43にはヘラミガキが見られる。

脚台部 (Po46)

複合口縁状の器台脚台部。外面に平行沈線を施す。内外面赤色塗彩痕有り。

S K 19

甕 (Po47、48)

Po47はやや外傾する複合口縁で、外面に平行沈線を施す。肩部はあまり張らない。Po48は内傾する口縁端部で、上方に拡張され外面に凹線を施す。胴部は倒卵形をなし、肩部に刻み目が巡る。胴部外面にヘラミガキが見られる。

S K 21

壺 (Po49、50)

内傾する口縁端部で上方、上下に拡張される。外面に凹線を施し、Po50には刻み目をその上に巡らす。

甕 (Po51~53)

内傾する口縁端部で上方に拡張され、外面に凹線を施す。Po51は胴部外面に刻み目が巡る。いずれも口頸部をヨコナデする。肩部内面はPo51にはナデ、Po52にはハケメ、Po53にはヘラケズリがそれぞれ見られる。

S D 02

甕 (Po54~56)

直立する複合口縁。外面に平行沈線を施す。

筒部 (Po57)

外面に刻み目と、その上下に沈線を施す。

S S 01

甕 (Po58、59)

Po58は上方へつまみ出すようにしておさめる直立する口縁外部面と、頸部に凹線を施す。口縁端部に施された凹線は強くナゲられることにより、一部消されている。頸部内面にシボリが見られる。Po59は内傾する口縁外部面に凹線を施す。頸部内面にハケメが見られる。

甕 (Po60~66)

Po66以外はいずれも複合口縁で、外面に平行沈線を施すが、Po60、65以外はナゲ消される。Po64、65の肩部にはそれぞれ刻み目と刺突文が巡る。Po60、61には肩部外面にヘラミガキが見られる。Po66は口縁部が短く外傾し、肩部が張らない。

高坏 (Po67)

屈曲後大きく外反する坏部。

ピット内出土遺物

特殊壺 (Po68)

算盤玉状をなすと思われる。最大胴径部の上下に稜が巡り、その間と上部にスタンプ文を施す。外面ハケメ、内面ヘラミガキが見られる。外面赤色塗彩痕有り。

宮内2号墳1次墳丘上

坏蓋 (Po69、70)

内傾する口縁部。口縁端部は内面に弱い段を持つ。口縁部と天井部の境界は不明瞭で、弱い凹線が巡る。天井部は丸味を帯びる。天井部外面上半1/2ヘラケズリ。

坏身 (Po71、72)

立ち上がりは内傾して、端部はつまみ出すようにして丸くおさめる。受部はほぼ水平方向にのびる。底体部外面下半1/2ヘラケズリ。

高坏 (Po73)

内湾する浅い坏部。口縁端部は外反して丸くおさめる。筒部3箇所方形の透かしを入れる。

甕 (Po74)

やや外反する口縁部。口縁端部は肥厚して内傾する。

宮内2号墳石槽内

坏蓋 (Po75、76)

やや内傾する口縁部。口縁端部は内面に弱い段を持つ。口縁部と天井部の境界は不明瞭で、弱い凹線が巡る。天井部はやや平坦気味。天井部外面上半1/2~1/3ヘラケズリ。

坏身 (Po77~80)

立ち上がりは内傾して、端部は内面にかなり弱い段を持つ。受部はやや上方へのびる。底体部外面下半1/3ヘラケズリ。

宮内2号墳盛土中

器台 (Po81)

複合口縁状の器台受部。外面に平行沈線を施す。内外面ヘラミガキ。赤色塗彩痕有り。

宮内2号墳周溝

脚台部 (Po82)

複合口縁状の器台脚台部。外面に平行沈線を施す。円形の透かし孔を穿つ。

宮内64号墳

坏蓋 (Po83~88)

内傾もしくは内湾する口縁部。口縁端部は丸くおさめるが、Po83、85は内面が弱く凹線状をなし、Po86は強

くナデられることにより、やや平坦な面を持つ。口縁部と天井部の境界は不明瞭。天井部は平坦気味。天井部外面上半1/3ヘラケズリ。

坏身 (Po89~98)

立ち上がりは内傾して、端部はつまみ出しておさめるものと、ほぼ丸くおさめるものが見られる。受部は上方もしくは水平方向にのびる。底体部下半1/3ヘラケズリ。

高坏 (Po99)

やや内湾気味に上方へ開く坏部。口縁端部はつまみ出すようにして丸くおさめる。沈線を施すことで突出する上下2段の稜の間に刻み目が巡る。

宮内64号墳北側周溝内

坏蓋 (Po100~104)

ほぼ直立もしくは内湾、内傾する口縁部。口縁端部はほぼ丸くおさめるが、Po100は外側へつまみ出すようにしておさめる。口縁部と天井部の境界は不明瞭。天井部外面上半1/3ヘラケズリ。

坏身 (Po105~112)

立ち上がりは内傾して、端部はほぼ丸くおさめる。受部は上方へのびる。底体部下半1/3ヘラケズリ。

蓋 (Po113, 114)

短頸蓋の蓋。直立する口縁部。Po113は口縁端部をつまみ出すようにしておさめ、Po114は口縁端部内面が強くなデられることによりやや平坦な面をなす。口縁部と天井部の境界不明瞭。天井部外面上半1/3ヘラケズリ。

短頸蓋 (Po115~117)

やや外反もしくは直立する短い口縁部に、横方向に長い偏球形の胴部。口縁端部はPo115が肥厚するが、丸くおさめる。Po115, 117は平面形が槽円形となる。胴部下半1/3ヘラケズリ。Po115, 116は底部に直線1本のヘラ記号がある。

宮内64号墳周溝内

坏身 (Po118)

立ち上がりは内傾して、端部はつまみ出すようにしておさめる。受部はやや上方へのびる。底体部下半1/3ヘラケズリ。

甕 (Po119)

大きく外反する口頸部に偏球形の胴部。頸部外面に凸線と沈線、最大胴径部に沈線が回り、円孔を穿つ。頸部外面から胴部上半カキ目。

甕 (Po120)

外傾するやや肥厚した口縁部。口縁端部はつまみ出すようにしておさめる。胴部は球形をなす。胴部外面平行タキ後カキ目、内面同心円文。

提瓶 (Po121)

胴部に橋状の把手を貼り付けていたものと思われる。胴部は半面は丸味を持ち、その反対は平坦面をなす。胴部の丸味を持つ側にはカキ目が見られ、その反対はヘラケズリ後ナデている。

宮内65号墳北側周溝内

坏蓋 (Po122~125)

内傾もしくは内湾する口縁部。口縁端部は丸くおさめるが、Po124は外側へつまみ出すようにしている。口縁部と天井部の境界は不明瞭。天井部外面上半ヘラケズリ。

坏身 (Po126)

立ち上がりは内傾して、端部はつまみ出すようにしておさめる。受部はほぼ水平方向へのびる。底体部下半1/3ヘラケズリ。

有蓋高坏 (Po127)

立ち上がりは内傾して、端部はつまみ出すようにしておさめる。受部はほぼ水平方向にのびる。筒部上下2段に方形の透かしを入れる。

台付長頸壺 (Po128)

頸部は外傾して、口縁部はやや内湾気味に直立する。口縁端部は丸くおさめる。頸部上半と下半にそれぞれ凹線が巡る。胴部は最大径が胴部にあり、そこにも弱い凹線が巡る。底部は平坦。脚台部は「ハ」の字状に開き、端部は肥厚して、上方へややつまみ出す。外面に方形の透かしを入れる。

今回の調査では、宮内第1遺跡(D区)において、県内では最大級の弥生時代後期の墳丘墓を検出し、1号墓、3号墓の主体部はその規模が山陰最大級のものである。これらの墳丘墓は、この後古墳時代前期に至って周辺に築造される、県内最大のものを含めた大型前方後円墳への墓制の移行を考える上で、非常に貴重な資料であるといえる。また、これらから出土した鉄剣、鉄刀はいずれも大陸から製作され、伝わった可能性が考えられ、その長さでは日本最長のものである。弥生時代における鉄剣、鉄刀は主に北部九州で出土しており、他地域では若干見られるにすぎない。これは、当地と北部九州との関連性を考えねばならないことであるが、東郷池という良好の潟湖を背景にした、大陸との直接交流も視野において置くべき問題と考える。

墳丘墓の主体部であるが、1号墳丘墓築造当初の主体部と考える第1主体部、3号墳丘墓主体部は軸が東西軸で、埋葬部(木棺痕跡)の幅、遺物出土状況から、頭位は西向き(東郷池側)であったと考えられる。2号墳丘墓については、墳丘中央部が調査区域外に位置すると考えられ、中心主体の軸は不明である。よって、この主体部も西向きの頭位であったと断言できないが、おそらく同様であったのではなからうか。4号墳丘墓では、1～3号墳丘墓と異なり、主体部の軸は南北軸で、頭位は北向きであったと推測される。これは、墳丘墓築造時期が新しいことが影響していると考えられる。この事は、1号墳丘墓の他の主体部及び3号墳丘墓上、及び周辺で検出された土壌墓にも、同様のことが言えるものと思われる。墳丘墓周囲内で検出された土壌墓については、周囲の軸に沿ったものと考えられるが、それ以外の場所で検出できたものは、軸を東西に持つものが、南北に持つものより时期的に古いと言える。なお、これらについても頭位は西向き、もしくは北向きであったことが想定される。

以上のことから宮内第1遺跡(D区)で検出できた墳丘墓、土壌墓の时期的なものを含めたグルーピングが可能であると考えられるが、時期差による軸の変化がどのような意味を持つのかは今後の課題としたい。

なお、検出できた墳丘墓、土壌墓は、いずれも弥生時代後期～宋に時期を設定できるものと考えられ、古墳時代にまで至ると考えられるものは埋葬形態が甕棺となるSX32のみである。このことは、墓制の変化、墓域の移動を物語ると同時に、墳丘墓主体部及び土壌墓の軸の変化も含めて、墓域としていた集団の変化、集落の移動をも検討しなければならないものとする。

以上のことについては、本来であれば、墳丘墓もしくは大型前方後円墳を築造した集団を考慮し、当遺跡周辺の同時代の集落遺跡等をふまえて検討すべき問題であるが、調査員の力量不足と時間的制約から、本書では事実報告だけにとどまってしまった。今後の調査研究に委ねる課題を多く残してしまう感があるが、本書に納めた内容が、その調査研究の一助となれば幸いである。

最後に、調査の実施、報告書作成にあたり、指導・助言・協力をいただいた方々に深く感謝の意を表します。

遺物番号	押印番号	図版番号	取上番号	出土位置	器種	備考
Po 1	7	6	5,69,71	S I 01	甕	米山85
Po 2	7	6	3,4	S I 01	甕	稲垣72
Po 3	7	6	46	S I 01	甕	稲垣70
Po 4	7	6	62	S I 01	高坏	稲垣73
Po 5	9	6	8	S I 02	甕	稲垣74
Po 6	9	6	6	S I 02	甕	稲垣76
Po 7	9	6	21	S I 02	高坏	稲垣77
Po 8	9	6	35	S I 02	高坏	表98
Po 9	11	6	118	S I 03	甕	稲垣89
Po10	11	6	132	S I 03	高坏	稲垣114
Po11	11	6	104	S I 03	高坏	稲垣88
Po12	11	6	105,121	S I 03	筒脚部	稲垣90
Po13	11	6	126	S I 03	小型丸底甕	南條61
Po14	12	6	70,280	S I 04	甕	表87
Po15	12		243,298	S I 04	甕	稲垣87
Po16	12	7	217,237,238	S I 04	甕	南條56
Po17	12	7	238	S I 04	甕	南條60
Po18	12	7	247	S I 04	甕	米山86
Po19	12		304,305,323	S I 04	甕	米山87
Po20	12		235	S I 04	甕	米山103
Po21	12	7	223	S I 04	甕	南條55
Po22	12		138,196,280	S I 04	甕	南條59
Po23	14	7	191,286,287,289	S I 04	甕	米山94
Po24	14		210,229	S I 04	甕	表96
Po25	14	7	218	S I 04	高坏	南條62
Po26	14	7	241	S I 04	高坏	米山90
Po27	14		221,227	S I 04	高坏	稲垣79
Po28	14		219	S I 04	高坏	表91
Po29	14	7	217,234	S I 04	高坏	南條64
Po30	14		232	S I 04	高坏	南條67
Po31	14		218	S I 04	高坏	表90
Po32	14	7	232	S I 04	高坏	稲垣81
Po33	14		221	S I 04	筒脚部	稲垣78
Po34	14	7	235	S I 04	小型丸底甕	稲垣82
Po35	14	8	224,228	S I 04	小型丸底甕	南條58
Po36	14		191,225,230	S I 04	小型丸底甕	米山96
Po37	19	8	262	S I 06	甕	表80
Po38	19	8	174	S I 06	甕	米山99
Po39	19	8	263,264	S I 06	甕	表89
Po40	19	8	171	S I 06	甕	米山88
Po41	19	8	141,171	S I 06	甕	表99
Po42	19		141	S I 06	筒脚部	稲垣94
Po43	19		170	S I 06	小型丸底甕	表92
Po44	19	8	168	S I 06	脚台部	稲垣96
Po45	19	8	175	S I 06	甕	表93
Po46	19		652	S I 06内S K	甕	南條92
Po47	22		143,145,149	S I 07	甕	米山89
Po48	22	8	149	S I 07	甕	表84
Po49	22	8	147	S I 07	高坏	南條66
Po50	22	8	148	S I 07	小型丸底甕	南條71
Po51	22		149	S I 07	甕	南條72
Po52	23	9	209,210	S I 08	甕	米山95
Po53	23	9	210	S I 08	甕	米山100
Po54	23	9	210	S I 08	甕	南條80
Po55	23	9	255	S I 08内S K	押型文脚部	表143
Po56	23		255	S I 08内S K	底部	表88
Po57	25	9	174,176,180,184,186 189,197,202,253	S K 02	甕	稲垣85
Po58	25	9	176,186,187,188,189 191,197,199,203,204 253,265	S K 02	甕	稲垣84
Po59	25	9	176,206	S K 02	甕	米山97
Po60	25	9	189,197,203	S K 02	甕	表81
Po61	26	9	176,199,204,205,206	S K 02	甕	稲垣86

押表5 宮内第1遺跡(C区)土器一覽表(1)

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	出土位置	器種	備考
Po62	26		176, 199, 203, 204, 206 207	SK02	甕	表94
Po63	26	9	202	SK02	甕	南條68
Po64	26	9	176	SK02	甕	南條69
Po65	26	9	254	SK02	甕	表82
Po66	26	10	174, 203	SK02	甕	米山93
Po67	27		185, 222	SK02	甕	南條57
Po68	26	10	202, 253	SK02	甕	南條74
Po69	27	10	176, 202, 253	SK02	甕	南條73
Po70	27	10	185	SK02	甕	表79
Po71	27	10	176, 253, 254	SK02	甕	表86
Po72	33	10	67	ピット内出土	小型丸底甕	表97

挿表6 宮内第1遺跡(C区)土器一覽表(2)

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	出土位置	器種	備考
Po1	37	32	556	S I 01	甕	表111
Po2	37		439	S I 01	甕	稲垣106
Po3	37	32	558	S I 01	甕	表112
Po4	37	32	516	S I 01	甕	表107
Po5	37	32	438	S I 01	甕	南條97
Po6	37		561	S I 01	甕	稲垣120
Po7	37	32	516	S I 01	甕	米山118
Po8	37	32	555, 572, 590	S I 01	甕	表119
Po9	37	32	511	S I 01	甕	表106
Po10	37		560	S I 01	甕	稲垣119
Po11	37		560	S I 01	甕	稲垣118
Po12	38		696	S I 02	甕	米山126
Po13	38	32	694	S I 02	甕	原田12
Po14	38		690	S I 02	甕	米山125
Po15	42	32	586	S I 05	甕	米山127
Po16	45	32	584	S I 06	甕	米山128
Po17	57	32	697	1号墓	甕	表135
Po18	57	32	770	1号墓	甕	米山110
Po19	57	32	662	1号墓	甕	表115
Po20	57		666, 769	1号墓	甕	米山120
Po21	57	32	773	1号墓	甕	表127
Po22	57	33	698	1号墓	甕	米山106
Po23	57		773	1号墓	甕	南條96
Po24	57		666	1号墓	甕	南條89
Po25	57	33	700	1号墓	甕	米山107
Po26	57	32	769	1号墓	甕	米山109
Po27	57	33	780	1号墓	甕	表116
Po28	57		687	1号墓	甕	南條91
Po29	57	33	677	1号墓	甕	稲垣110
Po30	57	33	657, 658, 659	1号墓	甕	稲垣112
Po31	57		673	1号墓	甕	稲垣109
Po32	57		655	1号墓	甕	稲垣113
Po33	57	33	697	1号墓	甕	米山105
Po34	57	33	701, 774	1号墓	甕	米山112
Po35	57		656	1号墓	甕	米山114
Po36	63	33	705	2号墓北側周溝	甕	なかはら1
Po37	63	33	705	2号墓北側周溝	甕	山本ヒ1
Po38	63	33	705	2号墓北側周溝	甕	山本ヒ2
Po39	63	33	705, 706, 707, 780	2号墓北側周溝	甕	米山116
Po40	63	34	705	2号墓北側周溝	甕	清水2
Po41	63	34	705	2号墓北側周溝	甕	なかはら2
Po42	63	34	705	2号墓北側周溝	甕	清水1
Po43	63		705, 706, 707	2号墓北側周溝	甕	米山115
Po44	66	34	578	3号墓	甕	南條100
Po45	66	34	578	3号墓	甕	南條104
Po46	66	34	343	3号墓	甕	南條106
Po47	66	34	343	3号墓	甕	稲垣126
Po48	66	34	337	3号墓	甕	表118
Po49	66	34	577	3号墓	甕	南條99
Po50	66	34	335, 336	3号墓	甕	表110

挿表7 宮内第1遺跡(D区)土器一覽表(1)

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	出土位置	器種	備考
Po51	66		577	3号墓	甕	表139
Po52	66		562	3号墓	高坏	表140
Po53	66	34	542	3号墓	器台	表141
Po54	66		577	3号墓	葬部	表137
Po55	66		363	3号墓	脚部	稲垣108
Po56	66	34	326	3号墓北側周溝	甕	米山122
Po57	66		326	3号墓北側周溝	甕	表114
Po58	66		328	3号墓北側周溝	甕	稲垣123
Po59	66	34	328	3号墓北側周溝	台付壺	表117
Po60	66		787	3号墓西側周溝	甕	原田 8
Po61	66	34	787	3号墓西側周溝	高坏	原田 9
Po62	69	34	585	4号墓	甕	稲垣124
Po63	69	35	392, 553	4号墓西側周溝	壺	米山117
Po64	69	35	594	4号墓西側周溝	甕	稲垣116
Po65	69		592	4号墓西側周溝	高脚部	表109
Po66	74		607, 608, 612, 614	S X 02	壺	表120
Po67	74	35	606	S X 02	甕	南條83
Po68	74		609, 627, 628	S X 02	甕	稲垣115
Po69	74	35	614	S X 02	甕	稲垣99
Po70	74	35	615	S X 02	器台	稲垣111
Po71	74	35	605	S X 02	鉢	稲垣101
Po72	77	35	422	S X 04	甕	稲垣125
Po73	82	35	545, 546, 550	S X 06	甕	南條82
Po74	82	35	547, 575	S X 06	器台	南條93
Po75	89	35	630	S X 15	甕	南條85
Po76	89	36	630, 631, 632, 633	S X 15	甕	稲垣107
Po77	89		631, 632, 633	S X 15	甕	米山132
Po78	89		633	S X 15	器台	稲垣122
Po79	89	36	633	S X 15	小型壺	表138
Po80	91	36	427	S X 18	鉢	米山133
Po81	91	36	393, 426	S X 18	蓋	表121
Po82	96	36	533	S X 24	甕	南條102
Po83	97	36	534	S X 27	甕	米山135
Po84	101		644	S X 28	甕	南條87
Po85	101	36	646	S X 28	甕	表125
Po86	110	36	598	S X 32	甕	米山121
Po87	110	36	597	S X 32	甕	南條94
Po88	109	36	599	S X 33	甕	米山134
Po89	113		616	S X 37	壺	原田 1
Po90	113	37	618	S X 37	甕	原田 2
Po91	113	37	619	S X 37	甕	原田 3
Po92	125	37	622	S X 37第 8 墓墳	甕	原田 4
Po93	125	37	623	S X 37第 9 墓墳	甕	原田 6
Po94	125	37	623	S X 37第 9 墓墳	甕	原田 5
Po95	125	37	616, 648	S X 37第11墓墳	壺	米山123
Po96	128	37	730	S X 39	甕	南條105
Po97	131	37	600, 601, 602	S X 41	甕	表124
Po98	137	37	799	S X 50	壺	原田 7
Po99	159	37	339	S K 01	甕	南條98
Po100	159		338	S K 01	甕	表142
Po101	162	37	404	S K 04	甕	原田10
Po102	165	37	429	S K 05	壺	稲垣102
Po103	165		429	S K 05	壺	稲垣98
Po104	165		429, 430, 435	S K 05	甕	稲垣100
Po105	166	37	423	S K 06	甕	米山131
Po106	169	37	424	S K 07	甕	米山129
Po107	173	38	727	S K 11	甕	米山130
Po108	173		800	S K 11	支脚	南條107
Po109	173	38	727	S K 11	ミニチュア蓋	表126
Po110	176	38	772	S K 12	甕	表122
Po111	176		772	S K 12	器台	稲垣121
Po112	178	38	778	S K 13	壺	稲垣117
Po113	178	38	734	S K 13・14	押型文銅部	表128
Po114	178		734	S K 13・14	甕	米山136
Po115	178		734	S K 13・14	甕	表113

挿表 8 宮内第 1 遺跡 (D区) 土器一覽表(2)

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	出土位置	器種	備考
Pol16	178		734	S K13・14	甕	稲垣127
Pol17	178	38	734	S K13・14	甕	稲垣105
Pol18	178		734,736	S K13・14	胴部	稲垣104
Pol19	178		734	S K13・14	蓋	米山124
Pol20	185	38	529	S D01	甕	原田11
Pol21	185	38	529	S D01	甕	南條103
Pol22	185	38	393	S D01	高坏	表129
Pol23	185	38	409	S D03	甕	南條101
Pol24	185	38	401	S D03	甕	南條95
Pol25	186	38	418	東鑑部精査中	押型文胴部	表136

挿表9 宮内第1遺跡(D区)土器一覽表(3)

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	出土位置	器種	備考
Po 1	189		8, 51	S I 01	甬	稲垣11
Po 2	189	44	21,64	S I 01	高坏	表11
Po 3	189		30,44	S I 01	高坏	表12
Po 4	189	44	23	S I 01	小型丸底甕	稲垣15
Po 5	190		66,80,99,100,102	S I 02	甕	稲垣12
Po 6	190	44	122	S I 02	甕	米山 4
Po 7	190	44	120	S I 02	甕	米山 5
Po 8	190		62,83,123,181	S I 02	高坏	稲垣21
Po 9	192		65	S I 01・02	甕	稲垣 4
Po10	192	44	183	S I 01・02	甕	米山 2
Po11	192		68	S I 01・02	胴部	表14
Po12	193	44	92	S I 03	甕	南條11
Po13	193		143	S I 03	甕	稲垣10
Po14	193	44	171	S I 03	甕	米山 1
Po15	193	44	161,164,168,180,245	S I 03	甕	稲垣14
Po16	193	44	94,145,146,147,180	S I 03	甕	稲垣13
Po17	193	44	173	S I 03	甕	米山 9
Po18	193	45	255	S I 03	甕	米山33
Po19	193		180	S I 03	土玉	稲垣23
Po20	193		159	S I 03	土玉	南條16
Po21	194	45	251	S K01	甕	表 6
Po22	198	45	69	S S01・02	甕	表16
Po23	198	45	79	S S01・02	甕	表20
Po24	198		230	S S01・02	甕	稲垣 5
Po25	198	45	50,236	S S01・02	甕	南條 6
Po26	198	45	50,75,232	S S01・02	甕	米山20
Po27	198	45	178,197	S S01・02	甕	南條 7
Po28	198	45	87	S S01・02	甕	米山26
Po29	198	45	250	S S01・02	甕	南條15
Po30	198	45	249	S S01・02	甕	南條 2
Po31	198	46	241	S S01・02	甕	南條 9
Po32	198		75,234	S S01・02	器台	南條 8
Po33	198	46	45,233	S S01・02	脚台部	稲垣20
Po34	198	46	247	S S01・02	胴部	表 4
Po35	198	46	89	S S01・02	特殊葺	表132
Po36	198	46	47,97	S S01・02	甕	南條 4
Po37	198	46	62	S S01・02	甕	稲垣 7
Po38	198	46	236	S S01・02	甕	表 7
Po39	198		45,62,72	S S01・02	甕	表 8
Po40	198	46	45,62,212	S S01・02	甕	米山16
Po41	198	46	45,62,72	S S01・02	甕	稲垣 1
Po42	198		50	S S01・02	高坏	稲垣19
Po43	198		208,211	S S01・02	筒脚部	表22
Po44	198		202	S S01・02	筒脚部	表10
Po45	198		90	S S01・02	土玉	表25
Po46	198		47	S S01・02	土玉	稲垣22

挿表10 宮内第4遺跡(A区)土器一覽表

遺物番号	柳岡番号	図版番号	取上番号	出土位置	器種	備考
Po 1	203	64	137	S I 01	甕	稲垣62
Po 2	203	64	137	S I 01	甕	稲垣63
Po 3	203	64	137	S I 01	甕	稲垣64
Po 4	203	64	137	S I 01	甕	稲垣60
Po 5	203		137	S I 01	脚部	稲垣61
Po 6	204	64	224	S I 02	甕	稲垣57
Po 7	204	64	223	S I 02	器台	稲垣58
Po 8	206		349	S I 03	底部	稲垣59
Po 9	211	64	351	S X 05・06	脚部	米山82
Po10	214	64	144	S K 02	甕	表64
Po11	214	64	183	S K 02	甕	表67
Po12	214		184	S K 02	甕	表66
Po13	214	64	135	S K 02	注口土器?	表72
Po14	214		183	S K 02	高坏	表71
Po15	216	65	205	S K 03	甕	南條29
Po16	216	65	205	S K 03	甕	南條31
Po17	216		138	S K 03	甕	南條28
Po18	216	65	205	S K 03	脚部	南條24
Po19	218		176	S K 04	甕	稲垣51
Po20	218	65	142	S K 04	甕	米山64
Po21	218	65	186	S K 04	甕	米山66
Po22	218	65	176	S K 04	甕	米山68
Po23	218	65	176	S K 04	甕	米山69
Po24	218		186	S K 04	器台	南條25
Po25	218	65	142	S K 04	脚部	米山72
Po26	219		147, 148, 149	S K 05	壺	稲垣54
Po27	219	65	149, 200	S K 05	壺	稲垣49
Po28	219	65	228	S K 05	甕	稲垣48
Po29	219	65	149, 203, 229	S K 05	甕	稲垣69
Po30	219	65	149	S K 05	器台	稲垣52
Po31	219		203	S K 05	特殊壺	表134
Po32	222	65	267	S K 06	壺	南條45
Po33	222		260	S K 06	甕	南條43
Po34	225	65	268	S K 08	甕	南條41
Po35	225	65	145	S K 08	甕	南條42
Po36	227	66	194	S K 10	甕	南條33
Po37	227	66	192, 236	S K 10	甕	南條39
Po38	232	66	261	S K 13	壺	南條37
Po39	232	66	261	S K 13	甕	南條38
Po40	232	66	261	S K 13	甕	南條36
Po41	236		204	S K 17	甕	表43
Po42	236	66	204	S K 17	甕	表42
Po43	237	66	222	S K 18	甕	表48
Po44	237	66	222	S K 18	甕	表51
Po45	237	66	220	S K 18	甕	表49
Po46	237	66	221	S K 18	脚部	表50
Po47	240		240	S K 19	甕	表53
Po48	240	66	225, 240	S K 19	甕	表54
Po49	243	66	367	S K 21	壺	表74
Po50	243	66	367	S K 21	壺	表75
Po51	243	66	367	S K 21	甕	米山84
Po52	243		367	S K 21	甕	米山83
Po53	243	66	367	S K 21	甕	表78
Po54	251	66	139	S D 02	甕	南條47
Po55	251	66	125	S D 02	甕	南條52
Po56	251	66	139	S D 02	壺	南條48
Po57	251	66	139	S D 02	筒部	南條54
Po58	254	66	146	S S 01	壺	米山56
Po59	254	66	265	S S 01	壺	米山57
Po60	254	66	257	S S 01	甕	米山49
Po61	254	67	153	S S 01	甕	米山54
Po62	254		157	S S 01	甕	米山61
Po63	254	67	174	S S 01	甕	米山51
Po64	254	66	146	S S 01	甕	米山52
Po65	254		146, 169	S S 01	甕	米山63

挿表11 宮内第5遺跡(B区)土器一覧表(1)

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	出土位置	器種	備考
Po66	254	66	146	S S 01	鉢	米山50
Po67	254	66	146	S S 01	高坏	米山58
Po68	255	67	18	ビット内出土	特殊壺	表131
Po69	268	67	181	2 M 1 次墳丘上	坏蓋	南條21
Po70	268	67	181	2 M 1 次墳丘上	坏蓋	南條22
Po71	268	67	180	2 M 1 次墳丘上	坏身	稲垣27
Po72	268	67	182	2 M 1 次墳丘上	坏身	南條20
Po73	268	67	131	2 M 1 次墳丘上	高坏	稲垣33
Po74	268	67	17, 263, 264	2 M 1 次墳丘上	壺	稲垣39
Po75	271	67	356	2 M 石棺内	坏蓋	表59
Po76	271	68	355	2 M 石棺内	坏蓋	南條27
Po77	271	68	356, 357	2 M 石棺内	坏身	米山62
Po78	271	68	354	2 M 石棺内	坏身	南條32
Po79	271	68	352	2 M 石棺内	坏身	米山55
Po80	271	68	353	2 M 石棺内	坏身	稲垣50
Po81	269	68	364	2 M 盛土中	器台	稲垣68
Po82	269	68	251	2 M 周溝内	脚台部	南條53
Po83	277	68	43	64M	坏蓋	稲垣46
Po84	277	68	47	64M	坏蓋	稲垣26
Po85	277	68	44, 45, 47, 48, 57	64M	坏蓋	稲垣47
Po86	277	68	58	64M	坏蓋	稲垣32
Po87	277	69	47	64M	坏蓋	表40
Po88	277	69	47, 57	64M	坏蓋	米山37
Po89	277	69	40	64M	坏身	米山42
Po90	277	69	47, 48, 57	64M	坏身	米山36
Po91	277	69	22, 38, 51, 57, 271	64M	坏身	稲垣30
Po92	277	69	41, 47	64M	坏身	米山34
Po93	277	69	59	64M	坏身	稲垣35
Po94	277	69	39, 42, 47	64M	坏身	米山35
Po95	277	69	57	64M	坏身	稲垣34
Po96	277	69	48	64M	坏身	米山38
Po97	277	70	47	64M	坏身	南條19
Po98	277	70	56, 75, 246, 271	64M	坏身	表39
Po99	277	70	57	64M	高坏	米山47
Po100	278	70	114	64M北側周溝内	坏蓋	表36
Po101	278	70	111	64M北側周溝内	坏蓋	表35
Po102	278	70	123	64M北側周溝内	坏蓋	稲垣25
Po103	278	70	119	64M北側周溝内	坏蓋	表32
Po104	278	70	112	64M北側周溝内	坏蓋	表33
Po105	278	70	120	64M北側周溝内	坏身	稲垣28
Po106	278	70	117	64M北側周溝内	坏身	表60
Po107	278	71	121	64M北側周溝内	坏身	表29
Po108	278	71	118	64M北側周溝内	坏身	表30
Po109	278	71	107	64M北側周溝内	坏身	表28
Po110	278	71	110	64M北側周溝内	坏身	表37
Po111	278	71	113	64M北側周溝内	坏身	表38
Po112	278	71	115	64M北側周溝内	坏身	稲垣29
Po113	278	71	108	64M北側周溝内	蓋	表34
Po114	278	71	109	64M北側周溝内	蓋	表26
Po115	278	71	116	64M北側周溝内	短頸壺	稲垣37
Po116	278	71	106	64M北側周溝内	短頸壺	表27
Po117	278	71	122	64M北側周溝内	短頸壺	稲垣38
Po118	279	72	271	64M周溝内	坏身	米山44
Po119	279	72	248	64M周溝内		表31
Po120	279	72	70	64M周溝内	壺	南條23
Po121	279	72	49	64M周溝内	提瓶	表41
Po122	282		165	65M北側周溝内	坏蓋	米山46
Po123	282	72	66, 67, 90	65M北側周溝内	坏蓋	米山41
Po124	282	72	69	65M北側周溝内	坏蓋	米山39
Po125	282	72	65, 66, 89	65M北側周溝内	坏蓋	米山40
Po126	282	72	64, 85	65M北側周溝内	坏身	南條18
Po127	282		66, 90, 91, 92, 101	65M北側周溝内	高坏	米山43
Po128	282	72	66, 89, 90, 101	65M北側周溝内	台付長頸壺	稲垣36

挿表12 宮内第5遺跡 (B区) 土器一覽表(2)

遺物番号	押回番号	図版番号	取上番号	出土位置	種類	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	穴径(cm)	重さ(g)	材質	備考
S 1	9	10	10	S 102	敲石	8.8	6.9	6.0	—	440	角閃石安山岩	原田17
S 2	9	10	24	S 102	浮石	3.7	3.3	3.3	—	9.4	輝石	米山162
S 3	14	10	322	S 104	砥石	20.5	10.7	8.0	—	1833	安山岩質緑閃石	稲垣128
S 4	14	10	250	S 104	磨石	12.3	10.6	6.0	—	1174	角閃石安山岩	原田16

挿表13 宮内第1遺跡 (C) 区石製品観察表

遺物番号	押回番号	図版番号	取上番号	出土位置	種類	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	穴径(cm)	重さ(g)	材質	備考
S 1	63	39	797	2号基北側周溝	磨製石斧	16.0	5.5	4.0	—	528	閃緑岩	原田13
S 2	113	39	616	S X 37	有溝石鏝	10.0	5.8	5.3	—	265	角閃石安山岩	稲垣127
J 1	38	39	530	S 102	勾玉	2.1	1.39	0.9	0.18	3.93	滑石	南隆124
J 2	41	39	538	S 103	管玉	2.53	0.42	—	0.17	0.54	緑色凝灰岩	米山151
J 3	41	39	537	S 103	小玉	0.48	0.46	0.37	0.24	0.10	ガラス	米山155
J 4	59	39	739	1号基第1主体	管玉	0.74	0.24	—	0.06	0.10	ガラス	表158
J 5	59	39	743	1号基第1主体	管玉	0.9	0.24	—	0.09	0.12	ガラス	表172
J 6	59	39	744	1号基第1主体	管玉	0.77	0.26	—	0.12	0.08	ガラス	表159
J 7	59	39	745	1号基第1主体	管玉	0.73	0.26	—	0.05	0.10	ガラス	表160
J 8	59	39	746	1号基第1主体	管玉	0.73	0.26	—	0.08	0.09	ガラス	表161
J 9	59	39	747	1号基第1主体	管玉	0.77	0.26	—	0.10	0.11	ガラス	表162
J 10	59	39	749	1号基第1主体	管玉	0.73	0.25	—	0.09	0.07	ガラス	表163
J 11	59	39	750	1号基第1主体	管玉	0.79	0.27	—	0.09	0.09	ガラス	表164
J 12	59	39	751	1号基第1主体	管玉	0.76	0.25	—	0.10	0.07	ガラス	表165
J 13	59	39	752	1号基第1主体	管玉	2.40	0.57	—	0.28	0.43	ガラス	米山170
J 14	59	39	753	1号基第1主体	管玉	1.93	0.57	—	0.27	0.32	ガラス	米山165
J 15	59	39	754	1号基第1主体	管玉	1.52	0.50	—	0.21	0.21	ガラス	南隆140
J 16	59	39	755	1号基第1主体	管玉	1.93	0.56	—	0.25	0.35	ガラス	南隆141
J 17	59	39	758	1号基第1主体	管玉	2.32	0.58	—	0.27	0.41	ガラス	南隆133
J 18	59	39	759	1号基第1主体	管玉	2.48	0.46	—	0.27	0.50	ガラス	南隆134
J 19	59	39	760	1号基第1主体	管玉	2.48	0.55	—	0.24	0.51	ガラス	南隆135
J 20	59	39	804	1号基第1主体	管玉	0.74	0.23	—	0.07	0.07	ガラス	表170
J 21	59	39	804	1号基第1主体	管玉	0.62	0.24	—	0.10	0.06	ガラス	表171
J 22	59	39	740	1号基第1主体	管玉	0.91	0.22	—	0.12	0.07	碧玉	表157
J 23	59	39	741	1号基第1主体	管玉	0.81	0.23	—	0.10	0.07	碧玉	表166
J 24	59	39	742	1号基第1主体	管玉	0.83	0.24	—	0.08	0.07	碧玉	表167
J 25	59	39	804	1号基第1主体	管玉	1.03	0.21	—	0.13	0.06	緑色凝灰岩	表168
J 26	59	39	804	1号基第1主体	管玉	0.4	0.21	—	0.12	0.02	碧玉	表169
J 27			748	1号基第1主体	管玉						ガラス	
J 28			756	1号基第1主体	管玉						ガラス	実
J 29			757	1号基第1主体	管玉						ガラス	
J 30			761	1号基第1主体	管玉						ガラス	割
J 31			762	1号基第1主体	管玉						ガラス	
J 32			763	1号基第1主体	管玉						ガラス	不
J 33			764	1号基第1主体	管玉						ガラス	
J 34			765	1号基第1主体	管玉						ガラス	可
J 35			766	1号基第1主体	管玉						ガラス	
J 36			767	1号基第1主体	管玉						ガラス	能
J 37			768	1号基第1主体	管玉						ガラス	
J 38	60	39	708	1号基第3主体	管玉	0.7	0.25	—	0.12	0.04	緑色凝灰岩	表144
J 39	60	39	709	1号基第3主体	管玉	1.15	0.28	—	0.14	0.14	碧玉	表145
J 40	60	39	710	1号基第3主体	管玉	1.24	0.28	—	0.15	0.14	碧玉	表146
J 41	60	39	711	1号基第3主体	管玉	0.94	0.29	—	0.15	0.13	碧玉	表147
J 42	60	39	712	1号基第3主体	管玉	1.31	0.28	—	0.14	0.15	碧玉	表148
J 43	60	39	713	1号基第3主体	管玉	1.16	0.26	—	0.16	0.13	碧玉	表149
J 44	60	39	714	1号基第3主体	管玉	1.42	0.29	—	0.14	0.20	碧玉	表150
J 45	60	39	715	1号基第3主体	管玉	1.21	0.26	—	0.14	0.07	緑色凝灰岩	表151
J 46	60	39	716	1号基第3主体	管玉	1.55	0.30	—	0.16	0.22	碧玉	表152
J 47	60	39	717	1号基第3主体	管玉	1.39	0.28	—	0.16	0.16	碧玉	表153
J 48	60	39	718	1号基第3主体	管玉	1.56	0.29	—	0.18	0.19	碧玉	表154
J 49	60	39	719	1号基第3主体	管玉	1.30	0.29	—	0.17	0.17	碧玉	表155
J 50	60	39	720	1号基第3主体	管玉	1.23	0.26	—	0.14	0.08	緑色凝灰岩	表156
J 51	66	39	573	3号基	管玉未製品	1.88	1.06	1.04	—	3.39	緑色凝灰岩	南隆123

挿表14 宮内第1遺跡 (D) 区石製品・玉類観察表(1)

遺物番号	押函番号	図版番号	取上番号	出土位置	種類	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	穴径(cm)	重さ(g)	材質	備考
J52	81	40	346	S X 05底面	管玉	1.13	0.30	—	0.17	0.19	緑色凝灰岩	南條108
J53	81	40	347	S X 05底面	管玉	1.41	0.33	—	0.17	0.19	緑色凝灰岩	南條109
J54	81	40	348	S X 05底面	管玉	1.21	0.34	—	0.20	0.24	玉髓	南條110
J55	81	40	349	S X 05底面	管玉	1.11	0.26	—	0.14	0.11	緑色凝灰岩	南條111
J56	81	40	350	S X 05底面	管玉	1.86	0.31	—	0.18	0.29	緑色凝灰岩	南條112
J57	81	40	351	S X 05底面	管玉	0.66	0.31	—	0.14	0.09	緑色凝灰岩	南條113
J58	81	40	352	S X 05底面	管玉	1.01	0.26	—	0.16	0.10	緑色凝灰岩	南條114
J59	81	40	353	S X 05底面	管玉	1.23	0.32	—	0.17	0.19	緑色凝灰岩	南條116
J60	81	40	354	S X 05底面	管玉	1.11	0.39	—	0.21	0.30	碧玉	南條115
J61	81	40	355	S X 05底面	管玉	1.14	0.29	—	0.19	0.17	緑色凝灰岩	南條117
J62	81	40	356	S X 05底面	管玉	1.28	0.26	—	0.16	0.14	緑色凝灰岩	南條118
J63	81	40	357	S X 05底面	管玉	0.73	0.24	—	0.15	0.06	緑色凝灰岩	南條119
J64	81	40	358	S X 05底面	管玉	1.71	0.32	—	0.19	0.28	緑色凝灰岩	南條120
J65	81	40	359	S X 05底面	管玉	1.59	0.32	—	0.18	0.27	緑色凝灰岩	南條121
J66	81	40	360	S X 05底面	管玉	0.88	0.27	—	0.11	0.06	緑色凝灰岩	南條122
J67	81	40	361	S X 05底面	管玉	1.19	0.30	—	0.17	0.19	緑色凝灰岩	米山137
J68	81	40	367	S X 05底面	管玉	0.97	0.28	—	0.11	0.08	緑色凝灰岩	米山147
J69	81	40	368	S X 05底面	管玉	1.07	0.27	—	0.16	0.13	緑色凝灰岩	米山148
J70	81	40	369	S X 05底面	管玉	1.28	0.28	—	0.17	0.19	緑色凝灰岩	米山149
J71	81	40	370	S X 05底面	管玉	0.80	0.26	—	0.16	0.09	緑色凝灰岩	米山150
J72	81	40	366	S X 05埋土中	管玉	1.44	0.31	—	0.17	0.23	緑色凝灰岩	米山138
J73	81	40	366	S X 05埋土中	管玉	1.67	0.30	—	0.17	0.25	緑色凝灰岩	米山139
J74	81	40	366	S X 05埋土中	管玉	1.49	0.32	—	0.17	0.26	緑色凝灰岩	米山140
J75	81	40	366	S X 05埋土中	管玉	0.84	0.31	—	0.18	0.12	碧玉	米山141
J76	81	40	366	S X 05埋土中	管玉	1.02	0.26	—	0.14	0.09	緑色凝灰岩	米山142
J77	81	40	366	S X 05埋土中	管玉	1.09	0.29	—	0.15	0.16	緑色凝灰岩	米山143
J78	81	40	366	S X 05埋土中	管玉	0.94	0.26	—	0.12	0.09	緑色凝灰岩	米山144
J79	81	40	366	S X 05埋土中	管玉	1.04	0.26	—	0.15	0.11	緑色凝灰岩	米山145
J80	81	40	366	S X 05埋土中	管玉	0.98	0.29	—	0.13	0.08	緑色凝灰岩	米山146
J81	186	40	394	北側覆瓦中	管玉	2.97	1.12	—	0.31	7.09	碧玉	米山152
J82	186	40	395	北側覆瓦中	管玉	3.16	1.19	—	0.28	8.50	碧玉	米山153
J83	186	40	396	北側覆瓦中	勾玉	2.02	1.35	0.66	0.12	2.56	滑石	米山154

挿表15 宮内第1遺跡(D区)石製品・玉類観察表(2)

遺物番号	押函番号	図版番号	取上番号	出土位置	種類	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	穴径(cm)	重さ(g)	材質	備考
S1	193	46	35	S103	磨製石斧	9.8	3.9	3.7	—	246	閃綠岩	原田15

挿表16 宮内第4遺跡(A区)石製品観察表

遺物番号	押函番号	図版番号	取上番号	出土位置	種類	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	穴径(cm)	重さ(g)	材質	備考
S1	255	73	234	C6ピット	砥石	19.7	9.7	4.8	—	1456	凝灰岩	表173
S2	265	73	159	D5	石鏃	1.97	1.29	0.41	—	0.88	無砥品安山岩	原田14
S3	269	73	17	2号墳	石鏃	13.0	13.0	7.0	—	1152	角閃石安山岩	種垣129
J1	270	73	359	2号墳石棺内	小玉	0.55	0.53	0.38	0.11	0.17	ガラス	南條126
J2	270	73	360	2号墳石棺内	小玉	0.50	0.48	0.34	0.12	0.12	ガラス	南條127
J3	270	73	382	2号墳石棺内	小玉	0.50	0.46	0.31	0.12	0.11	ガラス	米山157
J4	270	73	382	2号墳石棺内	小玉	0.72	0.70	0.48	0.16	0.38	ガラス	米山158
J5	270	73	382	2号墳石棺内	小玉	0.67	0.59	0.60	0.24	0.37	ガラス	米山159
J6	270	73	382	2号墳石棺内	小玉	0.86	0.85	0.54	0.28	0.61	水晶	米山160
J7	270	73	361	2号墳石棺内	小玉	0.49	0.46	0.54	0.18	0.24	滑石	米山161
J8	270	73	362	2号墳石棺内	小玉	0.48	0.45	0.54	0.16	0.33	滑石	南條128
J9	254	73	284	S01	小玉	0.55	0.52	0.67	0.19	0.26	ガラス	米山156
J10	255	73	376	排土場	切子木	1.10	1.03	1.48	0.38	2.36	水晶	南條125

挿表17 宮内第5遺跡(B区)石製品・玉類観察表

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	取上番号	出土位置	種類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	備考
F 1	37	40	540	S I 01	鉈	6.5	1.4	0.4	南條129
F 2	38	40	695	S I 02	不明鉄製品	7.3	1.9	1.5	米山163
F 3	47	40	650	S I 07	鋤先	3.9	7.2	1.8	原田19
F 4	58	40	786	1号墓第1主体	鉄剣	71.4	6.4	0.7	表180
F 5	58	40	805	1号墓第3主体	鉄刀	94.5	3.8	2.7	稲垣133
F 6	63	40	796	2号墓北側周溝	袋状鉄斧	4.8	3.3	1.7	原田20
F 7	63	40	798	2号墓西側周溝	不明鉄製品	2.4	4.6	0.9	表174
F 8	66	41	636	3号墓主体部	鉄刀	75.5	5.1	1.4	表103
F 9	71	41	804	S X 01	鉄刀	59.6	3.5	1.5	米山168
F 10	81	41	362	S X 05	鉄刀	58.4	3.5	1.4	米山171
F 11	91	41	425	S X 18	鉈	7.3	2.0	0.8	南條130
F 12	95	41	806	S X 23	板状鉄斧	5.8	4.8	0.9	表181
F 13	95	41	806	S X 23	不明鉄製品	8.3	2.4	1.1	表182
F 14	105	41	574	S X 31	鉈	13.7	2.4	0.5	南條132
F 15	125	41	638	S X 37第6墓壇	鉄鎌	12.7	3.8	0.5	稲垣130
F 16	125	41	637	S X 37第9墓壇	刀子	14.0	3.7	1.8	表179
F 17	165	41	502	S K 05	鉈	6.7	2.9	0.7	南條131
F 18	186	41	328	3号墓周辺攪乱	鉄刀	13.3	2.8	1.0	南條138
F 19	186	41	330	3号墓周辺攪乱	鉄刀	18.1	2.6	1.1	南條137
F 20	186	41	329	3号墓周辺攪乱	素環頭	4.2	5.1	0.7	表104
B 1	37	41	539	S I 01	内行花文鏡	7.8	—	0.55	表175

挿表18 宮内第1遺跡(D区)鉄製品・銅製品観察表

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	取上番号	出土位置	種類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	備考
F 1	211	73	210	S X 04	板状鉄斧	7.6	4.4	1.0	稲垣131
F 2	214	73	130	S K 02	袋状鉄斧	4.3	3.3	1.6	米山154
F 3	271	73	333	2号墳石棺内	鉄刀	107.2+6.8	4.9	1.8	稲垣132
F 4	271	73	334	2号墳石棺内	鉄刀	37.3	3.1	0.9	表105
F 5	271	74	335	2号墳石棺内	鉄鏃	14.7	1.5	0.9	南條139
F 6	271	74	336	2号墳石棺内	鉄鏃	15.0	1.7	0.5	表178
F 7	271	74	336	2号墳石棺内	鉄鏃	14.7	1.6	0.4	表178
F 8	271	74	337、338、339	2号墳石棺内	鉄鏃	13.7	1.6	—	米山166
F 9	271	74	337、338、339	2号墳石棺内	鉄鏃	13.5	1.2	—	米山166
F 10	271	74	337、338、339	2号墳石棺内	鉄鏃	15.1	1.7	—	米山166
F 11	271	74	337、338、339	2号墳石棺内	鉄鏃	12.7	1.3	—	米山166
F 12	271	74	337、338、339	2号墳石棺内	鉄鏃	12.3	1.1	—	米山166
F 13	271	74	337、338、339	2号墳石棺内	鉄鏃	14.2	1.3	—	米山166
F 14	271	74	340	2号墳石棺内	鉄鏃	13.3	1.4	0.8	米山167
F 15	271	74	342	2号墳石棺内	鉄鏃	15.4	1.7	0.8	表177
F 16	271	74	343	2号墳石棺内	鉄鏃	15.0	1.4	0.9	南條136
F 17	271	74	344、345	2号墳石棺内	針	5.5	0.4	0.2	表176
F 18	282	74	371	65号墳	袋状鉄斧	12.9	5.0	2.9	表130

挿表19 宮内第5遺跡(B区)鉄製品観察表